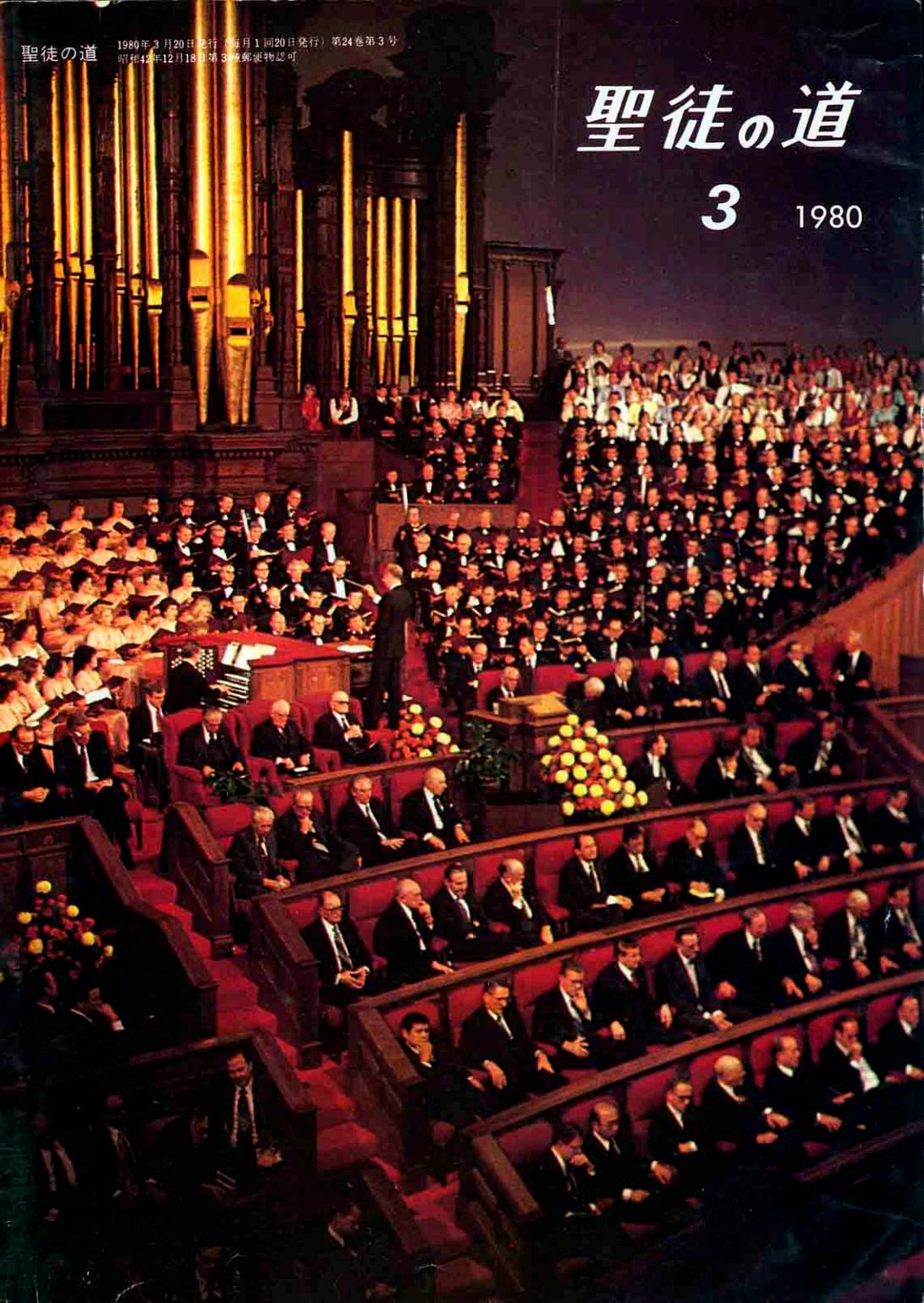


聖徒の道

1980年3月20日発行（毎月1回20日発行）第24巻第3号
昭和42年12月18日第3種郵便物認可

聖徒の道

3 1980



大管長会

スペンサー・W・キンボール
N・エルドン・タナー
マリオン・G・ロムニー

十二使徒評議員会

エズラ・タフト・ベンソン
マーク・E・ピーターセン
リグランド・リチャーズ
ハワード・W・ハンター
ゴードン・B・ヒンクレー
トーマス・S・モンソン
ボイド・K・パッカー
マービン・J・アシュトン
ブルース・R・マッコンキー
L・トム・ペリー
デビッド・B・ヘイト
ジェームズ・E・ファウスト

顧問

M・ラッセル・バラード・ジュニア
レックス・D・ピネガー
チャールズ・A・ディディエ
ジョージ・P・リー

国際機関誌

編集人：M・ラッセル・バラード・ジュニア
編集主幹：ラリー・A・ヒラー
編集副主幹：キャロル・D・ラーセン
子供の頁編集：コニー・ウィルコックス
デザイナー：ロジャー・ギリング

「聖徒の道」

赤松成次郎（翻訳責任者）

聖徒の道 3月号

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会
東京都港区南麻布5-10-30
印刷所 株式会社 精興社
配 送 東京ディストリビューション・センター
東京都世田谷区上用賀4-9-19
定 価 年間予約1,700円 1部300円
海外予約1,700円

INTERNATIONAL MAGAZINE PBMA0438JA Printed in Japan

郵便振替口座番号 東京0-41512

口座名 末日聖徒イエス・キリスト教会
東京ディストリビューション・センター

「私たちに今必要なのは聴く……スペンサー・W・キンボール…… 2
耳を持つことである」
「長き沈黙破りて出づ」……ゴードン・B・ヒンクレー…… 7
主のみ声はすべての民に……W・グラント・バンガーター……11
ああアメリカ、アメリカ……マーク・E・ピーターセン……14
霊性を維持する……マリオン・G・ロムニー……19
祈りと答え……ボイド・K・パッカー……27
予言者ジョセフ・スミス……デビッド・B・ヘイト……32
言葉：神が定めたもうた心……チャールズ・A・ディディエ……36
を通わす方法
私は教えられた……A・セオドア・タトル……39
世界の国々から宣教師を……菊地良彦……42
送り出そう
正しい決断を下す……L・トム・ペリー……45
神に従う統治者……ウィリアム・R・ブラッドフォード……49
主イエス・キリストを……マリオン・G・ロムニー……53
信じる信仰
教会の管理……N・エルドン・タナー……57
教会の姉妹たち……スペンサー・W・キンボール……66
予言者ジョセフ・スミスの貢献……N・エルドン・タナー……69
モルモニズム……ブルース・R・マッコンキー……75
天父への祈り……バーナード・P・ブロックバンク……79
変革によってもたされる進歩……マービン・J・アシュトン……83
聖典を読む……ハワード・W・ハンター……87
魔の運び屋—ボルノ……トーマス・S・モンソン……90
「多くの艱難の後に祝福は来る」……アドニー・Y・小松……94
永遠の幸福……リチャード・G・スコット……97
戒めに従う……O・レスリー・ストーン……100
「わたしたちは幼い者も、……ヒュー・W・ピノック……103
老いた者も行きます」
聖霊の賜……リグランド・リチャーズ……106
「この山地をわたしにください」……スペンサー・W・キンボール……110
不変の原則……N・エルドン・タナー……113
神権評議会における……バーバラ・B・スミス……118
扶助協会の役割
神権によって管理運営される……J・トーマス・ファイアズ……122
福祉活動
個人への祝福……ビクター・L・ブラウン……126
教会の確立：福祉活動宣教師が……ジェームズ・E・ファウスト……130
果たす重要な役割
教会福祉プログラムにおける……マリオン・G・ロムニー……134
監督の役割

末日聖徒イエス・キリスト教会

第149回半期総大会報告

1979年10月6日、7日の両日、ユタ州ソルトレーク・シティ、テンブルスクエアのタバナクルにおいて催された大会の説教とその模様

近年、総大会は、聖典や教え、この地上における神の王国の教会政体に重大な影響を及ぼす発表が繰り返され、忘れられぬものとなってきた。

今回の10月大会もこの傾向に準じ、N・エルドン・タナー副管長は土曜日の午後の部会で幾つかの重要な発表をした。(p. 24参照)

タナー副管長は次のように述べている。「ステーク部祝福師の急激な増加により、全世界で祝福師の務めが十分に行なえるようになってきました。そこで、エルドレッド・G・スミス長老を名誉祝福師に任命致します。これによってスミス長老は、教会の大祝福師の職につけるすべての義務と責任から解かれることとなります。」

名誉祝福師の発表に続いて、タナー副管長はこう述べている。「また、中央日曜学校会長のラッセル・M・ネルソン、ウィリアム・D・オズワルド、J・ヒュー・ベアード、および中央若い男性会長のニール・D・シェイラー、グラハム・W・ドクシー、クイン・G・マッケイを感謝の解任をします。後ほど提示致しますが、七十人第一定員会の会員が日曜学校および若い男性の新しい会長会を構成するようになります。」

このようにして、新しく中央日曜学校会長の会長にヒュー・W・ピノック長老、副会長にロナルド・E・ポールマン長老とジャック・H・ゴースリンド・ジュニア長老が支持された。若い男性の会長会には、会長にロバート・W・バックマン長老、副会長にボーン・J・フェザーストーン長老とレックス・D・

ピネガー長老が支持された。

スペンサー・W・キンボール大管長は、わずか1カ月前に頭部の手術を終えたばかりだというのに、全部会を管理した。キンボール大管長が元気に姿を現わされたことによって、参加者の霊性はますます高められた。また、司会はN・エルドン・タナー第一副管長とマリオン・G・ロムニー第二副管長が行なった。教会幹部は、ジーン・R・クック長老とF・エンツィオ・ブッシュェ長老を除いて全員が出席した。ふたり共、病気は快方に向かっている。

大会の様子は、合衆国とカナダの152カ所のテレビ局、そのほかテレビ衛星中継を通じて13局、有線テレビ中継を通じて777局、有線テレビおよびビデオテープによって7局で放送された。さらに、合衆国内63局、ラテン・アメリカ71局(スペイン語とポルトガル語)、スペイン1局、オーストラリア63局でラジオ放送が行なわれた。合衆国とカナダでは電話回線で535カ所に、また福祉部会は同じ電話回線で907カ所に、そしてヨーロッパにはビデオテープで放送された。神権部会は合衆国、カナダ、プエルトリコ、オーストラリア、ニュージーランド、フィリピン、韓国など、1688カ所に放送された。そのほか、5つの部会が衛星中継され、さらに「地上の受信装置」を実験的に用いてそれを合衆国の9カ所の放送局に送る試みもなされた。

また、一般大会とは別に、10月5日(金)教会本部ビルで地区代表セミナーが催された。(p. 151参照)

私たちに今必要なのは、聴く耳を持つことである

大管長は、安息日を聖く守ること、熱心に祈ること、個人の日記をつけること、純潔を尊び、知恵の言葉を守ることを勧告する



大管長
スペンサー・W・キンボール

全世界の愛する兄弟姉妹の皆さん、今朝、病気で欠席されているジーン・R・ック長老とF・エンツィオ・ブッシュ長老にまず挨拶を送りたい。またこの末日聖徒イエスキリスト教会の世界大会を開催するに当たり、深い愛と感謝の気持ちを皆さんにお伝えしたいと思う。

先の4月大会の後、この6カ月間に、個人的にも教会でも、非常に多くのことが起こった。私は2度入院したが、このように元気な姿で、再びきょう皆さんとお会いでき心から感謝している。私のために大勢の方が祈りを捧げて下さり厚くお礼を申し上げる。また天父はその祈りに答えて下さり、あふれんばかりの豊かな祝福を与えて下さったこと心から感謝している。

兄弟姉妹の皆さん、私は再びここで、主がシナイ山でモーセに与えられた4番目の戒めに注意を喚起したいと思う。「安息日を覚えて、これを聖とせよ。」(出エジプト20：8)家庭で家族の方々がこの戒めを厳格に守るようにしていただきたい。不必要な労働をしないよ

うにしようではないか。安息日は、猟に行ったり、魚釣りをしたり、泳いだり、ピクニックに行きボートに乗ったり、そのほかいかなるスポーツにも加わってはならないのである。末日聖徒が多数住んでいる地域にあって、もし私たち末日聖徒が安息日に買物をやめるならば、商店が開けることもなくなってくるであろう。主は次のように命じられた。

「汝なおさら充分に世の汚れに染まざる様、祈りの家に行きてわが聖日に汝の聖書を捧ぐべし。そは誠にこの聖日は、汝命ぜられて働きを休み、いと高き者に礼拝を捧ぐべき日なればなり。」(教義と聖約59：9—10)

そして、次のような輝やける約束を与えられた。

「而して汝ら感謝と愉快なる心と^{かおかたち}顔容とを以てこれを為さば、……多く笑いてこれを為すなかれ、そは罪悪なればなり、されば悦ばしき心と愉快なる^{かおかたち}顔容とを以てなせ、……われ誠に汝らに告ぐ、汝らこれを為さば地に満つるすべてのものは汝らに与えらるべし。」(教義と聖約59：15—16)

また、樹木を植え、菜園を造るようという私たちの呼び掛けに応えて下さり心から喜んでいる。確かに収穫の時が近づくにつれて、主が私たちの努力に報いて与えて下さった収穫の実を貯蔵し、備蓄しておくことに、私たちが満足を感じる時が来るであろう。

同じく私たちが数年前に勧告した通りに、家や垣根、納屋を補修し、ペンキを塗りかえ、職場をきれいにして下さっている人々の働きに感謝している。今後もこのよき業を絶やすことなく継続して行なっていただきたい。

私は讚美歌が好きだが、中でも、「祈りは魂の」(讚美歌176番)の歌詞を忘れることがで

きない。祈りは、そのように私たちが天父と話をする特権である。この時満ちたる神権時代の幕開けを告げるきっかけとなったのも、ひとつの、特別な祈りであった。ひとりの若者の口を通して語られた祈りの言葉から始まったのである。私たちが声に出して祈ることができない場合は、心と思いによってひそかに祈ることもよいが、祈りがあまりしばしば心の祈りになることのないようにしていただきたい。

祈りを捧げる時に、家族と共に祈ることをちゅうちょしないでいただきたい。特に、朝晩の家族の祈り以外にも必要な時は家族を集めていただきたい。必要が多くなれば、それだけ祈りも多く、熱心にしなければならぬ。

幼い子供たちは、両親の祈りを聞いて、天父に語ることを学ぶものである。子供たちは、皆さんの祈りが胸を打つ誠実なものであることにやがて気づくであろう。しかし、型にはまった祈りをそそくさと捧げれば、子供たちはそのことも感じるであろう。

これは非常に難しいことだが、個人的なひそかな祈りでない場合、祈りは、祈りを聞いている人がどう思うかと考えるのではなく、柔和な気持ちで正直に神と心を交わすように心掛けた方がよいと思う。祈りを聞いている人が、「アーメン」と言ったならば、それは彼らが賛成していること、承認していることの証拠である。言うまでもなく、祈りの状況も考慮する必要がある。これが、公の祈り、あるいは家族の祈りだけではすまされないゆえんである。

時間や秘密を守ることなどに心を煩わす必要のない個人の祈りは、何か特別なことを祈る最もよい機会である。もしもこの特別な個人の祈りの中で、主から離れるようなことがあれば、それは、幾つかの祝福が私たちから差し控えられることを意味している。結局、祈る時、私たちは全知全能の御父の前に請い願う者とならなければならないのである。それならば、なぜ私たちは、自分が困ってい

る時、祝福を必要としている時に、自分の思いや感情を抑えて主に祈ることをためらうのだろうか。私たち末日聖徒は、頻繁に祈りができるようにになりたいものである。

たとえ祈りの終わりに時間をとって祈りの答えに耳を傾けたとしても、また救い主が祈られたように、「しかし、わたしの思いではなく、みこころが成るようにしてください」（ルカ22：42）と常に祈ったとしても、私たちにとって支障となるものは何もないはずである。

私はベンジャミン・フランクリンが述べた珠玉の言葉を大切にしている。「働く時は100年間生きるつもりで働きなさい。祈る時は明日死ぬつもりで祈りなさい。」（ジョン・バートレット編、*Familiar Quotations*「引用集」p. 422）

そして、一日の初めと同じように、一日が終わる時にも、祈りを忘れないようにしようではないか。ジョージ・ハーバートは次のように述べている。「就寝時に祈らない人は、2晩を1日としている人である。」（同上p. 323）

私は祈りに対して、また祈りに伴う力と祝福に関して、いつも敏感であるように努めてきた。これまでの生涯を振り返ってみても、感謝の言葉が足りないほどである。受けた祝福は非常に多く、主はこれまで私をやさしく導いて下さった。そして病気の時も健康な時も、数多くの経験を通じて、神が天にましますこと、その神は私たちの御父であり、私たちの祈りを聞き、答えて下さるということを、一点の疑いもなく私の心と思いに植え付けて下さったのである。

ここでもう一度、私が病氣中に大勢の方々が私のために祈りを捧げて下さったことに対して、この席を借り、心からの感謝を述べたいと思う。皆さんが捧げて下さった祈りは、私と愛する妻のカミラにとって、平安と慰めの源であり、霊と肉体の癒しであった。主は皆さん方の祈りを聞かれ、その結果、私はこうしてこの大会に皆さんと共に出席することができたのである。

これまで何度か、聖徒たちに日記をつけ、家族の記録を編纂するように勧めてきた。再びここでその勧告を繰り返しておきたい。私たちは自分が個人的に言ったことや、行なったことに対して、それほどの関心も重要性も感じる必要がないと思っているのかもしれない。しかし、家族の一人一人を当たってみると、いかに大勢の人が私たちの言動に深い関心を寄せているか聞いて驚かされる。私たちはだれでも自分の身近にいる人、愛する人々にとって大切な人である。同じようにして、私たちの子孫も私たちの経験を読む時、私たちのことを知って、愛を感じるようになることだろう。そして、栄光に満ちた日に、私たち家族が永遠にひとつとなる時、すでに互いに心を通じ合える人となっているのである。

昔から、主は私たちが記録をつける民になるようにと勧めてこられた。出エジプト記の中に、「そしてモーセは主の言葉を、ことごとく書きしるし、……」（出エジプト24：4）と書かれている。

さらに、「主、モーセに語りて言いたまわく、見よ、われこの天とこの地に就きて汝に啓示す。わが語るところの言を記すべし。」（モーセ2：1）

ニーファイは真鍮版を手に入れるために、荒野からエルサレムに戻った時、兄たちにこう言った。「だからごらん、……これらの人々たちによって語られた言葉を子孫にのこすために、私たちがあの歴史を手に入れるのは神のみどころにかなうことである。」（Iニーファイ3：19）

救い主は、復活後この大陸を訪れた時、ニーファイの民に現在までの記録を残すようにと命じて、次のように言われた。「されば、汝らもわが言葉に心を留めてわれがすでに汝らに告げたることを書き記せ。……」

するとイエスはまた問うて「……これに導きと恵みを与えしことを書かざるは何故か」と仰せになった。……

そしてイエスがこのことも書きしるしてお

けと言いたもうたのでイエスの言葉のように記録した。」（IIIニーファイ23：4、11、13）

また今日でも、主は予言者ジョセフ・スミスに次のように述べられた。「またおよそ一切の記録を整頓して、以て聖なる神殿の文庫にこれを蔵め、……」（教義と聖約127：9）

そこでこれから、私たちが行なうこと、述べること、考えることを記録していく大切な務めを継続し、主の勧告に従っていただきたい。まだ覚えの書や個人の記録を書き始めていない人は、きょうから完全な記録を残すようにしていただきたい。兄弟姉妹の皆さん、私は皆さんがこれを実行に移していただけるものと確信している。なぜなら、これは主の戒めだからである。

私たちの周囲を見渡してみると、アメリカだけでなく、洋の東西を問わず、家族を破壊せんものと無数の勢力が働きかけていることがよくわかる。かつてないほどに増加する離婚率、配偶者の不貞の急増、最も忌むべき墮胎の罪、これによって家族の絆は破壊されつつある。それらは、言うならば国家の恥であり、非常に重大な罪である。また、利己的でとうてい許すことのできない産児制限こそ、家族を蝕んでゆくのである。

家族の絆を強めることは、今全世界の末日聖徒にとって差し迫った課題となっている。そこで私たちは今一度、最も大切な宝物である純潔を尊ぶことを考える必要がある。純潔と貞節は、「最も貴くまたほかのあらゆるものよりも重んずべきもの」（モロナイ9：9）である。ルビーやダイヤモンドよりも、牛や羊よりも、金や銀よりも、あるいは車や土地よりも大切なものである。しかし悲しむべきことに、多くの場合、それが最も安っぽい店で、たたき売られるようにして売られているのである。

貞節は金銭で買い取ることはできない。しかし、たとえ貧しい境遇のもとで生まれ育った人、金持ちの人であろうと、高校生であろうと、大学生教授であろうと、同じよう

に悦びを得ることができる。いかなる人も、貞節を守ることによって、その偉大な祝福を享受できるのである。

この恐るべき勢いで全世界に広がりつつある大罪、純潔や貞節の喪失は、涙の洪水を引き起こし、幾多の家庭を破壊し、無邪気な子供たちの群れを迷わせ、困惑させたことだろうか。ご存知のように、貞節の観念がなくなると国家や文化までも崩壊してゆく。道徳的な退廃は一種の悪党であり、その者たちの額に押されるらく印は、不正直や賄賂、不敬、利己主義、不道徳、放蕩、その他あらゆる性的倒錯しかないのである。

私たちは皆、神の息子、娘であり、自己を抑え、キリストのような完全な生活を送り、最終的に清い体で神のみもとに帰るよう努力する責任がある。

今晚、私は全世界の教百カ所に集っている神権者に次のように述べたいと思っている。

私たちは皆、人生において特別な女性たち、すなわち私たち^に深く不滅の影響を残した女性たちに出会っている。その女性たちの貢献したものは測り知れない、永遠の価値を持っている。

私は、今朝もこのことを強調しておきたい。末日聖徒イエス・キリスト教会では、私たちは皆、自分の妻、母親、姉、妹、そして娘を尊敬し、敬愛するように切にお願いしたいと思う。

「ただ、主にあっては、男なしには女はないし、女なしには男はない」(I コリント 11: 11) からである。

兄弟の皆さん、私たちは妻なしに昇栄を得ることはできないのである。義しい女性なしに天国はないのである。

現代人は、かつてあったように、酔っ払いの民と化してしまったようである。酔っ払いは道徳を破壊し、困窮と落胆の日々をもたらす。そのほか、ハイウェイでの死と殺りくの原因にもなっている。このような殺人行為をどのようにして防いだらよいだろうか。福音

がそれを解決してくれるであろう。その言葉は至高の御方から告げられている。それは神のみこころであり、約束を伴う原理である。

主は次のように約束しておられる。「およそこれらの言葉を憶えて守り且つ行い、この誠命に従って歩むすべての聖徒らは、そのへそに健康を受けその骨に髓を受けん。また智恵と知識の大いなる宝まことに秘れたる宝を見出さん。」(教義と聖約 89: 18—19)

また次のようにも述べておられる。「……われ啓示によりてこの智恵の言葉を与えて今や汝らを警め、また汝らを預め警むるものなり。」(教義と聖約 89: 4)

喫煙も知恵の言葉を守り、主の戒めに従うことによって断ち切ることができる。

私たちが完全に純潔の律法を守り、姦淫や不貞の罪を犯すことなく、自分の妻や夫に忠誠を尽くし、結婚の誓約を守っていくならば、醜く、痛々しく、しかもお金の掛かる性病の害から世を守ることができるはずである。そうすることによって、私たちは家庭を強め、離婚のもたらす罪悪を放逐し、今日最も大きな罪悪のひとつである不当な墮胎をなくすることもできるのである。

1948年、この同じ壇上で、故 J・ルーベン・クラーク・ジュニア副管長は聖徒たちに向かい、予言者のいることと聴く耳を持つことの大切さを次のように語った。

クラーク副管長はパンフレットに記されていた「私たちには予言者が必要である」という言葉を読み上げ、こう述べている。「いや、私たちはすでに 100 年以上も近代の予言者をいただいている。そして、彼らは私たちに主のみ言葉を伝えてきた。」さらに続けて、「問題は、予言者が義しいことを教えるのを世の人々が欲していないことである。彼らが欲しているのは、たとえそれが間違っているとしても自分たちが行なっていることが正しいのだと言ってくれる予言者である。」予言者はこれまで多くのことを語り、今も私たちに語りかけている。私たちが今必要としているのは、聴く

耳を持つことである。(Conference Report「大会報告」1948年10月, pp. 78—80参照)

私たちがこのクラーク副管長の勧告をよく心に留め、主御自身が靈感と啓示によって、今日の予言者に語りかけておられる事柄に耳を傾け、それに聞き従うことができるように祈っている。

この説教を閉じるに当たり、今私は、私の声を聞いておられるすべての方々に神聖な証を述べたいと思う。このイエス・キリストの福音は真実であり、しかも世の中の病害を取り除き、邪悪を打ち砕く最も効果的な唯一の力である。

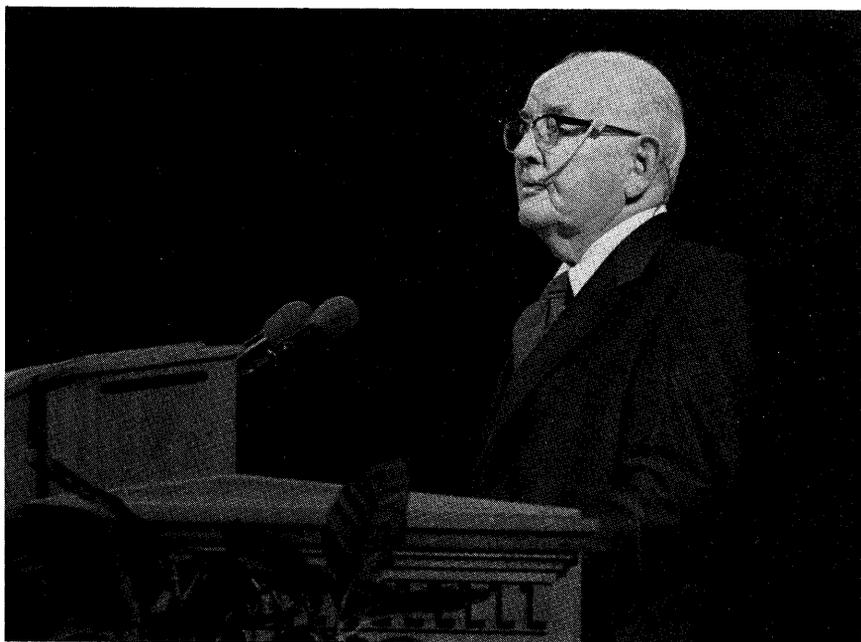
イエス・キリストの福音は全世界の人々に与えられるべきものである。それは、全人類を救いに導くメッセージである。ちょうど

ニエルが見たあの人手によらず山から切り出された石のように、この自由の地、神聖な使命を与えられた国から転がり出でて、全世界に広がってゆくものである。

兄弟姉妹の皆さん、これは主のみ業であり、真実である。願わくは主の祝福が私たちすべての家庭と家族の上にあつて、私たちがさらに主に近くあり、主の戒めを守れるようになるよう祈っている。

また同じ祈りの言葉と祝福を、まだこの教会を知らない全世界の天父の子供たちに贈り、彼らもこの地上における主の真実の王国で、私たちと共にひとつとなれるよう願っている。

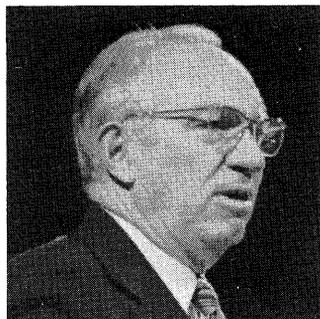
この祈りと証のすべてを、愛する救い主イエス・キリストのみ名によって申し上げる。アーメン。



説教中のスペンサー・W・キンボール大管長

長き沈黙破りて出づ

モルモン経は、真理のごとく永遠であり、人類のごとく普遍である



十二使徒評議員会会員
ゴードン・B・ヒンクレー

私たちは教会の集会でよく「長き沈黙破りて出づ」（讃美歌177番）という讃美歌を好んで歌うが、これは百年以上も前にパーレー・P・ブラット長老によって作詞されたものである。ブラット長老はこの讃美歌の中で、一冊の驚嘆すべき書物が奇跡的に世に出されたことを宣言している。その書物は今からちょうど150年前に、ニューヨーク州バルマイラで初めて印刷され、出版された。

ここで私は皆さんのお許しをいただき、この讃美歌の歌詞の生みの親であるパーレー・P・ブラット長老とモルモン経の出会いについてお話ししたいと思います。1830年8月、一介の説教師であったパーレー・P・ブラットは、オハイオからニューヨーク州東部へ伝道の旅をしていた。エリー運河を船で下っていた彼は、ニューアークで船を下り、16キロの道を歩いて、とある農村を訪れた。そこで彼はバプテスト教会の執事でヘムリンと名乗る人に出会った。その人はブラットに、「世にもまれな、きわめてまれな一冊の書物」の話をした。「彼の話では、その書物は、イスラエルの末

裔のひとりが金版か真鍮版に刻まれた記録をまとめたものだという。また、その版を発見して翻訳したのは、ニューヨーク州バルマイラの近くに住むひとりの青年で、示現によって、すなわち天使の導きによってすべてが行なわれたということであった。そこで私がその人に、どうすればその書物を手に入れることができるかを尋ねると、明日自分の家に来れば見せると約束してくれた。……翌朝、彼の家を訪れた私は、そこで初めて、書物の中の書物、『モルモン経』を目にした。それこそ、神のみ手の中にあってその後の私の人生を大きく変えた書物であった。

私は早速その書物を開き、とびらのページに目を通した。続いて、ジョセフ・スミスが金版を発見し、翻訳した次第を告げる見証者たちの証言を読んだ。それから私は、ニューフェイス第一書に始まるその書物に一日中読みふけたのである。食事をする間も惜しく、夜が来ても寝るのが疎ましかった。読みふけて眠いとも思わなかった。

そのようにして読んでみると、主のみたまが私に下り、私はその書物が真実であることを知ったのである。人が自分の存在を認識するがごとくに、はっきりと一点の疑いもなく、私はその書物が真実であることを理解したのである。』(Autobiography of Parley P. Pratt 「パーレー・P・ブラットの自叙伝」 pp. 36-37)

当時、パーレー・ブラットは23歳であった。モルモン経を読んで非常な感銘を受けた彼は、すぐさまバプテスマを受け、力強く福音を宣べ伝える宣教師となった。彼の伝道の旅は、現在のアメリカ合衆国内にとどまらず、カナダ、イギリスへと拡大していった。また、太

平洋上の島々にも伝道の門戸を開いたほか、末日聖徒の長老として初めて南米の土を踏んだ。しかし、1857年、アーカンソーで伝道中に、背後から銃弾を受け、殉教したのであった。そして彼の遺体は、アーカンソーのアルマに近い農村の一角に葬られ、大きなみかげ石の墓石が今もその人となりを伝えている。この墓石には、予言を歌に託した彼の優れた作品のひとつが刻まれており、伝道の業に対する彼の思いがしのばれる。

夜あけだ 朝あけだ
シオンの旗掲げよ
あか^あるい夜あけだ
蔽^{おごそか}にあまねく
朝日は昇りゆく

聖い光の前に
過ちの雲は消える
栄光はあまねく
世界にひろがり
いまや輝かん
(讚美歌189番)

モルモン経との出会いに始まるパーレー・P・プラット長老の経験は、決して彼だけのものではない。初版のモルモン経を手にした大勢の人々が心に深い感銘を受け、この世の一切の物を捨てたのである。また、それから数年後には、数少なからぬ人々が、この奇しき書物の真実性を証するために、自らの命さえ投げ出している。

初版が刊行されてから150年経った今日、モルモン経はかつてないほど広く人々に読まれている。わずか5,000部に始まるモルモン経の発行部数が、今や百万部を超えるに至り、翻訳言語も20数カ国語に及んでいる。

モルモン経は、真理のごとく永遠であり、人類のごとく普遍である。神の力によってその記録が真実であることがわかると約束されている書物は、このモルモン経をおいてほか

にない。

モルモン経の起源は人知を越えているため、初めての人にいきなり話してみても、信じてもらえない場合が多い。しかし、実際にこの書物は存在し、手にすることも、読むこともできる。この書物の存在することは、一点の疑いの余地もない。ジョセフ・スミスの言葉を打ち砕こうと画策した人々の努力はすべて徒勞に終わっている。モルモン経は、古代アメリカの記録である。聖書が旧世界の聖典であるように、モルモン経は新世界の聖典である。そして、これらふたつの聖典は互いに真実であることを証しており、人に確信を与え、改宗へと導く、靈感のみたまをもたらす。また、これらは共に手を携えて、イエスがキリストであり、生ける神の御子であって、すでに復活しておられることを証しているのである。

モルモン経の話は、すでに地上から姿を消した国家の歴史である。しかし、その中には、現代の新聞紙上ににぎわす社会問題と相通するものが取り上げられており、問題の解決策のヒントまで与えられている。

神の戒めに背いた社会がたどる悲劇の道をこれほど明確に書き記した書物を、私はほかに知らない。モルモン経には、この西半球に栄えたふたつの相異なる文明のことが記されている。いずれの文明も、最初は小さな国家から起こり、人々は主を畏れながら各々の道を歩んでいた。しかし、国が栄えるにつれて悪が台頭し始め、人々は、野心に燃えた狡かつな指導者たちの術策に落ちていったのである。指導者たちは民に重税を課し、甘言によって欺き、ふしだらな生活を唱導した。また、民を恐ろしい戦争に引き込み、おびたしい死者を出した。こうして、ふたつの偉大な文明は、時代は異なりこそすれ、この地上から完全に消滅してしまったのである。

神を恐れ、神の戒めに従う民と国家は栄え、発展する。しかし、神と神のみ言葉をないがしろにする人々の間には、墮落が生じ、正義

をもってその歯止めをしない限り、人々は死に定められる。この事実をかきも明解に説いた書物は、モルモン経をおいてほかにない。旧約聖書の箴言にある次の聖句を、モルモン経ははっきりと裏付けている。「正義は国を高くし、罪は民をはずかしめる。」(箴言14:34)

私たちは、今日この恵まれたアメリカの地において、この大陸を核戦争の危険から守ろうとする条約に関して多くの議論が交わされていることを耳にしている。緊張緩和と勢力の均衡を訴える声が多い。この点に関連して主が何と言っておられるか、モルモン経から見てみることにしよう。「ごらん、この土地はすぐれた土地であるからこの土地を所有する民はこの地の神に事えさえすれば、奴隷とならず自由を奪われず天下のどのような国からもすべて支配を受けることがない。この地の神とは……イエス・キリストである。」(イテール2:12)

モルモン経は現代社会に影響を及ぼしているいろいろな事柄について力強く語ってはいるが、そのメッセージの主意は、イエスがキリストであり、約束されたメシヤであることを声高らかに証することにある。イエスは土ぼこりの立つパレスチナの道を歩き、病人を癒し、救いの教義を説かれた。また、カルバリの十字架上で死に、3日後に墓からよみがえって、多くの人々の前にそのみ姿を現わされた。さらに、前に告げておられたように、昇天前にこの西半球に住む民を訪れたもうたのである。主は先に次のように語っておられた。「わたしにはまた、この囲いにいない他の羊がある。わたしは彼らをも導かねばならない。彼らも、わたしの声に聞き従うであろう。そして、ついに一つの群れ、ひとつの羊飼となるであろう。」(ヨハネ10:16)

何世紀もの間、ナザレ人イエスの神性を証する聖典は、聖書ただひとつであった。しかし今やその傍らには、「ユダヤ人と異邦人ともにイエスは永遠の神なるキリスト」(モルモン経、とびらのページ)であることを力強く証する

第二の聖典があるのである。

前に申し上げたように、今からちょうど150年前のこの時節に、「神の賜と御力とにより」(モルモン経、とびらのページ)翻訳されたモルモン経は、ニューヨーク州パルマイラの小さな印刷工場で印刷され、出版されたのであった。モルモン経が出版されたのは、1830年4月6日に末日聖徒イエス・キリスト教会が正式に組織される以前のことである。今から6カ月後の1980年4月6日に、私たちは、ヨベルの年の祝いと共に、教会設立150年を祝う運びになっている。

この150年祭を迎えるに当たって、私は全世界の教会員の皆さんに、また友人に、モルモン経を読破するようお願いしたい。これは私からのチャレンジでもある。

今から来年の4月6日まで余すところ183日である。そこで、きょうから毎日モルモン経を1章ずつ読み続け、日曜日に3章読むようにすれば、4月6日に残る5章を読むと、239章あるこの書物を読破できる計算になる。そうすれば皆さんは、教会設立150年目に当たる歴史的な日に、予言者モロナイの次の言葉を胸に、モルモン経を読み上げることができるのである。今から15世紀前に、モロナイは、次のような注目すべきチャレンジの言葉を残して、その記録を結んでいる。

「私はこれらの事をあなたたちが忘れないようにすすめる。なぜならば、あなたたちが神の法廷で私と逢う時が速に来て、その時主なる神が『この人の書きしわが言葉は、われが墓の中より叫ぶ者、または土の中より声を出して語る者と同じくこれを汝らに宣べ伝えしにあらざるや』とあなたたちに仰せになるので、あなたたちは今私が偽を言っているのではないことが解るからである。……

さらに神は私の書いたことが真実であることを確にあなたたちに証明したもう。」(モロナイ10:27, 29)

兄弟姉妹の皆さん、私は率直に皆さんに約束申し上げる。皆さんが各々これまでに何度

モルモン経をお読みにになったかは別として、今から4月6日までにモルモン経を一冊読み上げる努力をお続けになるならば、皆さんの生活と家庭の中に、これまでも増して主のみたまがとどまるであろう。また、主の戒め

に従って歩もうとする決意が強まると共に、神の御子が実際に生きてましますことがさらにはっきりとわかるようになるであろう。これらのことを、聖なるイエス・キリストのみ名によって厳粛に約束申し上げる。アーメン。



子供たちによるコーラス

主のみ声はすべての民に

神は、人々に福音を得させるため、いかなる困難もいとわれぬ。また、現在予言者は、予言者の言葉に注意を払うよう警告している



七十人第一定会員会長
W・グラント・バンガーター

キンボール大管長が述べられたように、私たちの言葉は大管長の言われた事柄を支持するものである。「神は、むかしは、預言者たちにより、いろいろな時に、いろいろな方法で、先祖たちに語られたが、

この終りの時には、御子によって、わたしたちに語られたのである。神は御子を万物の相続者と定め、また、御子によって、もろもろの世界を造られた。」（ヘブル1：1—2）

今回の総大会の主要な目的のひとつは、神が予言者を起こし、予言者を通して世の人々にそのみこころを告げておられることを再び公にすることである。つまり、予言者は、教会員のように予言者の言葉を受け入れる人々のためにだけ遣わされているのではなく、神のみ名によって地上のすべての民に語りかけているということである。古代の予言者がそうであったように、現代の予言者もまた、このように語っている。「天よ、聞け、地よ、耳を傾けよ、主が……語られたから」（イザヤ1：2）予言者は、神や予言者たちを信じていない人々のために特に遣わされているので

ある。皆さんは、予言者の言っていることを知りたいとお思いにならないだろうか。予言者は語っている。この末日に、神は完全な状態で昔の福音を回復し、かつすべての人々と新たな誓約を結ぶことを望んでおられる。と。また、世を救い、裁くためにイエス・キリストが間もなくこの地上においでになるので、備えをしなければならぬ、と。信じる信じないは別として、これは非常に重大な知らせである。ほとんどの人が予言者の言葉に耳を傾けようとしないことは、私にとって不思議である。そのために、時折、予言者が耐えかねて怒っているかのようにさえ見える。これは、ちょうど、私たちが主に従わずにいる時の主の思い、また子供たちが言うことを聞かずにいる時の親の思いと同じである。

世の中には、神を信じないと言う人々がいる。その愚かさのゆえに神の存在を否定する人々もいる。そのような人に、少し質問してみたい。皆さんは、神を信じなくても大したことはないなどと思っておられないだろうか。皆さんが信じないからといって、神がどこかへ行ってしまうということはない。ガリレオは、自分の学説を否定し、地球が自転していないことを認めるよう強いられた時、「それでも地球は回っている」と語ったと言いつづけている。

恐らく、神は皆さんに教えられてきたような御方ではないと言う分においては正しいであろう。しかし、神がおられないと、どうしてわかるのだろうか。神が、皆さんにそれを証明されたのだろうか。自分自身の経験で、そのことを知ったとしても言うのだろうか。皆さんが実際に知っているのは、ただ、神の存在を知らないというだけにすぎない。そして、

それは無知を自認することである。

宇宙船で1、2度地球を回ったロシア人が、天に神はいなかったと言ったが、無神論の論拠としてはあまりにぜい弱である。また、科学的でもない。私の弟の知人に、あざけりの態度で神を冒瀆した人がある。彼は、「夢の中で神様を見たが、馬だったよ」と言った。それに対して、弟は次のように言った。「なるほど、ロバの目から見れば、それも至極ごもつともな話ですね。」

私たちにすべての証拠が揃っている。この教会に背を向けていて、神を知ることはできない。神は存在しないということを確認しようというのなら、かなたこなたと駆け回り、あらゆることをかじらなければならないであろう。

予言者は、神は生きておられ、この末日に私たちに語りかけておられると宣言している。私たちは証人としてこのことを知っている。神は、今までに、人々にみ姿を顕わし、語りかけ、御自身に手を触れさせたもうたことがある。福音の回復の宣言と共に、聖霊が真実を明らかにし、人々はそれを知るであろうという約束が与えられた。熱心に祈り、かつ耳を傾けてもその約束が果たされないというのであれば、その時に初めて皆さんは神を信じるという義務から完全に解放されるのである。

神を信じていながら、予言者や啓示を信じない人々についてはどうであろうか。なぜ信じられないのであろう。啓示なくして、いかにして神を知り得よう。予言者がいると、不都合なことでもあるのだろうか。何かそれを否定する法でもあるのだろうか。予言者は不必要なのだろうか。仮に、合衆国大統領が予言者であったとしたら、何と素晴らしいことだろう。神が直接に、この国の人々になすべき事柄を指示して下さるとしたら、何と素晴らしいことだろう。事実、神は私たちに語りかけておられる。ただひとつの問題は、私たちが神の言葉を聞こうとしていないことである。これは、古代の予言者の時代とまったく同じである。姦淫の罪を犯し、日曜日に遊び

に興じ、酒に酔いしれ、他の人々を社会や世の中の問題へ誘い込もうとしている。神は、予言者の口を通して、これらすべてのことを正そうとしておられる。そして、ふさわしい信仰を持った人だけが、そのメッセージを聞くことができるのである。

さて、中でも最も愚かな人々、それは、教会員でありながら、教会に心を向けていない人々である。このような人々は、宗教心がないので教会へ行ってもつまらないと言う。しかし病んでいる人は、いくら薬が嫌いであっても、病気を治すためにはそれを飲まなければならない。皆さんは、御両親から野菜を食べようしつこく言われた記憶があると思う。今の皆さんは、小さな子供と同じことをしているのである。霊の野菜についてお話しよう。皆さんは、光の中で育てられてきた。そして、神と救い主について知っており、御二方がジョセフ・スミスに現われたもうたことを御存知である。また、天使モロナイが、ジョセフ・スミスにモルモン経の金版を渡したことも知っており、現に皆さんはモルモン経を持っておられる。さらに、聖書を信じている。これだけそろっていながら、教会よりも釣りに行ってしまふのである。

私の友人の話であるが、彼は、ある日親戚の人々と一緒にイエローストーン公園に出かけた。彼は、教会で会員としても指導者としても信仰に忠実であった。そこで、親戚のある人々は、彼の「堅苦しい」宗教をからかおうとした。その人たちは、彼を説き伏せて、ある日曜日の朝、船で釣りに出かけたのであった。と突然、強い風が吹き始めた。人々は身の危険を感じて恐れた。たちまち、あざけりや不信心な思いはどこかへ行ってしまった。彼らは私の友人に向かって、情けない声で言った。「お願いだ、僕たちのために祈ってくれ。」彼らが、自分たちが祈ってもだめだと思っていたのは明白である。また、神の助けを求めるのに、自分たちはふさわしくないと感じたのであろう。ところが皮肉なことに、彼

も自分の良識に逆らって、主がよしとされないことへの誘惑に負けていたのである。その時の苦境を、彼は後に次のように話してくれた。「私には祈ることなどでできませんでした。頭の中にあったのは、『ステーキ部長、日曜日の釣りで溺死』という新聞の見出しだけでした。」

神は、人々に福音を得させるため、いかなる困難もいとわれない。また、現在予言者は、予言者の言葉に注意を払うように警告している。なぜならば、それは皆さんの幸福にかかわることであり、「教えにそむく者たちは大いなる悲しみに刺し貫かれ」（教義と聖約1：3）るからである。

教会で、「感謝を神にささげん」（讃美歌170番）を声高らかに歌う時、私たちの心は喜びに躍る。ここで、自らを信仰深く福音に忠実であると考えている方々に少しお話したい。私たちは、予言者に感謝してはいるが、はたして実際にその言葉に耳を傾けていると言い切れるだろうか。大会のたびに、私たちは、予言者のメッセージや教会幹部の説教を聴いて感激し、霊的な思いを抱いて帰宅する。しかしながら、本当に大切なのは、家に着いてから何を行なうかである。

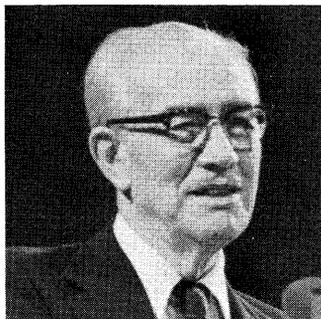
4年前、キンボール大管長は、総大会の最後の部会において、数々の説教の中で与えられたメッセージや教えに深く感銘し、覚えておくべきすべての大切な事柄のリストを作ったと言われた。その時、大管長は、家に帰ったらすぐに、指摘された事柄すべてに従って自らを完全に整えるようにするつもりであると言われた。（「聖徒の道」1976年2月号、p. 145参照）なぜ、私たちも皆、このようにしないのだろうか。皆さんは、家庭菜園を実行しているだろうか。現在、また将来の家族に必要な備えをしているだろうか。負債はないだろうか。救い主との関係はどうだろうか。祈っているだろうか。聖典を読んでいるだろうか。什分の一を納めているだろうか。隣人といさかいをしているようなことはないだろうか。妻とは、また子供たちとはどうだろうか。

教会の指導者の皆さんに、幾つか特別な質問をしたいと思う。皆さん方の献身と犠牲を知りつつ、皆さんを批評するのは失礼にあたると思うが、うかがわせていただきたい。皆さんは、真実、予言者の言葉に耳を傾けているだろうか。確かに、ほかの人よりも努力している方々がおられるのを、私は承知している。しかし、予言者が、すべての男子は伝道に出るべきであると言われてから、早5年が経過している。ところがいまだに半数の人が家に残っているのはどうしたことだろうか。定員会会長ならびにホームティーチャーの皆さん、病気を抱え、霊的に病んでいる人々がこれほど多くいるのはなぜだろうか。なぜ皆さんは、「傷ついた者をつつまず、迷い出た者を引き返らせず、うせた者を尋ねず」（エゼキエル34：4）にいるのだろうか。主は、予言者を通して皆さんに呼びかけておられる。予言者の言葉に耳を傾けていただきたい。予言者に聞き従うかどうかによって、皆さんがレーマンカレミユエル、あるいはニーファイであるかが決まるのである。教会の神権者の中にも、レーマンのような人々がいる。

今まで話に挙げてきた方々、すなわち、神を信じない人々や非教会員、忠実な教会員、あまり熱心でない教会員、指導者およびすべて聖なる神権を持つ神権者、これらすべての方々に、私は権能をいただいている者として申し上げる。末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長、スペンサー・W・キンボールは、地上のすべての民に対する神の予言者である。キンボール大管長は、イザヤやマラキ、ペテロ、ヤコブ、ヨハネ、さらにはジョセフ・スミス、そのほかの予言者に直接つながる後継者である。地上におけるイエス・キリストの使徒の頭であり、イエス・キリストの再臨の備えとして、この末日に地上に福音が回復され、現在がまさに備えの時であることを告げる権能を有する方である。これらのことをすべてイエス・キリストのみ名によって証申し上げる。アーメン。

「ああ、アメリカ、アメリカ」

私は、主が過去におけると同じように、現代の人々にも語って下さるだろうかと問うてみる。「ああ、イギリス、ああ、ドイツ、ああ、メキシコ、ああ、スカンジナビア、わたしはおまえの子らを幾たび集めようとしたことであろう」



十二使徒評議員会会員
マーク・E・ピーターセン

ある時、パレスチナの旅を終えられたイエスは、郷里に戻り、安息日に会堂で教えを説かれた。

ところが、イエスの教えを聞いた人々は、その教えに驚きながらも、心中穏やかでなかった。イエスは彼らと共に暮らしておられた。そのイエスから教えを説かれたことに、彼らは言った、「この人は大工ではないか。マリヤのむすこで、ヤコブ、ヨセフ、ユダ、シモンの兄弟ではないか。またその姉妹たちも、ここにわたしたちと一緒にいるではないか。」(マルコ6:3)

イエスは、彼らから拒まれたことを悲しみ、「彼らの不信仰を驚き怪しまれた。」(マルコ6:6)そして、次のように言われた。「預言者は、自分の郷里、親族、家以外では、どこでも敬われないことはない。」(マルコ6:4)

しかし、イエスを拒んだのは、ナザレの人人ばかりではなかった。イエスがこの世で導きと教えを施す業を終えられる頃には、ほとんど国全体の人々が、イエスに反対したのである。

イエスは、エルサレムで受け入れられなかったことを深く考え、町を見下ろしながら、こう言われた、「ああ、エルサレム、エルサレム、……ちよと、めんどりが翼の下にそのひなを集めるように、わたしはおまえの子らを幾たび集めようとしたことであろう。それなのに、おまえたちは応じようとしなかった。」(マタイ23:37)

そしてイエスは、彼ら自身が御自分を拒むことによって招く悲惨な結果を予告してこう言われた。「見よ、おまえたちの家は見捨てられてしまう。」(マタイ23:38)

何という荒廃であったことだろう。間もなく、ローマの軍勢が聖地を襲い、エルサレムを破壊してしまった。その荒れ様は見るも無惨で、まさに救い主が、「その時には、世の初めから現在に至るまで、かつてなく今後もないような大きな患難が起る」(マタイ24:21)とされたその通りになったのである。

ヨセフスはその模様を記録しているが、それは、約2,000年の歳月を経た今でも、考えてみるだけで恐ろしくなるほどである。

イスラエルの民は何世代にもわたって繰り返し、隣人の神々を礼拝し、予言者たちを拒んできた。そして、その子孫がキリストを拒んだ時と同じ荒廃に見舞われたのであった。12の部族は、奴隷として連れ去られた。そのうち、ふたつの部族は戻って来たが、ローマの隷属下に置かれた。そして、残りの10の部族は、全世界に散乱してしまったのである。不従順の刈り取る実は、荒廃しかない。

このことは、私たちに何を教えているだろうか。いかなる人も神と戦って生きることはできないということである。いかなる国家と

いども、天の支配者に背き、その永遠の教えを犯すならば、懲らしめを受けるであろう。

聖典の中のこれらの話を目にするたびに、私は、現在の私たちはどうだろうかと考える。私たちは、彼らと同じことを繰り返してはいないだろうか。今の世の人々は、イエス・キリストを受け入れているだろうか。主を拒んではないだろうか。もし拒んでいるとすれば、私たちに荒廃が襲ってきはしないだろうか。

いわゆるキリスト教国と呼ばれている国の人々は、心からキリストに従っているだろうか。口先で神を崇めるだけで、犯罪や腐敗によって本質的に神を否定するようなことをしてはいないだろうか。

神は、口先だけの礼拝を嫌われる。しかし、だれもこの全能なる御方以上に、偽善者に対して反対を唱えようとしな。こんな状態であって、私たちキリスト教国家に住む人々は本当に神を受け入れ、神に従っていると言えるだろうか。

世の人々は、主の聖なる安息日を尊ぼうとしない。犯罪は至る所に氾濫している。真の意味での純潔は、ほとんど忘れ去られている。今や不正直は、人々にとって当たり前のことのようにになっている。

世の数多くの教会の中であってさえ、神聖な儀式が変えられ、失われてきている。神の権能はなく、教義は人の教えと化している。キリストの処女降誕と共に、キリストが神の御子であることさえも疑問視され始めている。大勢の人がもはや、キリストの復活を信じなくなっている。

このような有様で、現在の世界が、イエス・キリストを受け入れていると言明できるだろうか。かつてナザレの町の人々に驚かれたように、イエスは今日の不信仰を見て、必ずや驚いておられるに違いない。

キリストはひとつである。キリスト教徒は同じことを語り、その間に分裂があってはならない。そう述べた使徒パウロは、現在のキ

リスト教会の分裂を見て、驚きはしないだろうか。パウロは、キリスト教徒は同じ心、同じ思いを持って完全に結び合い、分争してはならないと言ったのではなかったか。(1コリント1参照)。

キリスト教の分裂、キリスト教国家の内部での混乱は、とりも直さず、彼らがキリストから離れていることを証明してはいないだろうか。

そこで、私たち自身はどうだろうか。この末日聖徒イエス・キリスト教会の会員はどうだろうか。私たちは、キリストのみ業にどれほど献身しているだろうか。私たちは、キリストを拒むようなことがまったくできないだろうか。もしキリストに従うことができなければ、キリストを拒むことになりはしないだろうか。

私たちはバプテスマを受ける時、神に仕える誓約をする。そして、主の晩餐の聖餐をいただく時に、主に仕え、主の戒めを守り、常に主を忘れないという誓約を再び交わすのである。

私たちはまた、聖餐式において、イエスが十字架にかけられたことの神聖な象徴をいただき、誓約を交わす。そして文字通り、聖餐を受ける時に、すべての戒めを一つ一つ守ることを約束し、裂かれたパンと水をいただくことによって、その約束を確約するのではないだろうか。

裂かれたパンは、何を表しているのだろうか。引き裂かれたキリストの体を表わしている。

水は何を表わしているのだろうか。それは私たちに測り知れない大きな痛みを受け、十字架上で流されたキリストの血である。その痛みは、キリスト御自身、「すべての中最も大いなる」神さえも痛苦のために身を震わせ、「あらゆる毛の孔より血を湧かせ、身と霊と両つながらを苦しめ」るほどのものであった。(教義と聖約19:18参照)

贖罪は、この世で最も重要な出来事である。

私たちが天父に従うことを約束するのも、贖いの力があるからである。その約束も、ただ福音に従って生活するだけでなく、一つ一つの戒めを守ることを特別に約束するのである。

例えば、裂かれたパンを食べる時、私たちは、その聖なる記念を口にすることによって、安息日を聖く保つことを約束しているだろうか。

また私たちは、聖餐にあずかることによって、自分の一を完全に納めることを誓いますと神のみ前に約束し、その誓約を結び固めているだろうか。

私たちが交わす誓約には、実際このような特別な意味が含まれているのだろうか。皆さんにお尋ねしたい。これにはほかにどのような意味があるだろうか。

私たちは、神の口から出るすべての言葉に従って生活し、神の定められた聖なる儀式を守るといふ誓約の下にある。その戒めに従うことの中には、純潔や節制、高潔、正直、純粋、愛、自制、忠実、主のみ業における熱心さ、兄弟愛、忍耐、献身が含まれている。そして、神の定めたもうた儀式を完全に受け入れることが必要である。

私たちは、神の戒めに従うことによって、神への愛を示すことができる。「もしあなたがたがわたしを愛するならば、わたしのいましめを守るべきである。」(ヨハネ14:15)

これは主の言葉ではないだろうか。さらに主は、もし私たちが主に従わないならば、主を愛することにはならない、とはっきり告げておられる。

さて、皆さん、私たち末日聖徒は、地上の他の人々とどのように異なっているだろうか。

皆さんにお聞きしたい。世の中の大半の人は主に仕えていないからと言って、キリストを拒んで生活してはいないだろうか。私たち現代人は、過去における同じ荒廃をしかも同じ理由で繰り返そうとはしていないだろうか。

しかし、主は慈悲深い御方である。イエス・

キリストは、この地上におられた時さげすまれたが、それでも悔い改めた人を、たとえ敵であっても愛し、赦された。

主がそのような思いで次の言葉を述べられたのである。「ああ、エルサレム、エルサレム、……わたしはおまえの子らを幾たび集めようとしたことであろう。それなのに、おまえたちは応じようとしなかった。」(マタイ23:37)

この主のみ言葉を考える時に、私は、主が過去における同じように憐れみをもって、現代の人々にも語って下さるだろうかと問うてみる。そして、主は確かに今の私たちにも同じように接して下さると私は思う。なぜなら、主は、人をかたよりみられる御方ではないからである(教義と聖約1:35参照)。

主は、現在もこう言っておられるのではないだろうか。「ああ、アメリカ、アメリカ、ちょうど、めんどりが翼の下にそのひなを集めるように、わたしはおまえの子らを幾たび集めようとしたことであろう。」

「ああ、イギリス、ああイギリス、わたしはおまえの子らを幾たび集めようとしたことであろう。」

また、「ああ、ドイツよ」、そしてスカンジナビア、その他の地のあらゆる民に、「わたしはおまえの子らを幾たび集めようとしたことか」と。

今日、私たちが主を拒むならば、それは、古代イスラエルの民が偶像礼拝に走り、背教したことよりも罪が軽いと言えるだろうか。

無関心や悪意から全能の神を拒むことは、重大なことである。神のみ言葉は、今もなお私たちの耳元で鳴り響いている。「神聖なるものを軽んずることなかれ。」(教義と聖約6:12)

主の戒めは明確に規定されており、道徳や正直、その他の徳に関する標準も、すでに広く教えられている。しかし悲しいことに、それらの戒めは、守られるよりも、破られることによって人々に知られるようになっていく。これは、荒廃が何らかの形で私たちに襲って

くことを示しているような気がする。

政府は、同性愛やその他の不道徳をなぜ容認するのだろうか。州の役人が、悪習を野放しにしているのは、また時には擁護してさえいるのはなぜだろうか。立法者や裁判官が合衆国憲法の名の下に「われら神を信頼す」と毎日唱えながら、一方では、祈りや聖典を読むことに反対するのはなぜだろうか。

このキリスト教国家において、彼らはキリスト者であろうか、それとも反キリスト者であろうか。神に関して、中立という言葉があり得るだろうか。イエスは、否とっておられる。私たちは、キリストに従うか、反するかどちらかである（マタイ12：30参照）。

なぜ政府は、安息日の戒めを破ることを公然と支持し、日曜日に店を閉める法律を取り上げようとしなのだろうか。いわゆるクリスチャンと呼ばれている人々が、それに目をつぶっているのはなぜだろうか。

石油不足や、その他生活の不自由さに対しては、子供のように怒りながら、娯楽を制限しようとする、それに反対する。なぜ私たちは成熟した大人らしく、世の諸問題の根源が神を拒むことにあることを認めようとしなのだろうか。なぜ目を覚まして、現実を直視しようとしなのだろうか。なぜ目をつぶって悲劇に突入していくのだろうか。

争いや犯罪、その他すべての腐敗を解決するために、正しく適切な措置を講ずるべきではないだろうか。

これらの問題を解決する方法はただひとつ神に立ち返ることである。これはまた、主イエス・キリストを心から受け入れ、主の教えに完全に従うことでもある。

もし今、このアメリカが、心から主を受け入れたとしたら、どうだろうか。イギリス、メキシコ、スカンジナビア、ドイツ、東洋、南アメリカの諸国民が、主に立ち返り、その罪を悔い改め、主の聖なる招きを受け入れたとしたら、どうなるだろうか。

主は、次のように述べておられる。

「すべての重荷を負うて苦勞している者は、わたしのものにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう。

わたしは柔和で心のへりくだった者であるから、わたしのくびきを負うて、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたの魂に休みが与えられるであろう。

わたしのくびきは負いやしく、わたしの荷は軽いからである。」（マタイ11：28—30）

戦争の重荷と平和を維持するために用いる軍需品の費用のことを考えていただきたい。また個人も国家も、罪や背負い切れない負傷を負っていることを考えていただきたい。この世で、私たちが背負っていかなければならない重荷について考えてみていただきたい。

そして、それらの重荷から解放されたならば、どんなに安堵の心を持つことができるか考えていただきたい。もし私たちがキリストの招きを受け入れるならば、これを達成することができる。

私たちが現在負っている重荷も、キリストにすれば、実に軽いはずである。キリストのくびきは負いやしく、その上、主は、神の温かい心で、悔い改める者一人一人を迎え入れて下さるのである。主を恐れる必要はない。主は、柔和で謙遜な御方である。

皆さん、耳を傾けていただきたい。主の呼ぶ声が聞こえるだろうか。主は、今でも、このように語りかけておられる、「ああ、アメリカ、アメリカ、わたしは幾たびもおまえを集めようとする。おまえさえ私のもとにくるつもりがあれば……」

「ああ、イギリス、スカンジナビア、メキシコ、ドイツ、日本、韓国、その他すべての国々よ。」皆さんには、主の声が聞こえるだろうか。主は、今も、きょうも、皆さんを呼んでられる。もし私たちが、へりくだり、悔い改めて主のみもとに來さえすれば、主は、今すぐにも私たちを集め、養い、育て、平和を与えて下さるのである。

この国で、私たちはたびたび、「神よアメリ

かに祝福を与えたまえ」と歌う。この言葉を祈りの中でも唱えようではないか。そしてなぜ、神よイギリスに、スカンジナビアに、南アメリカに、メキシコに、東洋に、オーストラリアに、ニュージーランドに、そのほかすべての国々に祝福を与えたまえと歌わないのだろうか。もし真心から主に立ち返るならば、主はすべての人々に祝福を与えて下さるはずである。ほかに道はないのである。

主は戦争を終結させ、内紛や、貧困、失業、救済金の必要をすべて解決することができる。また、犯罪や不道徳、それに付随して起こる様々な病弊を除去することもできる。

主は人々に平安、すなわち精神的、肉体的、霊的、経済的、政治的な真の平和を与えて下さる。私たちはそれに対して代価を払わなければならない。それは、主イエス・キリストの福音に心から従うことである。

常識ではこうだからと言って、なぜしっかり目を開いてみようとししないのだろうか。なぜあれこれ理由つけて、進んで主に立ち返ろうとししないのだろうか。安全な道はこれしかないのである。

私は、今、無意味な説教を繰り返しているのではない。もっと真剣な、一生にかかわる現実の問題について語っているのである。

かつて古代アメリカでは、そのような祝福がこのさきにもたらされ、それが200年間続いたことがあった。平和と繁栄が全地を覆っていた。戦争や犯罪もなく、刑務所もなかった。貧困も、不道徳も、罪悪が生み出すいかなる病も、この200年間には存在しなかった。

これは、単なる夢物語ではない。現実にあったことである。これまで2度と繰り返されたことのない、世界史上最大の出来事である。

しかし、条件さえ満たすことができれば、今この時代でもそれを再現することができるものである。

現在軍事費に充てられている何十億というお金を、平和の建設に向けることもできる。また犯罪によって失われる多額のお金を、人類

の発展のために活用することもできる。そうすれば、民族間の争いもなくなるし、ストライキやボイコット、ロックアウトもなくなり、陸軍や海軍も必要なくなり、さらに人工衛星を使ってスパイ活動をする必要もなくなるのである。

これらはすべて、実際に私たちが手を伸ばせば届くところにある。代価は現在私たちが支払っているものよりはるかに小さく、報いは想像できないほど大きいはずである。

ああ、エルサレム。ああ、アメリカ。ああイギリス、その他すべての国々よ。主は、皆さんに呼びかけておられる。「わたしのものにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう。」(マタイ11:28) 主イエス・キリストのみ名によって申し上げる。アーメン。



スペンサー・W・キンボール大管長

靈性を維持する

神と交わりを持つことは靈にかかわることである。人は元來靈的な存在であり、人の靈は神の子供である



第二副管長
マリオン・G・ロムニー

愛 する兄弟姉妹の皆さん、今私は、主のみたまをいただいて皆さんにお話したいと願っている。私はきょう、靈性を維持するということについてお話したい。このテーマは、ニーファイの弟ヤコブの語った勧告のことを考えていた時に、心の中に湧いてきたものである。ヤコブは次のように言っている。

「肉欲に迷う心は死を招き靈のことを思う心は永遠の生命を招くということを記憶せよ。」(II ニーファイ 9 : 39)

マッケイ大管長は、靈性とは「自我に打ち勝っているという自覚、また永遠なる御方と交流を保っているという自覚」であると定義づけている。大管長は次のようにも述べている。「靈性は私たちに、困難を克服し、さらに一層強くなるように促す。自分の能力が増し加わり、心の中に真理が開かれてきたと感じること、これはこの世で経験する事柄の中で最も崇高なもののひとつである。」(デビッド・O・マッケイ、*Stepping Stones to an Abundant Life*「豊かな人生への踏み石」レウェリン・R・マッケイ編、p. 99)

主は予言者ジョセフ・スミスを通じて、次のような真理を明らかにしたもうた。「すべての靈は物質なり。ただ、ひととき極微純粹にして、ひととき浄き眼のみよくこれを見極め得るなり。」(教義と聖約131: 7)

アブラハムは語っている。「主は……この世に先だちて組織されたる英智たちを見せたまいたりき。……

神、これらの靈を善しと見たまい……神、靈なりしこれらの者の中に立ち……」(アブラハム 3 : 22—23)

これらの靈たちは神の子供である。ヨハネの記すところによれば、神御自身も靈である。ヨハネは次のように記している。

「神は靈であるから、礼拝をする者も、靈とまことをもつて礼拝すべきである。」(ヨハネ 4 : 24)

神の靈は「人間の有する肉体と同じく触知し得る骨肉の体を有したもう。」(教義と聖約130: 22)しかし、神の体は俗世のものではない。「われにかかわるすべては靈のことなり」(教義と聖約29: 34)とあるからである。

「わが『みたま』の能力なるわが能力の言もて〔万物を〕造り……

……靈のものもこの世のものも……

すなわちわが業の始めに当り、先に靈のものあり、次にこの世のものあり。而してまたわが業の終りには、先にこの世のものあり、次に靈のものあり。……

……われにかかわるすべては靈のことなり。われは何時たりとも、いまだ嘗て俗世の事にかかわる律法を与えたることなし。」(教義と聖約29: 30—32, 34)

神と交わりを持つことは靈にかかわることである。人は元來靈的な存在である。人の靈

は神の子供であり、諸々の世界に「住む者たち」の霊は「皆神より生れたる息子と娘」である（教義と聖約76：24）。

さらに、主の『みたま』は世に来るあらゆる人々に光を与え、また『みたま』はその声を聴く全世界のあらゆる人々を照すなり。

この『みたま』の声を聴くすべての人は神に来る。すなわち、御父の許もとに来るなり。（教義と聖約84：46—47）

「人のあらゆる霊は、^{はじめ}太初に罪なきものなりき。而して神は墮落より人を贖いたもうたるにより、人はみな再び幼児の有様となり、神の前に罪なしとなりぬ。

然るにかの悪魔来りて……光明と真理を取り去りぬ。」（教義と聖約93：38—39）

この霊性の喪失は、アダムとイブの子供たちの時代に始まった。彼らは、両親の教えに従うことを拒んだのである。

皆さんは、アダムがひとりのみ使いから福音を教わったことを思い出すであろう（モーセ5：6—8参照）。その後、アダムは「主の『みたま』によりとらえられ」バプテスマを受け、聖霊を授けられた。こうして、『彼は、みたま』によりて生れ」たのである（モーセ6：64—65参照。モーセ5：10をも参照）。

「アダムとイブとは神の御名を讃め、息子娘らにすべての事を知らしめたり。

ここにサタン彼ら〔息子、娘たち〕の中に来りて言いけるは、われもまた神の子なりと、また彼らに命じて言いけるは、アダムとイブの言を信ずるなかれ、と。されば、彼らアダムとイブの言を信ずることなくサタンを神よりも愛でたり。人はその時より、肉体、肉欲、悪魔に従う者となり始めたり。」（モーセ5：12—13）

霊性は信仰と悔い改め、バプテスマ、聖霊を授かることによって得られるのである。聖霊を伴侶とする人は、神と交わりを保っている人である。したがって、霊性を維持している人である。霊性は、聖霊を伴侶とする生活を営む時に保たれるからである。

このような状態を保つひとつの確かな方法は、自分の務めが何かを知り、その務めを果たすことである。それには、第一と第二の戒めを守ることである。「心をつくし、精神をつくし、思いをつくして、主なるあなたの神を愛せよ。」「自分を愛するようにあなたの隣り人を愛せよ。」（マタイ22：37、39）これがふたつの大切な戒めである。

また、十戒と山上の垂訓に従い、信仰箇条の教えを守り、祈ることも必要である。

霊性を維持するのに祈りが大切なことは、アダムとイヴに主から与えられた戒めを見ればよくわかる。この戒めは、エデンの園を追われた後、記録にある中で最初に与えられたものである。すなわち、「主なる汝らの神を礼拝（せよ）」（モーセ5：5）と命じられている。

次にアダムに語った天よりの来訪者は、ひとりのみ使いである。そのみ使いは、アダムが捧げているいけにえは、「御父の生みたもう……ただ独りの御子が犠牲いけにえとなりたもうことのひながた」（モーセ5：7）であると彼に教えた。

またみ使いは言った。「この故に、汝の為すすべてを御子の御名によりて為せ。また汝悔い改めて今よりいつまでも御子の御名によりて神を呼ぶべし。」（モーセ5：8）

その時から現在に至るまで、主イエス・キリストのみ名によって祈るよにという戒めが、神のすべての戒めの中で最も頻繁に繰り返し命じられているのである。

祈りの大切さを告げる教訓として最も印象深いのは、ジェレドの兄弟を通じて与えられたものである。「主は……霊の中に立ちながらかれと親く話したもうた。主は三時間ジェレドの兄弟と話して、かれが主に祈ることを怠ったのを懲こらしめたもうた。

それでジェレドの兄弟がその罪を悔い改めて、一しよにきた者たちのために主に祈った時、主はこれに答えて仰せになった『われは汝と、汝と共に来りし者たちの罪を赦す。さ

れどこの後汝は再び罪を犯すべからず。わが『みたま』は必ずしも常に人をはげますものにあらざることを忘るな。」(イテル2：14—15)

その後、ジェレドの兄弟がこのような信仰をもって祈っていたところ、ほどなくして、肉体を持つ前の霊の状態の主イエス・キリストが彼に現われ、こう言われた。「見よ……われはイエス・キリストなり。……

見よ、今汝が見るこの体はわが霊体なり。……われは今わが霊のまま汝に現われると同じ形の肉体を具えてわが民にもまた現われん。」(イテル3：14, 16)

霊性を維持するために祈りの力が必要であることをはっきりと証明する、今ひとつの出来事は、ヤコブの息子イノスの経験である。イノスは次のように記している。

「さて、私は自分の罪を赦されようとして、一心不乱に神の御前に祈ったことについてあなたたちに話をしよう。

ごらん、私は獣を狩ろうとして森へ行ったが、私の父が永遠の生命と聖徒の幸福について教えた言葉を度々聞いたのが私の心に深くしみこんだ。

そこで私は自分の心が飢えるのを覚えて、私の造り主の御前にひざまずき、自分の身と霊のために一心こめて祈りかつ願った。私は本当に一日中神に祈り、夜になってもまだ私の声が天にとどくほど大きな声で祈った。

すると一つの声が聞こえて『イノスよ、汝の罪はすでに許されたれば汝は祝福を受くべし』と仰せになった。

私イノスは神が必ず偽を仰せにならないことを知っていたから、私の罪はすでにこれを取り消されたのである。

しかし私が主よこれはどうしてそうなりますかとたずねたところ、

主は『それは汝がこれまでに見しことも聞きしこともなきキリストを信ずるに由る。このキリストは多くの年月を経てはじめて肉体にて現わる。されば、汝努めよ。汝は己が信

仰によりて無罪となれり』と仰せになった。

私はこの言葉を聞くと、私の兄弟であるニーファイ人の幸福を望む思いが心の中に生じたから、かれらのために全身全霊を傾けて神に祈った。

私がこのように精神こめて祈っている中に、ごらん、また主の御声が私の心に聞えて仰せになった『汝の兄弟らがわが命令を守る熱心の多少に従い、われはこれに報いを与うべし。われはすでにこの地をかれらに与えしが、これは聖き地にして罪悪のある故にあらざばわれこれをのろわず。されどすでに言いし如く、われは汝の兄弟らに報いを与え、かれらにその罪の責任をとらせて悲しき目に逢わすべし』と。」(イノス2—10)

霊性を維持する上で大きな助けとなるもうひとつのことは、聖典を学ぶことである。アルマはモーサヤの息子たちが奇跡的な伝道の成果を上げたことに関連して、このことを証している。

「モーサヤのこの息子たちは、天使が最初アルマに現われたときアルマと一しょに居た者たちであったから、アルマはこのように兄弟たちに逢って非常に喜び、ことにかれらがやはり元の通り主の教会の兄弟であったからまたその上一方ならず喜んだ。この兄弟たちはまことに正しい理解をもっている者たちで、神の道を知るために熱心に聖文を研究したから、すでに真理について深い知識を持つようになっていた。」

「そればかりでなく、かれらは非常に熱心に祈りと断食とをしたから『予言のみたま』と『啓示のみたま』とを受け、その教えを宣べるときには神に授かった権能と威勢とによって教えた。」(アルマ17：2—3)

霊性を得てそれを維持するために欠かせないのが、祈りと聖典を学ぶことである。

主は予言者ジョセフ・スミスに次のように言われた。「勝利者たらんことを常に祈るべし。誠にサタンに打ち勝つ様に祈れ、また現にサタンの仕事に力を与えるサタンの僕らの手よ

り免れんことを祈るべし。」(教義と聖約10：5)

聖典の大切さについて、主は次のように言っておられる。「聖典を調べなさい。あなたがたは、聖典の中に永遠の命があると思って調べているが、聖典は、わたしについてあかしをするものである。」(欽定訳ヨハネ5：39より和訳)

聖餐の目的は靈性を維持するよう促すことである。パンと水の祝福の言葉には、「御子の『みたま』……一同〔聖餐にあずかる者〕と共にましますよう」と記されている。(教義と聖約20：77, 79参照)

教義と聖約第59章に記された啓示は、ミズーリ州ジャクソン郡に到着したばかりの聖徒たちの指針として、1831年8月7日に予言者ジョセフ・スミスを通して与えられたものである。主はこの啓示の中で、靈性を維持するために欠かせない一連の指示を明らかにして、次のように言われた。

「主は言う。わが命に従い、誠心を以てわが栄光を仰ぎ見て今この地に集り来れる人々は、見よ、幸福なるかな。

そは生くる者は地をつぐことを得、死ぬる者は全く働きを休みて安息を得。されど彼らのなしたる業はその人々につき従いて、わが備えたる父の住居に於て冠を受けしむればなり。

然り、その足シオンの地のの上に立ち、わが福音に従い居る者は幸福なるかな。その者は報いとして地の善きものを受け、而も地はそれを力強く生ずべければなり。

またわが前に忠実にして勤勉なる者は、天より祝福をもて冠を受くべく、また誠に少からざる誠命とその時々に関する啓示とを与えらるるなり。

この故に、われ彼らに一つの誠命を与う。曰く、汝心を尽し、勢力と思いと体力とを尽して主なる汝の神を愛すべし。また、イエスキリストの名によりて神に仕うべし。

汝己れの如く汝の隣りを愛せよ。汝盗むな

かれ。また、姦淫を犯すなかれ。また、人を殺すなかれ。また何事にもこれに類することを為すことなかれ。

すべての事に就きて、主なる汝の神に感謝すべし。

汝誠に真にへりくだる心と悔いる精神とを以て、汝の神に義しき捧物となすべし。

汝なおさら充分に世の汚れに染まざる様、祈りの家に行きてわが聖日に汝の聖式を捧ぐべし。

そは誠にこの聖日は、汝命ぜられて働きを休み、いと高き者に礼拝を捧ぐべき日なればなり。

さりながら、汝の誓言は、正しく毎日常に神に捧げられざるべからず。

されどこの主の聖日に於ては、いと高き者に汝の捧物と聖式とを奉りて、兄弟たちに向い主の前に於て汝の罪を告白するを忘るべからず。

而して汝この日には他に何事をもなすことなかれ。ただ汝が断食を完からしめんため、言い換うれば汝悦びを以て充されんため、真心をこめてその食物を支度することのみを為すべし。

誠にこれは断食と祈りにして、言を換えて言えば悦びと祈りなり。

而して汝ら感謝と愉快なる心と顔容とを以てこれを為さば、——多く笑いてこれを為すなかれ、そは罪悪なればなり、されば悦ばしき心と愉快なる顔容とを以てなせ、——

われ誠に汝らに告ぐ、汝らこれを為さば地に満つるすべてのものは汝らに与えらるべし。すなわち野の獣、空の鳥、木によずるもの、地上を歩くものは汝らのものとなるべし。

然り、また汝らの食物、衣服、家屋、小屋、果樹園、野菜畑、葡萄園など何れにしても、それらのために地より生ずる諸々の草と善きもの、

然り、すべてこれら季節によりて地より生ずるものは、皆人の為人の用いんために造られ、眼を楽しませ、また等しく心を悦ばせん

ためなり、

然り、これらは肉体を健にし人に元気をつくるよう、食物、衣服、味、香りのために造らる。

而して、すべてこれらのものを人に与えたるは神の悦びとするところにして、この目的のためにこれらは造られたれば、人は適量にこれを用いて貪らずまたは無理に取りて用うべからず。

およそ人何事にも神を怒らせずまたは何事にも神の怒り燃ゆることなし、たゞすべての事の中に神の御手のあることを告白せず、その誠命に従わざる者に神の怒りあり。」

見よ、こはすべて律法と予言者らとによるなり。……

……正しき業を行う者はよき報いを得、すなわちこの世に在りては平和を得、次の世に在りては永遠の生命を得ん。

主なるわれこの事を語り、而して『みたま』これが証をなすなり。アーメン」(教義と聖約

59：1—24)

兄弟姉妹の皆さん、靈性は主のこのみ言葉に従うすべての人々に与えられる。なぜならば、主御自ら次のように約束しておられるからである。「誠に、主かくの如く言う。その罪を捨ててわれに來り、わが名を呼び、わが声に従い、わが誠命を守るあらゆる人々は、わが面を見てわれ在るを知るることあらん。

また、われは世に來るあらゆる人を照らす真の光なること、

われは御父にあり、御父はわれにあり、御父とわれとはひとつなるを知るることあらん。」

(教義と聖約93：1—3)

愛する兄弟姉妹の皆さん、靈性を維持するためにはこの原則に従うことが必要である。私たちすべての者が靈性を得て、主を喜ばせ、主にまみえることができるように祈っている。イエス・キリストのみ名によりへりくだり祈るものである。アーメン。



十二使徒評議員会会長エズラ・タフト・ベンソン長老(左)とマーク・E・ピーターセン長老

教会役員の支持

第一副管長

N・エルドン・タナー

今 大会の教会役員の支持を行なう前に、キンボール大管長からの要請により、以下の発表を行ないたいと思います。ステーキ部祝福師の急激な増加により、全世界で祝福師の務めが十分に行なえるようになってきました。そこで、エルドレッド・G・スミス長老を名誉祝福師に任命致します。これによって、スミス長老は教会の大祝福師の職につけるすべての義務と責任から解かれることとなります。また、中央日曜学校会長のラッセル・M・ネルソン、ウィリアム・D・オズワルド、J・ヒュー・ベアード、および中央若い男性会長のニール・D・シェイラー、グラハム・W・ドクシー、クイン・G・マッケイを感謝の解任をします。後ほど提議致しますが、七十人第一定員会の会員が、日曜学校および若い男性の新しい会長会を構成するようになります。賛成の方はその意を表わして下さい。もし反対の方があれば、同じようにその意を表わして下さい。

私たちは予言者、聖見者、啓示を受ける者、末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長としてスペンサー・W・キンボールを支持して下さい。その提議に賛成の方はその意を表わして下さい。もし反対の方があれば、同じようにその意を表わして下さい。

私たちは大管長会第一副管長としてナサン・エルドン・タナーを、第二副管長としてマリオン・G・ロムニーを支持して下さい。その提議に賛成の方はその意を表わして下さい。もし反対の方があれば、同じようにその意を表わして下さい。

私たちは十二使徒評議員会会長としてエズ

ラ・タフト・ベンソンを支持して下さい。その提議に賛成の方はその意を表わして下さい。もし反対の方があれば、同じようにその意を表わして下さい。

私たちは十二使徒定員会会員として、エズラ・タフト・ベンソン、マーク・E・ピーターセン、リグランド・リチャーズ、ハワード・W・ハンター、ゴードン・B・ヒンクレイ、トーマス・S・モンソン、ボイド・K・パッカー、マービン・J・アシュトン、ブルース・R・マッコスキー、L・トム・ペリー、デビッド・B・ヘイト、ジェームズ・E・ファウストを支持して下さい。その提議に賛成の方はその意を表わして下さい。もし反対の方があれば、同じようにその意を表わして下さい。

大管長会副管長および十二使徒を予言者、聖見者、啓示を受ける者として支持して下さい。その提議に賛成の方はその意を表わして下さい。もし反対の方があれば、同じようにその意を表わして下さい。

私たちはスペンサー・W・キンボールを末日聖徒イエス・キリスト教会信託管理人として支持して下さい。その提議に賛成の方はその意を表わして下さい。もし反対の方があれば、同じようにその意を表わして下さい。

私たちは、名誉祝福師としてエルドレッド・G・スミスを支持して下さい。その提議に賛成の方はその意を表わして下さい。もし反対の方があれば、同じようにその意を表わして下さい。

七十人第一定員会会長会ならびに七十人第一定員会会員として、フランクリン・D・リ

チャーズ, J・トーマス・ファイアンズ, A・セオドア・タトル, ニール・A・マックスウェル, マリオン・D・ハンクス, ポール・H・ダン, W・グラント・バンガーターを支持して下さるよう提議致します。賛成の方はその意を表わして下さい。もし反対の方があれば、同じようにその意を表わして下さい。

その他の七十人第一定員会会員として, セオドア・M・バートン, バーナード・P・ブロックバンク, ロバート・L・シンプソン, O・レスリー・ストーン, ロバート・D・ヘイルズ, アドニー・Y・小松, ジョセフ・B・ワースリン, ハートマン・レクター・ジュニア, ローレン・C・ダン, レックス・D・ピネガー, ジーン・R・クック, チャールズ・A・ディディエ, ウィリアム・R・ブラッドフォード, ジョージ・P・リー, カーロス・E・エイシー, M・ラッセル・バラード・ジュニア, ジョン・H・グローバーク, ジェイコブ・ディエガー, ボーン・J・フェザーストーン, ディーン・L・ラーセン, ロイデン・G・デリック, ロバート・E・ウェルズ, G・ホーマー・ダラム, ジェームズ・M・パラモア, リチャード・G・スコット, ヒュー・W・ピノック, F・エンツィオ・ブッシュェ, 菊地良彦, ロナルド・E・ポールマン, デリック・A・カスパート, ロバート・L・バックマン, レックス・C・リーブ・シニア, F・バートン・ハワード, テディー・E・ブルーアートン, ジャック・H・ゴースリンド・ジュニアを, また七十人第一定員会名誉会員としてジョセフ・アンダーソン, ウィリアム・H・ベネット, ジェームズ・A・カリモア, スターリング・W・シル, ヘンリー・D・テイラー, ジョン・H・バンデンバーク, S・デルワース・ヤングを, それぞれ支持して下さるよう提議致します。賛成の方はその意を表わして下さい。もし反対の方があれば、同じようにその意を表わして下さい。

管理監督会の管理監督としてピクター・L・ブラウンを, 第一副監督としてH・バーク・

ピーターソンを, 第二副監督としてJ・リチャード・クラークを支持して下さるよう提議致します。賛成の方はその意を表わして下さい。もし反対の方があれば、同じようにその意を表わして下さい。

地区代表として, 全地区代表を現状のまま支持して下さるよう。

日曜学校, 会長としてヒュー・W・ピノック長老を, 第一副会長としてロナルド・E・ポールマンを, 第二副会長としてジャック・H・ゴースリンド・ジュニアを, その他管理会員を現状のまま支持して下さるよう。

若い男性, 会長としてロバート・L・バックマンを, 第一副会長としてボーン・J・フェザーストーンを, 第二副会長としてレックス・D・ピネガーを, その他管理会員を現状のまま支持して下さるよう。

扶助協会, 会長としてバーバラ・ブラッドショー・スミスを, 第一副会長としてマリアン・リチャーズ・ボイヤーを, 第二副会長としてシャーレー・ウィルクス・トーマスを, その他管理会員を現状のまま支持して下さるよう。

若い女性, 会長としてエレイン・A・キャノン, 第一副会長としてアーリン・B・ダーガーを, 第二副会長としてノーマ・B・スミス, その他管理会員を現状のまま支持して下さるよう。

初等協会, 会長としてナオミ・M・シャムウェイを, 第一副会長としてコリーン・B・レモンを, 第二副会長としてドロシアルー・C・マードックを, その他管理会員を現状のまま支持して下さるよう。

以上の提議に賛成の方はその意を表わして下さい。反対の方も同じようにその意を表わして下さい。

教会教育委員会, 委員としてスペンサー・W・キンボール, N・エルドン・タナー, マリオン・G・ロムニー, エズラ・タフト・ペンソン, ゴードン・B・ヒンクレイ, トーマス・S・モンソン, ボイド・K・バック,

マービン・J・アシュトン、ニール・A・マックスウェル、マリオン・D・ハンクス、ビクター・L・ブラウン、バーバラ・B・スミスを支持して下さい。賛成の方はその意を表わして下さい。もし反対の方があれば、同じようにその意を表わして下さい。

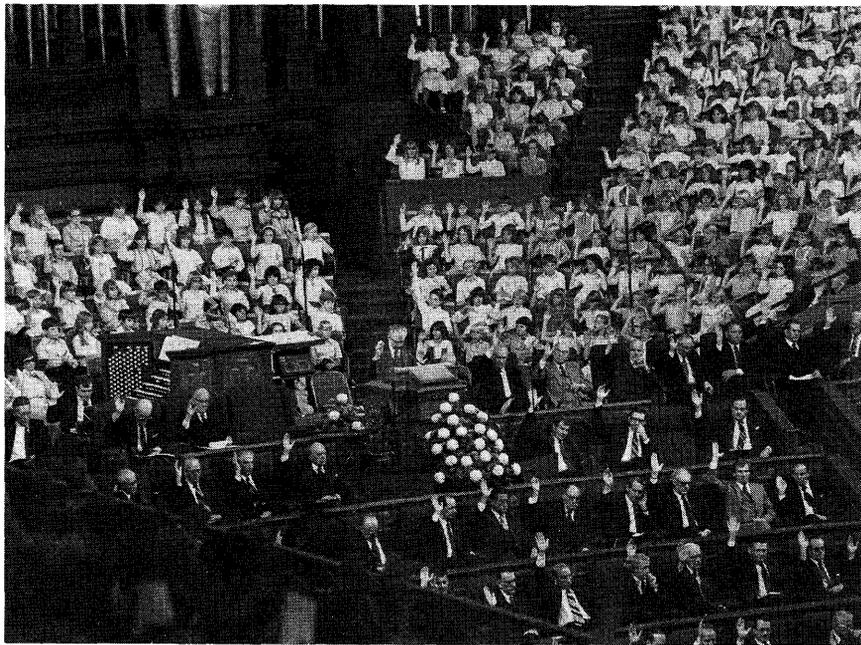
教会財務委員会、委員としてウイルフォード・G・エドリング、ハロルド・H・ベネット、ウェストン・E・ハミルトン、デビッド・M・ケネディー、ウォーレン・E・ピューを支持して下さい。

タバナクル合唱団、団長としてオークレー・

S・エバンズを、指揮者としてジェラルド・D・オタリーを、准指揮者としてドナルド・H・リプリンガーを、タバナクルオルガニストとしてロバート・カンディック、ロイ・M・グーリー、ジョン・ロングハーストを支持して下さい。

以上の提議に賛成の方はその意を表わして下さい。もし反対の方があれば、同じようにその意を表わして下さい。

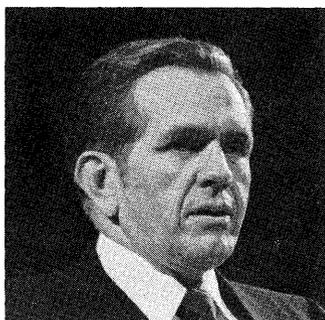
キンボール大管長、以上の役員および教会幹部に対して全会一致の支持が得られたようです。



教会役員の支持の光景

祈りと答え

私は、靈感の声は音声よりも感じとしてくる方が多いことを知るようになった



十二使徒評議員会会員
ボイド・K・バッカー

兄 姉妹の皆さん、私は祈りと、祈りの後に起こることについて若人にお話するに当たり、靈感を願い求めるものである。

全般的に見て、教会では祈ることがかなりきちんと教えられている。幼な子でさえも腕を組み頭を下げ、親や兄弟から小さな声で教えられ、やがて自分で祈りができるようになる。

祈りがあれば、その答えもあるはずであるが、答えについては比較的軽視されているような気がする。

昔、ある夏の宵に、動物学者のジョン・パローズが公園の人込みの中を歩いていた。その時、都会の喧噪を越えて一羽の鳥の鳴き声を耳にした。

そこで彼は立ち止まってその声じっと耳を傾けた。しかし、一緒にいた人たちにはそれが聞こえなかった。彼は辺りを見回したが、だれもそれに気づいた人はいなかった。

彼はこれほど美しいものをなぜみんなが見逃すのか気になって仕方がなかった。

そこでポケットから1枚の硬貨を取り出し

て空中にほうり投げた。硬貨はちゃりんという音を立てて舗道に落ちた。小鳥の鳴き声よりも小さいその声に、みんなは振り向いた。ちゃんと聞こえていたのである。

都会の雑踏の中において、小鳥の歌声を聞き分けるのは容易ではない。しかし、わからないはずはない。鳴き声を聞き分けられるように自分を訓練していれば、はっきりと聞こえるはずである。

我が家の息子のひとりが、以前からずっと無線通信に興味を持っている。小さい時のクリスマスプレゼントは、初心者用ラジオの組立てセットであった。

息子は成長して自分でアルバイトができるようになり、私たちにも余裕が出てくると、彼はもっと複雑な装置を買った。

ここ何年か、またつい最近にも、その息子の隣に腰かけて、息子が遠い世界に住む人々と交信しているのを耳にした。

空電や電波障害が起きたり、混信したり、かと思うと一度に幾つもの声が入ってきたりしたこともある。

それでも息子は言っていることをちゃんとキャッチしていた。どんな電波障害があっても、ちゃんと聞きとれるように訓練ができていたからである。

この騒々しい世の中で静かな靈感の声を聞き分けるのは非常に難しい。自分をよく調べていないと、聞き逃してしまう。

祈りの答えはひそやかにやって来る。聖典には、靈感の声は静かな細い声と描写されている。

あなたは心から努力するならば、その声を感知取ることができるようになるはずである。

私たちは、結婚して間もなく次々と子供に

恵まれた。幼な子をお持ちのご両親ならおわかりだと思うが、この時期には、親がぐっすり眠れる夜はほとんどない。

生まれたばかりの赤ん坊がいて、そのすぐ上によく歯がはえ始めたばかりの子供がいる。そして、ひとりが熟でも出せば、一晩に百回も寝たり起きたりしなければならない。(というのは少々大ききでせいぜい2、30回といったところかもしれない)

私たちは、ふたりの子供の夜の面倒を分担して受け持つことにした。妻が赤ん坊の世話をし、私が歯の生えかけている子供の面倒をみることにした。

そのようなある日、私たちはそれぞれが受け持った子供のことしか耳に入らなくなっていることに気がついた。別の子が泣いても平気で熟睡できるのである。

私たちはこのことについてずっと話し合ってきた。そして次のような結論に達したのである。つまり、人は訓練さえすれば聞きたいものを聞き、望むものを見たり感じたりすることができる。ただしそれには条件がある。

「生れながらの人は、神の御霊の賜物を受けられない。それは彼には愚かなものだからである。また、御霊によって判断されるべきものであるから、彼はそれを理解することができない。」(I コリント 2 : 14) このような理由で、靈感の声をほとんど、あるいは一度も聞かずに生涯を送っている人が大勢いる。

聖典はそのことについて多くのことを教えている。

リーハイは息子たちに自分が見た示現について教えたが、レーマンとレミュエルはその教えに聞き従わなかった。

「父はまことに偉大なことを多く兄弟たちに語ったが、それは人が主に尋ねなければ解りにくいことであった。ところが兄弟たちは心がかたくなであったから、当然なすべきことであるが主に頼らなかつたのである。」(I ニーフアイ 15 : 3)

ふたりは弟のニーフアイに、父が言ってい

ることは理解できないとこぼすと、ニーフアイは、「あなたがたは主に尋ねたか」と兄たちに聞いた。すると兄たちは「『主に尋ねてはいない。主はこんなことをわれわれに知らせないからである』と言った。」(I ニーフアイ 15 : 8-9)

その後、彼らがニーフアイに危害を加えようとすると、ニーフアイはこのように言った。

「あなたたちは悪事をするのは早いけれども、あなたたちの神である主を思い起すのはおそい。あなたたちは、これまでに一人の天使を見、天使はまたあなたたちに言葉をかけた。まことにあなたたちはその御声を時々聞いている。その時それは静な細い声で話したもうたが、あなたたちは何らの感じもなかった。その御声を感ずることができなかつた。」(I ニーフアイ 17 : 45)

私は、靈感の声は音声よりも感じとして来る方が多いことを知るようになった。

若人の皆さん、靈感を感じとれるような状態でいていただきたい。

知恵の言葉のひとつの大きな目的は、啓示と深い関連があると私は思っている。

皆さんは幼い頃から茶やコーヒー、酒、タバコ、麻薬、その他健康に害を及ぼすものは避けるようにと教えられてきた。

そして、もしだれかがそういうものに手を出していれば、非常に心配する。

麻薬やアルコールに冒され、普段の話も満足に聞きとれないような状態の人は、この最も繊細な感情に働きかける霊的な感覚をどのように感じるができるだろうか。

知恵の言葉は健康の律法としても有益であるが、肉体的よりもむしろ霊的なことにおいてもっと益をもたらすものである。

知恵の言葉を守れば、肉体に何らかの変化が起こるが、それが霊的にマイナスになることはまずない。

皆さんが父親や母親になる時、靈感を得られなくする習慣に浸って、子供を放任してしまうような生活をしてはならない。

主は私たちに勧め、導き、教え、警告するために、心の中に清らかな英知を注ぐ道を備えられた。したがって、自分が知る必要のあることは今すぐにでも知ることができる。靈感を受けられるようになることである。

教会の若人の活動の中にも、靈感に関係したことが含まれている。それは人々に対する奉仕である。靈感は、自分自身のことよりも他人を助けるためにそれが必要とされる時、一層迅速にもたらされる。

さて、若人の中にはこのことを聞いて少々不満を抱く人がいるかもしれないが、近頃よく耳にする騒々しい音楽について述べてみたい。

頭の中がそのような音楽でいっぱいの際に豊かな靈感が受けられるだろうか。

その反対に、適切な音楽は靈感を受ける働きをさせてくれる。

また、通信を妨害する電波障害や混信のほかに、にせ電波もあることを知っておく必要がある。

時には、道を踏み誤らせるような悪い所からの声や命令を受けることがある。しかし、あなたがその気になれば、その声を聞き分け、他に切り換えることができるはずである。

では、どうしてその違いを区別したらよいのであろうか。促す声が靈感であるか、誘惑であるか、どのようにして知ることができるだろうか。

この問いに対する私の答えからおわりのように、私は若人の皆さんに全幅の信頼を寄せている。皆さんは正しく教わりさえすれば、基本的にこれらを区別できると私は思う。

教会でも、常識というものが必要である。正しい源からくる指示は、盗みを働き、うそやごまかしをし、道徳的な罪を犯せとは言わないであらう。当然のことである。

小さな子供にも良心がある。その良心が悪いことかどうかを教えてくれる。この良心のささやきを押し殺してはならないのである。

再び、聖典を読んでみよう。モルモン経か

らモロナイ書の第7章を読んでいただきたいが、ここでは1節だけを引用する。

「私の兄弟たちよ。あなたたちは善悪を判断する自由と権利を与えられているばかりでなく、その判断の方法は真昼と暗夜とを区別するように、過りなく完全に知れるほど明らかである。」(モロナイ7:15)

この章全部を読んでみると、善悪を判断する方法が示されていることがわかる。

判断がつかなくて、間違った方向に進んでいるのではないかと思われる時は、ご両親や指導者に相談しなさい。

若人の皆さん、皆さんは今日、あるいは明日、明後日、指導者に召されるかもしれない。私たちはよく組織して、可能な限り皆さんに教会活動に参加していただけるようにしたいと思っている。

皆さんはすでに祈ることを教えられている。そこで、どのようにして答えを得るか知る必要がある。

霊的な事柄は決して強制では得られないことを、若い時から学ぶとよい。

時には問題に苦しみ悩みながら、なかなか答えが得られないこともあるであろう。どこが間違っているのだろうか。

何も悪いことをしていないのに答えが来ないのかもしれない。また反対に、正しいことを十分に行っていないのかもしれない。忘れてはならない。霊的な事柄を強制することはできないのである。

私たちは、「いいえ」という答えを受け入れようとしないがために、あれこれ悩むことがある。教会員が何かをする時、自分のやり方にこだわって、それを曲げようとしない時、私は、教会歴史の大切な教訓を思い出し、心の中でこうつぶやくのである。

よろしい、ジョセフ。原稿をマーテン・ハリスに渡しなさい。自分のやり方でやって、どうなるかを自分の目で確かめてみなさい。その時、途方に暮れて迷ったら、もう一度戻って来なさい。素直に受け入れていたらもっと早

く見いだせたはずの道にあなたを連れて行ってあげよう。

ある人がこう記している。

愚かしく、せっかちな手で

私たちは計画をかき乱す、

主が練り上げられた計画を。

そして苦悶の声をあげると、主は言われる

「人よ、泣くのをやめなさい。私がつれた糸をほどいてあげよう。」

(作者不詳)

難しい問題を心の奥にしまい、生活に立ち向かうようにしなさい。そのことについてよく心に思い計り、絶えずひそかに祈りなさい。

答えは稲妻のようにはやって来ないかもしれない。ここに少し、あそこに少し、「規則に規則を加え、誠命にいましめを加え」(教義と聖約98:12) 少しずつ靈感として与えられるかもしれない。

聖典を読んでいる時や、あるいは説教を聴いている時に得られることもある。また時には、非常に大切なことであれば直接に強い靈感によって与えられることもある。そのささやき声は明らかであって間違えることがないはずである。

皆さんは若いうちに、聖霊に導かれることを学ぶことが大切である。

私は、今でも使徒として自分が少年の時に聞いたと同じ方法で、同じ御方から来る、同じ靈感を聞いている。そして今、そのしるしは一層はっきり知っている。

また時折、み業を進めるために必要な事柄、たとえばステーキ部の高い役職に教会員を召す時、私たちは祈って尋ね、直ちに答えの啓示を受けることがある。

聖典の中で、「求めよ、さらば与えられん」(教義と聖約4:7)という言葉ほど繰り返し説かれているものはない。

私は導きを求めてよく主に祈る。しかし、価値のないところからの勧めを受けたいとは

思わないし、また受けるつもりもない。心からそう思っているので、このことをはっきりと申し上げる。

若人の皆さん、心の中にいつも祈りの気持ちを抱いていなさい。祈りの心を持って、毎晩休むようにしなさい。

知恵の言葉を守りなさい。

聖典を読みなさい。

両親や教会の指導者に聞き従いなさい。

良識で考えて靈感を受ける妨げとなるような場所や物から遠ざかるようにしなさい。

自分の霊的な力を伸ばしなさい。

電波障害や混信を調整する技術を身につけなさい。

偽りの答えに注意しなさい。

聖霊から靈感を受けて導かれるようにしなさい。

ずっと昔のことだが、今でもはっきりと覚えていることがある。第2次世界大戦の時、私はパイロットだったが、当時は現在のよう電子機器を装備しておらず、嵐に遭遇した時など頼みの綱は信号電波しかなかった。

通常的信号音が入っている限り、正規の飛行ルートを飛んでいるのである。しかし、どちらか一方にでも寄りすぎると「トン・ツー」というモールス信号のA符号になる。

今度はもう一方の側にそれと、「ツー・トン」というモールス信号のN符号になるのである。

しかもこのような悪天候に、混信や電波障害は付きものである。こうした電波障害やエンジンの爆音の中で、遠方の管制塔から送られてくる弱い信号をどうキャッチするかに、パイロットの命がかかっていたのである。

信号電波には霊の信号電波があり、これは絶えず送信されている。したがって祈る方法と祈りの答えを聞く方法を知り、霊の耳をすましていさえすれば、皆さんは晴れた空でも嵐の空でも、戦火の中でも安全に飛ぶことができる。

祈りはすでに最も一般的なものになってい

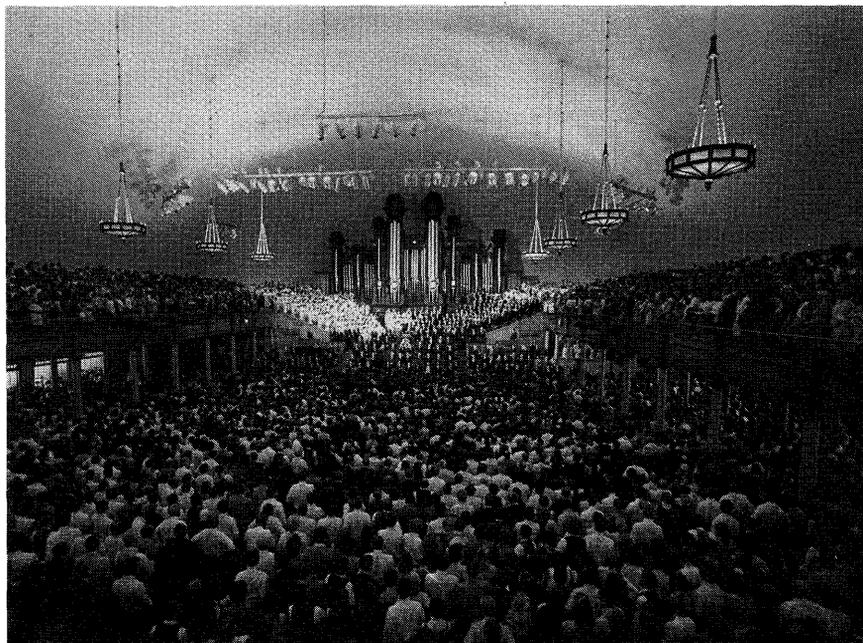
る。私たちはしばしば祈りについて、特に求めることについて教える。

しかし、答えを受けることについては、まだ十分に教えられていないと思う。これはきわめて私的なことであり、個人的なことであり、各人が自分で知るべきものである。

今すぐに始めなさい。聖霊がすばらしい将来の待ち受けている皆さん方若人を導いて下さるように。静かな細い声は皆さんのところ

にとどいて、大勢の人々が感じたように皆さんも主が生きておられることを感じるであろう。私もそれを証する。主が語られるそのみ声を、私は知っている。

イエスはキリストであり、この教会を導いておられる。この教会のすぐ近くにおいて、予言者や指導者、教会の人々や子供たちを導いておられることを、イエス・キリストのみ名によって証する。アーメン。



大会の光景

予言者ジョセフ・スミス

この記者や世の人々が、神がすべての人に与えられた永遠の祝福である福音の回復とその経緯について……理解することができたら、どんなに素晴らしいことだろう



十二使徒評議員会会員
デビッド・B・ヘイト

福音の永遠の真理はかつてない勢いで全世界の人々に受け入れられており、世界各地の教会員は宣教師と一致協力して教会に急速な発展をもたらしている。

3週間前、私はペルーのリマで新しいステークス部を組織する責任を受けた。7,000人以上の聖徒と求道者が大きな体育館に集まった。大会で心高まる霊的な経験を得た後、会場を出ると、駐車場で3人の新聞記者に呼びとめられ、こう質問された。「リマに来られた目的は。」「ペルーに教会員は何人いますか。」「あなたの教会が急速に発展している理由は何ですか。」「教会は将来どのような計画を持っていますか。」

続いて若い女性記者から次のように問われた。「あなたの教会と他の教会の違いはどこにあるのですか。」

周囲は非常に混雑しており、自動車の騒音もうるさかった。それに日程も詰まっていた。決して話ができるような状態ではなかった。その上、主の教会と他の教会の違いを説明するといった重大な事柄を語るにはふさわしい

場所ではなかった。それでも、福音を宣べ伝える好機だということで、私たちは福音の背教と回復について簡単に説明した。すなわち、人々がイエスや使徒たちが教えた教義から背教していった歴史とその証拠、そしてキリストが建てられた教会は腐敗し墮落し、神聖な儀式は人の都合に合わせて変えられていったこと、さらに今日全世界の善良な人々が、異なった教えと礼拝の様式を持つ宗教間の争いの中で困惑していることを説明した。

新聞記者は熱心に耳を傾けていた。そこで私たちは続けて説明した。その長い暗黒時代の後に、天からの直接の啓示によって、救い主の真の福音が回復されジョセフ・スミスというひとりの青年が選ばれ、訓練されて、神がこの末日に御自身の教会をお建てになる驚嘆すべきみ業の基を据える器となったことについて話をしたのである。

福音の回復とジョセフ・スミスについて話していた時、ジョセフ・スミスの横顔が非常に興味ある形で私の心に浮かんできた。まさに異常な体験であった。予言者の横顔を思い浮かべながら私はこう思った。「この記者や世の人々が、神がすべての人に与えられた永遠の祝福である福音の回復とその経緯について、またその意義について理解できたら、また私が感じていると同じように彼らも感じる事ができ、私が知っていると同じように知り、彼らが予言者の召しと役割を理解することができたら、どんなに素晴らしいことだろう。」

私はそこで証を述べた。ジョセフ・スミスはイエス・キリストの福音を完全な形で回復しよう神から任命された神の予言者であること、また彼は神を求めて祈り、神はその祈りに答えて下さったこと、そして神の御子イエ

スが命じられるみ業を行なったことを証した。そしてこの予言者ジョセフ・スミスを通して組織されたこの教会は、聖なる神権の鍵と権能を有し、神の救いの計画をこの地上の神の子全員に教える責任を負っていることを告げた。

人は今でもこう尋ねる。「神は存在するのだろうか。神が本当に人に語りかけるのだろうか。神は人間一人一人の必要に心を砕いておられるのだろうか」と。

これまで何度か祈りを経験していたひとりの若者が、若者らしい信仰をもって、森に入ってしまった。そして辺りを見回して、だれもいないのを確かめると、ひざまずいて、心にある思いを神に打ち明けた。すると、森は非常に明るくなった。その明るさはこれまで彼が目にしたことのない明るさであった。彼の前に、筆舌では表わすことのできないふたりの栄光に包まれた御方が立っていた。そして、ひとりかもう一方の御方を指して言われた。「こはわが愛子なり、彼に聞け。」御子はひざまずいている少年に話しかけられた。そしてどの教会も間違っており、人々は教義を曲げ、儀式を変え、神権の権能まで失われていることをジョセフに告げられた。こうして学識はないけれども謙遜なジョセフ・スミスを通して、全能なる御方が再びこのみ業を確立されることとなったのである。(ジョセフ・スミス 1:15—20参照)

それまで世に広まっていた宗教の教えは、神を人々の頭の中でひよわな霊の存在にしまい、宇宙全体に広がり、どこにいてもなく、どこにでも現われるというもので、神が人格を持ちたもうことや神会に関する教えや理論をまったくあやふやにしていた。真理は完全に歪められてしまっていた。しかしこの少年が森から出てきた時、彼の心にはもう何の疑いもなかった。はっきりと知ることができたからである。彼は御父と御子を仰ぎ見た。御父と御子は彼を訪れて教えを授けられたのである。予言者は自らこう記している。「私は示現を受けたのであるからそれが事実

であるのを身を以て知っている。私は神がそれを知らたもうことを知っている。私はそれを打ち消すことはできなかった。」(ジョセフ・スミス 2:25)

こうしてジョセフは初めて神が人の形をしていることを知った。神は実際に声を出して語りかけ、親切で、祈りに答えて下さる御方であることを知った。そして御子と御父はよく似ておられるが、別個の御方であり、さらに御子は御父に従順であって、神と人との間の仲保者であることを知ったのである。

主は鋼鉄のように強靱な人、人々のあざけりや社会的、政治的圧力にも怖れず立ち向かうことのできる人、モーセか、あるいはモーセに優る人を求めておられた。

この少年は、その後何度か天使の訪れを受けた。

ジョセフ・スミスが天使の訪れを受け、モルモン経を世に出したという話は、神御自身が予言者に姿を現わされたことから考えてみるとまったく当然のことである。

古代アメリカの住民の記録を載せたモルモン経は、「神の賜と御力」によって翻訳され、すべての人の手に入るようになった。そして、その内容は、「ユダヤ人と異邦人にイエスは永遠の神なるキリストにましまして、万国の民に現われたもうことを確信させる」ものである(モルモン経、扉の頁参照)。

モルモン経はこの世で最も正確な書物であり、キリストの純粋な福音が記されている。人の手にある書物の中で最も貴重な書物である。

最初の示現があった1820年から、1844年6月のある朝、ジョセフ・スミスとハイラム・スミスの遺体がカーセージからノーヴーまで6時間もかかってゆつくりと、2台の馬車で運ばれるまでの波乱に富んだ日々の中で、天は常に開かれ、この神権時代における偉大なみ業と王国の基が据えられたのである。古代と同じように主の教会は組織され、今や使徒が必要な神権の鍵を持つようになった。こうしてジョセフ・スミスの使命は達成された。

彼自身の心の中にも、忠実な同僚たちの心の中にも、彼が神から召されたことに対する疑いは微塵もなかった。なぜならジョセフ・スミス自身、それが靈感によって語られていることをはっきりと宣言していたからである。

こうして初期のキリスト教会と同じ組織と神権が再び回復され、使徒や予言者、祝福師、七十人、長老、監督、祭司、教師、執事が召された。いずれも福音がすべての国民に宣べ伝えられ、会員を強め、聖徒をひとつにするために必要な職である。

キリストの教会は、救い主が地上に住んでおられた時に定められたと同じ教義や儀式、権能をもって再び建てられた。人々はもう一度権威と権能を与えられて、主のみ業を行なうようになった。不明瞭な箇所はなくなり、救い主の教会とみ業は回復された。この回復された福音の教義はすべてを網羅した完全な教えであり、「人はまた太初に神と共に在りき」(教義と聖約93:29)と教えている。言い換えれば、人は地上に生まれる前から存在していたのである。人は永遠の存在である。ジョセフ・スミスは人の起源について教え、人が神から与えられた永遠の目的をもってこの地上に送られてくるといふ真理を世に知らせた。

ジョセフ・スミスは、神のすべての子供たちに人生の真の意味と人の行く末を明らかにするという貢献をしたが、それは、天使の導きや主がみ業を行なうために召された人々を通じて、少しずつ規則に規則を加えて教えられた。しかし、その教えがあまりにも輝やかしく、予期しないものであったので、当時の人々の大半はそれを受け入れることができなかった。

ジョセフ・スミスに与えられた啓示によって、人類の知識は増し加えられた。そして、イエス・キリストが世を罪から救うため十字架にかけられたこと、またキリストの贖いの業によって全人類が墓からよみがえるようになったこと、もしも福音の原則に従順である

ならば永遠の生命が与えられること、これらのことが明らかになったのである。

イエスは「わたしの父の家には、すまいがたくさんある」(ヨハネ14:2)と言われた。この言葉の意味も私たちは知っている。栄光にはそれぞれ階級があり、私たちは皆それに入れる資格を持っていること、そして私たちは至高の天を目指して努力しなければならないこと、しかもそこに達するには神の戒めをすべて守らなければならないことをよく知っている。ジョージ・アルバート・スミス大管長は次のように述べている。「私にとってイエス・キリストの福音の素晴らしさのひとつは、私たちをひとり残らず対等の立場に置くことである。日の光栄の王国の最高の位を得るのに、ステーキ部長である必要はないし、十二使徒定員会会員になる必要もない。ごく普通の教会員であっても、神の戒めを守るならば、日の光栄で他の人と同じ昇栄にあずかることができるのである。イエス・キリストの福音の麗しさは、私たちを皆平等にすることである。……主の戒めを守れば、……昇栄を受ける同じ機会が平等に与えられるのである。」

(Conference Report「大会報告」1933年10月、p. 25)

神の子供たちに対する愛を如実に物語っている啓示が、1836年にカートランド神殿でジョセフ・スミスに与えられた。彼は示現の中で、生きている間に福音を受け入れる機会のなかった人を目にした。すると声が聞こえて、地上にいる間に福音を聞き、福音を受け入れる機会がないままこの世を去った人は皆、霊界でその機会を得るとの宣言が下された。機会を与えられたならば福音を受け入れたであろう人は、日の光栄の王国で受け継ぎを得るであろう。主は「すべての人々をその行ないと心の望みに応じて裁く」(ジョセフ・スミス一示現1:9)と述べておられる。

ジョン・テイラー大管長は次のように記している。「主の予言者にして聖見者なるジョセフ・スミスは、ただイエス・キリストを除く

のほか、この世に生を受けたる何人よりもこの世に於ける人類の救いに尽したり。僅々二十年の短日月に、モルモン経を世に出してこれを神の賜物と力とによりて翻訳し、東西両大陸にてこれを刊行する媒ちとなれり。また世界の四極に至るまで、この書に載せたる完全なる福音を弘め、人の子らのために『教義と聖約』なる本書を構成する啓示と誠命並びに他に多くの智慮ある文書と教訓とを世に出せり。また、幾千の末日聖徒を集め一大都市を建設して朽つる能わざる譽と名声とを遺せり。彼は神とその民の眼前に偉大なる生涯を送り、偉大なる死を遂げたり。而して、昔主の聖任したまいし者らのほとんどすべてが然ありし如く、彼の使命と事業とを己が血を以て結び固めたり。」(教義と聖約135：3)

聖徒たちが予言者を失った悲しみに沈んでいた時、その忠実な同僚、ウイリアム・W・フェルプスは聖徒たちの気持ちを次のように記している。

たたえよ、主の召したまいし
主と語りし予言者を。
イエス、この予言者、聖見者を
聖任したまいぬ。
末の時をはじめたる
わざを諸王、諸国みな崇めよ。
神権とみさかえをもて
鍵を永遠に彼持つ。
忠実にして真実な彼、古き予言者とともに
主の王国に入らん。

このようにして、最後の福音の回復が起こった。私は皆さん方に、「神が聖なる預言者たちの口をとおして、昔から預言しておられた」(使徒3：21)万物の更新が成就したことを証申し上げる。

福音が回復されたことのあるしとして、真の聖徒たちにはみたまの賜が与えられている。

今日聖霊の賜が与えられており、人々は聖霊の力と影響力によって、真理を知り、救い

の計画の知識を得ることができる。

主が訪れて「すでに失いたるもの、……完全なる神権を再び回復」(教義と聖約124：28)したまい、各地に神殿が建てられている。

主は、1847年1月にウインタークオーターズで聖徒たちに啓示を与えられた時に、直接予言者ジョセフ・スミスについて証して、次のように言われた。「これらを見て驚くことなかれ。……されど汝ら忠実にわが言いたる言をすべて守らば栄を見ることを得ん。この言は……ジョセフ・スミスに至るまでのものにして、われジョセフ・スミスを、わが天使ら……また天よりわれ自らの声を以て、わが業を世に出さんために呼びたり。

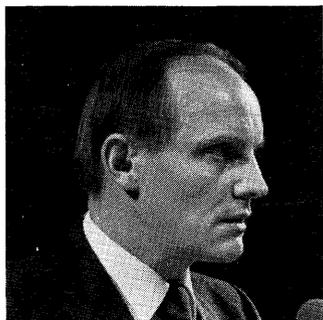
彼は真実その礎を置き忠信なりき。故にわれは彼をわが許に引取り。」(教義と聖約136：37-38)

ジョセフ・スミスは回復の予言者であった。私は、ジョセフ・スミスが神から召された予言者であり、偉大な人物であったことを、イエス・キリストのみ名により証する。アーメン。



言葉：神が定めたもうた心を通わす方法

私たちは「愛する者や隣人に清く汚れない言葉で愛と感謝の気持ちを伝え、神聖な方法で心を通わせたいと望む」必要がある



七十人第一定員会会員
チャールズ・ディディエ

「天にましますわれらの父よ。御名を崇め奉る。」(Ⅲニーファイ13：9) 救い主御自身が示された祈りの模範に見られるこの導入の言葉は、崇敬、愛、従順の気持ちを含んだ挨拶である。主がこの祈りの中で使われた言葉はどれもそれ相応の意味があり、気高い思いが込められている。そして私たちの心は高められ、新しい理解の視野が開かれるのである。主の祈りは神聖な言葉の優れた表現であり、模範である。

言葉、文、言語、一体これらは何なのだろうか。私たちや家族にどのような影響を与え、天父とどのようなかかわりがあるのだろうか。

一言の言葉、ほんの一言の簡単な言葉でも、いろいろな思想を伝え、様々な影響を及ぼす。言葉が組み合わされて意志の疎通がはかれることもある。話し手の愚かさを表わすこともある。

ひとつの言葉でも、承諾と拒否、祝福と呪い、疑念と確信、友情と敵意のいずれをも表現し得る。また、言葉の言い方や抑揚によって、愛と憎悪のいずれをも生み出す。言葉は

とげとげしくも、旋律的にも、優しくも言うことができるし、宣言する調子や叫ぶ調子で言うこともできる。言葉は波のようにうねり、熱意を呼び起こし、勝利を呼び、誇りを感じさせる。シェイクスピアは次のように書いている。「今群衆の中からおれを呼んだのは誰だ？ この耳にどの楽器よりも鋭く聞こえたぞ、『シーザー』と呼ぶ声が。」(『ジュリアス・シーザー』第1幕、第2場、15—17行、小田島雄志訳、白水社シェイクスピア文庫8、p. 12) 言葉は1滴ずつ毒のようにしたたらせることもできれば、癌のように腐らせることもできる。はっきり言うこともできれば、もごもごと口ごもることもできる。しかし、ものを言う時には、いつも気をつけなければならない。なぜなら一度口にした言葉は、決して取り戻せないからである。風のごとく永久に去ってしまう。

通常私たちは言葉を選択し、特定の語彙を用いる。言葉にはそれぞれ意味があり、私たちが含ませたい言外の意味を持つので、それに合った言葉を使うのである。私たちが尋ねるか、求めるか、祈るか、説得するか、強いるか、感化するか、威圧するかによって、語法は異なってくる。

言葉は個人の表現形式である。言葉は指紋と同様、私たちが皆違うことを示すしるしである。言葉によって話す人の人となり、過去の経験、生活の仕方がわかる。言葉は私たちの思いも、心中の感情も反映する。

しかし、言葉の起源はどこにあり、なぜそれほど特有なものなのだろうか。言葉はモーセの書6：5—6に書かれているように、時の初めから存在した。

「ここに一部の覚えの書誌さる、その中に

誌すところはアダムの言葉にてなり。それは靈感の『みたま』によりて書き誌すために、神を呼び求めたる者にみな与えられたればなり。

この者たちによりて、その子供たちは読書を教えられ、その言葉は清くして汚れなかりき。」

言葉は神に起源を有し、人間だけが話することができる。しかも人間が話すのは、創造された目的を遂げるためである。パウロが次のように語っている言葉に耳を傾けてみよう。「たとえわたしが、人々の言葉や御使たちの言葉を語っても、もし愛がなければ、わたしは、やかましい鐘や騒がしい鏡鉢と同じである。」(Iコリント13:1)アナカルシスは人の体の中で最も良い物は何かと聞かれて、「それは舌である」と答えた。また最も悪い物は何かと聞かれて、同じく「舌である」と答えている。

「わたしたちは、この舌で父なる主をさんびし、また、その同じ舌で、神にかたどって造られた人間をのろっている。

同じ口から、さんびとのろいとが出て来る。わたしの兄弟たちよ。このような事は、あるべきでない。

泉が、甘い水と苦い水とを、同じ穴からふき出すことがあろうか。わたしの兄弟たちよ。いちじくの木がオリブの実を結び、ぶどうの木がいちじくの実を結ぶことができようか。塩水も、甘い水を出すことはできない。」(ヤコブ3:9-12)

モルモン経に、「すべての物事には必ずその反対のものがなければならぬ」(IIニーファイ2:11)と書かれている。しかし私たちは、舌を制しなければ、悪い言葉が個人にどのような力を振るうかを経験から知っている。私たちが義しい民であるように忠告される時、それは私たちの態度についてだけ言っているのだろうか。腐敗した言葉や汚い言葉、俗語、不義や汚れを誘う言葉、心も体を減ぼす言葉を使用することについてはどうなのだろうか。神のみ名は、人の心を感動させ、光明を与え

るために用いるべきであって、いたずらに用いたり、侮るように用いたりしてはならない。教養、作法、気品、敬虔さなどの徳はすべて、女性的なものと見なしてよいものだろうか。宣教師が同僚や求道者、あるいは指導者について言う言葉が、失礼なものであって、愛と尊敬の念に欠けているものであればどうだろうか。

言葉によって物事が達成され、初志が貫徹され、奇跡が起こる。私たちは耳にする言葉によって、感激のあまり涙を流したり、笑いを誘われたり、立派になったような気持ちがあったり、みじめに思えたりする。また、心を高められることもあれば、とがめられることもある。「人はパンだけでは生きず、人は主の口から出るすべてのことばによって生きる。」(申命8:3)次のような時に使われる言葉は神聖である。祈る時の「天の父なる神様」という言葉、証を述べ、真理を伝える言葉。例えば予言者は次のように証している。「さて、この子羊に就きて為されたる様々の証の挙句、われらの為す最後の証はすなわち『主は実に生きたもう』ことはなり。

われらは、彼がすなわち神の右に座したもうを見たり。また、御父の生みたもう独子なりと証したもう声を聞けり。」(教義と聖約76:22-23)自分と神との関係について、「わたしは神の子」と言う言葉、愛の特質について、愛は「いつまでも消え失せることがない」(モロナイ7:46)と結ぶ言葉、家族に「愛しているよ」と言う言葉がそうである。

予言者、例えばスペンサー・W・キンボール大管長のように、生きている予言者が語る言葉は、主のみこころとみ旨を私たちに伝えるものであり、神聖な言葉の典型であり、極致である。「私の身も心も明瞭なことを喜ぶ。何故ならば主なる神が人間に為したもうことは明瞭であるからである。主なる神は世の人に解らせるためにそれぞれの言葉で語り、そしてかれらがよく解るようになったもう。」

(IIニーファイ31:3)

例えば、キンボール大管長は、最近の説教の中で、母国語以外の言葉を学習する必要があることを強調された。「私たちはもっと言葉の勉強をする必要がある。中国の北京官語と広東語に通じた人が必要である。」（1979年3月30日、地区代表セミナー）外国語を学べば、回復された福音を世の人々に伝える方法も改善できる。主の民は召しと振る舞いだけでなく、言葉の清さにおいても、他の民と異なっていないてはならない。申命記に次のように書かれている。「あなたはあなたの神、主の聖なる民である。あなたの神、主は地のおもてのすべての民のうちからあなたを選んで、自分の宝の民とされた。」（申命7：6）

言葉は神聖である。このことを知っている人もいるが、これが普段の家庭生活と深い関係があることに気がついていない。家庭における愛は、愛にあふれた言葉に始まる。愛にあふれた言葉は非常に大切である。これがな

いために、心の平安を失う人、とり乱す人、あるいは死ぬ人さえいる。社会を構成する家族の生活が悪化していながらなお社会が存続するというのではない。しかもこの悪化は、常にひとつの簡単な言葉に始まっている。

私たちは天父の子として、愛する者や隣人に清く汚れない言葉で愛と感謝の気持ちを伝え、神聖な方法で意志の疎通を図りたいと望むことにより、天父と御子イエス・キリストに栄光を帰すことができる。私たちにそれができることを祈っている。

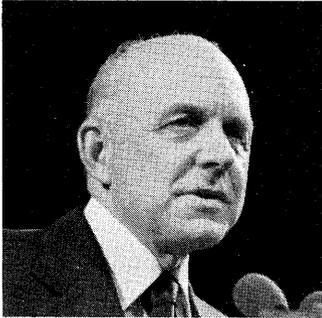
天父は実在の御方である。御子はイエス・キリストであって、私たちの救い主であり、贖い主である。スペンサー・W・キンボール大管長は、今日の地上における主の予言者であり、主の代弁者である。主の聖い名が、とこしえに私たちの言葉によって聖められるように。イエス・キリストのみ名によって申し上げる。アーメン。



十二使徒評議員会会長エズラ・タフト・ベンソン長老（左）とマーク・E・ピーターセン長老

私は教えられた

予言された出来事が次々と成就している中で、大切なことがひとつある。それは、私たちがもっと独立独りできるようなならなければならないということである。私たちは皆自分の家庭の中でもっと教える必要がある



七十人第一定員会会長
A・セオドア・タトル

教会には国際伝道部があり、カーロス・エイシー長老が管理している。この伝道部は、通常のステーキ部や伝道部の境界外に住むすべての教会員を管理する。教会の中心部から遠く離れて住む家族が、この伝道部に所属する。一般に、政府の仕事や軍務で、あるいは国際企業の仕事で、そのような地域に住んでいる人々が含まれる。

このような人々の典型的な例として、インド洋のレユニオン島に住む家族をあげることができる。また、リビアのベンガジには、8人家族、パキスタンのカラチには、5人家族が一家族いる。これらの人々をはじめ多くの家族には、組織された教会ユニットが近くにない。そのため彼らは、子供を自分で教えるなければならない。

これらの家族の多くは、定期的に「教会」の礼拝を行なっている。といっても実際は、家族のための「家庭」礼拝である。母親は小さな子供たちを集めて初等協会を開く。この場合、母親は初等協会会長と副会長、教師を

兼任し、しかも常に後片づけの掃除係も務めなければならない。家族の中に神権を受ける年齢の息子がいれば、通常の神権役員の実任は皆父親ひとりが負うことになる。父親は息子たちを教え、家族を指導する。

実際には、教会がよく組織されている所でも、神権指導者と補助組織の指導者は、両親が子供を教えるように導こうと努めている。

教会から遠く離れた所に住んでいる家族は、教会の発行している基礎的なテキストを使う。現在、成人と青少年の男性用の基礎的なテキスト、母親と若い女性向けの基礎的なテキスト、小さな子供のためのテキスト、それにとっても立派なテキスト「福音の原則」が用意されている。普通このような家族は、教会の定期刊行物を購読しており、また「家庭の夕べ」のテキストを持っている。そして最も重要なことであるが、教会の標準聖典も備えている。また、家族を中心としたいろいろな活動が計画される。利用できる資料に制約はあっても、両親が子供たちに福音を教えるならば、このような家庭も他の家庭に劣らず祝福されるであろう。

これらの家族に不可欠なものは、どの家族にとっても不可欠である。組織された教会から遠く離れて住むことは、考えようによっては、祝福でもある。というのは、家族の結びつきが強くなり、また両親は自分の行なうべきことを教会に託してしまうというようなことができなからである。

主は時の初めから家族の単位を組織された。主は、家庭が学習の中心となり、両親が教師になることを望まれた。主は、組織された教会ユニットの地域内に住んでいるか、また地

域外に住んでいるかにかかわりなく、すべての家族に当てはまる勧告を与えられた。数多くの聖句があるが、その一部を引用してみたい。

「また両親はその子供たちに祈ることと、主の前に正しく歩むこととを教えざるべからず。」(教義と聖約68：28)

「神の栄光は英智なり。すなわち、光明と真理なり。……われは汝らの小児たちを光明と真理の中に導き来れと汝らに命じたり。」(教義と聖約93：36, 40)

「お前たちは自分の子供らに真の道を行う事と真面目でなければならぬ事と互いに愛し互いに助けねばならぬ事とを教えるであろう。」(モーサヤ4：15)

「子をその行くべき道に従って教えよ、そうすれば年老いても、それを離れることがない。」(箴言22：6)

主は、両親が子供たちに家庭以外のすべての組織や機関を合わせても及ばない大きな感化を与えることができるように、家族の制度を設けられた。この制度の下には安全がある。たとえ外部の組織や機関の影響があるとしても、この制度のおかげで、子供の生活と性格を形成する大きな特権は両親に与えられるのである。

親であるということには、大きな責任が伴う。両親は子供の心に良い物を浸透させると同時に、悪い物を排除しなければならない。マスコミの印刷物や電波を無制限に家庭に入れないよう警告されているのは、このためである。子供に影響を与えているものの中には、良いものと悪いものがある。両親は絶えず子供を見守らなければならない。そして、子供を滅ぼそうとする者から子供たちを守っていただきたい。

両親の皆さん、もしあなたの家族が教会のある所から隔絶された地に住んでいて、あなたが宗教教育の一切をしなければならないとすれば、この試練をどう乗り切るだろうか。あなたは現在、人に依存するあまり、自分は家庭でほとんど何もしないようになってはい

ないだろうか。家庭で学ぶ機会しか与えられていないあなたの子供たちは、福音についてどれだけ知っているだろうか。このことを考えていただきたい。繰り返し申し上げる。家庭で学ぶ機会しか与えられていないあなたの子供たちは、福音についてどれだけ知っているだろうか。教会は家庭を助けるためにあることを覚えていただきたい。両親の皆さん、子供たちを教えるようにとの神の命令は、決して取り消されていない。皆さんは義務を放棄してはならない。

私たちは物質面で、人に依存しないで自立するように勧められてきた。このことは霊的な面でも同様に重要である。事情が変わったと仮定しよう。例えば、現在では慣れて当たり前になっている教会の援助を受けられなくなったと仮定しよう。家族の霊的な福利を図る責任がこれまで以上に重くあなたの肩にかかってくるとすればどうだろうか。聖典を研究すればわかるように、危険な時代が迫っている。そのような時代に、あなたは影響されないですむだろうか。

今準備していただきたい。あなたの家族を強めるため、必要なステップを踏んでほしい。家族と共に時間を過ごし、楽しい思い出が残るような、家族独自の伝統を作り、それを維持するとよい。正しい規則や規定を定めてしつけ、また言葉と行ないの両方によって、互いに無条件の愛を示し合うことである。家族を愛し、信じ、帰属意識を持たせることによって、各自の中に自尊心を培うようにしていただきたい。そして子供が必要とする安全な生活を確立する。以上のことは、いずれも人生を意義あるものとする事柄である。これらのことが定着すれば、しばしば私たちを悩ますささいな事柄にわずらうことがなくなるであろう。

予言された出来事が次々と成就している中で、大切なことがひとつある。それは、私たちがもっと独立独行できるようにならなければならないということである。私たちは皆家

庭の中でもっと教える必要がある。モルモン経の中に幾つかのひな型がある。

「私すなわちニーファイは善い父母から生れたので、父の知っていたすべての学問の中からいくらかの教えを受けた。」(I ニーファイ 1 : 1) ニーファイが「みたま」に関する事柄を教わったことは、疑いの余地がない。彼の記録がそのことを表わしている。彼はおそらく同時に実際的な事柄についても教えられていたであろう。彼は非常に臨機応変な人物だったからである。今日でも、父親から父親の知っているすべての事柄の中の幾分かでも教わる息子は、幸せである。

ヤコブの息子イノスも父を尊敬していた。

「私イノスは、私の父が……主の愛と誠命とを私に教えたから、父が正しい人であることを知っている。かように父に教えを受けたから、私は私の神の御名を讃美する。ごらん、私は獣を狩ろうとして森へ行ったが、私の父が永遠の生命と聖徒の幸福について教えた言葉を度々聞いたのが私の心に深くしみこんだ。そこで私は自分の心が飢えるのを覚えて、私の造り主の御前にひざまずき、自分の身と霊のために一心こめて祈りかつ願った。」(イノス 1, 3-4)

イノスの奉仕の生涯は、この大きな霊的な経験を起点として始まっている。彼がこの経験をしたのは、父の言葉を聞いていたからである。以上のふたつの話は、親の教育の力を示す良い例である。ここでひとつ欠かせないことがある。それは、親子が一緒に過ごす時間を持つということである。

私たちの中には、社会での業績に対して公に認められ、高い評価を受ける人もいるであろう。しかし私たちの大部分は、比較的世に知られないままでそれぞれの人生を終える。このことは大して問題ではない。隣人に奉仕し、子供を愛し、教えなさい。そうすれば、いつか子供の口から「私……は善い父母から生れたので、……教えを受けた」と尊敬の言葉を聞く日がくるであろう。これは永遠の計

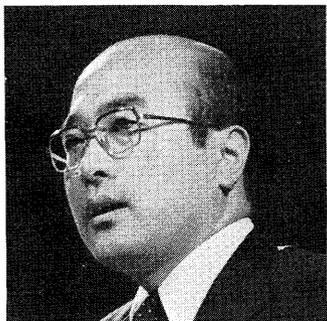
画の中で、名声や富に優るものである。イエス・キリストのみ名により申し上げる。アーメン。



十二使徒評議員会会員
リグランド・リチャーズ長老

世界の国々から宣教師を送り出そう

兄弟姉妹の皆さん、私たちは世の光とならなければならない。だれかが私たちの訪れを待っているのである



七十人第一定員会会員
菊地良彦

今日この席に立ち、聖きみたまの導きがあるようにと願っている。キンボール大管長、タナー副管長、ロムニー副管長、ベンソン会長、十二使徒会の兄弟たち、他の教会幹部の方々ならびに兄弟姉妹の皆さん、ここで日本と韓国の聖徒たちを代表し、天使の歌声を響かせて下さったモルモン・タバナクル合唱団の皆さんに心から感謝の意を呈したいと思う。先日の日本、韓国の公演旅行では、教会員、非教会員を問わず大勢の人々の絶賛を博することができた。その心からの感謝の一端を、幾つかの新聞の論評から拾ってみたいと思う。

ある評論家はこう記している。「よく訓練され、成熟した大編成の声を無理なく余裕をもって合唱させることによって得られる艶（つや）やかで美しい響きにいかされている。」（「読売新聞」1979年9月8日付）

また次のようにも記されている。「モルモン・タバナクル・クワイヤー（モルモン教会合唱団）は、評判どおりの繊細かつ力強さにあふれた合唱で日本の聴衆を魅了した。」（「世

界日報」1979年9月9日付）

今回の公演旅行を後援した中京テレビの社長は、もちろんまだ教会員ではないが、合唱団員の目があまりに美しく、輝やいているのに深い感銘を覚えたと言っていた。愛する予言者スペンサー・W・キンボール大管長はかつて次のように語った。「私たちは天父とその御子イエス・キリストに思いを向けるとき、平和の福音を宣言する天の声の美しい合唱を耳にすることができる。」（「大会報告1973—75」p. 176, 1974年4月）

兄弟姉妹の皆さん、次に、日本や朝なごの国、韓国へ伝道に出てくる大勢の宣教師たちに心から感謝したい。彼らの素晴らしい成功を見るたびに、私の心は息子や娘たちを伝道に送り出すために多大の犠牲を払っているその両親たちへと向くのである。私がお会いしたひとりの母親は、息子を伝道に出すためにこのソルトレーク・シティーでタクシーの運転手をしていて。彼女は、自分の息子が天父に仕え、伝道に出ていることを誇らしげに語っていた。

そのようにして送り出された宣教師の心温まる体験のひとつを、ここで皆さんに御紹介したいと思う。これは、宣教師として召されている皆さん方の息子のひとりが、求道者を心から愛し行なったひとつの奇跡である。私は、この改宗した紳士に特別なファイヤサイドで会ったが、彼はこう述べていた。「私に人生で最も大切なものを教えて下さり、幸福を与えて下さった、若いモルモンの宣教師にとっても感謝しています。そして時々、そのような宣教師に福音に従うよう教えた両親に感謝の気持ち湧いてくるのです。」目に涙を浮かべ、私の手をしっかりと握りしめて、彼はこ

う言った。「菊地長老、この栄えある福音を与えて下さった天父に心から感謝しています。」それから次のような話をしたのである。

「今から8年前のある日、私は仕事から帰る途中、ひき逃げに遭いました。そのまま11日間も無意識状態が続き、結局2年間入院していました。ようやく病院を出て家に帰ってみると、妻は子供たちを連れて家出していました。事故に遭うまでの楽しい家庭生活とは裏腹に、私の人生はまったく座礁してしまいました。自分が最も大切にしていた家族を失い、さびしく落胆の毎日でした。生活の糧と
い
え
ば、
わ
ず
か
ば
か
り
の
給
付
金
し
か
あ
り
ま
せ
ん
で
し
た。
精
神
的
に
も
肉
体
的
に
も
疲
れ
切
っ
て
い
ま
し
た。
ま
さ
に
生
け
る
屍
で
し
た。
立
つ
こ
と
も
で
き
ま
せ
ん。
で
す
か
ら、
体
を
動
か
し
た
い
時
は
床
を
転
が
り、
這
い
つ
く
ば
っ
て
進
む
し
か
な
い
の
で
す。」

ある夕方、私は医者と会って、これまで何度か手術してきたことの結果を伺いました。ところが、医者からは私に回復の見込みはないと宣告されました。うすうすそうではないかと感じていましたが、はっきり宣告されてみると大きなショックでした。もうまったく何も残されていないのです。病院を後にして、鉄橋にさしかかりました。私は泣きながら、濡れた舗道に映る自分の顔をじっと見つめていました。どうしようもないほど惨めでした。」

兄弟姉妹、そしてちょうど入ってくる電車で今まさに飛び込もうとした時に、彼は宣教師である皆さん方の息子さんのひとりに出会ったのである。

救い主は次のように言われた。「わたしはよい羊飼であって、わたしの羊を知り、わたしの羊はまた、わたしを知っている。」(ヨハネ10:14) また、「わたしの羊はわたしの声に聞き従う。わたしは彼らを知っており、彼らはわたしについて来る」(ヨハネ10:27)とも言われた。

すぐに家庭集会が開かれ、そして、杉山さんは福音が真実であり、イエス・キリストは

私たちの救い主であり、ジョセフ・スミスが神の予言者であること、さらにこの最後の神権時代に神の真の教会が回復されたことを教えられたのである。

いつものように宣教師は彼を教会に招いた。しかし彼は自分で歩くことができず、教会には来れないと言っていた。それでも安息日の朝、彼は朝早く起き、勇気を振りしぼって教会に向かった。それほど遠い距離ではなかったが、自分の家から横浜ワード部の最寄りの駅に着くまで3時間もかかった。横浜ワード部の建物は丘の上にある。そして駅から教会まで並の人ならば、5分そこそこで行けるところを、約1時間もかかったのである。壁にしがみついても、倒れ、再び足を引きずるようにして上ってきたのである。やっとの思いで教会に着いた時には、すでに聖餐会は始まっていた。宣教師も、彼が教会に来るとは思ってもみなかった。しかし、杉山兄弟は宣教師たちに神の純粋な愛を感じ、その愛に引き込まれるようにしてここまできたのである。

救い主はこう言われた。「わたしは、新しいいしめをあなたがたに与える、互に愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互に愛し合いなさい。」(ヨハネ13:34)

それからしばらくして、杉山兄弟は主の戒めに従ってバプテスマを受けた。

主は再び言うっておられる。「だれでも、水と霊とから生れなければ、神の国にはいることはできない。」(ヨハネ3:5)

そしてバプテスマの翌朝、彼は晴々とした気持ちで朝早く目を覚ました。それからいつものように足を伸ばして転がろうとした時である。どこかいつもと違う。両足に力を感じ、体全体に力が湧き上がってくるようである。彼はまず座って、それから徐々に、そしてついに自分の両足で立ち上がった。ここ数年というもの、彼はほかの人の助けなしで立ったことがなかった。しかし彼はその朝歩き始め、体は元通り元気になったのである。

救い主は信仰によって癒された、同じような人の話をしている。「あなたの信仰があなたを救ったのです。安心して行きなさい。」(マルコ5:34)

杉山兄弟はこう言っている。「愛が私を救ったのです。私は主の道に従い、平安な人生を送ることができるでしょう。」兄弟姉妹の皆さん、奇跡が必ずしも神の真の教会の証拠となるわけではないが、ひとりの求道者を心から愛した、ひとりの若いモルモンの宣教師を通して主が行なわれた奇跡から、私たちは多くのことを学ぶことができる。

愛が奇跡を呼び起こしたのである。愛はまた行ないであって、プログラムではない。キリストの愛は、私たちの生活の悩みを解決し、人間の苦しみを癒してくれる。そこでこのような苦難を受けている方々は、イエスのもとにきて、「水と霊から生まれ」ていただきたい。主はこう述べておられるからである。「何人にもわが言を信ずる者にはわれ『みたま』の示しと共に彼らに到らん。而して彼らはわれによりて生れん。すなわち、水と『みたま』によりて生れん。」(教義と聖約5:16)

私はこの最も輝ける音信を私に教えて下さった宣教師に心から感謝している。「ロー長老、ポーター長老、どうもありがとうございます。」いかに大勢の人々の生活が彼らのような宣教師によって変えられたことだろうか。そのような偉大な宣教師を、予言者が勧告されたように世界各地から送り続けていきたいものである。私たちこの真の教会の会員たちが、この永遠の福音のメッセージを分かち合うように世の前に雄々しく立ち上がる勇気を持てるように祈っている。この福音は、回復されたイエス・キリストの福音であり、「あらゆる国民、あらゆる血族、あらゆる国語の民、あらゆる世の人々に」(教義と聖約77:8) 宣べ伝えなければならない。兄弟姉妹の皆さん、私たちは世の光とならなければならない。だれかが私たちの訪れを待っているのである。

私はこの福音が神から与えられたものであ

ることを証する。神は生きておられ、イエス・キリストは全人類の救い主である。私たちが救われるのは天下にこの名を置いてほかにない。(使徒4:12参照) ナザレのイエスのみが私たちを救い得るのである。

また、ジョセフ・スミスは神の予言者であり、モルモン経には神の真のみ言葉が記されている。この教会は真実の教会である。また「近代のヨブ」とも称されるスペンサー・W・キンボール大管長は、今日私たちに与えられた生ける神の予言者である。私は全身全霊をもって彼を愛し、支持している。これらのことを、救い主イエス・キリストのみ名によって申し上げる。アーメン。



N・エルドン・タナー第一副管長

正しい決断を下す

人生はふたつの大切な贈り物を皆さんに与えている。ひとつは時間であり、もうひとつは選択の自由、すなわち望むものを自分の時間で買い取る自由である



十二使徒評議員会会員
L・トム・ペリー

二 数年間、私は土曜日の午後の一般大会を終えてタバナクルを去るたびに、開会時刻3時間も前から長蛇の列をなして神権部会のための入場を待つ人々に胸を打たれてきた。私は並んでいる人々といつも言葉を交わすが驚いたことに、彼らの多くは、アロン神権を持つ青少年である。

今宵、私は皆さんの献身に心からの賛辞を贈りたいと思う。私は、王国の神権者の中で選ばれた世代である青少年の皆さんにお話をしたいと思う。

私は神権部会での話を依頼された時、新たに若い男性プログラムの会長に召されたバックマン長老に電話をかけ、アロン神権者に対して特にどのような事柄を強調したらよいかを伺った。数日して、バックマン長老からメモが届いた。「青少年は、生涯の中最も大切な時期にあります。間もなく彼らは、伝道、大学、職業、結婚など、将来を左右する大きな決断を下すことになります。」つまり、正しい決断を下すことについて話すようにという助言であった。

そのメモには、「ピーナッツ」の漫画が添付されていた。その漫画は、ライナスがかたく握りしめた雪の玉を持っているところに、ルーシーが近づいてくる様子を描いていた。ルーシーはとっさに状況を判断して、ライナスにこう言った。「人生ではいろいろなことを決めなければならないわ。雪の玉を私に投げつけたければ、投げつけなければいい。投げつけたくなければ、投げつけなくてもいい。でも、投げつけたら、あなたを地面につき倒すからね。投げつけない方を選んだら、頭にけがをしなくてすむわ。」

すると、ライナスはうんざりしたような顔をして雪の玉を捨て、こう言った。「人生には確かにいろんな機会があるけど、ぼくは一度もものにしたことがない。」

人生はいろいろな機会があると言ったライナスは正しい。だがその次の言葉の後がいけない。私たちの前途にはあらゆる選択が待ち受けている。リチャード・L・エバンズ長老は次のように述べている。「人生はふたつの大切な贈り物を皆さんに与えている。ひとつは時間であり、もうひとつは選択の自由、すなわち望むものを自分の時間で買い取る自由である。与えられた時間をスリルに費やすのも、卑しい欲望のために費やすのも自由である。欲望に時間を投資することもできれば、虚栄心と引き換えにすることもできる。この世の物への追求に時間を費やすこともできる。いずれにしても、あなたには選択の自由があるのである。しかし、これを安売りしてはならない。永続する満足は得られないからである。」（「幸福の探求」）

モルモン経の冒頭に、重大な決断を迫られたある家族の記録が記されている。仮に、あ

あなたがその時代に生きていて、リーハイの家族の一員だとしよう。あなたはエルサレムで物に恵まれ何不自由な家庭に暮らしている。ところがある朝起きた時に、父親が家族会議を召集した。父の話によると、父は昨夜夢を見たそうである。そして驚くべき言葉を発した。「寝袋とテントを持って旅に出る。持てるだけの日用品を袋につめなさい。金銀や貴重品のことは考えるな。持って行く余裕がない。私は主から、荒野に出て行くように命じられた」と。聖典には次のように記されている。

「父は自分の家と相続した土地と、所有の金銀および貴重品をあとにのこして、ただ妻子と食糧と天幕のほかは何ももたずに荒野へ旅立った。」(I ニーフアイ2:4)

旅立って間もなく、父はまた夢を見た。そしてあなたを呼んで次のように言った。「ごらん、私は一つの夢を見た。その夢の中で主は汝と汝の兄弟たちがエルサレムに帰るよう私に命じたもうた。

これはレーバンがユダヤ人の歴史と、汝の先祖の系図とを持っているからであって、この二つとも真鍮版に刻んである。

それで、主は汝と汝の兄弟たちはレーバンの家へ行ってその歴史をくれるようにたのみ、それを荒野の中のここまで持ってくるように私に命じたもうた。」(I ニーフアイ3:2-4)

息子たちに命じられた仕事は大変なことであった。というのは、レーバンは非常に富と権力を持っている人だったからである。息子たちは父に不平を言い、とんでもないことを求めていると言った。しかし、ひとりの息子は父にこう言った。「私は主が命じたもうたことを行って行く。私は、主が命じたもうたことには、人がそれを為しとげるために前以てある方法が備えてあり、それでなくては、主は何の命令も人に下したまわぬことを承知しているからである。」(I ニーフアイ3:7)

これらの若者たちは、レーバンに記録を求める時に、幾つかの決断に迫られた。それらの決断を下す過程は、私にとって非常に興味

深い。最初、彼らは成行きに任せる方法をとった。くじ引きをすることにしたのである。すると、くじはレーマンに当たった。そこでレーマンはレーバンの家へ行き、彼と共に座って話をし、真鍮版に刻んである記録を譲って欲しいと言った。レーバンは、この申し出を喜ばず、ついに怒ってレーマンを追い返した。つまり、記録を渡そうとしなかった。レーバンはこう言っている。「見よ、汝は盗賊である。われは汝を殺してやる。」(I ニーフアイ3:13) レーマンはなすすべもなく逃げ出してくると、成行きに任せる方法では目的を遂げることができないことを弟たちに告げた。

そこでニーフアイは、記録を手に入れる方法について再び決断を迫られた。その時、ニーフアイは家に残してきた金銀や貴重品のことを思い出した。金銀を集め、この世の富で記録を買い取ろうと考えた。そこで彼らはレーバンの家を訪れると、金銀を見せ、真鍮版と交換してほしいと言った。レーバンはそれを見て、非常に価値のあることがわかれると、欲しくてたまらなくなった。年端のゆかない4人の少年と自分の召使いたちとを比較した時に、真鍮版を渡さずに富を手に入れようと決意するまでに時間はかからない。そこで彼は、少年たちを殺そうと召使いたちを遣わした。このため少年たちは貴重品を捨てて逃げ出した。この世の富によっても記録を手に入れることはできなかったのである。

さて、ニーフアイの兄たちは、記録を手に入れようとして2度までも命を危険にさらされた。そのため、彼らはニーフアイに対して腹を立てた。それでもニーフアイはあきらめず、次のように言って兄たちの説得にあたった。「私たちは、またエルサレムまで引き返そうではないか。そして主の命令を忠実に守ろうではないか。ごらん、それは全世界が向っても主の強さにはかなわないからである。それなら、どうして主がレーバンとその家来の五十人よりも強くないことがあろうか。いや、レーバンは何万人あっても主の強さにはかな

わない。」(I ニーファイ4:1)

この説得に逆らえる人がいるだろうか。主がレーバンとそのすべての家来よりも強い御方であることは言うまでもない。そこで、ニーファイは日が暮れると、兄たちを率いてエルサレムの城壁の外へやってきた。そして、単身中へしのび込み、レーバンの家へ向かった。今度は、以前のように成行きに任せたり、世の富に頼ったりするのではなく、信仰によって進んだのである。ニーファイはこのように語っている。「私は何をせねばならぬのか、前以てそれを知らずにたたひとすじに『みたま』に導かれて行った。」(I ニーファイ4:6)

ニーファイはレーバンの家に近づくと、ひとりの男が酒に酔って地に倒れているのを見つけた。近寄ってみると、それはレーバンであった。このようにして、レーバンはニーファイの手中に落ちたのである。主は、記録を手に入れることができるように道を開かれた。主にすがる決断が実りをもたらしたのである。

リーハイの息子たちが決断を下す過程には、大きな教訓が含まれている。成行きに任せる決断が望ましいものでないことは言うまでもない。

私はかつて海兵隊に配属され、カリフォルニア州のペンドルトン基地に駐留していたことがある。その時、成行きに任せる決断を下し、身動きできないような状況に追い込まれた経験をしたことがある。

週末になると毎週のように、同僚たちからロサンゼルススのダンスホールに行こうと誘われた。毎週のように誘いを受けたのである。しかし私の行くべき所ではないと考え、何回か断わった。けれどもついに、一度だけならぬと思ひ、成行きに任せて出かけることにした。

こうして私は、ロサンゼルススの大きなダンスホールに彼らと向かった。私たちは市電で行った。停留所を数える毎に、市電には若い女性がたくさん乗り込んできた。私がそれまで目にしたことのないタイプの女性たちだった。極端なほどの現代娘であった。彼女たち

に囲まれて、私は不快感に襲われた。彼女たちが近づいてくるため、私は、海兵隊にはなじみのないひとつの戦術を使うことにした。後退したのである。

後方に行くと、先程の女性たちとはまったく違う4人の若い女性に出会った。私は彼女たちに、ダンスへ行こうとしているところかどうか尋ねた。すると、「ええ。でも、あなたの行く所とは別の場所よ」との返事であった。さらに、「私たちは、モルモン教会のアダムズワード部で開かれるダンスへ行くとところです。あなたはモルモン教会について聞いたことがありますか」と言った。私は、驚くと同時にホッとし、彼女たちと一緒に市電を降りて、アダムズワード部ですばらしい夕べを過ごしたのである。皆さんも、場当たりの決断を下すのではなく、もっと自分自身に信頼を寄せていただきたい。

ニーファイと彼の兄たちは、この世の富に信頼を置いて、成行き任せと同様、何の成果も上げることができなかった。あるステーキ部大会に出席した時のこと、私はひとりの父親と話す機会があった。彼は、自分の十代の娘に世の方法に従う圧力がかけられていることと、その圧力に屈しないために娘がどのように決断を下しているかということについて話してくれた。

彼女はクラスでただひとりの末日聖徒であった。男生徒の間で人気があり、しばしばデートに誘われていた。しかし、彼らは、教会で彼女が教えられてきた標準を守っていなかった。そこで彼女は、デートに誘うすべての男の子に、自分が守っている標準を話した。そして彼女がデートを承諾する場合、相手は彼女の標準に従って振る舞うことを求められたのである。彼女はそのような約束をしてからデートを承知した。年間を通じて皆が最も楽しみにしている特別なダンスパーティーを前にしたある日、学内のフットボールでスター的存在の生徒が彼女のもとへやってきて、こう言った。「君がもう少し標準を下げてくれ

たら、ダンスに誘いたいんだけどなあ。」

しかし、彼女は一瞬のためらいも見せずにこう答えた。「あなたと出かけたくなったら、私から声をかけるわ。」世の方法に迎合しない決断を下す強さを持っていただきたい。

ニーファイは主を信じる信仰を持ち、主の方法に従う決断を下した時に、良い結果を得た。

数年前の「チャーチ・ニューズ」に、主の方法に信頼を寄せて決断を下したひとりの青年に関する非常に興味深い記事が掲載された。

「スペンサー・W・キンボール大管長は、いつも教会員に靈感をもたらす。大管長は語る言葉だけでなく、行ないによっても靈感をもたらす。ストックホルム地域大会で、その秘訣を次のような言葉をもって明らかにしている。

『私はひとりで牛の乳をしぼり、干し草を積みながら、いろいろなことを考えた。私は何度も心の中で考えたすえ、このように決意した。「私スペンサー・W・キンボールはいかなるかたちであれ決して酒を口にしない。私スペンサー・W・キンボールは決してタバコを手にしらない。私は決してコーヒーを飲まない、また茶に手を触れない。そうしてはならないからという理由を知っているからではなく、主がそのように言われたので、私はしない。』主はこれらを憎むべきものであると言われた。そのほかにも、憎むべきもの、知恵の言葉に含まれていないものは数多くある。しかし、私は決意した。

私が申し上げたいのは、子供の時に「これらのものに決して手を触れない」と決意したことである。一度決意したらそれを守るのは容易だった。私は決して妥協しなかった。私は多くの誘惑を受けた。しかし、それを詳しく調べてみようとするこすらしなかった。立ち止まり、調べ、「さて、なすべきかなすべきでないか」などと言ったりはしなかった。私は常にこう考えた。「しないと決意したのだから、しないのだ。」

キンボール大管長はさらにこう語っている。

「私はまたひとつ年を重ねようとしているが、茶やコーヒー、タバコ、酒、そして幻覚剤に手を触れずにこの年を迎えたいと言えるように願っている。さて、この言葉は押しつけがましい自慢話のように聞こえるかも知れないが、私が申し上げたいのはこのことだけである。すなわち、もしすべての少年少女が、少しずつ大人に向かって成長を始め、友人や家族、すべての人から少しずつ独立し始める時に、「私は決して妥協しない」と決意するならば、どのような誘惑に遭遇しようとも、「私はすでに決意した。それはもう解決していることなのだ」と言うことができる。』(Church News「チャーチ・ニューズ」1975年10月)

私たちがごぞつて、キンボール大管長の模範に従い、主イエス・キリストを信じる信仰に基づいて決断を下すならば、私たちの生活はどれほどすばらしいものになるであろうか。

高貴な生得権を与えられている青少年の皆さん、今夜ここで決意していただきたい。「私は主が命じたもうたことを行って行こう」と(1ニーファイ3:7)。主の方法には力がある。主のみ業の中で見いだされる喜び以上に大きな喜びはこの世にない。主の律法に従って生活しようとする決断があなたに永遠の生命をもたらすことを、私は厳粛に証する。イエス・キリストのみ名により申し上げる。アーメン。



神に従う統治者

兄弟の皆さん、ある事柄について私たちの現状とあるべき姿との間にはかなりの隔たりがある



七十人第一定員会会員
ウィリアム・R・ブラッドフォード

愛する兄弟の皆さん、私たちは今感動のひとときを迎えている。神の選ばれた息子たちがこのように一堂に会する機会はほかにないからである。もしみたまの力がなければ、私はこの瞬間の重みに耐え切れないであろう。

私は兄弟である皆さんに心から愛を感じていることをお伝えしたい。私は皆さんに、私たちの従う主に対する信頼と同様の信頼を寄せている。私たちが兄弟であるということを知って、私は大きな喜びを感じている。

私は皆さんを決して批判するつもりはない。ただ皆さんを愛しており、私たちが兄弟同士であることから、心を開いて率直にお話してできる雰囲気があると感じている。

皆さんが神権を持っているという事実は、決して偶然の出来事ではない。それはバプテスマの水をくぐったということを表わしており、イスラエルの判士から面接を受け、神に従う統治者のひとりとなるにふさわしいことが認められたことを示している。統治者のひとりとして皆さんの地位は、前世において、御父と御子イエス・キリストにより定められ

た条件を満たす限り保障されてきたし、また現在も保障されている。皆さんはそれらの条件を受け入れて、聖任され、さらに現在もふさわしい状態を維持している。そのために、ここに集っているのである。これは決して偶然の出来事ではない。重大なことである。地上における神のみ業と全人類の救いが左右されるほどの重大なことである。

統治者のひとりであるということの意味をよく理解していただくために、教会の管理に皆さんがどのように関わっているかを説明したいと思う。皆さんは個人、家族、および組織としての教会の3つの段階におけるかわりを持っている。

皆さん個人個人が教会である。主は忠実な息子たちに対して、彼らが教会にして王国となり神の選民となると誓約しておられる（教義と聖約84：34参照）。そこで、皆さんは神権者として忠実であるならば、教会となる。そしてその教会は、皆さんが自らを治めてはじめて統治されるのである。

神のすべての計画の基となる最も基本的な真理の原則は、自由意志である。皆さんは個人として、自らを治める権利を持っている。これは、自分が望むままに考え、行動できるように神から与えられたものである。すなわち自分自身で決めることである。

しかしながら、ここではっきりしておかなければならないのは、独力で選ぶ自由意志は皆さんに与えられているが、その決断の結果については選ぶ権利を持たないということである。考え、行なうことからもたらされる結果は、律法に従って生じる。すなわち善は善、悪は悪をもたらす。律法に従いながら、自らを治めるのである。神の律法に従うならば、

自由を維持することができる。また、進歩し、完全になる。しかし、神の律法に従わなければ、進歩を妨げるものに自らを縛りつけてしまうことになる。自らを汚し、清く純粋な人々と交わることができなくなってしまうのである。

自らを治めるこの原則が、皆さんの生活にどのような影響を及ぼすかを御説明したい。姉妹たちと同様に、メルケゼデク神権者とアロン神権者の非常な数にのぼる人々が自由意志を働かせて、習慣的に何時間もテレビを見ていると聞いても、皆さんは大して驚かないと思う。週に20時間以上テレビを見ている人も多い。

神の計画では、私たちはこの地上での時間を働くことに費やすべきであるとされている。働くとは、肉体と精神の両面で何かを行なうという意味である。内容の多くが俗悪なテレビ番組から毎週何時間にもわたって教えを吹き込まれている状態では、とてもこの要求を満たすことができないように思われる。

たとえテレビ番組が、愚かさや暴力、不徳、醜悪に満ちたものでないとしても、その娯楽上の価値をもって浪費する時間を償う根拠とすることはできない。皆さんがこの地上に居るのは、主のみ業を行なうためであって、娯楽に興じるためではない。使徒パウロはテトスに書き送った手紙の中で、このことを次のように明確に述べている。

「きよい人には、すべてのものがきよい。しかし、汚れている不信仰な人には、きよいものは一つもなく、その知性も良心も汚れてしまっている。

彼らは神を知っていると、口では言うが、行いではそれを否定している。彼らは忌まわしい者、また不従順な者であって、いっさいの良いわぎに関しては、失格者である。」(テトス1:15-16)

神権を持つということは、もし主が地上におられたならば主御自身が行なわれるように行なうよう主から責任を委任されているとい

うことである。テレビを見る習慣と、この聖なる召しとは両立するであろうか。週に20時間テレビを見る人が、その習慣を改めて、福音の勉強に振り向けるならば、1年間でモルモン経、教義と聖約、高価なる真珠、および新旧約聖書を読むことができる。そればかりでなく、さらに「基督イエス」、「信仰箇条の研究」、「福音の原則」、「神権の義務と祝福」、「末日聖徒の女性」、「主の道を歩む」、「救いの教義」全3巻、「救しの奇跡」、「回復された教会」、インスティテュートのテキストを読むことができる。さらに、聖書、モルモン経、教義と聖約、高価なる真珠をもう一度読むことができるのである。毎月、「聖徒の道」も読むことができる。これは、1時間にわずか10頁を読むことができるものとして計算したものである。通常の人には1時間に10頁以上を読むことができる。皆さんが平均的な人であれば、1週のうち10時間を王国建設の他の活動、すなわち個人の日記を書くこと、糸図と神殿活動に従事すること、ホームティーチング、福祉活動、自由を擁護するための公民活動への参加などに向けることができる。繰り返し申し上げる。「きよい人には、すべてのものがきよい。しかし、汚れている不信仰な人には、きよいものは一つもなく、その知性も良心も汚れてしまっている。

彼らは神を知っていると、口では言うが、行いではそれを否定している。彼らは忌まわしい者、また不従順な者であって、いっさいの良いわぎに関しては、失格者である。」(テトス1:15-16)

皆さん一人一人は、教会の最も基本的な単位である家族の一員である。まだ父親になっていないが、その準備をしている人もいるだろう。父親である皆さんは、主の示された模範に則って家族を治めるといふ神より与えられた権利と責任を持っている。家族は教会の基本単位である。したがって家族が治められると同様の方法で教会は管理される。

主は、家庭と家族を中心にして福音に従う

ことを私たちに期待しておられる。家族を治めるとは、言い換えれば、家族の一人一人を愛し、教え、促し、神の計画に従うという共通の目的の下に一致を図る決意を持たせることである。

このチャレンジを達成する基礎となるのが、主イエス・キリストを信じる信仰を、育むことである。信仰なくして、キリストが教えられた生活を喜んで実践することはできないからである。

キリストを信じる信仰は、霊的な交わりをもたらず断食と祈り、また聖典に記されているキリストの教えを勉強することによって育まれる。

信仰が増し、キリストを模範とした生活が理解できるようになると、悔い改めの方法を知って、それに従うことの必要性を感じてくる。

時には間違った決断を下し、そのために進歩が止まり、自らを汚すという事態が生じる。そのため、自らを清め、正しい道に戻る方法が必要になる。行なった罪と行なわなかった罪を認識する方法を知り、またキリストに信仰と信頼を寄せ、罪を悔いることによって、みたまの受けられる状態を作り出す方法を知る必要がある。また、どのようにして告白すべきかを知り、さらに償いをし、罪を捨てる決意をするようにしなければならない。

キリストを信じる信仰を育み、悔い改めの過程を歩んでいる人は、戒めを守ろうと努力する。こうして、その人の生活はキリストの生活に一層近づいてゆく。キリストに近い人は家族と一致し、家族に奉仕する。

では、どのようにして家族を治めたらよいのであろうか。神権によって治めるべきである。「説服と堅忍と柔和と温情と偽らざる愛とによる。

また、親切と淨き知識すなわち偽善にあらざらず奸智かんちにあらざらずしてその人を甚だはなは大いならしむるものによる。

すなわち、聖霊に感動してはおろ機に臨みて激

しく人を責む。」(教義と聖約121:41—43)

皆さんは断食と祈りを教え、聖典に記されている教えを説き、聖典を定期的に個人学習するよう勧める。また、自ら悔い改めを行ない、家族にその方法を教える。自ら戒めを守り、それを家族に教える。また互いに奉仕する。こうして、家庭と家族を中心にして福音に従う体制が確立される。すなわち、キリストを信じる信仰を持ち、悔い改め、戒めを守り、互いに奉仕するという体制である。この方法は、あらゆる年齢層の家族の物心両面の必要をすべて満たす。

教会の正規の組織は、私たちが個人として、また家族として、系統立った方法で、私たちの救いに関する神の計画について教えを受け、誓約を交わし、神権の権威と権能により執行される救いの儀式を受けるための制度より成っている。この制度は神より与えられた秩序立った制度である。

私たちの教会は奉仕を重視する教会である。教会は、教会員の差し出す奉仕を、個人と家族を援助する目的で設けられたプログラムと補助組織に投入している。これらのプログラムと補助組織は神権により管理され、神権を助けるものである。ここで働くよう召された会員は、この管理体に従わなければならない。これらのプログラムは、独立して力を持つものではない。もしそうであれば、家庭と家族中心ではなく、礼拝堂を中心として福音に従う制度が設けられることになる。これは主の方法ではない。主が教えられた方法は、教会員を教え、説き、勧め、バプテスマを施し、見守ることである。各会員の家を訪れて、彼らが声をあげてもひそかにても祈りをなし、すべて家庭の務めにいそむよう勧める。また彼らと共にあって彼らを強くし、教会員の中によこしまなことがないように、互いの間にかたくななることのないように、また虚言、陰口、悪口などもないよう注意する。またすべての会員に義務を果たすようにさせることである(教義と聖約20:50—51, 53—55参照)

神に従う統治者としていかなる間違いも犯してはならないという命令が神権者に与えられている。私たちは補助組織を大切に、また必要としている。偉大で忠実な僕たちがこれらの組織を支えている。しかし、彼らは補助すなわち助けるためにいる。つまり、教会を管理する全責任は神権に置かれていることがはっきりしている。

個人もしくは家族が物心両面における救いを求める過程で助けを必要とする場合、助けを与えるのは神権組織の責任である。そして神権組織がこの仕事で助けを必要とするならば、補助組織に助けを求める。

私たちが神に従う統治者として、イスラエ

ルの羊飼いととしての責任を担うならば、このような状態は速かに来るに違いない。私たちの務めは、特定の時間だけ、あるいは都合の良い時だけに果たすべきものではない。必要な時にいつでも果たすべきものである。

兄弟の皆さん、ある事柄について私たちの現状とあるべき姿との間にはかなりの隔りがある。

神の代弁者である私たちの生ける予言者の言葉に厳密に従って、神に従う統治者としての私たちの務めを理解し、果たすことができるよう、主イエス・キリストのみ名により願うものである。アーメン。



大会のコーラス

主イエス・キリストを信じる信仰

主を信じる信仰がなければ、福音のもたらす祝福を受ける希望はまったくない



第二副管長
マリオン・G・ロムニー

兄弟の皆さん、今宵私は、予言者ジョセフ・スミスが「福音の第一原則」と呼んだ「主イエス・キリストを信じる信仰」についてお話ししたい。

この信仰の重要性について、聖典はいささかの疑念も残していない。時の初めに、主から遣わされたひとりの天使がアダムに次のように語っている。すなわち、アダムが捧げたいけにえは、「御父の生みたもう……ただ独りの御子が犠牲となりたもうことのひながたなり。

この故に、汝の為すすべてを御子の御名によりて為せ。また汝悔い改めて今よりいつまでも御子の御名によりて神を呼ぶべし。」（モ一セ5：7—8）

ニーファイは民に次のように教えている。

「主なる神が生きてましますことが確実なように、……イエス・キリストのほかに、人間に救いを与えることのできる名は断じて天下にない……」（II ニーファイ 25：20）

それから約 400 年後、ベンジャミン王は次のように宣言している。

「更に汝によく言うておく。全能の主キリストの御名によるほかには世の人に救いを与えることのできる名も道も方法も一切ない。」（モーサヤ 3：17）

ペテロとヨハネは、サドカイ人から「なんの権威、また、だれの名によって」足のきかない男を癒したかと尋ねられた。その時、「ペテロが聖霊に満たされて言った、『民の役人たち、ならびに長老たちよ、

わたしたちが、きょう、取調べを受けているのは、病人に対してした良いわざについてであり、この人がどうしていやされたかについてであるなら、

あなたがたご一同も、またイスラエルの人人全体も、知っていてもらいたい。この人が元気になってみんなの前に立っているのは、ひとえに、あなたがたが十字架につけて殺したのを、神が死人の中からよみがえらせたナザレ人イエス・キリストの御名によるのである……。

この人による以外に救はない。わたしたちを救いうる名は、これを別にしては、天下のだれにも与えられていないからである。」（使徒 4：7—10, 12）

イエスは自らパリサイ人に宣言しておられる。「もしわたしがそういう者であることをあなたがたが信じなければ、罪のうちに死ぬことになるからである。」（ヨハネ 8：24）

また主は、この末日に予言者ジョセフ・スミス、オリヴァ・カウドリ、デビッド・ホイットマーに告げておられる。

「イエス・キリストの御名を身に引き受けて真面目に真理を語るべし。

而して悔改めを為し、イエス・キリストなるわが名によりてバプテスマを受け、終りま

で忍ぶ者はことごとく救われん。

そもそもイエス・キリストとは、御父より賜わりたる御名にして、この名のほかに^はよ^りて以て人類の救われ得る名一つもなし。

これを以て、すべての人々は御父より賜わりたるこの名をわが身に引き受けざるべからず。そは、この名によりてこそ人々は最後の日に呼ばるべければなり。

これを以て、人々もし呼ばるべきこの名を知らざれば御父の国に於て居るべき所を得ず。」(教義と聖約18：21—25)

主イエス・キリストを信じる信仰が救いを得るのに不可欠であるという事実を確立するには、以上の宣言で十分であろう。

なぜならば、イエスが罪を贖い、死に打ち勝たれたことで、人は罪を赦され、死からよみがえることが可能になったからである。

この点について、イエスは、復活後ニーファイ人に次のように述べておられる。

「見よ、われはすでにわが福音を汝らに授けたるが、その福音を言い換うれば次のごとし。まずわが父われをつかわしたまいれば、われは父のみこころを行わんとてこの世に来れり。

わが父のわれをつかわしたまいしは、われが十字架にかけられて、後にあらゆる人々をわれに引きよせんがためなり。また人がわれを十字架に上げたる故に、今度は御父が世の中の人を必ずひき上げて、これを各々の行いの善悪に応じて裁判するためにわが前に立たせたまう。

われが十字架にかけられたるはこのわけなり。すなわち、われは御父の権能によりてあらゆる人間をわれに引きよせ、それぞれの行いによりて裁判をなす。

悔い改めてわが名によりてバプテスマを受くる者は聖霊に満さる。またその者が終りまで忍ばば、われが世の中の人々を裁判する日に、御父の前にてこれを罪無き者とせん。

終りまで忍ばざる者は、また切り倒されて火の中へ投げこまるべし。その者は御父の正

義が要求するによりて、いつまでも火の中より出ることを得ず。……

そもそも、清からざる者は御父の王国に入ることを得ず。信仰をし、すべての罪を悔い改め、終りまで誠をつくし、以てわが血によりてその衣を洗しし者のほかに^は御父の安息に入り得る者なし。

さて、世界の隅々に至る者たちよ。汝らは聖霊を受けて聖められ、また終りの日にわが前に罪なしとせられんために今悔い改め、われに来てわが名によりてバプテスマを受けよ。これ汝らに与うる命令なり。

われまことに、まことに汝らに告ぐ、以上はわが福音なり。」(III ニーファイ 27：13—17, 19—21)

言うまでもなく、これは福音の完全な定義である。よみがえられたイエスが数日間、あるいは数週間にわたりニーファイ人に福音の原則と儀式を説明された後に、まとめとして、また結びとして述べられたものである。したがって、ニーファイ人はこのまとめを理解することができた。

福音は、永遠の父なる神が「人に不死不滅と永遠の生命とをもたらず」(モーセ1：39)業を成し遂げるために定められた計画であり、プログラムである。

主は前世での大会議においてこのプログラムを提示されたが、このことについてアブラハムは次のような簡略な記録を残している。

「さて、主はわれアブラハムに、この世に先だちて組織されたる英智たちを見せたまいたりき。而して、これらすべてのものの中には、高貴にして偉大なるもの多くありたり。

神、これらの霊を善しと見たまひ、これらの霊の中に立ちて言いたまへり、これらの者をわが統治者となさん。神、霊なりしこれらの者の中に立ちて……。

これらの者の中に、神の如き者一人立ちて共に在りし者たちに言いはるは、われら降り行かん。かしこに空間あればなり。而してこれらの材料をとりて、これらの者の住まうべ

き地を造らん。

而して、これによりて彼らを試し、何にてもあれ、主なる彼らの神の命じたまわんすべてのことを彼らが為すや否やを見ん。

而して、最初の位を保つ者は更に付け加えられ、最初の位を保たざる者は、最初の位を保つ者と同じ王国にて栄を得ることなからん。而して、第二の位を保つ者は、とこしえに栄光をその頭に付け加えられん。

主、宣いけるは、われ誰を遣わさんか。一人、『人の子』の如くに答えて言いけるは、われここに在り、われを遣わしたまえ、と。別の一人答えて言いけるは、われここに在り、われを遣わしたまえ。主宣いけるは、われ先の者を遣わさん。

而して、第二の者怒りて、その第一の位を保たず。而してその日多くの者たち彼の後に従えり。」(アブラハム 3 : 22—28)

福音の計画すなわちプログラムは提示され、そこに集まった神の霊の子供たちの3分の2が賛成した。そして彼らは、これまでに自分たちに関することで天と地で起こった事柄と、また今後起こる事柄を予見した。

この計画によって、霊たちはこの世において肉体を与えられることになった。また彼らは自由意志を持ち、善と悪との影響を受け、神のみもとに再び返り、完全に向かって永遠の進歩を続けるにふさわしいかどうかを自ら証明することになったのである。

さらに福音の計画として、サタンと彼に従う者たちが天より追放されること、この地球の創造、アダムとイヴが地上に置かれること、彼らが善悪を知る木の実を食べること、彼らが園から追われること、地上に彼らふたりの子孫が住むことが定められた。

また、人々の間におけるサタンの極悪非道な働き、人間の物質的靈的な弱さと死とがあらかじめ知らされた。

さらには、死に打ち勝ち、死をもたらしたアダムの罪を贖う救い主、人々が悔い改めることにより個人の罪を赦され、神のみもとに

再び戻ることを許される手段を与える救い主の必要性が明らかにされた。

福音の計画によって、これらすべての事柄とさらに多くの事柄が知らされたのであった。

私たちはこの計画をイエス・キリストの福音と呼んでいる。なぜならば、イエスが天上の会議においてこの計画を申し出、その後、贖罪の業を行なう責任を大会議において自ら引き受け、実際に地上に来てそれを実行されたからである。

御父の計画は、自由意志の原則に基づくものであった。ルシフェルは自由意志の代わりに強制力を行使する申し出をし、しかも誉れを自らに帰そうとした。

もちろん、イエスが贖い主として選ばれた。そしてイエスは、御父の計画を擁護するために天において戦いを指揮されたのである。イエスはこの地球を創造し、現在も見守っておられる。「人に不死不滅と永遠の生命」(モーセ 1 : 39) とをもたらず神のプログラムにおけるイエスの役割は、あらゆる神権時代に人人に明らかにされてきた。それは、時の初めにアダムに明らかにされ、エノク、ノア、アブラハム、イサク、ヤコブに明らかにされた。紀元前約2200年に、イエスはジェレドの兄弟に姿を現わし、次のように言われた。

「見よ、われはわが民を贖うために創世の前より備えられたる者なり。われはイエス・キリストなり。……わが名を信ずる一切の者はわれによりて永遠に光を受け、またわが息子わが娘となる。」(イテル 3 : 14)

時の絶頂に、永遠の父なる神の御子イエスは、マリヤの息子としてベツレヘムでお生まれになった。

イエスは、女から生まれた者として、誘惑と肉につける弱さに直面し、一方、御父の生みたもうた御子として、いつまでも生き続ける力を受け継いでおられた。

誘惑にあっても決して罪を犯すことがなかったため、イエスは自らの命を捧げるにより、世に死をもたらしたアダムの咎を贖う

ことがおできになったのである。イエスはこのようにして、死に勝利を取め、御自身と全人類に復活をもたらされたのである。

イエスは死に打ち勝ちたもうただけでなく、肉において神の御子であり、贖い主となるべく天において予任されていたため、私たちには完全に理解できない何かの方法で、人類の罪の堪え難い重荷をその身に引き受けたもうた。その手段はわれわれの限りある智力には神秘であるかも知れないが、しかしその結果は現にわれわれの救いである。

救い主がこの罪の重荷を負ってうめいておいでになった時……その罪の重荷は言いようもなく苦しいものに違いなかった。主は末日に於て次のように仰せになっている。

『見よ、われは神なるに、人もし悔い改むるならばこの苦しみを受けざらんがために、すべての者に代りてこの苦しみをわが身に受けたら。』

されど、人もし悔い改めずば誠にわれと同じ苦しみを受けざるべからず。

その苦しむたるや、われ神、すなわちすべての中最も大なる者なりといえども痛苦のために身をふるわせ、あらゆる毛の孔より血を湧かせ、身と霊と両つながらを苦しめ、すなわちこの苦さきかずきより吞まずしてしりごみするも可ならんことを欲したり。

然はあれども、父なる神は讃むべきかな。さればわれはこの苦しみをなめ、人の子らの為に準備を為し終りたり。』〔教義と聖約19：16-19〕（ジェームズ・E・タルメージ「信仰箇条の研究」pp. 102-103）

ニーファイの弟ヤコブは、キリストの贖罪がなければ私たちがどのような窮地に追い込まれるかを述べている。

「おお大なる神の智慧よ。その深い憐みと御恵みよ。ごらん、もし肉体がもうよみがえらないならば、私たちの霊は必ずあの天使、すなわち永遠の神の御前から墮ちて悪魔となった天使に服従してもうよみがえることは決してない。……

私たちがこの恐ろしい怪物につかまれないように、一つの道を備えて下さる私たちの神の恵みはいかにも大きいではないか。……

しかしイスラエルの聖者である私たちの神が救いの道を立てたもうたから、私が今言った肉体の死である墓は一時的のものであって、やがてその中にある死体を解き放つ。

また、私が今言った霊の死である地獄もやがてその中にある死んだ霊を解き放つ。それであるから、墓と地獄とは何れもその中にある死者を出さなければならない。すなわち地獄はその捕えた霊を放ち、墓はその捕えた肉体を放たなければならない。そこで人の体と霊とはもとの通り一しょになるのであるが、これは全くイスラエルの聖者のもちたもう復活の能力による。』（II ニーファイ 9：8、10-12）

イエス・キリストが天上の大会議において申し出、以来実行しておられるみ業がなければ、福音のもたらす祝福を受ける希望はまったくなかったであろう。そして、主イエス・キリストを信じる信仰がなければ、今なおそれらの祝福を期待することはできないのである。主はパリサイ人に次のように言われたからである。「もしわたしがそういう者であることをあなたがたが信じなければ、罪のうちに死ぬことになるからである。』（ヨハネ 8：24）それはパウロの言う「救を得させる神の力である」（ローマ 1：16）福音によるのである。

以上が、「主イエス・キリストを信じる信仰」がなぜ福音の第一原則と言われるのかという理由の一部である。これらの教えが真理であることを私は厳粛に証する。また、ベンジャミン王の言葉に私の証を申し添えたい。

「全能の主キリストの御名によるほかには世の人に救いを与えることのできる名も道も方法も一切ない。』（モーサヤ 3：17）兄弟の皆さん、私はこのことを証したい。贖い主イエス・キリストのみ名により申し上げる。アーメン。

教会の管理

私は、教会が神の予言者を通じて主御自身により導かれていることを証する。そして私たちすべての者がこのことを認識できるようへりくだり祈るものである



第一副管長
N・エルドン・タナー

兄弟の皆さん、私は、神権を持つ人々の前に立つ時いつも謙遜な気持ちになる。神権は、与えられている職において神のみ名により行動するよう人に委任された神の権能である。もしすべての神権者が福音の教えに従って生活し、主と交わした誓約を守るならば、どれほど大きな力が発揮されるかと思うと、私は驚きさえ覚える。

アロン神権は、バプテスマのヨハネによってこの末日に回復された。バプテスマのヨハネはその手をジョセフ・スミスの頭に置き、アロン神権を授けたのである。メルケゼデク神権は御存知のように、ジョセフ・スミスとオリヴァ・カウドリのもとを訪れたペテロとヤコブとヨハネの按手により、彼らふたりに授けられた。さて、皆さんは全員、メルケゼデク神権者か、それを受ける準備をしている方々である。したがって、ここで神権の誓詞と誓約を再び考えてみたい。

「およそ忠実にしてわが今語れる二つの神権を得、而してその天よりの召を全力を尽して遂行する者たちは、『みたま』により聖めら

れてその肉体再新さる。

これらの者はモーセの息子たちとなり、アロンの息子たちとなり、アブラハムの子孫となり、また教会員にして王国の民となり神の選民となる。

主は言う、またすべてこの神権を受け入る者は、われを受くるなり。

そは、わが僕らを受け入る者はわれを受けくればなり。

また、われを受け入る者はわが父を受くるなり。

而して、わが父を受け入る者はわが父の王国を受くるなり。この故にわが父のもてるすべては彼に与えらるべし。

而してこは神権に属ける誓詞と誓約によりて然るなり。

この故にこの神権を受くる者は、すべてわが父のこの誓詞と誓約を受け、而してこれをわが父は破ることも変えることも為したもうはずなし。」(教義と聖約84：33—40)

神権は地上で最も偉大な力である。地球が創造され、宇宙と宇宙につける万物が創造されたのは神権の力による。この教会は、神権の力により、啓示により神の召された者によって組織された。

私たちは、父なる神と御子イエス・キリストが少年ジョセフ・スミスに姿を顕わされたこと、そしてその後ジョセフ・スミスが啓示により導かれてきたことを知っている。教会の設立に関して、次のように記されている。

「この末の代に於けるキリストの教会の起りはこれなり。……神意と神命によりて……

すなわちこの神命は、神に召されイエス・キリストの使徒の聖職に按手任命せられて、当教会第一の長老となりたるジョセフ・スミ

ス（二代目）に下りたるものなり。」（教義と聖約20：1—2）

さらに次のように記されている。「見よ、汝らの中に誌さる一つの記録あらん。その記録に於て、父なる神の御こころと汝らの主イエス・キリストの恩恵めぐみとにより汝は聖見者、翻訳者、予言者、イエス・キリストの使徒、教会の長老と称せられん。」（教義と聖約21：1）

皆さんはイエス・キリストの教会に属しており、その教会は神の予言者、現在は私たちの愛するスペンサー・W・キンボール大管長を通じて、イエス・キリストにより導かれていることを確認しておきたい。

私は教会が中央の本部からどのように指導されているかについて少しお話したい。教会は民主政体であるという声をしばしば耳にする。しかし実際は、教会員が選んだ役員により会員が統治されるのではなく、教会は神が自ら選びたもうた代理人を通じて、神御自身が統治される神権政体をとっている。

信仰箇条第5条には次のようにある。

「われらは、福音を宣べ、且つその儀式を執り行うためには、啓示と、権威ある者の按手により、神によりて其任に召されねばならぬことを信ず。」

このようにしてジョセフ・スミスは、主から主の教会の大管長として選ばれ、主より権能を与えられた者たちにより任命されたのである。

私は教義と聖約第107章を読むたびに、神のすべての職がどのように設けられ、各職の務めがどのようにしてジョセフ・スミスに与えられたかを確認し、証を強くする。そこには次のように記されている。

「メルケゼデク神権を有てる者の中三人の管理大祭司あり、当団体によりて選ばれ、その職に任命して按手聖任され、教会員の信任と信仰と祈りによりて支持せられ、当教会の大管長会なる定員会を構成す。……

また、大神権の職を管理する長たる者の義

務は全教会を統轄すべきものにして、モーセの如くあるべし。

すなわち、見よ、この教会の頭首に神の与えたもうあらゆる賜を有し誠に彼は聖見者たり、啓示を受くる者たり、翻訳者たり、また予言者たり、ここに智恵現わる。」（教義と聖約107：22，91—92）

「十二人の巡回評議員は召されて十二使徒となる、すなわち全世界に於けるキリストの御名の特別の証人となるべき者なり。……

またこの十二人は、前記の三人の管理大祭司と権威と権能とを同じくせる定員会を構成す。」（教義と聖約107：23—24）

「予言者ジョセフ・スミスの教え」には、次のように記録されている。「スミス大管長は次に十二使徒の義務と、現在の大管長会に次ぐ彼らの権能について説明した。……さらに十二使徒会は大管長会以外の何者にも従属しない。……『そして私（すなわち大管長）がいなければ、十二使徒会を管理する大管長会は存在しない。』」（ジョセフ・フィールディング・スミス編，pp. 105—106）

ジョセフ・スミスの死後、十二使徒会はブリガム・ヤングを長とする教会の管理役員会となり、3年半の間教会の諸業務を管理した。その後、ブリガム・ヤングが大管長として選ばれ、彼は副管長を選んで聖任し、任命した。ブリガム・ヤングが亡くなり、ジョン・テイラーが大管長に就任するまで、3年2カ月の期間があった。ジョン・テイラーが亡くなって、ウィルフォード・ウッドラフが大管長として選ばれ、聖任され、任命されるまでは、1年9カ月の期間があった。それ以後、大管長の死去と次の大管長の任命まではわずか数日間となり、大管長が死去して新しい大管長会が組織されるまでの間は、従来と同様十二使徒会が管理した。

1973年12月26日にハロルド・B・リー大管長が急逝した後、どのようなことが行なわれたかについて詳しくお話したいと思う。私はアリゾナ州フェニックスで娘の家族と共にク

リスマスの日を過ごしていた。そこへ、リー大管長の秘書であるアーサー・ヘイコック兄弟から電話があった。リー大管長が重病なため、すぐに帰ってきてほしいという連絡だった。それから30分してまた電話があった。「主が声をかけられ、リー大管長はふるさとへ呼び戻されました」というのである。

私が不在であったため、教会の諸業務を指示していたロムニー第二副管長は、十二使徒評議員会会長のスペンサー・W・キンボール長老と共に病院につめていた。リー大管長が亡くなると、ロムニー副管長は直ちにキンボール会長に向かってこう言った。「あなたの肩に責任がかけられました。」大管長がいなければ、十二使徒会を管理する大管長会は存在しないと語った予言者ジョセフ・スミスの言葉を思い出していただきたい。

リー大管長が死去し、十二使徒会が教会の管理役員会になるまでに1分とかからなかった。

リー大管長の葬儀の後、12月30日曜日午後3時、キンボール会長はソルトレーク神殿の会議室に使徒の全員を招集した。ロムニー副管長と私は、それぞれ先任順位に従って席に着いた。したがって、出席者は14名である。

歌と、ロムニー副管長の祈りの後、キンボール会長は心からへりくだって自分の思いを私たちに打ち明けた。キンボール会長は金曜日に神殿に入って主と話し、新しい責任に就くことと、副管長を選ぶことについて導きを求めて祈った時、涙をとめることができなかったと語った。

聖なる神権の衣をまとった私たちは祈りの輪を作り、キンボール会長からの要請で私が祈りを指揮し、トーマス・S・モンソン長老が祈りを捧げた。次にキンボール会長は、その集いの目的を説明し、定員会の全員に、エズラ・タフト・ベンソン長老から始めて先任順に意見を求め、大管長会をその日に組織すべきかそれとも十二使徒評議員会として継続すべきかを尋ねた。全員が今組織すべきであ

る旨を表明し、キンボール会長と彼の十二使徒会に対する働きについて多くの称賛の言葉が述べられた。

そして、エズラ・タフト・ベンソン長老はスペンサー・W・キンボール会長を大管長として推薦した。マーク・E・ピーターセン長老がこれに賛成し、全会一致で承認された。次いでキンボール大管長は、N・エルドン・タナーを第一副管長に、マリオン・G・ロムニー長老を第二副管長にそれぞれ指名した。指名を受けた両者は、その職を受け入れ、その職務を果たすためにすべての時間と力を捧げることを表明した。

そして、全会一致の賛成を得た。次いで十二使徒会の第二先任順位にあるマーク・E・ピーターセン長老が、エズラ・タフト・ベンソン長老を十二使徒会の第一先任会員および十二使徒定員会会長として推薦した。この動議は全会一致の承認を得た。

ここで全員がスペンサー・W・キンボール長老の頭に手を置き、エズラ・タフト・ベンソン会長がスペンサー・W・キンボール長老を末日聖徒イエス・キリスト教会の第十二代大管長として聖任し、任命した。

次いで、キンボール大管長がN・エルドン・タナーを第一副管長に、マリオン・G・ロムニー長老を第二副管長にそれぞれ任命した。同様に、キンボール大管長はエズラ・タフト・ベンソン長老を十二使徒定員会会長に任命し、祝福を与えた。

このようにして十二使徒会の会員は11名となり、定員会の空席を埋める人を新しく召す必要が生じた。教会幹部がどのようにして召されるか、皆さんは興味をお持ちであろう。

新しい教会幹部は、大管長の要請に応じて十二使徒会会員から推薦された人々の中から、大管長が自分の意見も考慮した上で、靈感と啓示により選ぶのである。

靈感と啓示により選ばれるため、教会幹部は事実上神より指名されることになる。そして、召しと任命を受ける前に十二使徒評議員

会の承認を受け、その後総大会で支持を受ける。

以上の事柄がどのように進められるかを説明するため、ヒーバー・J・グラント大管長の経験をお話したいと思う。彼が十二使徒評議員会の一員であった時、十二使徒会の空席を埋める候補者としてだれを推薦するか大管長から尋ねられるたびに、彼は非常に親しい友人を提案した。しかしその友人は選ばれなかった。伝え聞くとところによると、グラント大管長はもし自分が大管長になって、新しい使徒を選ぶ機会があれば、その友人を召したいと語ったということである。それ程、その友人は十分な資格を具えていた。

そして、グラント長老は大管長に召された。空席を埋める必要が生じた時、大管長は自分がだれを望んでいるかを主にお話した。しかし同時に、主が望んでおられる人を選びたい旨も主にお話した。すると、グラント大管長の心に、メルビン・J・バラードという彼自身あまりよく知らない人の名前が浮かんできた。その思いは繰り返し大管長の心をよぎり、ついに彼が選ばれるべき人であることを知った。そして、バラード長老は大管長会と十二使徒評議員会によって聖任され、任命され、その後の総大会において支持を受けたのである。

私自身の経験をお話したい。1960年10月、私はカナダのアルバータ州にあるカルガリーステーク部のステーク部長としてソルトレーク・シティの総大会に出席していた。金曜日の夜、宿泊先のホテルユタに電話があり、翌日の土曜日の朝、マッケイ大管長が私に会うことを望んでいるとの連絡を受けた。当然のことながら、大管長の思いを知らない私は、その夜はまんじりともしなかった。私は指定された時刻に大管長の執務室を訪れた。私は大管長と向かい合って座った。すると大管長は私の目を見、手を私のひざに置いて、こう言われた。「タナーステーク部長、主はあなたに、教会幹部として、十二使徒補助の召しを受け入

れるよう望んでおられます。」そして、私にそのことについてどう思うかと尋ねた。

私は何をお話したか正確には覚えていない。しかし、非常に光栄であるが、自分には荷が重いという意味のことをお話し、同時に、喜んで召しをお受けし、主のみ業にすべての時間と力を注ぎたいと語ったように思う。

その日の朝、十二使徒補助として支持を受けるため、フランクリン・D・リチャーズ長老、セオドア・M・パートン長老と私の名前が他の教会中央役員の名前と共に読み上げられた。そして私たちは支持を受けた。教会の役員は皆、それぞれのレベルでこれとほとんど同じ方法により選ばれる。

ここで、反対の挙手をどのように扱うかという疑問に答えておきたい。1977年10月の大会での例であった。皆さんの中にもその模様を耳にし、反対した人がそのことを記録するように求めたことを覚えていると思う。反対の挙手に対しては次のように対処する。その人以外の全員が提議に賛成の意を表わしたので、私はその人に十二使徒会の一員に会うようお願いした。それは、彼が提議された役員を支持しない理由を話していただくためである。このようにして、ある人が支持を受けるべきでない、あるいは支持を受けるにふさわしくない正当な理由を彼が知っていれば、それを述べる機会を与えるため、理由を聞く人が指名されるのである。彼の話を聞いた人は、その詳細を大管長会に報告することになる。

ステーク部を分割するためニュージーランドへ行った時に、私が経験したことをお話ししよう。私は当時、ステーク部長以外にニュージーランドに知人はいなかった。私はそのニュージーランド・ステーク部内の監督と高等評議員会の一覧表を見せてほしいと頼んだ。一覧表を見ていた時、ひとりの人の名前が浮かび上がっているように見えた。その人の名前はキャンベルといった。リストに目を走らせるたびに、そのように感じた。その訪問に

はバンデンバーグ管理監督も同行していた。私たちは導きを求めて祈りを捧げた後、これらの人々全員を面接した。

すべての面接を終えると、私はバンデンバーグ兄弟にこう言った。「それでは主に導きを求めましょう。」祈りを終えて立ち上がると、私は尋ねた。「もしあなたに責任を委ねられているとしたら、だれをステーキ部長に選びますか。」

彼は「ビル・キャンベル兄弟です」と答えた。私はそれまで一度も、バンデンバーグ管理監督の前でビル・キャンベル兄弟の名前を口にしていなかった。これは、主がこのような任命にあたって導きを与えて下さっていることの証拠である。

教会の管理運営に関するあらゆる事柄は、大管長会の指示の下に置かれている。そして、業務は大別して以下の3つに分けられている。

第一は、大管長会が直接管理する業務、第二は、大管長会の指示の下に十二使徒会が管理する宗教上の業務、そして第三は、大管長会の割り当てにより管理監督会が管理する実務上の業務である。

大管長会が直接管理する事柄を幾つかあげてみたい。地域大会、聖会、予算、教育、歴史、人事、神殿、監査、相互調整評議会、福祉活動である。

次に、十二使徒会の責任を簡略に述べておきたい。十二使徒評議員会は、大管長会の指示の下に、教会の宗務上のあらゆる事柄と、七十人第一定員会会員が実施する宗務上の業務の管理について責任を持つ。

また十二使徒評議員会は、全世界のステーキ部大会の日程と、ステーキ部大会に出席する教会幹部の割り当てについて責任を持つ。ステーキ部大会は7月を除いて、年間を通じ毎週開かれている。

大会の土曜日と日曜日の各集会において教会の全会員によりよい生活を営む動機づけを与えることができるように、すべての教会幹部は自らを整え、プログラムを活用すること

に全力を尽くしている。教会幹部はステーキ部長会やステーキ部役員と会合を開き、彼らの成し遂げた進歩と、改善を図るための手段や方法について話し合う。大会訪問や伝道部の訪問などのために、教会幹部は2週間に最低2日から4日間、家を留守にする。

現在、十二使徒会の管理下に4つの部門があり、それぞれ3人から4人の七十人（およびスタッフ）により運営されている。

すなわち、神権、伝道、系図、教科課程の4部門である。のち程、2,3の部門について簡潔にお話したいと思う。

十二使徒評議員会はそのほかに、新伝道部長セミナー、年に2回開かれる地区代表セミナーを計画する責任がある。

十二使徒会だけではとてもこれらの重責を果たすことができないため、彼らを援助する手段が設けられている。御存知のように、数年前までは十二使徒会補助と称される人々がいた。しかし最近になって、教会の急成長に対応するため、彼らは他の人々と共に七十人第一定員会会員として任命された。これはジョセフ・スミスの教えに一致している。教会の全七十人定員会を管理するためわずか7人の会長で組織されたこの定員会は、今や大きな発展を目指してその歩みを始めたのである。

七十人に関して次のように記されている。

「『七十人』は十二使徒会すなわち巡回高等評議員会の指揮の下に教会を設立し、またよろずの国民に於ける教会のあらゆる事務を整理するに主の御名によりて行い、まず異邦人より始めて次にユダヤ人に及ぼすべき者たちなり。」（教義と聖約107：34）

七十人第一定員会の会員は、十二使徒会の指示の下に、先に述べた4つの部門を管理運営する。神権管理部はメルケゼデク神権、アロン神権、補助組織の方針と手続きを提案し、活動プログラムを監督する。教科課程管理部は訓練資料、テキスト、管理運営以外の手引きを作成し、教会機関誌について責任を持ち、教会の全出版物の製作の調整を行なう。

相互調整の担当者は、教義、方針の明文化などについて学習課程の全資料と機関誌を閲覧して、相互調整委員会に報告する。この委員会は、七十人第一定員会会長会、管理監督、教育委員長により構成される。ここですべてのレッスン資料と訓練資料は、神殿活動、伝道活動、および教会の各組織における責任に個人を備えさせ、また永遠の生命を受けるために個人を備えさせるという理念の下に相互調整を受ける。この永遠の生命に向かって個人を備えさせることこそ、教会の目的とするところである。

伝道管理部は伝道用資料を作成し、宣教師候補者の準備と伝道地での使用にそれを用いる。また、宣教師の任地割り当てを補任し、訪問者センターの運営、その他伝道プログラムに関する事柄を監督する。

宣教師がどのようにして召されるかに興味を持っている方もおいでだと思う。まず、監督は、宣教師候補者の両親に話す前に、本人と面接を行ない、彼または彼女が検討の段階にあることをほかの人が知る前に、本人の姿勢と資格を見きわめる。本人に資格があり、本人が伝道に出ることを望んでいれば、監督は両親にその旨を話す。次いで、すべての面で問題がなければ、監督はステーキ部長に候補者を推薦する。ステーキ部長も候補者の資格と姿勢について面接し、ふざわしく伝道の意欲があることが認められれば、大管長会に推薦する。

候補者をどこの任地に召すかを決定するにあたっては、推薦書に記されている本人の素質や、その時に宣教師を必要としている伝道部など、幾つかの事柄が考慮される。そして、靈感により、どの地で最もよく主に仕えることができるかが決定される。そして、候補者は大管長からの召しを受ける。召しを受け取った宣教師は大管長に宛てて召しを受け入れる旨の手紙を送らなければならない。

私は、皆さんの興味を引くと思われるある宣教師の召しの模様を今心に思い浮かべてい

る。これは主がどのようにみ業を導いておられるかの証明ともなる話である。このような話は杖挙にいとまがない程、数多くあるが、とにかく、ある時何人かの宣教師に召しの手紙を送った。すると合衆国の東部で伝道する召しを受けた宣教師の母親から、伝道管理部の幹部書記に電話がかかってきた。母親の話によると、息子の父と祖父はドイツで伝道し、息子もドイツの伝道部に召してほしいと書面で依頼しておいたのに、そのような召しを受け、彼女は夫と共に非常に落胆したというのであった。

そこで幹部書記は、御子息はその召しをどう感じていますかと尋ねた。すると母親は、息子がまだ学校から帰ってこないので、留守中に自分が手紙を開封したと言った。本人はどこに召されるかをまだ知らないのである。幹部書記は、一生のうち一度かも知れない大管長からの手紙を母親が開封したことに驚きを表わし、本人が手紙を読んだらもう一度電話するように言った。

翌日、その母親は申し訳なきに蚊の鳴くような声で電話してきた。息子はその召しを一つも二もなく喜んだからである。彼は秘かに外国の伝道部に召されないように祈っていたのである。

さて、管理監督会の管理についてお話ししよう。管理監督会は大管長会から割り当てを受けたすべての実務上の業務の管理運営について責任を負う。これには、施設に対する責任も含まれる。彼らは宗務部門の要請により、土地の購入と、建物の建築および維持に関してサービス機関として働く。また、財政、会員記録、断食献金、什分の一、購買、翻訳、配送も監督する。さらに、福祉事業部の運営についても重責を担っている。このプログラムと方針は、大管長会、十二使徒定員会、管理監督会、扶助協会会長会で構成される福祉活動委員会が決定する。福祉活動プログラムには、全世界のデゼレト産業の運営、ステーキ部、ワード部および伝道部の福祉プログラ

ム、監督の倉庫などが含まれる。

教会は世界各地で大きな成長と発展を遂げているため、特に開発途上地域の教会員の組織と訓練に関して、管理権の分散が必要になっている。これらの地域では、教会業務の管理についてわずかな経験しかもたない教会員がほとんどで、多くの新しい支部、地方部、ワード部、ステーキ部が組織されている。

一例を挙げると、1976年頃、私はベネズエラのカラカスを訪れたが、その時伝道部長は会員たちを招集した。集まった会員は300ないし400名で、その全員がバプテスマを受けて5年に満たない人々であった。ところが、1年後に私たちはカラカスでステーキ部を組織した。最も教会歴の長い会員はわずか7年であった。これら開発途上地域の組織に対して、多くの訓練と援助が必要なのはだれの日にも明らかである。

宗務の管理面から、現在世界は幾つかの地域に分割され、それぞれの地域を代表役員が管理している。これらのうち12の地域は、合衆国とカナダ以外にある。すべての代表役員は七十人第一定員会会員が務め、合衆国とカナダ以外の地域を担当する代表役員は、それぞれの地域に居住している。

代表役員の管理運営を援助するために、地区代表がいる。彼らは経験豊かな指導者で、地区もしくは地区にできる限り近い地に住む人々の中から選ばれる。地区代表は幾つかのステーキ部と伝道部に対して働きかけをする。これによってステーキ部と伝道部の指導者は、時間のかかるソルノレク・シティーの本部との直接交渉ではなく、地区代表を通じて代表役員と定期的に密度の濃い接触を持ることになった。

合衆国とカナダ以外の地域には、実務上の業務を管理するために、地域監督がいる。彼らは管理監督会の指示の下に、担当地域に居住し、その地域の業務を監督する。これにより、教会員は問題を直接訴えることができ、また、各分野の管理について適切な訓練を受

けることができるようになった。代表役員と地域監督は定期的に会合を持って、それぞれの業務の相互調整を図る。

総じて、これらすべての事柄は大管長会の管理下にある。具体的には、大管長会は毎週火、水、木、金曜日の午前8時から会合を開く。この会で話し合うことの中には、大管長会に寄せられた手紙の検討がある。イヤリングをつけるために耳に穴をあけることから、ステーキ部長会と高等評議員会が下した破門の判決に対する控訴に至るありとあらゆる問題の問い合わせがある。そのほかにも、服装や身だしなみの標準、催眠術、安息日の遵守、聖句の解釈、集団感受性訓練、結び固め、地元役員への不平不満、霊魂再來說、科学や他の人のために体の一部を提供すること、火葬、移植手術、法律問題など果てしなく続く。この会合での話し合いはすべて書記が記録する。

大管長会が決定する事柄には、神殿長会の選任、新しい神殿建設の時期と場所をはじめ、十二使徒評議員会との会合や管理監督会との会合で討議する事柄などがある。また、聖会や、全世界で開かれる地域大会の計画も含まれる。

大管長会は、火曜日の午前10時に支出承認委員会を開く。この委員会は大管長会と4人の十二使徒および管理監督会で構成され、各部の責任者からの支出請求を検討し、割り当て額を決定する。総合施設部から提出されるステーキ部やワード部の建物、伝道本部、訪問者センターなどの建物や土地の購入請求、維持費の検討などがその例である。管理監督会は福祉事業を含む支出の請求を提出する。

水曜日の大管長会では、直接大管長会の管理下にある歴史、人事、広報などの各部門の責任者から報告を聞く。また重要な来賓は、できる限り水曜日の午前にお会いしている。私は手紙などでそのような訪問者からの感想をうかがうたびに、大管長が彼らにどれほど大きな影響力を及ぼしているかを知って、いつも感銘を覚える。

月に一度、水曜日に大管長会は教会教育委員会と理事会を迎え、教会の大学、インスティテュート、セミナー、その他教会の学校に関する事柄を話し合う。また毎月、別の水曜日に大管長会は相互調整評議会を開く。この評議会は大管長会、十二使徒定員会、および管理監督会により構成され、管理上の方針や手続き、質問を検討、決定し、あらゆる責任分野が適切に調整されるようにする。この評議会に引き続いて、先に述べた福祉活動委員会を開く。

水曜日の午前10時から神殿の一室において、大管長会はすでに午前8時から会合を開いている十二使徒評議員会との会合を持つ。この部屋は神殿が完成して以来、教会の指導者が主の導きを受けてきた所である。出席者はここで特別に霊的な気持ちを味わい、また時にはすでに世を去った偉大な指導者たちの臨席を感じることがある。この部屋には、12人の大管長と大祝福師ハイラムの肖像画や、使徒たちを召されたガリラヤの海辺での救い主、その他十字架上の主や、昇天される主の絵がかけられている。私たちはこの評議会議室で、ここに座を占めた多くの偉大な指導者たちや、主の導きによって重大な決定が下されたことに思いを馳せるのである。

大管長会は木曜日の午前10時にこの部屋へ入室すると、十二使徒全員と握手を交わし、神殿衣に着替える。そして、讃美歌を歌い、祈りを捧げた後、聖壇の前で祈りの輪を作る。これを終えると再び平服に着替える。

それから私たちは、前回の議事を検討した後、次のような事柄について話し合う。ステーキ部長から推薦のあった監督の交代を承認する。これは前もって十二使徒会で検討済みの推薦である。(1977年に毎週25~30人の新しい監督が承認されたことをお伝えすれば、興味を覚えるかも知れない)全教会のステーキ部、ワード部、伝道部、神殿の組織変更、これには区域の境界と役員の変更が含まれる。補助組織の役員と管理運営、各部門の責任者

から提起された事柄、およびステーキ部大会に関する私たちの報告、葬儀、説教などその週に行なったことの報告もある。この会において、管理や方針に関するあらゆる変更が考慮され、承認される。そして、承認された方針は教会の公式の方針となる。この会に関してひとつの経験をお話しよう。

ある時、ひとつの件について十二使徒がまちまちな見解をとり、それをきたんなく述べた。そして最後にマッケイ大管長は意見をまとめて、このように言った。「これが、私たちのなすべきことだと私は考えます。」

私は隣の兄弟の方を向いてこう言った。「大管長がいつも正しい答えを得ておられ、私たち全員がそれを正しい答えだと感じられることはすばらしいことではありませんか。」

すると同僚は私を見てこう言った。「神の予言者の言葉ですからね。」決定の前の段階でそれがどのような考えを抱いていても、下された決定が全会一致で支持される理由はここにある。

毎月第一木曜日に、大管長会は全教会幹部、すなわち十二使徒定員会、七十人第一定員会、管理監督会と会合を開き、プログラムや手続きの変更を発表し、幹部の義務や責任について指導する。大管長は何人かの幹部に証をすよう求め、その後全員が神殿衣に着替えて聖餐を受け、全員で祈りの輪を作って祈りを捧げる。祈りが終わると、大管長会と十二使徒定員会を残して全員が退出する。大管長会と十二使徒会は平服に着替えて、木曜日の定例の事務事項を処理する。ここで語られ、行なわれたことはすべて、記録担当書記が報告書に記録する。

毎週、木曜日の集会が終わると、大管長会と十二使徒定員会は用意された部屋で昼食を共にする。この部屋には最後の晩餐の絵が飾られており、私たちはここでくつろいだひとときを過ごす。そこで、それぞれの経験談や共通の話題について話し合うのである。時間があれば、幾つか興味深い話を紹介したいの

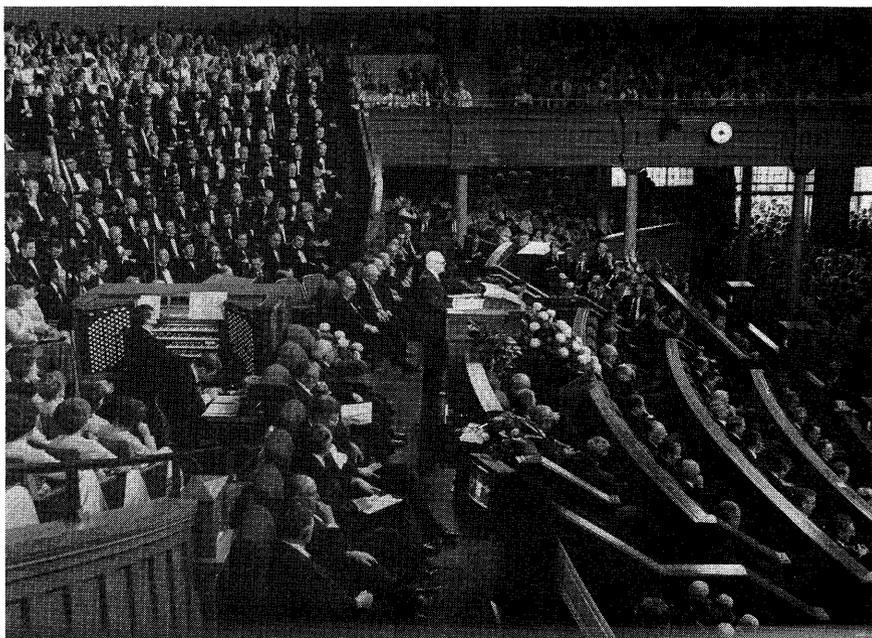
だが、金曜日は午前9時に、管理監督会が管理運営に関する事柄について大管長会に報告し、話し合う。

御存じのように、教会は事業法人を所有している。ボネビル国際会社、ベネフィシャル生命保険会社、ホテルユタ、サイオンズ証券会社、デゼルトニューズ社、デゼルト相互共済組合などがそれである。これらは、教会の利益のために運営され、一般にサービスを提供している。そのほかに多くの農場や牧場を所有している。

教会は税金を納めていないと考えている人々もいるが、それは誤りである。私はその誤りを指摘するとともに、教会所有のすべての会社は同業他社と同じ率で税金を納めている

ことを申し上げておきたい。

教会の管理は、これらの責任ある地位に召されている人々、すなわち大管長会、十二使徒定員会、七十人第一定員会、管理監督会によって正しく行なわれること、またそれによって地方の役員も祝福と指導を受けることができるように、私たちはいつも、毎日、望み祈っている。私は教会が神の予言者を通じて主御自身により導かれていることを証する。そして、私たちすべての者がこのことをよく認識し、教会の会員であることを認識して、永遠の生命を目指して勤勉に準備するよう、へりくだり祈るものである。イエス・キリストのみ名により申し上げる。アーメン。



説教中のマリオン・G・ロムニー第二副管長

教会の姉妹たち

この教会の女性たちは、種類こそ違え、私たちがなす仕事と同じように大切な仕事をなしている



大管長
スベンサー・W・キンボール

愛する兄弟の皆さん、私たちは主の教会において主のみ業をどのように行なおうとしているかについて、タナー副管長からすばらしい話をうかがった。教会で何が行なわれているかを知らない方々が多いと思う。しかし、この話から多くの方々が多くのことを学んだと確信している。

この神権部会を利用して、正しい生活を送り、地上に神の王国を建設するために行なうて下さったすべてのことについて、皆さんに感謝を申し上げたい。私たちは皆さんにいつも感謝している。神は皆さんの才能と献身を人類の歴史と教会の歴史双方にとって重要なこの時期に使うことができるように、今地上に皆さんを住まわせておられることを私たちはよく知っている。

3週間前のこの時間に、老若を問わず教会の女性たちがこのタバナクルを埋め、また今晚皆さんが集っている他の同じ会場に集まった。私自身はこの女性の集まりに出席できなかったが、病室に特別にテレビを用意してそのすばらしい会の模様を見せていただいた。

地上における神の天国である末日聖徒イエス・キリスト教会の姉妹たちに特別な祝福が豊かに注がれているのを見て、私は胸が一杯になるのを感じた。私の愛する永遠の伴侶カミラが、私の短いメッセージをこのすばらしい姉妹たちに読んでくれた。

そのメッセージの中で、私は姉妹たちに次のように申し上げた。「私たちはやがて総大会を迎えようとしています。総大会では神権部会が開かれますが、私たちは兄弟たちを特にえこひいきして特別な指導を与えるというようなことはありません。私たちは同じような助言を与えるつもりです。」

さて、私は兄弟たちにお話するにあたり、姉妹たちと交わした約束を果たしたいと思う。

私たちは皆、人生において特別な女性たち、すなわち私たちに深く不滅の影響を残した女性たちに出会っている。その女性たちの貢献したものは測り知れない、永遠の価値を持っている。

私たちの妻、母親、娘、姉妹、友人はすべて、天父の霊の子供である。兄弟の皆さん、女性をどのように扱うかという点から、このことをいつも忘れないようにしていただきたい。この神権時代の姉妹たちの中には、天父の最も高貴な娘たちが数多くいる。神は人をかたよりみない御方であり、男も女も、少年も少女もすべての人を完全な愛をもって愛しておられることを忘れないようにしていただきたい。

ハロルド・B・リー大管長がよく語ったように、「最も重要な教会の仕事はあなたの家庭の囲いの中にあるのである。」（「堅固な家庭」p. 7）多くの人がこの言葉を何度となく述べている。

この特別な教会の仕事の多くは、私たちの家庭にいる女性たちに、キリストがなされたように仕え、指導するかどうかでその成否が判断される。私が仕え、指導すると言ったのは、男性は家族の長であり、それはキリストが教会の頭であるのと同じ意味だからである。キリストは愛と模範と無私の奉仕によって導かれた。キリストは私たちのために御自身を犠牲とされた。もし私たちが家庭において指導者であると同時に僕であり、謙遜な族長であるならば、私たちもキリストのように行なわなければならない。

私たちは自己を空しくして奉仕し、思いやり深く寛大でなければならない。私たちの支配は正義による支配でなければならない、永遠の伴侶である妻との間の協力関係は完全なものでなければならない。

ステーキ部長や監督、副監督、そしてすべての兄弟の皆さん、自分に落度がないにもかかわらず現在、立派な男性と永遠に結び固めを受ける祝福にあずかっていない姉妹たちに、どうか特別な思いやりを示していただきたい。私たちが家族の生活を強調する時、彼女たちがのけ者扱いをされているように感じる事ができるようにしていただきたい。皆さんの中に彼女たちがいるのは決して重荷などと考えないでいただきたい。それは祝福である。

未亡人、離婚した人、夫のいない人、またある場合には父親のいない若い姉妹たちがいるかもしれない、このような人々に対する私たちの特別な責任を心に留めていただきたい。神の娘たちをなおざりにする時、私たちは神の人として与えられた責任を果たすことはできない。

姉妹たちが受けている扱いについて、私たちは時々悲しい報告を受ける。これは恐らく無神経と思いやりのなさの結果であろうが、兄弟の皆さん、このようなことはあってはならない。この教会の女性たちは、種類こそ違え、私たちがなす仕事と同じように大切な仕事をなしている。役割や責任という点では私

たちと異なるが、彼女たちの仕事も、私たちに求められているのと同じ基本的な仕事である。

私たちは女性を非常に高く評価しているため、彼女たちを世の道に追いやることはできないのである。ほとんどの女性は、力を持ち、善良で正直である。愛と尊敬のこもった扱いを受け、思いと感覚を大切にされ理解されれば、彼女たちはますます強く善良で正直な人になる。

しかし姉妹たちは恩着せがましい扱いは望んでいない。私たちの姉妹として、同等の人としての尊敬を受けることを求めている。兄弟の皆さん、私がこれらのことを申し上げるのは、女性に関して教会の教義に疑わしい点があるためでも、私たちの行ないがあるべき姿からはずれているためでもない。また、このようなことを申し上げるのは、警告を発するという意味からではない。王国の民は世の人々ともっと異なっている必要があるという一般的な見地から申し上げるのである。救い主がしばしば言われたように、私たちは互いに愛し合い、愛をもって人々と接しているかどうかによって、また心を一にし、精神を一にしているかどうかによって裁かれる。私たちはひとつとならなければならない、主のものとなることができないのである。

私たちは皆、教会で与えられる責任をどのように果たすかによって裁きを受け、責任を問われる。そして、私たちがこの世で与えられている務めを果たしたかどうかの裁きは、自分の家族や教会の兄弟姉妹にどのように仕え、愛したかによって決まるのである。マッケイ大管長は次のように的確に述べている。

「いかなる成功も家庭の失助を償うことはできない。」（「大会報告」1964年4月、p. 4）

私たちは兄弟の皆さんを愛している。そして姉妹たちを愛している。私たちは皆さんに完全な信頼を寄せ、皆さんの信仰、主のみ業への献身を喜んでいる。願わくは神の祝福が皆さんの上であり、その祝福を愛する人に分

かち与えることにより、皆さんの愛する人々の上にも神の祝福があるように。

兄弟の皆さん、私は神が生きておられることを知っている。そして私はこの証を何度となく述べるができることを大きな喜びとしている。世の贖い主キリストは私たちの主

であり、この末日聖徒イエス・キリスト教会はキリストを頭にいただく主の教会である。私はこの証を、私の愛と祝福と願いを込めて、主イエス・キリストのみ名により申し上げる。アーメン。



カミラ・E・キンボール姉妹(左)

予言者ジョセフ・スミスの貢献

福音の教えは美しい。それは平和と善意の教え、世に平和をもたらすものである



第一副管長
N・エルドン・タナー

昔 ノルウェーの国で、幼い2人の息子を抱えた年若い未亡人が、1足の靴を靴屋に修理に出した。靴が直って戻って来ると、その母親は両方の靴に1枚ずつ、宗教のことが書かれたちらしが突っ込んであるのを見つけた。それから間もなく、ちらしに興味を覚えた彼女は、古靴を入れた包みを手に、30分かかかる靴屋の店まで出向いた。

彼女は靴屋に修理を頼んだあと、ドアの掛けがねに手をかけたまま、ちらしのことを尋ねたいと思いながら言いだす勇気もなしにちゅうちょしていた。すると立ち止まった彼女に、靴屋が話しかけた。「お子さんの靴の底などよりもっと価値があるものを差し上げましょうと、私が申し上げたら、さぞかしびっくりなさることでしょね。」

「子供の靴の底よりもっとよいものって、何でしょうかしら。なぜなぞですか」と彼女は答えた。

靴屋は間髪を入れず話し出した。「ただ耳を貸してさえ下されば、神の子供たちのための主のまことの救いの計画をお教えしますよ。

この世で幸福を見つける方法も、来世で永遠の喜びを得る方法もお教えできます。あなたがどこからいらっしゃって、なぜ今この世にいらっしゃるのか、死んだあととはどうなるのかもわかります。今まで御存じない、この地上の子供たちに対する神の愛についてもお教えできます。」

その言葉は、ちょうど1年前に夫のジョン・アンダーセン・ウィッツオーを不慮の死で失っていた、アンナ・ウィッツオーの胸に強く響いた。長男のジョン・アンドリアスは6歳、次男のオズボーンはわずか2カ月であった。葬儀の席上、年若い未亡人と長男は、人の世よりも幸せな場所で将来再会できるという望みもなく、『あなたは、ちりだから、ちりに帰る』という教会の葬儀の冷酷な言葉を聞きながら、開いた墓穴の傍らに立ち続けていた。

以来、アンナの日々は孤独で、自分の宗教では満たされない数々の霊的な疑問が湧いていた。彼女はその靴屋に簡単な質問をした。「あなたはどのようなお方ですか。」靴屋は、「キリスト教会の信者です。モルモン教徒と呼ばれています。私共は神様の真理を知っています」と答えた。

修理の済んだ靴が返されて来るたびに、決まって新しいちらしが入れてあった。そこでアンナの好奇心は募り、彼女はやがてモルモン教徒の集会に出てみることにした。アンナ・ウィッツオーは知性に富んだ女性であった。聖書を学んでおり、長老たちを言い負かそうとしたこともたびたびであった。しかし、そのいずれも徒労に終わった。彼女は教義で疑問に思った点をとことん議論したが、ついに意に反して、しかし祈りによって、自分が永

遠の真理を目の前にしていることを信じるに至ったのである。

「福音を初めて聞いてから2年あまりたつ、1881年4月1日に、彼女はようやくバプテスマを受け、教会に入った。……フィヨルドの岸辺はまだ薄氷が張っており、その氷を割ってバプテスマを受けなければならなかった。水は凍るように冷たかったが、彼女は後日生涯を終えるまで、トロンヘイムのフィヨルドでバプテスマの水から上がった時ほど温かく気持ち良かったことはないと言っている。胸の中に消えることのない炎が燃えていたからである。」

これは、アンナの長男で後に末日聖徒イエス・キリスト教会の十二使徒評議員会会員となったジョン・A・ウィッツオー長老の“*In the Gospel Net*”（「福音の網の中に」）という著書からの抜粋である。

1830年以来、これときわめて似た出来事が、世界各地の人々の生活にどれほど繰り返されてきたことか。

農家の少年ジョセフ・スミスに天よりの現われがあり、それに一連の出来事が続いた1830年4月6日のことである。神の指示に従い、わずか6人を発起人として、末日聖徒イエス・キリスト教会が正式に組織された。教会の設立に関連して幾つか事柄を済ませた後、彼らは川へ行き、そこで幾人かの人々がバプテスマを受け、教会員に確認された。

1980年4月に教会は設立150周年を迎えるが、その時は教会員数が430万を越すと思われる。私はこのような発展をもたらした「不思議な驚くべきわざ」（イザヤ29:14）を静かに考える時、神に栄光を帰し、またこの回復の予言者ジョセフ・スミスと、神の指示の下この教会を導いてきた神の聖なる予言者たち全員に賛辞を呈したい気持ちに駆られる。

ジョセフ・スミスの若い頃を簡単に振り返ってみよう。彼は1805年12月23日にバーモント州ウィンザー郡シャロンで、ジョセフ・スミス・シニアとルーシー・マック・スミスの

息子として生まれた。スミス家は1816年、ニューヨーク州パルマイラへ転居し、間もなく近くのマンチェスターに移った。ジョセフが宗教復興運動に心を寄せ、ある日ヤコブの手紙の次の聖句を読んだのは、このマンチェスターにおいてであった。

「あなたがたのうち、知恵に不足している者があれば、その人は、とがめもせずに惜しみなくすべての人に与える神に願い求めるがよい。そうすれば、与えられるであろう。」（ヤコブ1:5）

この聖句は靈的に感じやすい少年に多大の影響を与えた。彼は聖句の意味を深く思い巡らし、数ある教会の中でどれが真実か判断するには神の助けが必要なることを知って、森に入り、初めて声に出して祈りを捧げた。ジョセフが証の中でかなり写實的に述べているように、頭上の光の柱の中にふたりの御方が現われ、御一方が傍らの御方を指して、「こはわが愛子なり、彼に聞け」（ジョセフ・スミス2:17）と言われた。

そこでジョセフは胸に抱いていた疑問を主に告げたところ、既存のどの教会にも加わってはならないと答えを受け、その理由も教えられた。しかしその後、ジョセフは、自分の見た示現の話を人々にすると、人々から示現や啓示などあるはずはない、そのようなものは使徒の時代で終わっていると言って嘲られ、罵られたのであった。

ジョセフは以後3年間平凡な日常生活を続けたが、その間、示現の話をしたことで非常な迫害を受けた。しかし1823年9月に、モロナイという名の天使の訪れを受け、神がジョセフにさせたいと思っておられる仕事があることを告げられた。

その天使は、近くの丘に隠されている金版の書の話をした。金版には、アメリカ大陸の先住民の記事と、救い主が昔の民に語られた永遠の福音がそのまま載っていた。ジョセフは、以後4年間、金版が埋められている場所を毎年訪れるようにという指示を受けた。そ

ここで彼はその指示に従い、毎年そこへ行くたびに天使モロナイに会って教えを受け、将来金版を受け取って翻訳するための用意をしたのであった。

もし皆さんの中にモルモン経の起源について御存じない方がおられたら、ぜひ話をお聞きいただきたいと思う。モルモン経を読んでいただきたい。この本の最後の章にはこう約束されている。

「またこの記録を受ける時、それが真実なものかどうかをキリストの御名によって永遠の父なる神に問え。もし誠心誠意でその上キリストを信じながら問うならば、神は聖霊の力によってこの記録が確なものであることをあなたたちに示したもうにちがいない。

そして聖霊の力によって一切の事の真実であるかどうかがあなたたちに解る。」(モロナイ10：4—5)

ジョセフ・スミスは神の予言者であり、モルモン経は真実の書物で、聖書と相並び、イエス・キリストの神性を新たに証する証人、アメリカ大陸の先住民にキリストがどう接しられたかの記録であることを、毎年何千何万という改宗者に証するのは、この力である。

よろしければ、イエス・キリスト教会の信仰篤い熱心な教会員たちの胸に強い証が燃えるそのわけを、一緒にお考えいただきたい。まことの教会を求めているながら、様々な教派の聖職者からそれぞれ対立する教えを聞いて迷う14歳の少年のことを想像してみたい。示現を見たという事実を否定できないために、あらゆる迫害に遭いながらひとり耐え抜いた少年の強さに、ただただ驚嘆するばかりである。

ジョセフ・スミス自身、こう記録している。「あの時以来私は、パウロがアグリッパ王の面前に於て弁明し、彼が先に光を見声を聞いた示現の顛末を語った際、なお彼の言を信じた者がほとんどなく、ある者はかれは偽りを語ると言い、他の者はかれは狂えりと言った、そしてかれが嘲り笑われ悪口雑言を受けたそ

の時と自分は大へん似た心境であったと思っている。しかしながらすべてこれらの反対も、パウロが示現を得たと言う現実を打ち破らなかつた。パウロは、先に示現を受けた。彼はこれを受けたと言う事実を身を以て知った。そして天下のあらゆる迫害もこれを変えることができなかつた。人がかれを死ぬまで迫害しようとも彼は知っていた。彼は最後の一息まで、彼が光を見、彼に呼びかける声を聞いたこの二つの事実を知っているであろう。事実、全世界も彼の考えを変え信ずるところを変えさせることはできなかつた。」(ジョセフ・スミス2：24)

金版を受け取って、それを保管し、翻訳するという重大な責任を認識した彼は、さぞかし心が重かつたにちがいない。正式な教育をほとんど受けていないジョセフ・スミスにとって、外国語の翻訳は途方もない仕事であった。しかし、主が彼と共におられ、道は開かれ、必要な筆記者や出版者や資金が用意されたのである。

1843年9月4日付の「ニューヨーク・サン」紙で記者はこう述べている。

「このジョー・スミス氏は非凡な人物で、カーライル氏に言わせれば、予言者の英雄とでもみなされる人である。スミス氏は当代の偉人のひとりであり、将来、社会に大きく影響した人物として何らかの形で称されることだろう。」(*History of the Church*「教会歴史」6：3)

ジョン・ヘンリー・エバンズ著の“*Joseph Smith, An American Prophet*”(「アメリカの予言者、ジョセフ・スミス」)という本にはこう書かれている。「この人はイリノイ州最大の町の市長であり、州で最高の著名人、北軍を除く国家最大の精鋭軍隊の司令官、数多くの町の創設者、大学の創立者……となった。

彼は、過去百年間、大勢の文学批評家の詮議をはねのけ、現在では聖書以外で最も広く読まれている書物(モルモン経)を書いた。また、組織化の時代の幕開けに、近代世界で

最も完全に近い社会機構を設け、完全さと一致の点で、歴史上かつてない見事な宗教上の教えを発展させた。さらに、人の心から種々の恐れの種類、すなわち病氣、老齡、失業、貧困による欠乏の恐れを取り去る経済機構を打ち立てた。」(p. 4)

予言者ジョセフ・スミスの貢献は、世に対してどれほどの大きな意義があるのだろうか。その幾つかを考えてみよう。最も重要であると思われるのは、神会についての概念である。新約聖書には、御父と御子と聖霊が別個の存在であることがはっきり述べられているが、キリスト教界には、それを受け入れず、私たちが姿かたちを似せて造られたという姿ある神を信じようとしぬ人々が多い。御父と御子はジョセフ・スミスに親しく姿を顕わし、その姿と存在を明らかにされた。少年ジョセフは、森を後にした時、神が人間のような姿であるという事実を知っていたのである。神は語られる。神は思いやりに満ちて情け深く、祈りに答えられる。神は、ジョセフを名指して呼ばれた感情、感覚、体をお持ちの御方である。御子も神と同様に個有の御方であり、神と人間の間の仲保者である。

森におけるその出来事は、啓示は止んだ、神はもはや人と交わりたまわないという考え方を真っ向から否定した。旧新約聖書には、絶えざる啓示の必要なことが繰り返し述べられている。アモスの言葉について考えていただきたい。

「まことに主なる神はそのしもべである預言者にその隠れた事を示さないでは、何事もなされぬ。」(アモス 3 : 7)

ジョセフ・スミスは啓示を受けてから、以前に理解できなかった聖書の数々の真理を権威をもって人々に教えた。そのうちの幾つかを挙げてみよう。私たちは神の霊の子供である。私たちは前世に住んでいた。そして、試しを受けるためにこの世へ来た。この世で忠実であれば、神のみもとに戻ってそこで永遠に暮らし、永遠の進歩を続けて神のような者

となることができる。以上が教えの一部である。

父なる神と子なる人間に関するもうひとつの教えは、サタンという悪魔の存在である。サタンは実在し、出来る限り多くの人間を神から引き離して、自分の虜にしようと躍起になっている。

ジョセフ・スミスは自由意志の教義、すなわち私たちは善を選ぶのも悪を選ぶのも自由である、ただしその結果として祝福か罰を受けるといふ教義を教えた。コリント人への第二の手紙にはこう書かれている。

「なぜなら、わたしたちは皆、キリストのさばきの座の前にあらわれ、善であれ悪であれ、自分の行ったことに応じて、それぞれ報いを受けねばならないからである。」(IIコリント 5 : 10)

ジョセフ・スミスは、人間が神のみ名によって事を行なうには神から権威をいただかなければならないという、新しい神権の概念を世に示した。彼は啓示を受けて、その神権の役職と義務を執事から大祭司に至るまですべて明確に定めた。それは教義と聖約第 107 章に詳しく記されており、144 年後の現在もそれに基づいて教会諸事の組織、運営が行なわれている。

なお、この教会が昔イエス・キリスト御自身の立てたもうた教会と同一の組織と、役職を持つイエス・キリストの教会であることも示されている。

ジョセフ・スミスは啓示を受け、人の体は霊の幕屋であるという新しい概念を教えた。人の体は汚してはならない神聖なものである。故意の冒瀆は神への敵対行為であり、したがって体を大切に扱うことは靈的な意義を持つ。私たちが体を霊のふさわしい住まいにする手だてとして、心身に大きな祝福をもたらす知恵の言葉という啓示がジョセフ・スミスに与えられた。

予言者ジョセフ・スミスは、死者の救いについても教えたが、この教えは新約聖書の中

で教えられていながら、使徒の時代以来理解も実行もされていなかった。またこの教義に伴って、家族の永遠性と今も永世にも有効な日の光栄の結婚の原則が教えられた。

神とイエス・キリストが現に生きておられること、キリストは聖書や近代の聖典に描かれている通り真実実在の御方であり、十字架上の死と復活の前にも後にも民の間で教え、幼児や病人を祝福されたこと、村から町へ旅しながら民のために心を砕いておられたこと、これらのことを知れば、満たされた気持ちと安堵感が晴れ晴れと胸に広がる。キリストは作り話の主人公であるとか、大哲学者であるとか言って、文字通り神の御子であることを否定する人がいるのは一体なぜであろうか。

キリストを信じる信仰は私たちの救いに不可欠であり、この世におけるキリストの使命は私たちに何をなすべきかを教えて下さることであった。主は繰り返し、「悔い改めてバプテスマを受けよ」と言われた。しかも自らバプテスマのヨハネから水に沈められるバプテスマを受けて模範を示された。その時、主はこのように言っておられる。「今は受けさせてもらいたい。このように、すべての正しいことを成就するのは、われわれにふさわしいことである。」(マタイ 3:15)

そして、主が弟子たちに与えられた最後の教えはこの言葉であった。

「それゆえに、あなたがたは行って、すべての国民を弟子として、父と子と聖霊との名によって、彼らにバプテスマを施し、

あなたがたに命じておいたいっさいのことを守るよう教えよ。見よ、わたしは世の終りまで、いつもあなたがたと共にいるのである。」(マタイ 28:19-20)

救いの儀式はすべて、神に召され、しかも福音を説き、その儀式を執行する権威を持った者から任命された人のみが執行できることを、主は明らかにされた。また、旧新約聖書の予言者たちが予言しているように、背教と回復のあることも語っておられる。黙示者ヨ

ハネは次のような重要な言葉を残している。

「わたしは、もうひとりの御使が中空を飛ぶのを見た。彼は地に住む者、すなわち、あらゆる国民、部族、国語、民族に宣べ伝えるために、永遠の福音をたずさえてきて、

大声で言った、『神をおそれ、神に栄光を帰せよ。神のさばきの時がきたからである。天と地と海と水の源とを造られたかたを、伏し拝め。』」(黙示 14: 6-7)

今朝、私の話を聴くすべての方々に証申し上げたい。この御使いは確かに訪れた。そして、永遠の福音は回復され、イエス・キリストの教会は儀式を執行する権威と共に地上に再建されたのである。

神のみ名によって事をなし、福音の諸儀式を執行するために人に委任される神の力、すなわち神権は、古代の使徒ペテロ、ヤコブ、ヨハネからジョセフ・スミスとオリヴァ・カウドリに授けられた。天は、ペテロやヤコブ、ヨハネ、パウロなど、昔の使徒の時代と同様に今も開かれている。

神は今なお義人の祈りに答え、予言者を通じてイエス・キリストの教会にみこころを啓示して下さっている。アダムや、ノア、アブラハム、モーセがそれぞれの神権時代の予言者として神に選ばれたように、この末の時代にジョセフ・スミスが選ばれ、神の予言者、聖見者、啓示を受ける者として神に召されたのである。この教会は、あらゆる国民、あらゆる血族、あらゆる国語の民、あらゆる人々に福音を宣べ伝えよという神の命令を遂行している。

現在、28,000人を越える宣教師が、キリストが在世中に教えられたと同じ簡潔な真理、すなわち第一に大切な次の戒めを教えている。「心をつくし、精神をつくし、力をつくし、思いをつくして、主なるあなたの神を愛せよ。」(ルカ 10: 27)

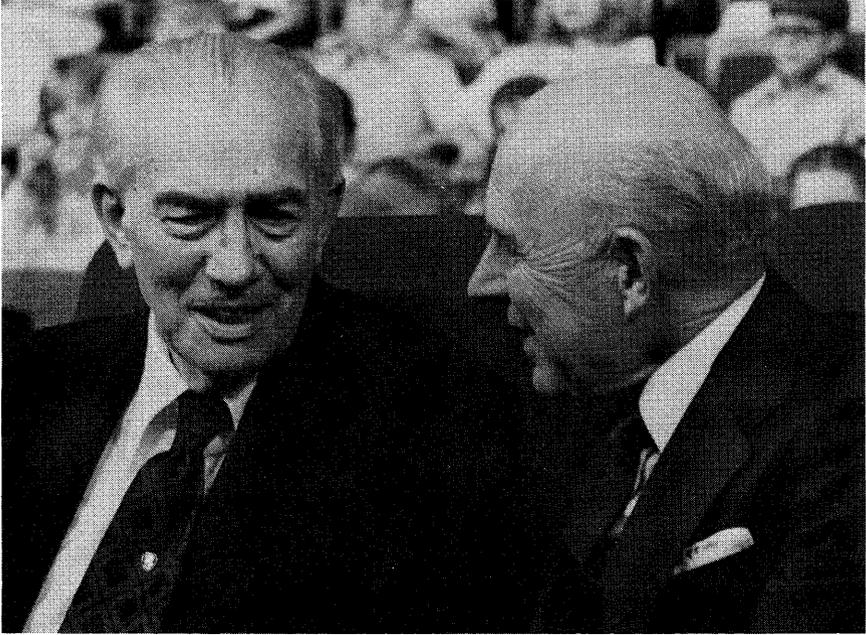
私たちは、福音の第一原則と儀式とは「第1. 主イエス・キリストを信ずる信仰、第2. 悔改め、第3. 罪の赦しを受くるために水に

沈めらるるバプテスマ、第4. 聖霊の賜を授かるための按手礼」(信仰箇条第4条)であると教えられている。

私たちは、神が現在も地上の人間に語られること、この教会が神の予言者スペンサー・W・キンボールという主の代弁者によって導かれていることを信じている。福音の教えは

美しい。それは平和と善意の教え、世に平和をもたらす唯一のものであり、受け入れるすべての人に救いと昇栄を与えるものである。

この証が、真理を求めるすべての方々に届くことを祈りながら、イエス・キリストのみ名によりお話申し上げる。アーメン。



十二使徒評議員会会員マーク・E・ピーターセン長老(左)とハワード・W・ハンター長老

モルモニズム

モルモニズムと呼ばれるものは、まさにこの世を天国に、人を神にする律法と真理の制度である



十二使徒評議員会会員
ブルース・R・マッコンキー

私は、ただいまN・エルドン・タナー副管長が熱意を込めて雄弁に証された事柄の、2番目の証人としてお話したい。私たちには広く世の人々に申し上げたい言葉がある。特に何か新しい教えを聞きたい、別の見方を知りたい、宗教界最大の不思議、モルモニズムの奥義を解明したいと関心をお持ちの方々にお話したいと思う。

私たちは特異な民である。他の人々と異なるユニークな信徒である。私たちは、各国に集合してシオンを築き、人の子の再臨に民を備えさせる至高者の聖徒である。

私たちはモルモン教徒と呼ばれている。多くの人々は私たちを風変わりな宗派とみなし、ひと時代前にはやった「妄想、偽予言者、一夫多妻」、あるいは現在一部の人が言うような「人種差別主義者、女性の敵、亭主関白」、あるいは「アダム崇拜、キリストと主の恵みを否定する民」という間違っただけの呼び方をしている。ちょっとした誤解の言葉が、本来ならば私たちがどういう者で、どういうことを信じているかを正しく知るはずの人々の間に、偏

見の種を播いている。

心の狭い人間のこのような非難の声や、この教会の急速な発展と感化力の増大をねたんでの利己的な主張、承服しがたい社会的、政治的意見は、この業そのものが真実であり、神のみ業であることの今ひとつの証拠であると思われる。悪魔は死んではいない。かつて「十字架につけよ、彼を十字架につけよ」と叫んだように、今この時代に、キリストの民に対して再び叫び声を発しているのである。

この啓蒙と対話の時代に、私たちが何者であり、何を信じ、どうしてこの教会の業がかくも目覚ましく進展しているのかを語ることは、決して大それた要求ではないと思う。

私たちは特異な民と呼ばれることを光栄に感じている。他の人々と違っているということは、私たちの願うところである。なぜならば、私たちはすでに世を捨てており、神に従って生活し、真理と徳の道を歩むと誓約しているからである。

ペテロは当時のまことの信者たちについて、次のように明言した。「あなたがたは、選ばれた種族、王国の神権者、聖なる国民、特異な民である。それによって、暗やみから驚くべきみ光に招き入れて下さったかたのみわざを、あなたがたが語り伝えるためである。」(欽定訳Iペテロ2:9より和訳) その同じ言葉が私たちについて言われることは、私たちの望むところである。

そこで私たちは、隣人であるキリスト教徒であると、非キリスト教徒、ユダヤ人、異邦人であるとを問わず、すべての方々の見解と関心を十分に考慮しながら、私たちの信じていること、真実であると知っていることを幾つか御紹介したい。

私たちの生き方、胸に満ちる安堵感と喜び、来世に託す栄光と栄誉の望み、これらすべては当教会の教義、当教会の神学、私たちに啓示された真理から生じたものである。私たちがより良い生き方をすれば、誠実な人々は必ずや、私たちの信じているものと、それが人をどのように変え、どのように高めるかを知りたいと思うであろう。

私たちは厳肅に申し上げたい。

天には神がおられる。栄光に満ちた御方、聖なる人、全知全能で、無限にして永遠なる御方がおいでになる。

神は至高者であり、永遠なる絶対者創造主、数限りない世界に人を住まわせておられる御方である。神は私たちの天の御父であり、家族として暮らしておられる。

私たちは神の霊の子供である。私たちは皆地の基が据えられる以前は神のみ前に住み、神のみ顔を拝し、み声を聞き、みこころを感じていた。

神は、子供たちが進歩成長して御自身のようになることができるように、数々の律法を制定された。これらの律法が救いの計画であり、真の福音である。

その栄えある福音では、人が肉体を得て、信仰により歩みながら試しを受ける場として、この地球の創造が必要とされた。また、肉体の死と霊の死を世にもたらし、全人類に及ぼすため、アダムの墮落が必要とされた。さらに、限りない永遠の贖罪、すなわち肉における神の独り子が人を墮ちた状態から引き上げる贖罪が必要とされた。

御父の長子、主イエス・キリストがこの尊い務めのために選ばれたのである。そして主は、時の絶頂にマリヤから生まれ、世の人々の罪のために十字架上で死なれた。

こうして今救いはキリストのうちにある。主の愛と恵みと、また主が贖いの犠牲となられたことで、救いが与えられるようになったのである。主は「人に不死不滅と永遠の生命とをもたらす」(モーセ1:39)のために来られ

たのである。

主は私たちの救い主、贖い主である。その使命は仲裁と和解であり、主は贖いの大いなる永遠の計画を実現されたのである。キリストのゆえに私たちは罪なしとされ、清められ、永遠の救いを得られる。イエス・キリストは私たちの神であり、私たちはキリストの民である。そして私たちは主の聖なるみ名を永遠に讃め歌うのである。

私たちが主の贖いを有効とし、自らキリストの血による聖めを受けるには、キリストを信じ、御父を信じて、自分の罪を悔い改め、次に生涯御父と御子を愛し、仕える旨をバプテスマの水に入って誓約し、その後聖霊の賜を受けなければならない。

そうすれば、私たちはその聖なる訓戒者に導かれて、光の中を歩み、戒めを守り、世に打ち勝つことができるにちがいない。これが、あらゆる時代の人々に及ぶ救いの計画である。墮ちた人間が主の前に恐れおののいて自分の救いの達成に努めることができるように、様々な時代に啓示された救いの計画である(ピリピ2:12参照)。

そして今、聞きたまえ、諸天よ、聞きたまえ、地よ。大いなる神、人類の御父、すべての子供たちを愛しておられ、悔い改めと救いの道を歩むように告げたまう天上の大いなる神は、かつて約束された万物の回復にすでに着手しておられる。

主は語っておられる。神のみ声は再び発せられている。主は姿を現わされる。死すべき人間がもう一度造り主のみ顔を仰ぐ。主は命じておられる。真理の言葉、御子の福音は新たに出で行くのである。

先の神権時代に御父がキリストに託して御自身を世に示されたように、今の時代に御子は神の声となり証人となり、啓示者となっておられる。

御父は1820年の春に、「こはわが愛子なり、彼に聞け」と仰せられた。この瞬間から、神のみ声が聖徒たちの受け入れるまま、規則に

規則を加え、戒めに戒めを加えて下されている。

モルモン経は、神の賜と力により啓示され、翻訳され、世に出版されている。聖書の真理が再確認され、新しい啓示が下され、地の基が据えられて以来ほとんど知らされずにいた数々の事柄が明らかにされている。

天使も訪れて、この世の人間に鍵と力と神権を授けた。

バプテスマのヨハネはアロン神権を、その鍵と力のすべてと共に授けた。ペテロ、ヨハネ、ヤコブがメルケゼデク神権と、聖なる使徒職、王国の鍵、すべての造られたものに福音を宣べ伝える神聖な権限を世に再びもたらした。

モーセが来て、イスラエルの2度目の集合を命じた。エライジャは、天においても地においても結ぶことができ、また解くこともできる結び固めの力を授けた。

こうして、福音が完全に回復され、そして末日聖徒イエス・キリスト教会が完全に整えられ、地上に神の王国が確立され、月のように美しく、太陽のように輝き、旗を立てた軍勢のように（雅歌6：10参照）進み始めたのである。

この聖なる福音は、生ける者と死せる者の救いのためにある。生者と共に死者もかの永遠の世界で信じ、従う時に、救いの継承者となる。そのため私たちには、その目的で建てられた聖なる神殿で彼らのために救いの儀式を執行する特権が与えられているのである。

福音の力により、私たちはかつてモーセが行なったように、今イスラエルを集めている。何十万年もの改宗者が、聖徒と共に約束の地に入るため、世間というエジプトにすべてを捨てて集合しているのである。

この末日聖徒イエス・キリスト教会で、私たちは昔の人々が享受したと同じ賜を与えて下さる奇跡の神を礼拝している。誇るのではないが、忠実な民の中で、目に見えない人々の目が見えるようになり、耳の聞こえない人

人の耳が聞こえるようになり、足の不具な人が歩き、死者が生き返っている。

私たちには、イエスの時代にこの地上の王国を治めた同じ組織がある。使徒と予言者が、昔のように現在も語り、導きと教えを施している。

私たちの間では、女性と家族が他のいかなる組織におけるよりも重んじられている。教会では母親や妻、娘たちは大きな敬意を受け、責任ある働きをし、生来の才能を世のいかなる女性にもまさって豊かに伸ばしている。

この福音の目的は、実に、主においてひとつに結ばれた男女に永遠の家族を得させることである。日の光栄の結婚は、この世で知ることのできる最大の喜びと幸福を得、来るべき世では永遠の生命を受けるために私たちが備えるものである。

多くの人々がすでに語っていることであるが、もう一度申し上げたい。モルモニズムと呼ばれるものは、まさにこの世を天国に、人を神にする律法と真理の制度である。

では、モルモニズムの奥義とは、不思議とは何であろうか。この栄えある福音、この生命と救いの完全な計画、奥義の中の奥義、このモルモニズムは、天の永遠の真理である。

それは純粋なダイヤモンドにも似た真理である。子供たちに語る神のみ声である。啓示であり、み使いであり、示現であり、みたまの賜である。悔いる魂に証を述べる聖霊である。そしてそれは、神とキリストのおられる所に行き、天で共に永遠に住まうため、従順な人々を清め、聖別するあの聖霊である。

世人の心には不思議とも移ろうが、しかしそれは、みたまにより生まれて神の王国を見ることのできる者には、平易、簡潔、明瞭である。

最後に予言の声を聞こう。

私たちは予言する。皆さんが聴いておられるのは私の声であるが、これは全教会幹部の一致した声である。私たちは、この大いなる末日の業がやがて勝利を取めること、また大

いなる神が民の行く手を導きたもうということ
を予言する。現在地上に建てられている神
の王国は、天の王国の来るまで、すなわち主
イエス・キリストが栄光の中に末日聖徒の間
で世を治めるため天の雲に包まれて再び下り
たもう時まで、世に広まるであろう。

私たちは心あるすべての方々に、神の愛に
あずかり、この世では平和を、来るべき世で
は永遠の生命を受け継ぐようにとお勧めする
次第である。

主イエス・キリストのみ名により、申し上げる。アーメン。



十二使徒評議員会会員デビッド・B・ヘイト長老

天父への祈り

悔い改めと告白、真心からの祈りによって自分の罪や弱点を取り去る必要がある



七十人第一定員会会員
バーナード・P・ブロックバンク

人間が創り出した宗教や教義では、神の子に救いをもたらすことはできない。主は聖書の中で、神の道は人やこの地上でもたらされるものではないと告げておられる。「わが思いは、あなたがたの思いとは異なり、わが道は、あなたがたの道とは異なっていると主は言われる。

天が地よりも高いように、わが道は、あなたがたの道よりも高く、わが思いは、あなたがたの思いよりも高い。」(イザヤ55：8—9)

神の思い、神の道は、人がこの世で受けることのできる最高の機会と祝福を与える。

主は次のように言って、人に人生最大の目標のひとつを示された。「永遠の命とは、唯一の、まことの神でいますあなたと、また、あなたがたがわされたイエス・キリストとを知ることであります。」(ヨハネ17：3)

また、次のようにも命じておられる。これはキリスト教徒なら、だれもが知っている戒めである。「心をつくし、精神をつくし、思いをつくして、主なるあなたの神を愛せよ。」(マタイ22：37) 神を知り、神を愛すること

は神聖な祝福である。そして、神とイエス・キリストを知るひとつの方法が、真心からの祈りである。

主は命じておられる。「絶えず祈れ。さらば、われ汝にわが『みたま』を注がん。さらば汝の恩恵は大いなるべし。すなわちその恩恵は、もし汝がこの世の宝と朽つるものまで得たりとすともそれより大いならん。」(教義と聖約19：38)

聖書にはこう記されている。「絶えず祈りなさい。

すべての事について、感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあって、神があなたがたに求めておられることである。」(1テサロニケ5：17—18)

神に祈ることによって、私たちはこの世の邪悪とサタンの悪影響に打ち勝つ力を得ることができる。主は言われた。「勝利者たらんことを常に祈るべし。誠にサタンに打ち勝つ様に祈れ、また現にサタンの仕事に力を与えるサタンの僕らの手より免れんことを祈るべし。」(教義と聖約10：5)

神への祈りは神聖な祝福である。救い主は、私たちがよく知っている「主の祈り」の中で、祈りの方についても教えられた。主はこう祈られた。「天にいますわれらの父よ、御名があがめられますように。

御国がきますように。みこころが天に行われるとおり、地にも行われますように。

わたしたちの日ごとの食物を、きょうもお与えください。

わたしたちに負債のある者をゆるしましたように、わたしたちの負債をもおゆるしてください。

わたしたちを試みに会わせないで、悪しき

者からお救いください。王国と力と栄光は、永遠にあなたのものだからです。」アーメン。(欽定訳マタイ6：9—13より和訳)

私たちは敬いの気持ちをもって天父に祈らなければならない。天国が来るように祈ることにより、地上に神の王国を建てるために全力を尽くすことを決心するのである。神のみこころが天に行なわれると同じように地にも行なわれますようにと祈りながら、神のみこころを行なおうと決心して努力するのである。

私たちは「日ごとの食物」を神に感謝して、生活の糧を得られるよう助けを願うべきである。御父に自分の罪や弱点の赦しを願い、悔い改め、清い方法によって神聖な心身を鍛練することを決心し、実行するのである。

私たちは、世の試みに打ち勝ち、悪から救われるよう御父に祈らなければならない。「王国と力と栄光は、永遠にあなたのものだからです」と心から祈る時、私たちは自分のなすべきことをしようと決心するのである。神の王国、神の力、神の栄光は、人が大切にすべき最も重要な祝福であり、目標である。

祈ることが大切なのは、予言者ニーファイが次のように教えている通りである。「自分たちの働きが自分の身も霊も救われるように天の御父がその働きを祝福したもうよう、キリストの御名によってまず天の御父に祈らないでは主の御前にどのような働きもしてはならない……」(II ニーファイ32：9)

意義ある祈りを捧げるためには、可能な限り神の属性について知る必要がある。すでに述べたように、私たちは神を知るように命じられている。祈りは救いに導き、無知はその目標から私たちを遠ざける。

イエス・キリストは、人が悔い改め、告白し、罪を捨てるならばすべてを赦すと約束しておられる。イエスは悔い改める人々に次のような慰めの言葉を与えておられる。「見よ、およそすでにその罪を悔い改めたる者は赦され、主なるわれもはやこれを忘るべし。

人罪を悔い改めしや否やは、見よ、彼は自

らこれを告白しその罪を捨つべければ、その悔い改めたることはこれによりて知るを得べし。」(教義と聖約58：42—43)

私たちはこの言葉をしっかりと心に留め、絶えざる祈りと従順と悔い改めにより心と体を神に倣って清め、高めてゆかなければならない。祈りは告白の重要な一部であり、人に対すると同じように、神に対しても告白しなければならない。

救い主は、真心から祈る人は次のような答えと祝福を受けると約束しておられる。「求めよ、そうすれば、与えられるであろう。捜せ、そうすれば、見いだすであろう。門をたたけ、そうすれば、あけてもらえるであろう。

すべて求める者は得、捜す者は見だし、門をたたく者はあけてもらえるからである。」(マタイ7：7—8)

私たちは生活し、働き、目を見開いてよく考え、そして常に祈りと悔い改めと目的のある生活を目指して努力しなければならない。

神の予言者は、絶えず次のように祈れと勧めている。「さて私の愛する兄弟たちよ。私はあなたたちがまだ心に考えこんでいるのを認め、このようなことをあなたたちに戒めなければならないのをまことに悲しく思う。あなたたちがもし祈らねばならぬことを教える『みたま』の言葉に聞き従うならば、あなたたちは祈らなくてはならないことを覚るであろう。悪魔は祈れと人に教えず、かえって祈ってはならないと教える。

しかしごらんよく言うておく。あなたたちは力を落さずいつも祈らなくてはならない、そして自分たちの働きが自分の身も霊も救われるように天の御父がその働きを祝福したもうよう、キリストの御名によってまず天の御父に祈らないでは主の御前にどのような働きもしてはならないと。」(II ニーファイ32：8—9)

主の僕であるイノス、彼については今回の大会でも1、2度引用されたが、そのイノスは真心からの祈りの力について語っている。主

もこのことを強調したいと思われたことは確かである。「さて、私は自分の罪を赦されようとして、一心不乱に神の御前に祈ったことについてあなたたちに話をしよう。

ごらん、私は獣を狩ろうとして森へ行ったが、私の父が永遠の生命と聖徒の幸福について教えた言葉を度々聞いたのが私の心に深くしみこんだ。

そこで私は自分の心が飢えるのを覚えて、私の造り主の御前にひざまずき、自分の身と霊のために一心こめて祈りかつ願った。私は本当に一日中神に祈り、夜になってもまだ私の声が天にとどくほど大きな声で祈った。

すると一つの声が聞えて『イノスよ、汝の罪はすでに許されたれば汝は祝福を受くべし』と仰せになった。

私イノスは神が必ずうそを仰せにならないことを知っていたから、私の罪はすでにこれを取り消されたのである。』（イノス 2—6）

私たちは全員、イノスのように常に悔い改めと告白、真心からの祈りによって自分の罪と弱点を取り去る必要がある。主は次のようにも約束しておられる。「見よ、およそすでにその罪を悔い改めたる者は赦され、主なるわれもはやこれを忘るべし。

人罪を悔い改めしや否やは、見よ、彼は自らこれを告白しその罪を捨つければ、その悔い改めたることはこれによりて知るを得べし。』（教義と聖約 58：42—43）

悔い改めは心身を清め、より高い完成と神の属性に近づく余地を与えてくれる。

ベンジャミン王は祈りと悔い改めについて民に語った時、神から答えを受けることについて貴重な助言を与えた。「神を信ぜよ、神がましますことと、神が天地の間の万物を造りたもうたことと、天でも地でも全知全能であることを信ぜよ。また、人間は主の悟りたもうことをことごとくは悟れないことを信ぜよ。

重ねて言う。お前たちはその罪を悔い改めその罪を捨てて神の前にへりくだらなくては

ならないことを信じ、神がお前たちを赦したもうように真心から祈れ。もしもこれらを見な信ずるならば謹んで実行せよ。

私はすでに言ったけれども、今一度これをお前たちに言おう。お前たちがもしも神の栄光を知り、あるいは神の恵みを知り、神の愛を味わい、自分の心をこれほどまでに喜ばせる罪の赦しを受けているならば、私はお前たちが常々神の偉大なことと、……自分に神が恵み深く辛抱強くましますこととを忘れずに思い起して低くへりくだり、毎日毎日主の御名によって祈り、天使の口から示された将来のことを確く信じて変わらないことを望む。

もしもお前たちの行いがこのようであるならば、お前たちはいつも喜び、神の愛に浴し、いつも罪の赦しを保ち、お前たちを造りたもうたお方の栄光、またはすべて正しく真実であることをいよいよ深く知るようになる。』（モーサヤ 4：9—12）

この聖句は、個人の祈りが必要なことと、その祈りの力について数々の約束を示している。イエスは人々にこう命じられた。「汝らは悪魔に誘いまどわされてそのとりことならぬよう、たえず目を覚して祈らざるべからず。

われが汝らの中に在りて祈りし如く、汝らもまた悔い改めてわが名によりてバプテスマを受けたるわが民、すなわちわが教会の会員の中に在りて祈れ。見よ、われは光なり。われは汝らのためにすでに模範を示しぬ。』（III ニューファイ 18：15—16）

「われ、まことにまことに汝らに告ぐ、汝らは誘惑に負けざるよう、たえず目を覚して祈らざるべからず。そはサタンが汝らを支配して麦のごとくにふるわんと欲すればなり。

されば汝らはわが名によりてたえず御父に祈らざるべからず。

而して、汝らが必ず受くと信じて、わが名によりて御父に乞い求むるものは、その正当なるものなる限り、すべて汝らに与えらる。』（III ニューファイ 18：18—20）

イエス・キリストは、家族の祈りを行なう

ようにと勧められる。「汝らの妻子が祝福を受くるよう、たえずわが名によりて家族の祈りを御父に捧げよ。」(III ニーファイ18:21)

いくら祈っても祈りすぎということはない。祈りすぎは私たちの弱点から来るものではないのである。

両親は、子供に祈りの価値と重要性について教え、また祈り方をも教える神聖な責任がある。多くの家庭で、この最も大切な祈りがないがしろにされつつある。祈りは神聖なものである。イエスは、「神聖なるものを軽んずることなかれ」(教義と聖約6:12)と言われた。

祈りによって得られるもうひとつの祝福は、心と霊と肉体に神の愛を感じることである。聖典に次のように約束されている。「それであるから、私の愛する兄弟らよ、あなたたちは、神が御子イエス・キリストに真に従う者たち

に一人のこらず与えたもうたこの愛で自分たちの胸を満すためにありたけの心をつくして御父に祈れ。これはまた、あなたたちが神の子らとなるためである。神の現われたもう時には神をそのありのままの姿で見るにちがいないから、その時には神に似た者になることができるためであり、また私たちが神のように清められると言う望みを持たんがためである。」(モロナイ7:48)

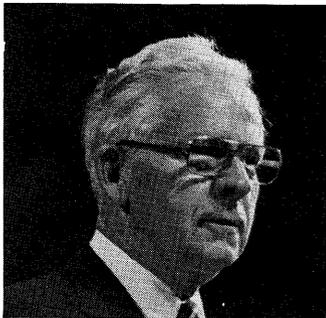
私たちは生ける神、生ける天父の息子、娘として謙遜な祈りを捧げ、神の近くにとどまるように努めなければならない。また清い生活を送ることによって神に近くあり、この人生で経験する神聖な機会や祝福の中で心に平安を見いだせるようにならなければならない。皆さんがそのような生活が送れるよう、イエス・キリストのみ名により祈るものである。アーメン。



十二使徒評議員会会員マーク・E・ピーターセン長老(左)とブルース・R・マッコンキー長老

変革によってもたらされる進歩

主は御自分の教会の発展が阻害され、停滞することを望んではおられない。予言者たちを通じて与えられる、絶えざる啓示が主の王国の発展には必要である



十二使徒評議員会会員
マービン・J・アシュトン

立 派な植木が根を張ることができなくなり、枯れ始めた。若い友人がそれを見て、もっと大きな植木鉢に植え替えることにした。彼は小さい鉢から植木をそっと抜き、根や土をなるべくそのままにして大きな鉢に移し替えた。園芸を始めて間もない彼は、しばらくその苗を注意深く観察した。しかし案に反して植木は一向に生気がよみがえってこないのである。そこで彼は専門の庭師に相談して手を借りることにした。庭師は手で鉢をとると、すぐにひっくり返し、植木を引き抜いて土を落とし、はびこり過ぎている根をあっさり切り落としてしまった。それから再び鉢に戻して、周囲に土を手際よく詰め込んだ。すると間もなく、その植木は生気を取り戻して大きくなったという。

私たちは人生の土壌の中に下ろした自分の根を伸ばすことができずにもがいていることはないだろうか。自分をあまり大切にせず、だれにも土をいじらせず、根毛を摘み取らせていないことはないだろうか。そういう状態の中で、私たちは進歩を図らなければなら

ない。確かに変わるのには難しい。変革には波風が立ちやすいからである。

主は御自分の教会の発展が阻害され、停滞することを望んではおられない。予言者たちを通じて与えられる絶えざる啓示が、主の王国の発展には必要である。

実は、変化そのものほど必然で、不変のものはないのである。私たちが見たり、触れたり、感じたりするものは絶えず移り変わっている。友人、夫婦、親子、兄弟の関係などはどれも生きて変化する関係である。変化を自分に良かれとする定項のようなものがあるとすれば、それは天父から啓示された永遠の真理であろう。

私たちは永遠に現在の自分から変わらないと思う必要はない。変化を目の敵と見る傾向があるが、変化を受け入れることができずにさんざん抵抗したあげくに、その効能を思い知らされることも多い。変化を注意深く考慮してみると、人生で最も恵みの多い、意義ある経験を生み出すこともできるのである。私たちがとる変化は、主の目的とその模範にならなければならない。

自分の生活の中で変化に直面したならば、こう尋ねてみるとよい。「私はどこを進歩させる必要があるのだろうか。私は人生で何を求めているのだろうか。どこへ行きたいと思っているのだろうか。どうすればそこへたどり着くことができるのだろうか。」また変革を考える時、幾つかの代案を念入りに検討してみることが、絶対必要となってくる。神の計画の中で私たちはほとんど自由に自分の生活を変えられることができると同時に、訪れる変化にどう対応するかも各人の自由である。私たちは自分の自由を放棄する必要はない。しかし、濃

霧の中を進むには羅針盤が必要であると同じように、福音は私たちが歩む人生の方向を示してくれる。

イギリスの小説家C・S・ルイスは、神の子供たちに寄せる神の期待について書いた中で、変革はときに苦痛を伴うことを指摘している。「今自分自身を生きた家にとえてみるとする。神がその家を建て直しに来られる。初めは神のなさることをなるほどと眺めている。雨樋を真っ直ぐに直し、屋根の破れ目をふさいでいる。そうすることが必要だと知っているのだから、あなたは格別に驚くこともない。ところが今度は家を壊すような勢いでめっちゃくちゃに家を叩き始める。一体神は何をしようとしておられるのだろうか。神はあなたの考えていたのとまったく違う家を建てておられるのだ。ここに新しい建物のそでをつけ、あそこにもうひとつ床を増し、やぐらを築き、中庭を造る。あなたは質素な小屋を造ろうと思っていたのに、神は宮殿を作っておられるのだ。」(C・S・ルイス、*Mere Christianity*「ただのキリスト教徒」p. 160)

確かに変革には苦痛が伴う。しかし、進歩を目にする時、大きな満足もある。人生は山あり谷ありの繰り返しだが、しばしば谷にいる時に一番進歩することがある。変化は悔い改めの実となる部分である。ある人は変わろうとしないために悔い改めができない。

先頃、私はユタ州立刑務所の礼拝堂の献入れ式に出席した。式のあと、モーリス所長がスコット・マジソン州知事と私のために施設を案内して下さった。安全性を最大限に考慮した建物が快適で美しく保てるように、格別の配慮が払われていることがよくわかった。所長にだれがそれをしたのか尋ねてみると、所内からふたりの受刑者が時間を与えられて環境整備をしたとのことであった。私たちはそのふたりに会えないだろうかとお願した。所長は施設内に私たちに案内した。そこに死刑囚の監房から、マーベル氏とブラウン氏がやって来た。彼らは何か悪いことでもしたの

だろうかとかげんな面持ちのようであったが。

「おふたりがここと敷地の整備に協力して下さったということで、そのことに対して賛辞を呈したいと思いましたがのですから。」私たちは言った。「花壇や菜園の手入れが行き届き、よくできていますね。どうもありがとうございます。」

彼らの表情に浮かんだ変化は驚くほどだった。子期しなかった賛辞を受け、自尊心を呼びさまされたのであった。石だらけで、草がぼうぼうとはえていた土地を美しい庭に変えたのは、彼らの努力のたまものである。しかし悲しいことに、それよりも先に彼らは人生の荒地を豊かな庭に変えることに失敗していたのである。しかし、ひとつの分野でも変化の必要を知ることができ、あのように立派な仕事をなし遂げられる人々にはまだ希望がある。恐らく、庭を変えた働きが彼ら自身の進歩の引き金となることであろう。

アメリカの心理学者ウイリアム・ジェームズはこのように語った。「今世代最大の発見は、心の持ち方さえ変えることができれば、環境も変え得るということである。」(エマソン・ロイ・ウェスト編、*Vital Quotations*「名言録」p. 19) イエス・キリストは様々な経歴を背負って生きる人々に新しい安全な道を教えることで、人々が夢想だにできなかった高さに届く手助けをされた。

多くの人々が、変えようにも変えられそうのない苛酷な境遇の下に生まれている。そのような人の例をここで幾つか御紹介したい。

最初は、不幸な家庭に生まれた子供の例である。家族はその子が8歳になる前に別の州に引っ越した。父親はその時の気分次第で極端に厳しくなったり、甘くなったりして、彼をよくぶった。少年は小さい頃から、バスや駅や安っぽいホテルによく寝泊りした。14歳で家出をし、保護された。父母も友人たちも彼を信用できない乱暴者、はぐれ者として冷たい目で見た。

2番目は生まれつき虚弱な少年の例である。

子供時代はいつも病気がちであった。弱い体で大きすぎる頭を支えきれないように見えるほどだった。父親は息子が「知恵遅れ」と思われるのを心配していたが、息子を公衆の面前で叩いたこともあった。母親はそれ以前に3人の子供を失くし、すっかり気力を失い自分の殻に閉じ込めていた。

3番目は貧しい家庭に生まれた青年の例である。彼の家族は経済的な苦しさのために何度も転居した。青年は正規の教育をほとんど受けることができなかった。「母親は、少年の読書や学習能力が他の子供たちより劣っていたと報告している。」(フランシス・M・ギボンズ *Joseph Smith, Martyr, Prophet of God* 「殉教者、神の予言者、ジョセフ・スミス」 p. 26) 周囲の人が青年の考えや行動を異常だと考え出したために、彼は仲間からつまはじきされた。彼は生涯、法律に追い回され、いつも苦しみ続けていた。

人が生活の中で建設的な価値ある変化を成し遂げるためには、段階的に進めていくことがよい。「はしごを登る時は、下から始めて、一段一段登って行かなければならない。福音の原則もこれと同じである。」(*History of the Church* 「教会歴史」 6: 306—307) 人生で意義ある変革をなすためには、天父と天父が教えられる真理を受け入れなければならない。予言者アルマはモルモン経の中でこう言っている。「あなたたちは今日霊によって生れ神の子になっているか。あなたたちは神の御姿を自分の身に受けているか。あなたたちは今言ったような大きな改心をすでに感じているか。」(アルマ5: 14)

ここで、変革を生活の中で価値あるものとするための4段階について提案したいと思う。

第1に、私たちはまず変わる必要があることを理解しなければならない。よく生活を振り返ることをしない人は生きていても何にもならない。新たに監督に召されたある兄弟が次のような悩みを私に打ち明けてくれた。彼のワード部に道はずれた生活をしている女性

がいた。監督が忠告すると、彼女は自己弁護をし、監督は自分のありのままを受け入れるべきだと言うのである。彼女は、「自分のありのまま」の姿が監督や天父、とりわけ自分自身にとって決して良いものではないという事実を認めようとしないのである。誤りに気づき、変わる必要があることを知ることが最も大切な段階である。変革の必要を認めることが、惰眠の快樂よりも大きい力とならなければならない。

第2に、事実は確実なものでなければならぬ。つまり、私たちはなぜ、どこで、どこを、どう変えるのかを知る必要がある。イエス・キリストの福音は、私たちが何者で、どこから来て、なぜこの世にいて、死後どうなるのかを教えており、私たちが長期、中期、短期の目標を定める助けになる。その知識があれば、進歩の力は増すであろう。

第3に、変わり方をきちんと確立することである。アメリカの詩人エマソンはこう述べている。「居心地のよい座ぶとんに」座る者は「すぐにまどろむ。人は突かれ、苦しめられ、負かされる時、己が知恵を働かすようになり、……、中庸と真の技量を身に付けるようになる」(*The Complete Writings of Ralph Waldo Emerson* “Compensation” 『償い』「ラルフ・ウォルドー・エマソン全集」 p. 161)

変革は順序よく計画立てて行なうことが大切である。変わる方法を決めてしまえば、たとえ生活を基本的に変えるようなことであっても、完全にやり直すことができるはずである。

第4は、変える計画を全力投球で実行することである。中国に、「偉人は決意をするが、小人は望みだけである」ということわざがある。自分に進歩しようという気がなければ、ほかにどの段階は行なっても無駄である。この最終段階が勝者と敗者の分かれ目になる。

先ほど、私は悲惨な環境にある3人の例をお話したが、初めの少年の人生は放浪、強盗、殺人、さらに刑務所へと悪の道をたどってい

った。彼は変わる必要のあることを知らないまま、殺人を犯してしまったのである。

2番目にあげた少年は、トーマス・A・エジソンの幼少の頃の話である。しかし彼はこのような克服しがたいと見える出生にもかかわらず、立派に変わった。一時は知恵遅れと宣告されつつ、歴史に残る大発明家に成長したのである。そして、エジソンの努力は全世界をも変えた。

3番目は、合衆国北東部に少年時代を送った青年の話である。彼は1805年、バーモント州の厳冬の中で誕生した。その名はジョセフ・スミスである。彼は苦難の少年時代を送り、人生は肉体のみならず精神的、靈的に艱難の連続であった。しかしこの青年は変化を通じて進歩することの必要を知り、自分よりもすぐれたものの權威に従った。非常な苦難の少年時代に、彼は改革を求め、この最後の神権時代の幕開けを告げる人となったのであった。彼の信仰、祈り、その働きは、地上に末日における最高の変革をもたらした。

ブルース・パートンは、こう述べている。「変化の途上にある時、私たちは半ば人生を歩み終えているのである。」変わるのに、年を取りすぎた、若すぎる、もうこの年になっては、ということはない。変革の権利、冒険、楽しみを放棄する時、本当の老年が訪れるのではないだろうか。私たちは素直に教えを受け入れる心を持つ必要がある。自分を一定の型にはめてしまうことはいとむずかしい。私たちは60歳、70歳、50歳あるいは15歳であろうが、年齢にかかわらず目標を定めるべきである。人生に意欲を燃やし続けなければならない。意義ある変化を通じて自ら進歩することをいとう時があってはならない。

多くの教会員にとって、指導者の交替を受け入れにくい時がある。ワード部、ステーク部の段階では指導者の交替は必要であり、教会員にとって良かれとの判断で頻繁な交替が行なわれることもある。そこで役員の変更が不満を覚える人がいる。「なぜあの人を解任し

たのだらう。」「どうしてあの人か」、「どうしてワード部を分割するのだらう」と。私たちのビジョンは視野が限られている。人や状況に必要な進歩、進展をもたらさない変革はめったにないものである。あとで振り返ってみて、「あのプログラムにあのような変更があっわけ、あの人があのような召しを受けたわけ、あの時は理解できなかったが、それが必要だったということがよくわかる」と思うことがよくある。

過渡期にあっては、もっとも私たちの教会では常に過渡期であるが、愛と忍耐、堅忍が必要とされる。私たちにとって忘れてはならない教訓は、「務めを学びつつある人に腹を立ててはならない」ということである。

それよりも自分の教会の責任が変わる時にもっと心を惑わされることがある。あの責任だけは与えないで欲しいと話しておいたのに、監督やステーク部長からその召しの祝福が来るといことがしばしばある。そのような時、数々の悩みを克服してきたパウロの次の言葉を思い出すとよい。「わたしを強くして下さるかたによって、何事でもすることができ。」

(ピリピ4:13)

指導者がまだよく訓練されていない地の教会では、当然ながら変化の祝福も大きい。自分の能力でその変化に十分対応できると感じている者はほとんどいないであろう。新しい召しと増し加えられる責任によってもたらされる変化に対応できるよう私たちを助けて下さるイエス・キリストの力は、何とありがたいものだろうか。

この世の命から、永遠の御父と住む命への変化は、意義ある変革によってもたらされる最終目標である。私たちが皆より良い生活を目指す秩序立った有益な変化を求め、受け入れることができるように祈っている。これらの話をイエス・キリストのみ名により、慎んで申し上げる。アーメン。

聖典を読む

聖典は読む量を決めるより、毎日何分読むかを決める方がよいと思う



十二使徒評議員会会員
ハワード・W・ハンター

教会の指導者の勧告に従って、聖典を読み、勉強する時、様々な恩恵や祝福がある。それは私たちが行なう学習の中で最も有益なものである。旧約聖書や新約聖書は世界最高の文学としてしばしば引き合いに出される。これらの書は科学論文、哲学論文、歴史記録書とも見なされているが、しかしこれらの聖典や他の聖典の真の目的を理解すれば、それが実は純然たる宗教書であることに気づくはずである。

聖典には神とその民、およびその両者の関係についての基本的な宣言が記されている。聖典の各書には永遠の父なる神と御子イエスキリストを信じなさいという教えがあり、初めから最後の一行まで、神のみこころを行ない、神の戒めを守れという呼び掛けが流れている。

聖典は神が自ら啓示された言葉の記録であり、神はこれを通して人々に語られる。そうだとすれば、聖典を通して神を知り、神と人との関係を理解することを教えている書を読む以上に効果的な時間の使い方がどこにある

だろうか。多忙な人々にとって時間は貴重である。軽薄なもの、価値のないものを見たり読んだりして時間を浪費することは、時間を盗んでいることである。

読書の習慣は人様々であり、速読の人がいればのんびり読む人もいる。時間を細切れにして読む人もいれば、いったん読み出したが最後、終わるまでやめられない人もいる。しかし、聖典を探究する人ならば、理解には速読や通読以上に集中した精読が必要なことにお気づきであろう。毎日聖典を勉強する人の方が、長時間勉強したかと思うとぱったり休むという人よりも、はるかにはかどることは確かである。毎日勉強するだけでなく、邪魔されずに集中できる時間をきちんと取ることである。

聖典の理解力を深めるのに、祈りほど役立つものはない。祈りによって、私たちは心の波長を合わせ、探究の答えを求めするのである。主は、「求めよ、そうすれば、与えられるであろう。捜せ、そうすれば見いだすであろう。門をたたけ、そうすれば、あけてもらえるであろう」（ルカ11：9）と言っておられる。これは、私たちが求め、捜し、叩き、そして受ける用意ができていなければ、聖霊が私たちの理解の目を開いて下さることを主が確認して下さった言葉である。

大勢の人々は思考をさえぎる雑多なわずらいを忘れ去る一夜の眠りの後の、朝の勉強が一番良いと考えている。また、一日の仕事や心配事が一段落した静かな夜のひとときを勉強に費やし、聖典の言葉を味わいながら平安な気持ちでその日を閉じる方が良いという人もいる。

大切なのは、いつにするかという時間の間

題よりも、決まった時間を勉強のために取るということである。毎日1時間聖典の勉強ができれば理想的だが、それほど時間が取れなくてもきちんと30分間勉強すれば、相当な結果を得ることができる。また15分といえは、ほんのわずかな時間だが、それだけでもどれだけ意義ある事柄について知識と啓発とを受けることができるか驚くほどである。大切なのは、勉強中に何かに勉強が中断されることのないようにすることである。

ひとりで勉強することを好む人もいるが、仲間がいても有益な勉強をすることができる。賢い父、母が子供たちを集め、共に聖典を読み、その物語や思想をそれぞれの理解力に応じて自由に話し合う時、家族は大きな祝福を受ける。しばしば青少年や小さな子供たちが宗教の基本的な教えに関してはっとするような理解や洞察を示すことがある。

聖典は無計画に読むのではなく、計画をきちんと立てて読む方がよい。1日あるいは1週間に何ページとか、何章とかいうように予定を組んで読む人がいるが、この方法でも一理あり、楽しく読むことができるが、実りある勉強にはならない。聖典は、読む量を決めるより、毎日何分読むかを決める方がよいと思う。時には、わずか1節に全部の時間を使ってしまうこともあるからである。

イエスの生涯、行ないや教えはすらすらと読み進んでゆくことができる。たいいていの物語は簡明で、話し方も簡単である。救い主はその教えの中で多くは語っておられないが、どの言葉も意味が凝縮されていて、読者に鮮明なイメージを与えることができるのである。それでも、時々その簡明な言葉に表わされた深遠な思想について考え、何時間も過ごすことがある。

救い主の生涯の中で、マタイ、マルコ、ルカが共に記述しているある出来事がある。その主要な箇所をマルコはわずか2節と数語で語っているが、そこを読んでみたい。

「そこへ、会堂司のひとりであるヤイロと

いう者がきて、イエスを見かけるとその足もとにひれ伏し、

しきりに願って言った、『わたしの幼い娘が死にかかっています。どうぞ、その子がなあって助かりますように、おいでになって、手をおいてやってください。』

そこで、イエスは彼と一緒に出かけられた。」(マルコ5：22—24)

この部分を読むのは、30秒とかからない。短いし、簡単である。描いている情景もはっきりしていて、子供でも難なく反復することができる。ところが、時間をかけてよく考えてみると、深い理解と意味がつかめている。病気の少女がいて、イエスは出ていってその子に手を按かれたという話だといえればそれまでだが、単にそれだけでは終わらない。その箇所をもう一度読んでみよう。

イエスと彼に従った者たちはガリラヤ湖を渡り、カペナウムに近い岸辺でイエスの一行を待っていた群衆と会った。「そこへ(予期しなかった時に突然)、会堂司のひとり……がきて……」当時、ユダヤ教の大きな会堂は、会堂頭あるいは会堂司の指揮下で長老集団が管理していた。会堂司は、ユダヤ人から多大な尊敬を受けていた名誉ある職である。

マタイはこの会堂司の名前を記していないが、マルコは職名のあとに「ヤイロという者」と、名前を付け足している。この人の名前も聖典に出てくるのはここ1ヵ所だけであるが、イエスとわずかにまみえただけでその名が歴史にとどめられたのである。救い主に触れ、心や行動を変えられ、よりよい新たな人生に目覚めることがなかったら、忘却のかなたに忘れ去られていたはずの数多くの人間が、こうして記録され残っている。

「イエスを見かけるとその足もとにひれ伏した。」

会堂司という高位の人がイエスの足もと、つまり癒しの賜を持つ流浪の教師と見られていた人の足もとにひれ伏すということは、きわめて異例なことであった。識者や知名人の

多くはイエスに対して見て見ぬふりをし、心を閉ざしていたからである。現在もそれと大して変わっていない。大勢の人々の前に、イエスを受け入れるのを妨げる障害が立ちほだかっている。

「[そしてヤイロは]しきりに願って言った、『わたしの幼い娘が死にかかっています。自分のことよりも愛する人のために是非お願いしたいということでキリストのもとにやってくることはよくあることである。』「わたしの幼い娘が」と嘆願するヤイロの気持ちは、会堂司という高い地位がありながら、救い主の足もとにひれ伏す状況を見て、私たちは同情の心を禁じ得ない。

それから、ヤイロの偉大な信仰を表わす言葉が続く。「どうぞ、その子がなあって助かりますように、おいでになって、手をおいでやってください。」これは嘆き悲しむ父親の信仰の言葉であるばかりでなく、イエスが手を按かれた者はみな生きかえることを、改めて私たちに想起させる。もしイエスがその手を結婚生活の上に按かれるならば、結婚生活は命を得、もし家族の上に手を按かれるならば、その家族はよみがえるのである。

そして次に、「そこで、イエスは彼と一緒に出かけられた」とある。この出来事はその日の日程に組まれていなかったはずである。救い主は、教えを聴くために待っている岸辺の民衆のところへ、湖を越えて戻って来られたのであった。「そこへ」思いもよらずひとりの父親が横から願い出た。ここでイエスは、他の民衆が待っているからと頼みを無視することもできたはずである。ヤイロに、明日あなたの娘を見に行くという返事もできたであろう。しかし「イエスは彼と一緒に出かけられた」のである。私たちがこの救い主の足跡に従うなら、忙しいからといって隣人に必要なことを無視して過ぎてよいであろうか。

この話の残りは語るまでもないと思う。一行が会堂司の家に着くと、イエスは少女の手を取り、生き返らせた。イエスは同じように

して、救い主に手を伸べるすべての人々が新たな、よりよい人生を歩むことができるように高めて下さるのである。

私は、熱心に学ばばイエス・キリストについて一層の知識が得られる聖典を感謝している。主は旧約聖書、新約聖書のほかに、末日聖徒イエス・キリスト教会の予言者を通してキリストの新たな証人としてモルモン経、教義と聖約、高価なる真珠の聖典を与えて下さった。そのいずれも確かに神のみ言葉である。これらの書は、イエスが生ける神の子、キリストであることを証している。

私たちの上に主の祝福があって、私たちが正しい方法で主を求め、教えを学ぶことができるようにイエス・キリストのみ名により祈るものである。アーメン



スペンサー・W・キンボール大管長

魔の運び屋—ポルノ

確かに、不道徳に耽溺することほど重大なことはない。実情はどうだろうか。目を見開いて見ようではないか！ 聞こうではないか！ そして、行動を起こそうではないか！



十二使徒評議員会会員
トーマス・S・モンソン

兄弟姉妹の皆さん、今週イギリスのロンドンにあるヒースロー空港付近の田園ではどっしりとして威容を誇っているにれの樹木に木こりたちの斧や電動のこぎりの刃が入れられていることであろう。

その中には樹齢百年を越す大木もあるという。今までどれだけの人がその美しさをめでたことか。心地よい木陰でどれほどの人がピクニックを楽しんだことか。うっそうと生い茂った緑の枝の間を飛び交いながら、幾代にわたる小鳥たちがさえずりの歌を響かせたことだろうか。

この大木はもはや枯れてしまっている。老木だからではない。繰り返されるかんばつのせいでもない。この地方をたびたび襲う強風のためでもない。この恐るべき破壊者は一見無力に見えるが、その破壊者の招く結果はまったく悲惨である。その張本人こそオランダにれの木の天敵、きくい虫である。この害虫はヨーロッパやアメリカ一帯でにれの森林を食い尽くし、その死の行軍は衰えることなく続いている。その害虫を駆除しようと、あ

らゆる努力が払われたが、どれも失敗に終わっている。

オランダにれの木の病害は、まず木の先端部の若葉から始まる。そして次第に低い枝も冒され、夏の盛りにはほとんどの葉が黄変して縮み、落ちてしまう。こうなると、木は枯れていくばかりでどうすることもできない。森は生気を失い、きくい虫の犠牲になるだけである。

このにれの木は、何と人と似ていることだろう。ほんの小さな種が神の計画に従って成長し、養われて成熟する。天から注ぐまぶしい陽光、地の豊かな恵みはすべて私たちのものである。家族や友人たちの住む森の生活は豊かで麗わしい。そこへ突然、現代の人々の眼前に、忌まわしい魔性の敵、ポルノが出現する。それがきくい虫同様に、致命的な病害を運ぶ。私はそれを「放縦退廃病」と名付けたい。

私たちは初め、病菌に冒されていることにほとんど気がつかない。卑猥な話や如才ない漫画に笑いこけ、軽薄な言葉をはく。私たちは、貴く神聖なものをすべて汚し、破壊してしまおうとする人々のいわゆる「権利」を保護している。このポルノという虫は恐るべき力で私たちの意志をくじき、免疫性を失わせ、上へ伸びようとする力を仰えてしまう。

このようなことが本当にあり得るのだろうか。確かに、不道徳に耽溺することほど重大なことはない。実情はどうだろうか。目を見開いて見ようではないか！ 聞こうではないか！ そして、行動を起こそうではないか！

このような病害の運び屋、ポルノはとてつもない大産業である。マフィアにあやつられ、人々を汚染し、とりこにし、中毒にする。昨

年のFBIによる調査では、ポルノに合衆国全体で24億ドルが消費されたという。別の試算によれば40億ともいわれる富が、高尚な目的に使うことのできるどころから、悪の企てに吸い取られているのである。

ポルノに対する無関心のほとんどは、別に人に危害を加えるわけでもないのに、警察は別の方面で活躍してもらった方がよいといった一般市民の姿勢にもよるところが大きい。州や市の条令もほとんど効果なく、罰則は軽く、ポルノ産業のうまみに比べると危険などもの数ではないのである。

FBIは、ポルノが性犯罪と直接結び付く可能性があることを指摘している。当局の報道によると、「ある西部の大都市では、強姦および未成年者暴行罪で検挙された者の72%がポルノ雑誌を所持していたという。」

ある出版社、印刷業者は、毎日何百万部というポルノ雑誌を発行して印刷機を汚している。しかも、経費を抑えるということもない。上質の紙一面にカラー刷りの写真を載せて何とか読まれるものになっている。映画やテレビの製作者、芸能人もこの汚名を拭い去ることはできない。慎みは過去のものとなり、いわゆるリアリズムがもてはやされている。

最近のある人気俳優がこう嘆いていた。「放縦もすでに限界にきました。私の最新作も酷悪そのものでした。脚本を読んだ時、これはいかがわしいと思いましたし、今も下品な映画だと思っているのですが、撮影所のスタッフが金曜日の特別試写会で少し見せたら、それが視聴者に好評なんです。」

また別の俳優はこうも言う。「映画の製作者も出版社と同じように金儲け主義なんです。大衆に受けるものを作って儲けようとしています。」

ある人々はポルノを「硬派」と「軟派」に区別して、その間に一線を引きたいと必死であるが、現実には双方共、大して変わらないと思う。アレクサンダー・ポープの古典、「人間論」はまさにそのことを如実に物語ってい

る。

悪徳は醜悪きわまる風体の怪物、
見るだけならば憎まれるべき運命にある
のに見ること多ければその面に慣れ、
まずは辛抱、次いで哀れみ、はては
抱擁とくる。

(ジョン・バートレット *Familiar Quotations*「引用集」ボストン、リトルブラウン・アンド社 1968年)

このポルノというきつい虫の貪欲な休まない行進は、辺りを食い尽くし、人の生活をむしばんでいく。そして特に多くの人を知らず知らずのうちに傷つけるものである。

ここでしばらく歌で象徴されるある場所に行ってみたいと思う。アメリカ人にはなじみ深い、ニューヨーク市のブロードウェイと45番街の境界にある有名な一角のことである。せわしく行き交う車の間に、ひとりさびしく立っているのが、第1次世界大戦の69部隊の有名な従軍牧師、フランシス・P・ダフィー神父の像である。等身大よりやや大き目のこの像は戦闘服を着ていて、手には戦傷者の苦痛をいやす水筒と、死にゆく人に霊的な慰めをもたらす聖書が握られている。

この見事な像をじっと見ていると、記憶の回廊を通して「あそこに (*over There*)」「家族の火を燃やし続けよう (*Keep the Home Fires Burning*)」「ブロードウェイよろしく (*Give My Regards to Broadway*)」などのメロディーが流れ出てくるようである。このような歌を口ずさみ、在りし日のなつかしいブロードウェイや45番街をこよなく愛してきた戦友たちが、もしも生きて再びダフィー神父の像の傍らに立ったとしたら、その目で何を見ることだろう。どこを見ても、目に映るのはトルコ風呂やセックスショップ、ポルノ映画館などの欲情的なけばけばしいネオンサインだけである。フランシス・P・ダフィー神父の像は、罪に囲まれ邪悪に埋没している。この一帯は

ポルノの虫に食い尽くされ、壊滅寸前の状態にある。そしてこのきくい虫は同様に容赦なくあなたの町、あなたの近隣、あなたの家族に近づきつつあるのである。

カールトン大学の名誉学長ローレンス・M・ガウルド氏は不吉な警告の言葉を発している。

「私たちの未来を脅かす最大の脅威は爆弾でも誘導ミサイルでもない。現代の文明はそのようなことでは滅びないであろう。文明が滅びるのは、人々の無関心による。アーノルド・トインビーは、これまで21の文明のうち19までが外からの侵略ではなく、内部の問題によって滅びたと指摘している。これらの文明が朽ちる時には、音楽も、ひるがえる旗もない。崩壊は少しずつだれも気がつかない暗がりでも静かに起きてくるのである。」

私はこの10月に、近々封切りになるある映画の評論を読んだ。主役の女優が記者に、脚本や自分の役柄に対して真っ先に弁解したと語っていた。14歳の少年の性のお相手というのが彼女の役どころであった。彼女はこう述べている。「私、最初こんなシーン、私にはとてもできませんと申し上げました。そしたら、その場に、その少年のお母様を必ず同席させると保証して下さいましたものですから、それでお受けしたんです。」

私は尋ねたい。自分の息子がコブラにかまれようとしているのを、ただじっと見ていられる母親がいるだろうか。母親が息子に砒素やストリキニーネを飲ませようとするだろうか。母親の皆さん、どうだろうか。父親たちの皆さん、私たちはどうであろうか。このことに関連して、昔から、今もお私たちの耳にこだまする言葉がある。

「ああ、エルサレム、エルサレム、預言者たちを殺し、おまえにつかわされた人々を石で打ち殺す者よ。ちょうどもんどりが翼の下にひなを集めるように、わたしはおまえの子らを幾たび集めようとしたことであろう。それなのに、おまえたちは応じようとしなかった。」

見よ、おまえたちの家は見捨てられてしまふ。」(ルカ13:34-35)

今日も古代のソドムとゴモラが存在している。このソドムとゴモラは埃の積もった、めったに開かぬ聖書のページを飛び出し、実在する町としてよみがえり、「放縦退廃病」という大病を世にまんえんさせている。

私たちには、愛する者をポルノの致命的な汚染から守る防波堤としての責任があり、またその力がある。その戦いの作戦を3つ提案したいと思う。

1. 義に立ち返ること。自分が何者で、神は私たちがどうなることを期待しておられるかを知れば、個人として、また家族として祈ることの必要性を感じるはずである。その時、「罪悪は決して幸福を生じたことはない」(アルマ41:10)という不変の真理についてははっきりと知ることができるはずである。悪魔の邪魔立てを許してはならない。方向を誤って進まずに、全能な御方のあの静かな細い声に導かれることである。

2. 良い生活を求めること。私は快楽的な生活、ぜいたくな生活、俗的な生活を言っているのではない。永遠の生命すなわち母親や父親、兄弟、姉妹、夫、妻、息子、娘と共に永遠に住むことのできる生活を追い求めているだけだ。

3. 悪徳による汚染には断固戦っていくという誓い。ポルノという魔の運び屋に出会ったならば、初期アメリカの有名な言葉「我を踏むな」(ジョン・パートレット、*Familiar Quotation*「引用集」より)を私たちの旗印、この社会の旗印にしようではないか。

ヨシュアと共に声高く叫ぼう。「あなたがたの仕える者を、きょう、選びなさい。ただし、わたしとわたしの家とは共に主に仕えます。」

(ヨシュア24:15)心を清く保とうではないか。清い生活をしようではないか。聞かれる声を唱え、感じられる行ないをしようではないか。

その時、ポルノというきくい虫は行軍を阻む

ことができるであろう。「放縦退廃病」も勢いを失うであろう。そして、私たちはヨシュアと共にヨルダン川を渡り、約束の地すなわち神の日の光栄の王国において永遠の生命にあずか

るのである。

私たちがこれらのことができるようにイエス・キリストのみ名により、心から祈っている。アーメン。



七十人第一定会会長のニール・A・マックスウェル長老（左）とフランクリン・D・リチャーズ長老

多くの艱難の後に祝福は来る

悲しみや苦痛、試練、艱難によって、私たちはこの世に来た目的である訓練を受けるのである



七十人第一定員会会員
アドニー・Y・小松

13年前、日本で伝道部長をしていた時、私はある軍人の夫人からは是非会って欲しいとの電話を受けた。空軍パイロットの夫が、ベトナム戦争で戦死したというのである。伝道本部の私の部屋に案内されてきた彼女は、大きな写真を抱きしめていた。彼女は腰をおろすと、私にその写真を見せてくれた。手にヘルメットを持ち、ジェット戦闘機の横に誇らしげに立っている立派なパイロットの写真であった。

彼女はむせび泣きながら、夫をどんなに愛しているかを語り、またその夫の死んだことが信じられないと話した。彼女は2年前に改宗したばかりで、夫とは大学時代に知り合ったということであった。そして彼女に福音を紹介してくれたのが彼であった。福音を聞いた彼女はバプテスマを受け、ふたりは神殿で今も永世にもわたる結び固めを受けたのである。

彼と一緒に生活はすばらしく、人が求めることのできる最高のものであった。彼女は将来に大きな喜びと期待を寄せていた。しかし

今その夢はあまりにも早く、そして突然に、打ち砕かれてしまったのである。

彼女の生活は大きく変わってしまい、彼女はこれからの生活が万事うまくいくという確信を必要としていたのである。皆さんなら彼女にどのような助言を与えられるだろうか。

主は次のように言われている。

「われ誠に汝らに告ぐ、生くるも死ぬるもわが誠命を守る者は幸福なるかな。およそ艱難の中にも忠実なる者の報いは天国に於て更に大いなるべし。

汝らは……多くの艱難の後に続いて来るべき栄光に就きては、現在肉眼を以てこれを見ることを得ず。

多くの艱難の後に祝福は来る。」(教義と聖約58：2—4)

私たちはこの世での生活を通して多くの経験をする。そのような経験の中で、私たちはしばしば問題やチャレンジ、逆境、苦痛、試練、艱難に悩まされる。予言者ジョセフ・スミスが大きな苦しみを受けたあと、主は彼にこのように言われた。「わが子よ、汝この事を知れ、すなわちこれ皆汝に善からんため、汝に経験を与えんためのもなり。」(教義と聖約122：7)

教会の初期の会員や指導者は多くの苦悩、チャレンジ、試練を経験してきた。そして、多くの人々が福音に対する信仰と証のために自らの命を捧げた。開拓者の長旅の中で、大勢の大人、子供たちが路傍の墓に葬られた。

主は私たちにこのように約束しておられる。「およそ、われにありて死ぬる者は死を味わうことなし。そは死は彼らにとりて甘ければなり。

また、われにあらずして死ぬる者は禍なる

かな。そは、死は彼らにとりて苦ければなり。

汝相愛して共にこの世に生きよ。されば死にたる者を失いたるために涙を流し、ことに栄光ある復活の望みを有たざる者のためにいよいよ歎き悲しめ。」(教義と聖約42:46—47, 45)

最近、私はトンガのババウの離島に住む忠実なひとりの教会員の葬儀に参列した。この善良な兄弟は村中の人々に愛され、教会員だけでなく、教会員でない人々からも尊敬されていた。

参列者が家を出て墓地に向かった時、村中の人々がその後につき、皆は穏やかな湾が見下ろせる小高い丘に集まった。監督と参列者が遺族と向かい合っ立ち、後についてきた人々が墓を取り巻いていた。その時私は、多くの人々が悲しみに沈んで泣いている中で、未亡人になった夫人が愛する夫のそばに安らかな面持ちで座っているのに気づいた。

彼女は復活と救いの計画を知っていたのである。後に私は、彼女と御主人がニュージーランド神殿を訪問し、今も永世にもわたって結び固められていたことを知った。彼女の生涯において、これはこの上ない不幸な出来事というのではなく、神の計画の一部にすぎなかった。平安が彼女を包み、その姿からは福音に対する感謝の念さえ感じとれた。

キンボール大管長はこう述べている。「主は私たちが艱難や苦難に遭わないようにしようとは約束して下さっていない。むしろ、私たちに祈りという交通の手段を与え、私たちが謙遜に神の助けと導きを求められるようにして下さっている。つまり、私たちが祈りの家を築けるようにして下さっているのである。」

さらにこう述べている。「静けさの中で神のみ声を聞くことのできるような人生の深みに到達した人は、苦難の嵐の中にあっても落ち着いて前進できる安定した力を持っている。」(「聖徒の道」1979年10月号, p. 6)

1965年の総大会で、ハロルド・B・リー大管長はこう述べている。「照明の光を受けた神

殿はひどい嵐や濃い霧の中ほど際立って美しく見える。それとまったく同じように、イエス・キリストの福音も、心の悩みや個人的な悲しみ、苦しみが深い時ほど一層輝きを増すものである。」(Conference Report「大会報告」1965年4月, p. 16)

では、もうひとつの経験をお話しよう。数年前、日本において、ある伝道部の地方部からひとつのステーク部が組織されようとしていた。面接の段階で、地方部長は会社の最大の支店のマネージャーに昇進し、近々別の市に移る予定であることを話した。しかし主は、新しいステーク部長としてこの人を必要とされたのである。彼は教会幹部に呼ばれ、上司に昇進を考え直してもらい、その町にとどまってこの大切な責任を受けて教会のために働けないものかどうか尋ねられた。

地方部長は、すでに昇進の件を承諾してしまったこと、そして彼が管理するはずの支店を除いて全支店の人事異動が終わっていることを話した。彼はステーク部が組織されるまで、赴任を延期してもらっていたのである。

このような説明にもかかわらず、教会幹部は地方部長に、何とか上司に掛け合って要望を聞いてもらい、その結果を連絡すると言った。

その晩遅く、私はその地方部長から電話を受けた。彼の社長は、その市にとどまりたいので昇進の件を考え直してもらいたいという彼の要望を聞いて非常に驚きあわてたという。社長は彼に、もう一度真剣によく考え、5分たったら電話をするように言ったというのであった。そのような短時間のうちに、彼はこれからの生涯に影響を及ぼす決心を迫られたのである。そこで彼は私に助言を求めてきたのであった。

私は彼にこう答えた。主は日本にシオンのステーク部のひとつを組織するために、御自分の使徒を送られた。もし使徒が主にその地方部長の返事を伝えなければならぬとしたら、一体どうだろう、と。もちろん地方部長

は私に感謝を述べ、社長に電話をした。

翌朝早く、彼は伝道本部にやって来て正式に新しいステーキ部長として召されたのである。教会幹部に会社との折り合いについて尋ねられて、その地方部長は昇進が取り消されたこと、また会社の決めるいかなる役職でも受け入れなければならないことを話した。

教会幹部は帰る前に彼を祝福し、たとえ仕事において試練と苦悩の時期を味わうことがあっても、彼は個人の益を得ることよりも主に仕えることを選んだので、いつか社長に呼ばれて、会社に関する重要な決定を下すのを助ける日が来るであろうと述べた。

数年後、彼はまだステーキ部長であったが、会社の専務となって、主の使徒により宣言された約束が成就されたのである。この世における苦しみや悩みを信仰をもって耐え忍ぶ時、私たちに与えられる報いは何と大きいことであろうか。

予言者ジョセフに下された約束は、私たちにもあてはまる。「汝の不幸汝の困苦はただこれ東の間なり。

然り而して、もし汝よくこれを耐え忍ばば、神は汝を高きに挙げたまわん。かくして、汝あらゆる敵に勝つことを得ん。」(教義と聖約 121: 7-8)

オルソン・F・ホイットニーはこのように言っている。「私たちの味わう苦痛、経験する試練はどれひとつとして無駄なものはない。それによって私たちは訓練され、忍耐力や信仰、不屈の精神、謙遜さなどの特質が養われるのである。私たちの味わう苦痛、忍耐する事柄はどれも、特に辛抱強く耐え忍ぶ時には、私たちの人格を築き、心を清め、心を開き、私たちをより慈悲深い愛に富んだ者とし、なお一層神の子と呼ばれるにふさわしい者としてくれる……悲しみや苦痛、試練、艱難によって、私たちはこの世に来た目的である訓練を受け、それによって一層天の父、母のようになれるのである。」(スペンサー・W・キンボール、*Faith Precedes the Miracle*「奇跡に先

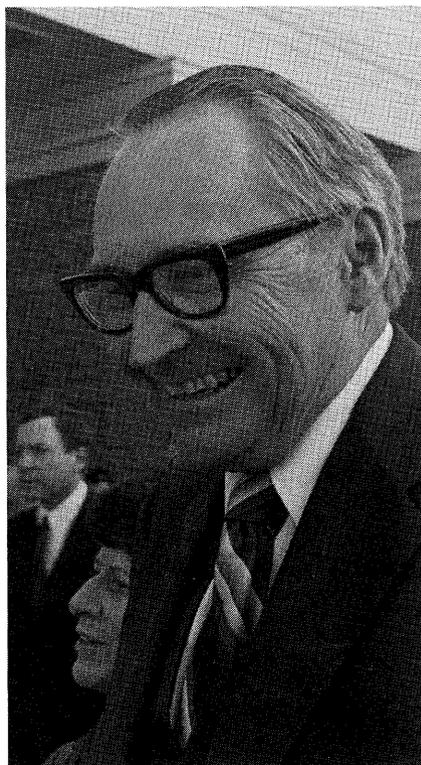
駆ける信仰」p. 98に引用)

キンボール大管長はこう言っている。「苦しみは聖徒たちを忍耐し、長く耐え忍び、自制できる民とする。救い主は、数々の苦しみを経験して学ばれたのである。

『彼は御子であられたにもかかわらず、まぎまの苦しみによって従順を学び、

そして全き者とされたので、彼に従順であるすべての人に対して、永遠の源と』なられたのである。』(ヘブル5: 8-9) (*Faith Precedes the Miracle*「奇跡に先駆ける信仰」p. 98)

私たちが試練や苦しみによく忍耐できるように。主の義しい裁きを信じて主を仰ぎ見ることができるよう。イエス・キリストの名によりへりくだりお祈り申し上げる。アーメン。



十二使徒評議員会会員L・トム・ペリー長老

永遠の幸福

私たちは現在の自分の状態ではなく、主に感化されることによって達する自分の状態によって自分自身を判断するようにならなければならない



七十人第一定員会会員
リチャード・G・スコット

美しいグランドピアノを壊してたき木にする人や、高価な卓上計算機を机の引き出しをこじあけるのに使う人を見る時、皆さんはどう思われるだろうか。高価な品をそのように使うことは考えも及ばないことであるが、今日の世の中には、精神、肉体、霊という貴重なものをもっと悲しむべき方法で誤用している人が大勢いる。

もし毎日の生活に真の意味と満足を見いだせない人がいたら、もし人生で一番欲しいと思っているものを手に入れられない人、絶望の最中であって幸福や仲間を求めようとして悪事に走ってしまっている人がいれば、そのような方々に私たちは希望と確信のメッセージをお送りしたいと思う。今は完全に理解できないかもしれないが、このメッセージは宗教の原則に基づいているので、顔をそむけないでいただきたい。なぜなら、私はそれが皆さんに最も望んでいるものを必ずやもたらすことを確信しているからである。

予言者のひとりには、主の靈感を受けて次のように述べた。「人類が現世に在るのは幸福を

得んためである。」(IIニーファイ2:25)すなわち、現世から永遠にわたる幸福を指している。しかし皆さんはこのように言うかもしれない。「どうしたら幸福を得られるのだろう。色々な人が助言を与えてくれるが、それらは往々にしてわかりにくく、私によく理解できない言葉や概念が多い」と。

神は御自分の子供たちがこのようなチャレンジに直面することを御存じであった。そこで神は幸福への確かな計画に気づくよう、正しい方法を備えられたのである。

ひとつの簡単な例を挙げてその方法をお話したいと思う。この箱をこの世界にたとえよう。この箱の中には磁石がふたつ入っている。ひとつは真理を表わし、もうひとつは誤りを表わす。それらの磁石からは強力な磁力が出ているが、皆さんはそれを見ることも感じることもできない。ただ自分の目で見、手でさわって真理と誤りの違いを知る以外にないのである。もし探知用としてもうひとつ磁石を使えば、間違いなくどちらが真理を表わす磁石か知ることができる。真理を表わす磁石はその磁石に引き寄せられるからである。同様に、誤りを表わす磁石もすぐに区別ができる。なぜなら、それは探知用磁石を近づけると反発するからである。

この世に生を受けている人は皆、探知する力を与えられている。神から与えられた賜で、真理と誤りを識別できるのである。私たちはそれを良心と呼んでいる。そして、神はそれをキリストのみたまと呼ばれた。この賜を正しく使うならば、私たちは自然に真理に引き寄せられ、誤りに反発するのである。

サタンは私たちがその神聖な賜を使うことを喜ばない。サタンは人を引きつけておいて

その陰に本当の目的を隠している。彼の目的は私たちの興味を自分に向けさせることである。そして、肉欲や欲望を満足させることに没頭して、私たちが真理と誤りを見分ける力を失ってしまうようにと望んでいるのである。そのような生き方は現在も、またこれからも決して幸福を生じることはない。生じ得ないのである。

もしこの探知用磁石の周囲に障害物を置いたとしたら、もはや真理を表わす磁石と誤りを表わす磁石の力を見分けることはできない。同様に、もし私たちが無関心や不信心のために誘惑に屈したり、神の戒めに従わなかったりすれば、私たちは自分の良心の周囲に障壁を築き、良心の力を失わせることになる。そうすれば当然のこと、真理と誤りを見分けることは困難となり、事実不可能となる。

主は私たち一人一人が悔い改めの奇跡によって罪の障壁を取り除き、再び真理と誤りを察知できる良心を呼び覚ますことができるように、御自身の命を捧げられたのである。

ではもうひとつの神聖な賜についてお話しよう。それは私たちの良心よりはるかに敏感で力強いものを内在している。この賜によって、私たちは自分の生活を導いてくれる清い真理を知り、自分の問題を解決する神聖な忠告を受け、さらには障害を克服する神の力を借りることができるのである。聖霊の賜がそれである。

ではこの貴い賜はどのようにしたら得られるのだろうか。また、すでに持っている人は、どうしたらもっと有効に使うことができるのだろうか。主はこのように言われた。「求めよ、さらば与えられ、叩けよ、さらば開かることを得ん。」(教義と聖約4:7) 皆さんは真心から求めるならば、さらに偉大な真理へと導いてくれる否定しがたい感情にかられることだろう。皆さんにはこれからもこのような大会の靈感されたメッセージを通して、唯一まことのイエス・キリスト教会を見いだす機会が与えられる。そして必ずやそのような教

会を知ることができるのである。

研究と祈りと従順に従うことによってふさわしくなれば、バプテスマを受けてイエス・キリスト教会の会員となり、按手礼によって聖霊の賜を受けることができる。

救い主はこのよう言われた。「されど、汝らに命ず、すべて何事も惜むことなく与えたもう神に願うべし。また、『みたま』の汝らに証したもうところを汝らの為すはわれ正しく望むところなり。すなわち、汝ら全く聖きことを以てこれを為し、わが前に正しく歩み、汝らの救いの末に就きて考え、祈りと感謝とを以て何事をも為し、かくして悪霊または悪魔の教えまたは人の造りたる戒めに陥らざる様に為さんことを。」(教義と聖約46:7)

神は私たちを環境によって左右されるままにこの世に置いてはおかれぬ。神は私たちに確かな成功をおさめるための計画、すなわち幸福になるための完全な計画である福音を与えて下さっている。

私たちは現在の自分の状態ではなく、主に感化されることによって達する自分の状態によって自分自身を判断するようにしなければならぬ。私たちはすでに知られている能力だけで成功への可能性を推しはかってはならない。私たちは神の力と私たちの生活に及ぼすその広範囲な影響力に頼ることができる。私たちの能力や強さは、私たちの前に立ちはだかるいかなるチャレンジにも対応できるように増し加えることができるのである。

聖霊の賜を受ける時、私たちは生活の中にもたらされるそのすばらしい力にもっと敏感になるよう努力しなければならない。祈りは神との交通手段である。神は私たちの生活に靈感や導き、力を与えて下さる聖霊を通して熱心な祈りに答えて下さるのである。

私たちの人生には常に道標があり、ひとつの道標を通り過ぎると、次にもっと高い地点の道標がはっきりと見えてくるのである。私たちがもっと注意深く聖霊の勧めに耳を傾ければ、道標にたどりつく前にそれを見ること

ができ、それによって一層安全に導かれるのである。そのためには、克己心や自制心、変化に快く応じる心が必要である。

救いは私たちが絶えず向上することによって到達する永遠の目標である。疑いは永遠の成長を妨げる精神的な毒物である。私たちは自分の道をはっきりと目で見える前にまず手探りで歩いてみなければならない。絶対的な確信がなくても、多くの正しい決定を下すことによって自分自身のふさわしさを立証するのである。こうする時に、以前には得られなかった、より確かな知識と確信が得られることだろう。

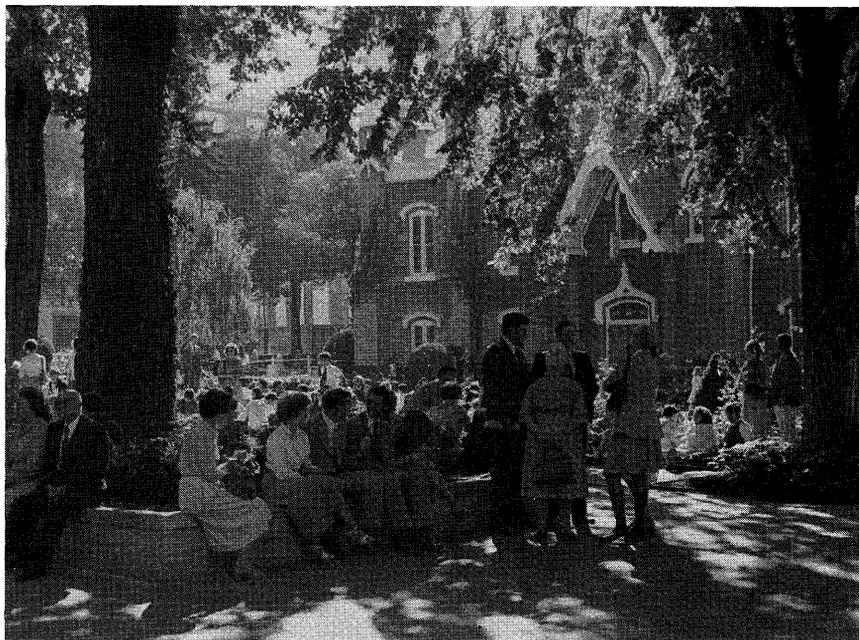
幸福はつくられるものである。そしてその核心となるものは愛である。他に誠実な信仰、真の悔い改め、完全な従順さ、無私の奉仕などがその要素となる。

私が例として挙げた磁石が真理を表わす力に引き寄せられたように、皆さんも信仰と祈りによって地上の神の王国をはっきりと見分

けることができるのである。

末日聖徒イエス・キリスト教会の会員、モルモンを捜して、回復された真理について尋ねてみていただきたい。そしてモルモン経を入手し、読み、熟考し、その原則を生活に取り入れていただきたい。そうすれば、きっとこの世だけでなく永遠にも及ぶ幸福を見いだせることだろう。

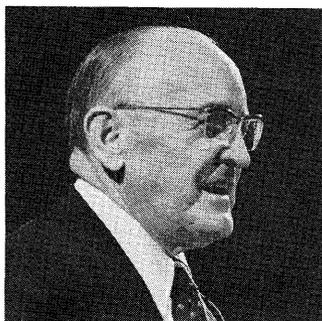
私は真心から、謙遜に、また厳粛に父なる神が御子イエス・キリストを通して地上に完全な真理を回復されたことを証する。主は御自分のみ名によって必要な救いの儀式を執り行なう権能すなわち神権を回復された。スペンサー・W・キンボール大管長は神の予言者である。私は心から大管長を愛し、支持している。私はこの末日聖徒イエス・キリスト教会がこの地上で、完全な真理と神権の権能を持つ唯一の教会であることを証する。これらのことをイエス・キリストのみ名により申し上げる。アーメン。



アッセンブリーホールの前でくつろぐ聖徒たち

戒めに従う

主は主と共に住む人々に、弱点や欠点を克服する力を求めておられる



七十人第一定員会会員
O・レスリー・ストーン

救い主の教えや、救い主が世の人々のために行なわれた数多くの出来事を思い起こすと、私たちはだれでも靈感される思いがする。救い主は歴史が記される以前から存在しておられた。天上の大会議の中にいて、御父が天と地を造られるのを助け、「いざ……われらのかたちに象りてわれらの像の如くに人も造り……」（アブラハム4：26）と御父が言われたことに応えて、人の創造をも助けられたのである。

救い主は、サタンの強制の計画に反対し、自由意志を用いて御父の計画を支持された。そして救い主は、私たちすべてにとって非常に重要な選択の権利を与えて下さったのである。

救い主はこの時の絶頂に約束の地に住まわれた。

故郷から遠く離れた所で生まれ、かいばおけの中に寝かされた。

善を積み、善を行なうことに専念された。人々が救い主に従ったのはこの世の富ではなく、天の宝を得るためであった。

救い主は人が守るべき新しい律法を定められた。すなわち互いに愛し合うこと、敵をも愛することを教えられた。また私たちに裁いてはならないこと、人を赦し、すべての人にもう一度機会を与えるようにと諭された。

私たち一人一人が、また地上の国々がこの律法に従うなら、今の世の中はどのように変わるだろうか。人がよくこのように言うのを耳にする。「赦しましょう。でも決して忘れませんよ。」言うまでもなく、これでは赦していることにならない。

教義と聖約第64章8節から11節の中で、主は互いに赦し合うのは私たちの責任であり、兄弟を赦さない人は罪に値し、さらに大いなる罪があると言っておられる。

マタイによる福音書第22章36節から39節には、当時の律法学者たちがキリストに詰め寄って質問した時のことが記されている。彼らの中のひとりがこう尋ねた。『「先生、律法の中で、どのいましめがいちばん大切なのですか」。イエスは言われた、『心をつくし、精神をつくし、思いをつくして、主なるあなたの神を愛せよ』。これがいちばん大切な第一のいましめである。第二もこれと同様である、『自分を愛するようにあなたの隣り人を愛せよ』。』

隣人を自分自身のように愛せない人が日の光栄の王国に入れるだろうか。イエスが第二の戒めを与えられた時、それは第一の戒めと同様であると言われ、それを繰り返して、次のように言われた。「これら二つのいましめに、律法全体と予言者とがかかっている。」（マタイ22：40）

救い主はこれらの戒めを非常に重要なものとされた。したがって、他のすべての律法や戒めはこれを基としているのである。

次にもうひとつ皆さんにお尋ねしたいと思う。人は第二の戒めに従わずに一番大切な第一の戒めに従うことができるだろうか。言い換えれば、同胞を愛することなくして、真心から神を愛することができるだろうか。答えは明らかである。

使徒ヨハネはこう言っている。『神を愛している』と言いながら兄弟を憎む者は、偽り者である。現に見ている兄弟を愛さない者は、目に見えない神を愛することはできない。

神を愛する者は、兄弟をも愛すべきである。この戒めを、わたしたちは神から授かっている。」(Iヨハネ4:20-21)

ニューフェイス第三書第11章第29節から30節にこのように記されている。「まことに、まことに汝らに告ぐ、争いを好む心ある者はわれに属く者にあらずして悪魔に属くものなり。悪魔は争いを生む親にして、人々の心を煽動して互いに怒り争わしむる者なり。

見よ、人々の心を煽動して互いに怒り争わしむるときはわが教義にあらず。わが教義はかくの如き怒りと争いとを止めよと言うものなり。」

これらの言葉から、主が私たちに互いに愛し合い、赦し合うよう望んでおられることは明らかである。私たちは皆、自己のプライドを捨て、同胞との誤解を解くために、あらゆる努力を払わなければならない。第3ニューフェイスからの引用にもあるように、争いや議論は悪魔に属くものであり、天父がよしとされるものではない。自分自身のように隣人を愛するを通して、私たちの生活には喜びと幸福がもたらされるのである。

キリストはこの世で人々に祝福を施し、癒し、回復の業を行なわれた。キリストは平和を作り出す御方であった。幾度となく病人や足の不自由な人、盲人を癒された。そして先程も話したように、人さえも生き返らせたもうたのである。

これらすべてのことをなしたあとで、キリストは自分の十字架を負わされ、カルバリの

丘に向かわせられた。しかし、キリストは御自分の命をとろうとしている人々をも赦された。最も苦しい状態にあつてさえ、このように言われたのである。「父よ、彼らをおゆるしてください。彼らは何をしているのか、わからずにいるのです。」(ルカ23:34)

キリストが亡くなられたのは、私たちが永遠の生命を受けられるようにするためであった。ヨハネによる福音書第11章25節から26節には次のように宣言されている。「わたしはよみがえりであり、命である。わたしを信じる者は、たとえ死んでも生きる。

また、生きていて、わたしを信じる者は、いつまでも死なない。」

キリストは墓からよみがえり、死に打ち勝ち、復活をもって世の人々を祝福された。

福音によって、私たちは素晴らしい救いの計画を与えられている。私たちは肉体を得、知識を得、技能をみがき、性格を築くためにこの地上に来ていることを知っている。また私たちは悪を克服し、主のみもとに帰って共に住むにふさわしくなるよう正直で信仰深く、勤勉でかつ戒めに従順でいられるかどうか試みられるためにこの世に来ている。

きょう私は、今までに私たちに与えられてきた数多くの祝福を思い起こしている。また、モルモン経の中でベンジャミン王が主から自分の民に注がれた祝福を挙げた後、次のように言った言葉を思い出した。

「ごらん、神がお前たちに要求なさるのは、お前たちが神の命令に従うことだけである。」(モーサヤ2:22)

確かに、主が私たちに望んでおられるのは、主の戒めを守ることだけである。このように言うのごく容易なことのように聞こえるかもしれない。しかしだれもが知っているように、それは決して容易なことではないし、またそう思ってもならないのである。多く与えられる者は多く求められる。主は主と共に住む人々に、弱点や欠点を克服する力を求めておられる。主は私たちに克己心と無私の心を求め

ておられる。これは決して容易なことではない。しかし、主は私たちが主の戒めを守ることができるように、多くの提案と指示を与えて下さっている。

主の戒めがこの世での幸福の妨げになると感じる人がいるかもしれない。しかしそれは間違っている。私たちは皆、心の奥底で主の戒めを守っていれば、昼のあとに夜が来るように確かに忠実な者に約束されている祝福を刈り取ることができることを知っているのである。主が次のように言われていることを思い起こしていただきたい。「汝らわが言うところを行わば、主なるわれこれに対して責任あり。されど、汝らわが言うところを行わずば汝ら何ら約束を受けず。」(教義と聖約82:10)

それがどのような形で成就されるかははっきりしない時があるかもしれない。しかし、主は必ず約束を果たして下さるのである。

私たちの中に裁きの日に、自分の務めをよく果たさなかったことを指摘されたいと思う人がいるだろうか。正しい生活を送らなかつたために、主の悪しき僕と呼ばれることを喜ぶ人がいるだろうか。マタイによる福音書第5章16節で、主は私たちに非常に大切なことを言っておられる。「そのように、あなたがたの光を人々の前に輝かし、そして、人々があなたがたのよいおこないを見て、天にいますあなたがたの父をあがめるようにしなさい。」

主の戒めを破ると罪の意識を感じるだけでなく、実際にこの世で受けるべき多くの祝福と、私たちが目標としている永遠の祝福を取り去られてしまう。コリント人への第一の手紙2章9節には、次のような大切な言葉が記されている。「目がまだ見ず、耳がまだ聞かず、人の心に思い浮びもしなかつたことを、神は、ご自分を愛する者たちのために備えられた。」そしてすべての人々に、次のような素晴らしい約束が与えられた。「もし汝わが誠命を守り終りまで忍ぶならば永遠の生命を得ん。これ神のあらゆる賜の中最大なるものなり。」(教義と聖約14:7)

最後に、私の証を述べたいと思う。御父と御子は確かにジョセフ・スミスに現われ、真のイエス・キリストの福音を回復するための指示を与えられた。また現在の私たちの指導者スペンサー・W・キンボール大管長および副管長たちは、神の真の予言者である。これらのことを私は証する。私たちは喜んで彼らに従って真理と正義の道を歩むつもりである。

これらの大管長会の方々が常に靈感を受けられるように祈っている。願わくは天父がこの3人の方々に、この重責を果たすに必要な十分な健康と力を与えて下さらんことを。イエス・キリストのみ名により申し上げる。アーメン。



七十人第一定員会会員ロバート・D・ヘイルズ長老

「わたしたちは若い者も、老いた者も行きます」

年長者の聖徒が常に喜びに満ちた生活を送るための8つの提案



七十人第一定員会会員
ヒュー・W・ビノック

数年前のことである。ペンシルベニア州の
エリーからピッツバーグに向かう飛行機
の中で、ある著名なプロテスタント教会の牧
師と隣り合わせた。服装から判断して、彼が
牧師であることは一目瞭然であった。私が末
日聖徒イエス・キリスト教会の会員であるこ
とを告げると、彼は次のように言った。「牧師
たちが何を話題にしているか御存じですか。
顔を合わせれば、モルモンのことを話して
いるのですよ。若人、かなり年輩の人々、十代
から小さな子供、それに新婚の男女に至るま
で、群れをなしてあなた方の教会の門をくぐ
っていることを知っています。どの年代の人
人も教会に集うことに満足しているようす
ね。」私は、牧師にこの教会がどのようにして
あらゆる年代の人々に関心を向けているかを
説明した。

その時、私が思い起こしたのは、パロを説
得してイスラエルの民をエジプトから去らせ
ようとした時のモーセの苦勞であった。数々
の災いが次々に下され、パロもようやく承認
するに至った。いなごの大群を恐れたパロは、

女性、若者、老人をエジプトにとどまらせる
ならという条件で、男たちがエジプトを出て
行くことに同意した。(出エジプト10：3—11
参照)。

しかし、モーセは全員を去らせるように主
張した。「わたしたちは若い者も、老いた者も
行きます。むすこも娘も携え、羊も牛も連れ
て行きます。」(出エジプト10：9)モーセは
主の民を離れ離れにすることを拒んだのであ
った。

すべての年代層の人々が様々な危険を共に
したのである。今から132年前、開拓者たち
が大いなる脱出をはかった時とまったく同じ
ように。あらゆる人々が年齢を越えて一致す
るというのは主の方法である。そして、それ
が主の方法であるからには、私たちの方法で
もある。

人生がその歩みを止めるということはない。
秒、分、時間、日、週、月、年、……時は人
を選ばず等しくその針を進める。どの年代の
人々も取り残されるということはない。だれ
ひとり幼年期、また青年、中年、老年期のま
まにとどまることはできないのである。私た
ちはすべて年老いて行く。そして、年ととも
に成長し続けるとしたら、これは素晴らしい
ことである。パウロは次のように語っている。
「たといわたしたちの外なる人は滅びても、
内なる人は日ごとに新しくされていく。」(II
コリント4：16)

私は自分の歩んだ道を振り返る時、歩みをと
もにし、指導して下さった年長者の方々への
深い感謝の念を禁じ得ない。私の大おばは彼
女らしい細やかな方法で私にたくさんのこと
を教えてくれた。また、立派な祖母は孫ばか
りか、孫の友人にまで影響を与えた。祝福師

は、その義しい生活と素晴らしい祝福の言葉を通して、多くの若人の生活を変えている。また、リブランド・リチャーズ長老は、その力強い声と証とによって、彼の証に耳を傾けるすべての人々や、その隣人に福音の真理を伝えてきた。偉大な予言者、キンボール大管長はその献身と並々ならぬ行動力によって、これまで多くの人々に感化を与えてこられた。

すべての人が必要なのであり、奉仕はすべての人に求められている。経験を積み、成熟の域に達した皆さんは、これまで大恐慌や2度にわたる世界大戦の中を生き抜いて来られた。この間、社会は馬車の時代から時速2,000キロ以上のコンコルド機の時代へと大きな発展を遂げている。ここで年長者の皆さんに少しお話したいと思う。

新約聖書に登場する中で、あまり詳しい記録のない人物もいるが、マナソンはその最たる例である。彼の名前は、わずかに一度出てくるだけである。「……古くからの弟子であるクプロ人マナソンの家に案内してくれた。わたしたちはその家に泊まることになっていたのである。」(使徒21:16)当時の宣教師たちは、旅をする場合、年長者の同行を願っていたようである。これは、明らかにそのような人々から知恵や知識を得ようと考えたからであると思われる。

「一体私たちに何ができるのだろうか」年長者の皆さんの中にはこのように言う人もいることだろう。

第1に、救い主について知るために時間を取ることである。救い主についてまだ知識が浅いと感じたならば、救い主について考える機会を多くしていただきたい。救い主について書かれた書物を読み、生活の中に、主を招き入れていただきたい。友人を得るのに遅すぎるといえることはない。主はあなたにとって最良の友である。

第2は、これまでの人生で経験してきた特別なことについて語ることである。皆さんが努力した事柄や達成した事柄を記憶の中にと

どめておいていただきたい。不変の真理について話し合う時間を取り、60年、70年、80年前にはどのようにして問題に対処していたかを示していただきたい。これは、過去の時代と同様に今日の人々にとっても有益である。私たちは、皆さんの指導を必要としている。

第3は、先祖に目を向けることである。神殿の扉は開かれ、皆さんを招いている。多くの死者が、皆さんが地上で儀式を執行するのを求めている。皆さんの余暇を生かすことによって、これらの死せる人々に祝福を及ぼすことができるのである。先祖は皆さんの働きを待ち望んでいる。

第4に、伝道についてであるが、皆さんにできることがたくさんある。夫婦で、あるいは伴侶がいなくても、ひとりの長老、姉妹宣教師として伝道することができる。年若い宣教師のように戸別訪問をすることはできないかもしれない。彼らのように長時間伝道することはどうみても無理だろう。しかし、皆さんは不活発会員を励まし、福祉活動を指導することができるだけでなく、訪問者センターで働いたり、地域社会の指導者と交わり、皆さんの優れた指導力、見識、人に教える能力を必要としている人々を助けることができるのである。西ドイツのシュツットガルトやメキシコのエルモシヨ、ペンシルベニア州ウィリアムズポート、コロラド州ロッキーフォードでは、多くの求道者が皆さんの言葉に耳を傾け、バプテスマを受けるに違いない。

第5に、自分が愛され、必要とされていること、また色々な面で人々を助けることができるということに気づいていただきたい。人間、年をとってくるとありがちなことだが、引きこもって、自分は不必要な存在だとか、取り残されているといった気持ちになってしまふことがある。中には、無視され、のけ者にされていると感じる人さえいる。しかし、大概は思い過ごしでしかない。私たちが皆さんの気持ちを理解できるように心を開き、思いのまま語り合うようにしていただきたい。

第6に、家庭の夕べを開くこと。一人住まいであれば、毎週月曜日の夜に友人を招待するとよい。皆さんが孤独感を抱いているなら、恐らくほかの人もそうである。孤独感を追い払うには他の人の孤独感を和らげるよう努めるしかない。家庭の夕べは、分かち合い、礼拝し、心をいやす絶好の場である。

第7に、できれば毎日散策し、救い主が創造された素晴らしい自然に触れることである。だれかを誘って一緒に散歩しながら、自然の美しさ、素晴らしさについて語り合うとよい。「時を支配して生きなさい。時に支配されてはならない。」(“The Problem of Old Age” Time『いにしえの問題』「タイム」1966年7月23日刊)

第8に、過去の失敗を忘れること。皆さんが歩んできた長い人生の間には良い思い出だけでなく、できるものなら変えてしまいたいと思うような経験もあることだろう。しかし、それはできないことである。それならば、自分で自分を傷つけたり、自棄的な態度をとるようなことはやめるようにしていただきたい。救い主が「人をさばくな」と言われた時、ひとつには自分で自分を裁いてはならないという意味もこめておられたのである(マタイ7:1参照)。悔い改めの精神は忘れずに、楽しく生活していただきたい。「人類が現世に在るのは幸福を得んためである」(IIニーフай2:25)という聖句はまさしく皆さんに当てはまる言葉である。

1955年8月20日の新聞には、バーナード・バルークが85歳の誕生日に次のように語った記事が載せられていた。「いくつになってもそうなのですが、私は老人とは、私より15歳年上の人のことだと思っています。」皆さんがすべきことはたくさんある。

では、ここで立場を変えてみよう。年下の人々は「私たちの方からは何ができるだろうかと尋ねるかもしれない。

第1に、両親、祖父母、年長者の友人と絶えず触れ合いを保ち、声を掛けたり、愛を示

したりする。これは確かに私たちの責任である。例えば、両親、監督、教師、友達などの何か特別な日には電話をかけたなり、あるいは手紙や簡単なメモを書き送ったりして、感謝の言葉を伝えるとよい。

第2に、私たち年下の者は、年長の方々と協力関係を築かなければならない。そうすれば互いに奉仕することを通して、王国の中でより良い働きをするための助けを得ることができるようになる。ステーク部長や監督、定員会会長、補助組織の指導者は高齢の会員たちにも、大切な責任を与えるようにすべきである。80代、90代という高齢にありながら人人に靈感を与え、指導し、神のみ業を推し進めるこれらの気高い人々がいない場合、教会幹部という組織体がどのようなものになるかを想像できるだろうか。

第3に、私たちは、多くの場合私たちよりも賢命な年長の人々の言葉に耳を傾けなければならない。彼らの勧告は若い人たちの考えよりも理にかなっている場合が多い。聞く耳を持つことは、思いやりの心から生まれるものである。私たち年下の者の性急さを赦していただきたい。私たちも、皆さんの勧告に従うよう全力を注ぎたい。

第4に、年長者の皆さんがこれまで長い間、忍耐と愛により私たちを養い育て下さったように、私たちも年長の方々のお役に立てるということである。多忙な日々ではあるが、このことを肝に銘じておきたい。皆さんが、上手にそして優しく私たちの涙をふいて下さったように、私たちも皆さんの涙をふくことができればと願っている。

最後に、私たちの指導者、また模範であり、最愛の友である皆様に心からの感謝を申し上げたい。天父と御子がひとつであるように、私たちも皆ひとつとなることができるよう、栄えあるイエス・キリストのみ名によって祈るものである。アーメン。

聖霊の賜

聖霊の賜は、植物に太陽や水が欠かせないように、私たちにとって不可欠なものである



十二使徒評議会会員
リグランド・リチャーズ

私は主のみたまに支えられてこの説教ができるように、心から願っている。最初に、予言者ジョセフ・スミスが合衆国の（マーティン）ヴァン・ビューレン大統領を訪問した時の出来事についてお話したいと思う。その席で大統領はこの教会と世のほかの教会との違いについて尋ねた。予言者ジョセフは質問に答えて言った。「この教会には、バプテスマを施す正しい方法と按手礼による聖霊の賜とがあります。」さらに付け加えて、「そのほか重要な事柄はすべて聖霊の賜の中に含まれています」（*History of the Church*「教会歴史」4：42）と言った。

ここで、聖霊の力によって私の心に浮かんだことを2、3お話したいと思う。この聖霊の賜は、権能を持つ人の按手により私たち教会員に授けられるものである。

聖霊の賜は、植物に太陽や水が欠かせないように、私たちにとって不可欠なものである。太陽や水を取り去れば、植物は枯れてしまう。それと同様に、この教会から聖霊の存在を取り去ってしまえば、ほかの教会と何ら変わら

なくなってしまう。それは教会員の信仰生活からも伺うことができる。

先ごろトロントで地域大会が開かれた折に、カナダの首相がタナー副管長にこう言った。

「あなたの教会の方が、無報酬でどうしてそんなによく奉仕されるのか理解できません。」

教会員が金銭的な報いを何ら期待せずに奉仕することは、非常に素晴らしいことである。この壇上におられる教会幹部の方々について考えてみよう。彼らが教会幹部に召された時、生活費が支給されるかどうかについては何も聞かされていなかった。私がワシントンに住んでいた頃のことである。ベンソン長老は十二使徒会の会員に召されたばかりで、まだ西部へ行って按手聖任を受けていなかった。ちょうどその時、私は管理監督としてベンソン長老の属するステーキ部の大会に出席していた。ベンソン長老は私にこう尋ねた。「監督、教会幹部として責任を果たす間、生活しているのでしょうか。」そこで私はこう答えた。「そうですね。少しは手当があるでしょう。しかし、貯えでもない限り、以前のような生活は望めないと思います。」

私はたまたま、ベンソン長老が農務省に勤めていた時に得ていた給料について耳にしたが、驚くばかりの金額であった。彼はそれを捨てて、何の保証も与えられないまま、十二使徒定員会の一員となるためにこの地にやって来たのである。

タナー副管長が教会幹部に召された時のことを考えてみよう。マッケイ大管長の言葉によれば、タナー副管長はカナダの首相になれる地位にいて、カナダ国内の幾つかの大企業の社長を務めていた人である。今この壇上にタナー副管長が立つならば、マッケイ大管長

から教会幹部に召された時、その報酬については何ひとつ話されなかったと断言するであろう。

このように、教会幹部の一人一人について、彼らがいかに仕事を犠牲にしてきたかお話することができる。では、なぜそのようなことをしたのだろうか。それは、イエスの次の勧告に従うことを可能にする聖霊の賜を受けていたからである。「まず神の国と神の義とを求めなさい。そうすれば、これらのものは、すべて添えて与えられるであろう。」(マタイ 6 : 33)

私が管理監督を務めていた時に、副監督のアシュトン兄弟が亡くなり、新たに(ソープ・B)アイザクソン兄弟が召されることになった。当時アイザクソン兄弟は、大きな保険会社の社長であった。ジョージ・アルバート・スミス大管長が召しを受け入れるかどうか尋ねると、アイザクソン兄弟はこう答えた。「はい。では東部に戻って会議を開き、新しい責任者を決めてきたいと思います。御存じのように、保険の仕事では人事が非常に大きな影響を与えるからです。……もし会社の人々が私の意見に賛成しなければ、会社は彼らの好きなようにさせましょう。」聞くところによれば、彼がそれまで納めていた什分の一の額は、管理監督会副監督になってから支給された生活費と同額であったという。しかし、そればかりではない。アイザクソン兄弟は副監督に召されてから最初の6カ月間の生活費をすべて教会に返してしまった。そして、こう言った。「私は伝道に出る機会がなかったので、今こそ何かをする時だと思えます。」

さて、このような兄弟たち一人一人から直接話を聞くことができたらよいと思う。例えば、私が10人の男性と2人の女性を使って仕事をしていた時のことである。ある日、大管長のメッセージが私の父を通して伝えられた。それはカルフォルニア州のハリウッド・ステーク部を管理する責任を受けることについて私の意向を尋ねるものであった。当時の情状

を詳しくお話しして時間を取ろうとは思わない。私は6日の間にすべての事業と立派な家売り渡し、家族と共に何の保証もないカルフォルニア州に引っ越した。何もかも初めからやり直さなければならなかった。

それから私がソルトレーク・シティーで事業を営んでいた時のことである。ヒーバー・J・グラント大管長は、短期間、宣教師が千人必要であり、「監督やステーク部長はすべてこれに該当する」と言った。その時、私は監督の責任を受けていた。私は妻と7人の子供を残して、また仕事を義兄に任せて、ニューイングランドへ向かった。普通ではそのようなことはしないであろう。聖きみたまによる靈感があったからである。

現在、世界各地で28,000人の宣教師が自費で伝道している。また、教会が組織されて以来10万人の宣教師が送り出されてきた。宣教師もまた聖霊の賜があるから伝道できるのである。彼らの大部分は、子供の頃から伝道に行く日を待ち望んでいた。

つい最近、ベンソン長老から伺った話を御紹介しよう。東部で開かれた宴会の席でのことである。ベンソン長老の隣に座わったある牧師が次のように話しかけてきた。「ベンソンさん、宴会の後でお話したいのですが。……」やがてふたりが宴会の席を立つと、その牧師はこう言った。「私の教会では、あなたの教会のプログラムをふたつ取り入れたいと思っています。」

ベンソン長老は、「それは何ですか」と尋ねた。

「まず、伝道のプログラムです。あなたの教会は全世界に宣教師を送り出しています。しかし、教会からは何も支払われず、伝道中の費用を自分で負担させています。教会がすることと言えば、帰還するための費用を支払うだけです。」さらに牧師は続けた。「私の教会では宣教師資金を設けています。そして、伝道に必要な費用と帰還するのに必要な費用を支払うようにしています。しかし、伝道に

出る人がいないのです。」

これは人の王国を築いているか、神の王国を築いているかの違いである。神の王国でなければ、聖きみたまが人々の心に注がれないのである。

この世の中に、昨晚の神権者の大会で行なわれたことをまねできる人はいない。大会の様子は1,700カ所以上の集会所で同時中継され、少年を含めて20万人以上の神権者が出席したものと推定される。ペテロが次のように言ったのも何ら不思議ではない。「しかし、あなたがたは、選ばれた種族、王国の神権者、聖なる国民、特異な民である。それによって、暗やみから驚くべきみ光に招き入れて下さったかたのみわざを、あなたがたが語り伝えるためである。」(欽定訳Iペテロ2:9より和訳)

私の後ろで素晴らしい歌声を響かせている合唱団の方々について考えてみよう。彼らは50年以上も歌い続けている。(個人として50年以上歌っている人はいないと思うが、合唱団としては50年以上になる)しかし、それに対して何の報酬も支払われていない。毎週練習のためにここに集い、私たちのために歌ってくれる350人の方々に対して、何の報酬も支払っていないのである。

私が南部で伝道部長をしていた時、ほかの教会が建てたまだ新しく美しい礼拝堂を訪れたことがある。そこの牧師が案内してくれた。ところが敷地の崖が崩れて、地下室が表に出ていた。私は牧師に向かって言った。「私たちの教会ではこういう場合どう思いますか。」

「どうなさるのですか。」

「修理して、若い人たちが楽しめるようにしますね。」

「そうですね、リチャーズさん。あなたの教会ならできるでしょう。訓練された指導者がいますし、彼らに報酬を支払う必要がないのですから。でも、この教会ではそうはいきません。訓練された指導者はいませんし、支

払うお金もないのです。」私にはその理由がわかっていて。なぜなら、私たちの教会のある会員が毎週彼の合唱団で歌っており、牧師はそのお礼を払っていたからである。

私たちが、タバナクル合唱団やワード部聖歌隊で歌う人々に、また補助組織で働くすべての人々に、何らかの報酬を支払わなければならないとしたらどうであろうか。考えてみていただきたい。金曜日の夜に地区代表の集会があり、正確な人数は覚えていないが、およそ190人位が集まっていた。彼らは実業家や会社の経営者、専門職を持つ人々であるが、神の王国を打ち建てるために何の報酬も期待せずに各地で働いている。神が私たちに聖霊の賜を授けて下さったことに感謝したい。予言者ジョセフ・スミスがあらゆるものは聖霊の賜の中に含まれていると言ったのも当然のことである。

さて、聖書の中で聖霊の働きが最も顕著に現われているひとつの例として、ペテロの話を取り上げてみよう。イエスは最後の晩餐の席上で弟子たちに向かい、この中に裏切者がいると言われた。するとペテロは言った。「たとい、みんなの者があなたにつまずいても、わたしは決してつまずきません。……

たといあなたと一緒に死なねばならなくなくても、あなたを知らないなどとは、決して申しません。」イエスは言われた。「今夜、鶏が鳴く前に、あなたは三度わたしを知らないと言うだろう。」(マタイ26:33—35参照)やがてイエスは捕えられた。ペテロが中庭に座っていると、ふたりの女中がやって来てそれぞれ言った。「あなたもあのガリラヤ人イエスと一緒にだった。」(マタイ26:69)ペテロは2度ともその言葉を激しく打ち消した。その後男がやって来て同じことを言った。ペテロは何も知らないと言って激しく誓い始めた。その時、鶏が鳴いた。その後ペテロは、「外に出て激しく泣いた。」(マタイ26:75)この出来事はペテロが聖霊を受ける前に起こったことである。

イエスは弟子たちに、聖きみたまを授かるまでエルサレムにとどまるように言われた。また、御自分が去らなければ、助け主が遣わされないとも言われた。「しかし、助け主、すなわち、父がわたしの名によってつかわされる聖霊は、あなたがたにすべてのことを教え、またわたしが話しておいたことを、ことごとく思い起こさせるであろう。」(ヨハネ14:26)

では、聖霊を受けてからペテロはどうなったであろうか。ある時、祭司長からエルサレムの通りで福音を宣べ伝えてはならないと命じられて、ペテロは言った。「人間に従うよりは、神に従うべきである。」(使徒5:29) ペテロは恐れを知らないライオンのようにであった。

数年前に伝道部長と一緒に中央アメリカ伝道部を旅行した際に、私はその地方の大聖堂のひとつを訪れた。その建物の片側の壁には、初期の十二使徒が殺された時の光景が描かれていた。パウロはネロの手にかかってローマで首を切られていた。ペテロは頭を下にして十字架にかけられていた。救い主と同じ姿で十字架にかけられるのは、自分にふさわしくなかったからである。これはペテロが聖霊の賜を受けた後のことである。彼が救い主を否定した時と比較していただきたい。

さて、教会の業を見れば、すべての会員に聖霊の賜が与えられているのがわかるであろう。私たちは毎日ひとつの割合で美しい教会堂を献堂している。これはすべて教会員の献身によるのである。すなわち、教会員の納める什分の一や献金によって建築が可能になるのである。そして、この献身的な行動の源こそ、教会員となる時に按手により授けられる聖霊の賜である。

そのことについてお話ししよう。私は南部にいた時、アトランタからやって来た巡回説教師に出会った。その説教師は彼の教会の指導者たちに、負債をなくす方法について説いていた。彼はマラキ書から次の聖句を引用した。「わたしが天の窓を開いて、あふるる恵みを、

あなたがたに注ぐか否かを見なさい。」(マラキ3:10)そして、10カ月の間什分の一を納めるなら、負債はなくなると教えた。説教が終わってから、私は彼と話をした。「私の証をお伝えしたいと思います。あなたの教えはきわめて真理に近いものです。でも、ひとつだけわからないことがあります。あなたはあの聖句が主の民に祝福を与える主の律法であると言われましたが、もしそうなら、わずか10カ月間で祝福されるのではなく、一生の間祝福を受ける方がよいと思うのですが。」

するとその説教師は言った。「リチャーズさん、私たちはとてもそこまではできません。」人間の才能や能力だけに頼っていたのでは、この教会の偉大なプログラムを遂行できないし、立派な建物を建築することもできない。

そろそろ時間もなくなってきたようである。神の祝福が皆さんの上にあるように。福音の回復や神権の回復、また聖霊の賜を含め神権を通して私たちが享受するすべての祝福と恵みを心から感謝している。十二使徒会の会員に召された時、私はこの説教台から、私の子供たちがこの世のだれよりも聖霊を伴侶としてくれるようにという話をした。きょうも同じ気持ちを感じている。子供たちの上に、私の上に、そして皆さんの上に聖霊の助けがあるように。イエス・キリストのみ名によって申し上げる。アーメン。



この山地をわたしにください

ただ、主にそむいてはなりません。またその地の民を恐れてはなりません。
……主がわたしたちと共におられますから、彼らを恐れてはなりません



大管長
スペンサー・W・キンボール

愛する兄弟姉妹の皆さん、皆さんの中で、今お話し下さったリグランド・リチャーズ兄弟を御存じのない方はいないと思う。また、リチャーズ兄弟がこれまでの生涯、いつも熱心に伝道してこられたことを御存じない方もいないと思う。私がアリゾナでステーク部長会の職にあった時、リチャーズ兄弟が私たちのステーク部を訪問されたことがあった。その時、リチャーズ兄弟は私たちに多くの大切な事柄を教えて下さった。私が今でもはっきり覚えているのは、その後、大会の締めくくりとして、ふたりでアリゾナ州のマイアミに行き、夜遅くまで福音の話をしたことである。リチャーズ兄弟が覚えておられるかどうかはわからないが、その時の話は、私の心に深い印象を残している。最近もこのような光景を目にした。大管長会と何名かの教会幹部の兄弟たちが、ニューメキシコで開かれる地域大会に向かっていたところ、飛行機の故障のために空港で待たされることになった。飛行機は部品を交換するために、コロラド州のデンバーまで戻らなければならないという。

私たちは待合室で座って待っていたが、リチャーズ兄弟はパイロットやスチュワーデスに話しかけて、彼らに福音を説いていた。まさに彼のような人こそ宣教師と言える。

リチャーズ兄弟の先のお話では、宣教師数は28,000名ということであったが、現在は29,000名以上に達していると思う。ともかくも、リチャーズ兄弟をはじめ、彼のお話にあったように常に変わらず忠実である他の幹部の兄弟たちに、私たちはこの上なく感謝している。

今大会は実に素晴らしい大会であった。この場に集われた皆さん全員がそう感じておられると思う。話をして下さった兄弟たちに感謝している。主は兄弟たちの祈りに答え、準備と説教に当たって助けを与えられた。

大会に出席するためにはるばるやって来て下さった方々に感謝を申し上げたい。皆さんの中には、大きな犠牲を払い、不便をしのんでやって来られた方もおられると思う。私たちは皆さんのそのような信仰に感謝し、主が皆さんを祝福をして下さるようにと祈っている。そして、閉会の讃美歌を歌い、最後に「アーメン」と言った後も、今大会で聴かれたメッセージが皆さんの心にいつまでも残るようにと願っている。私たちは、これから皆さん方指導者がそれぞれのステーク部、あるいはワード部、家庭に帰られた時にどういう働きをするかが一番大切なこともよく知っている。

私はここで、イスラエルの民がエジプトから約束の地に脱出した話を引用してお話を進めたいと思う。この話には、私が深く心動かされるひとりの特別な人物が登場する。その人の名前はカレブである。

モーセは、奴隷の境遇にあったイスラエル

の民を率いてエジプトから脱出して間もなく、約束の地を探り、その生活状態を報告させるために12人の男たちを派遣した。その中にカレブとヨシュアがいた。40日の後、彼らは約束の地を探り終えて帰ってきた。彼らはいちじくとざくろと一房のぶどうを持ち帰ったが、ぶどうは棒を使ってふたりでかついで帰って来るほど大きなものであった。

探察隊の大部分の者は、約束の地とそこに住んでいる民の状態についてきわめて悲観的な報告をした。彼らは乳と蜜の流れる美しく、望ましい地を目にしたが、一方で、その町が堅固で非常に大きく、巨人のような「アナクの子孫」が住んでいるのも見たのであった。イスラエル人の探察員たちは、背の高いアナクの子孫に比べて、自分たちがいなごのように思えたと報告した。しかし、カレブは、主が言う「違った心」（民数14：24）を持っていたので、見方が少し異なっていた。そのため、カレブの探察の旅の報告とイスラエルの民に対するチャレンジは、まったく違ったものであった。カレブはこのように言っている。「わたしたちはすぐにのぼって、攻め取りましょう。わたしたちは必ず勝つことができます。」（民数13：30）

ヨシュアとカレブは、偉大な信仰の持ち主であった。ふたりは一緒になって、イスラエルの民はすぐにも約束の地に進むべきだと説き、こう言っている。

「もし、主が良しとされるならば、わたしたちをその地に導いて行って、それをわたしたちにくださるでしょう。それは乳と蜜の流れている地です。

ただ、主にそむいてはなりません。またその地の民を恐れてはなりません。……主がわたしたちと共におられますから、彼らを恐れてはなりません。」（民数14：8—9）

しかし、意気地がないイスラエルの民は、エジプトの国で奴隷の身であった方が安全だったと言って、神を信ぜず、カレブとヨシュアの言葉には従おうとはしなかった。それば

かりか、民はふたりを石で打ち殺そうとさえした。

イスラエルの民は信仰がなかったために、結局それから40年もの間荒野をさまよい、ちりを食べて生きることになったのである。その時もし彼らに信仰があったならば、乳と蜜の豊かな恵みを受けていたであろう。

そして、主はイスラエルの民に対して、エジプトを出て以来常に忠実でなかった者は皆、すなわちヨシュアとカレブ以外ひとり残らず、民がカナンの地に入る前に死ぬであろうと言われた。ヨシュアとカレブは、その信仰の故に、彼らと彼らの子孫とは約束の地で生き長らえるという約束を受けたのである。

さて、探察隊の12人が約束の地を探り終えて帰って来てから45年が過ぎ、イスラエルの新しい世代はヨシュアに率いられて、カナンの征服を終えようとしていた。時に、カレブはヨシュアにこのように言っている。

「主のしもべモーセが、この地を探るために、わたしを……つかわした時、わたしは四十歳でした。そしてわたしは、自分の信ずるところを復命しました。

しかし、共に上って行った兄弟たちは、民の心をくじいてしまいましたが、わたしは全くわが神、主に従いました。

主がこの言葉をモーセに語られた時からこのかた、イスラエルが荒野に歩んだ四十五年の間、主は言われたように、わたしを生きながらえさせてくださいました。わたしは今日すでに八十五歳ですが、

今もなお、モーセがわたしをつかわした日のように、〔少なくとも福音の精神と、福音が求めること、必要とすることにおいては〕健やかです。わたしの今の力は、あの時の力に劣らず、どんな働きにも、……堪えることができます。」（ヨシュア14：7—8、10—11）

このカレブの例から、私たちは非常に大切な教訓を学ぶことができる。カレブは嗣業を得ようとして最後まで忠実であった。私たちは、カレブのその努力を見落とさないように

しなければならない。主は私たちに対して、その王国にひとつの場所を与えると約束して下さっているとは言え、ふさわしい者となって報いを得るためには常に忠実であるように努力しなければならないのである。

カレブは最後に、ひとつの願いであり、チャレンジでもある宣言をしているが、その言葉に私はまったく同感である。約束の地にはまだアナク人や巨人が住んでいたの、彼らを征服する必要があったのである。カレブはすでに85歳になっていたが、「この山地を……わたしにください」（ヨシヤ14：12）と言っている。

この言葉は、み業に対する私の今の気持ちでもある。私たちの行く手には、立ち向かわなければならない数々の難題、機会が待ち設けている。しかし、私はそれらを明るい見通しを持って迎え、へりくだって主にこう申しあげたいと思う。「この山地をわたしにください」、「これらのチャレンジを私にください」と。

主ならびに皆様方、キリストのこの聖なる目的のために共に働く兄弟姉妹に、私はへりくだってお願い申し上げる。私は、これからもイスラエルの神を信じて前進するつもりである。なぜなら、イスラエルの神は私たちを教え導き、最終的には主の目的を成就して、約束の地と約束された祝福に至らせて下さることを知っているからである。

「イエスは言われた、『手をすきにかけてから、うしろを見る者は、神の国にふさわしくないものである』。」（ルカ9：62）

私は、私の精力と能力の限りを尽くして、「全くわが神、主に従う」つもりである。

私は皆さんの一人一人が、イスラエルのすべての神権指導者、成人女性、青少年の男女、子供に至るまで、私と同じ誓いを立て、惜しまず努力をして下さるよう、心から切に望むものである。

兄弟姉妹の皆さん、私たちが進めているのは主のみ業であり、真実なものであることを

証申し上げる。私たちは主の用向きを持てる者である。この教会は主の教会であり、主がその頭であり、隅石であられる。この証を私の愛と祝福と共に心からイエス・キリストの名によって申し上げる。アーメン。



スペンサー・W・キンボール大管長

不変の原則

これら財政管理に関する5つの原則に従うならば、いかなる経済状態が来ようと、財政的な安定と心の平安を保つことができるであろう



第一副管長
N・エルドン・タナー

第2次世界大戦中に、十二使徒定員会会員のアルバート・E・ボーエン長老は、ラジオでの一連の説教をまとめた「不変の原則」(*Constancy amid Change*)と題する本を著した。この中には、実に時宜にかなったメッセージが盛り込まれている。当時の世の中は争いに満ちており、世界中の人々が確信と平安をもたらす不変のメッセージを求めているのである。

現代の世も戦争の繰り返された当時とよく似た面が多い。私たちは現在、数々の困難な問題に直面している。国際間の重要な政治問題に加えて、ここ数十年来最悪の経済危機、すなわちインフレと個人の財政管理の問題とを抱えている。

私はボーエン長老の著書のタイトルをお借りして、60年間の勤労生活から得た確信と私の個人の経験についてお話ししたいと思います。私は様々な経済状態を経験してきた。社会に出て間もない頃、金銭的に困窮したことがあった。国内の不況や世界的な大恐慌を経験し、景気後退やインフレの時代をくぐり抜け、世に言

う解決策が経済状態の変遷と共に現われては消えていく様子をこの目で見えてきた。その結果、私はロバート・フロストと同じ確信を持つに至った。彼は次のように述べている。

「人の思いが変わり、世が移り行く、
すべては、受け入れる真理、
拒む真理に起因する。」(エドワード・C・レイサン編、*The Poetry of Robert Frost*「ロバート・フロスト詩集」p.58)

これからお話しすることは、いつまでも変わることのない基本原則に対する私の考えである。この原則に従うならば、いかなる経済状態が来ようと、財政的な安定と心の平安を保つことができるであろう。

まず最初に、基本的な事柄と将来の見通しについて考え、この経済原則の適用範囲を明らかにしたいと思う。

ある日、孫が私のところに来て次のように言った。「ばくは、おじいさんを初め多くの成功した人を見てきました。そして、自分も成功した人間になろうと決心したのです。ばくは、できるだけ大勢の成功した人に出会って、成功の秘訣を聞きたいと思っています。おじいさん、これまでの生活を振り返って、成功するために一番大切な要素は何だと思いますか。」

私は主が与えて下さった最も偉大な成功の公式を引用した。「まず神の国と神の義とを求めなさい。そうすれば、これらのものは、すべて添えて与えられるであろう。」(マタイ6:33)

皆さんの中には、神の国を第一に求めなくても経済的に豊かな人がある、と言って反論する人もいるだろう。確かにその通りである。しかし、神の国を第一に求める人に、主は物

質的な富だけを約束しておられるのではない。私自身の経験からもわかるが、先の反論は当を得ていない。ヘンリック・イブセンは次のように述べている。「金銭は物事の外皮であって核心ではない。金銭によって食物は手に入っても、食欲は手に入らない。薬は買えても、健康は買えない。知人はできて、友人はできない。召使いは雇えても、忠実な人は雇えない。楽しい日々が続いても、そこに平安と幸福はない。」(The Forbs Scrapbook of Thoughts on the Bussiness of Life「フォーブスの仕事に関する名言集」p. 88)

物質的な祝福は、義しい目的をもって義しい方法で求める時に、はじめて福音の一部となるのである。ここでヒュー・B・ブラウン副管長の経験を思い起こしてみよう。第1次世界大戦の時に若い兵士として働いていた彼は、ある日、年輩の友人を見舞うために病院を訪れた。この友人は80歳になる大富豪であるが、今や死の扉の前に立たされていた。離婚した妻や5人の子供のうち、だれひとりとして病院に見舞いに来る者はなかった。ブラウン長老は、友人が失ってしまった、金銭では買うことのできないものについて考え、彼の悲劇的な状態と悲しみの深さを思いやった。そして、こう尋ねた。「もう一度人生をやり直せるとしたら、どのように生活を変えたいと思いますか。」

数日後に他界したその老紳士は、次のように答えた。「今振り返ってみれば、私は最も大切に価値ある財産を確かに持っていたと思う。しかし、巨万の富を築く過程でそれを失ってしまった。その財産とは、私の母が神に対して、また人の不死不滅に対して持っていた純粋な信仰のことだ。……君は人生で最も価値あるものについて尋ねた。私にはその答えとして、あの詩以上に適切な言葉は浮かんでこない。」彼はブラウン長老に、書棚から一冊の小さなノートを取り出して「私は異邦人」という詩を読むように言った。

母の教えた信仰を捨て

私はひとりの異邦人
母の求めた神を忘れ
私はひとりの異邦人
祈りによる慰めもなく
私はひとりの異邦人
死んだ父を抱きかかえた
永遠のみ腕も私にはない。
きらびやかな世界に誘われて
私はすべてを捨て去った。
盲目となった私は
神のみ手からすべり落ち
目のくらんだ私は
空しい名声を追い求めた。
きらきらと光を放つ黄金に
人生のすべてををかけていた。
やがて勝利者となった私は
限りない報酬をこの手にした。
しかし、名声も、黄金も、快樂も、
すべての財産も投げ与えよう
私の母を支えていた
あの信仰さえ得られるなら。

「これが、教会員の家庭に生まれながら教会から離れていった男の最後の証である。莫大な財産を手に入れたが、この世の富を築くために最も大切なものを失い、孤独と絶望の淵に沈んだ男の叫びである。」(Continuing Quest「永遠の問い」pp. 32—35)

モルモン経の中で、予言者ヤコブは次のように重要な勧告を与えている。

「財産を求める前にまず神の王国を求めよ。あなたたちがすでにキリストに望みを持つてから宝を求めたならばその通りに宝が手に入るであろう。しかし、その時あなたたちがその宝を求める目的は、裸でいる者に着物を着せ、飢えている者に食を与え、束縛されている者を救って自由にし、病んでいる者と悩んでいる者とを救うなど、およそ善事を行うことである。」(モルモン経ヤコブ2：18—19)

基本となる観点は以下の通りである。まず神の王国を求め、効果的な計画を立てて実行

し、賢明に時間を使い、将来の設計をし、そして与えられた財産を神の王国の建設のために役立つ。この永遠の観点から物事を見直し、固い基盤の上に立って生活するならば、入念な計画と熱意をもって遂行すべき人生の目標や日常の仕事に、自信を持って対処できるようになるであろう。

この考え方に基づいて、経済的な安定を図るための5原則について説明したいと思う。

原則1. 正直に什分の一を納める。什分の一を納めることは主や教会に対する寄付であると考えている人がいないだろうか。什分の一を納めることは、主に対する負債を返済することである。主は、私たちの生命も含めて、あらゆる祝福の源となる御方である。

什分の一を納めることは戒めであって、ひとつの約束を伴っている。すなわち、この戒めを守るならば、「地に於て栄ゆべし」(アルマ50:20)という約束が得られるのである。この繁栄は、物質的な事柄だけにとどまらない。健康や精神の活力、家族の一致、霊性の高揚などももたらされる。皆さんの中に什分の一を完全に納めていない人がいるならば、その人は戒めに従う信仰と勇気とを求めている。創造主に対する義務を遂行するならば、この戒めを守る者にしかわからない実に豊かな幸福を味わえるであろう。

原則2. 収入の範囲内で生活する。何でも買えるだけの収入を得ることなどできる訳がない。私は確信を持って言うが、人の心に平安をもたらすものは収入の額でなく、その財政管理である。金銭は従順な僕にもなるし、厳しい主人にもなる。生活水準をいくらかゆとりのある程度に抑える人は、自分の置かれている環境を支配するが、いくらか収入を超えた範囲に求める人は、環境に支配され、とらわれの身となる。グラント大管長はかつて次のように述べた。「人間の心の中に、あるいは家庭の中に、平安と満足をもたらすものがひとつあるとすれば、それは収入の範囲内で生活することである。反対に人々を苦しめ、

落胆させるものがひとつあるとすれば、それは支払うことのできない負債である。」(Gospel Standards「福音の標準」p.111)

出費を収入の範囲内に抑える鍵は、簡単明瞭である。それは自制と呼ばれている。この人生において私たちは遅かれ早かれ、自分自身を制することを学ぶ。食欲を制し、経済的な欲求を抑えるのである。収入の範囲内で生活し、思いがけない時のために幾らかの蓄えを残す人は、何と祝福されていることであろうか。

原則3. 欲しい物と必要な物を区別する。購買欲は人が造り出すものである。自由競争の経済社会では、限りない商品とサービスが生み出され、それがより便利でぜいたくな暮らしに対する私たちの欲望を刺激する。私はこのような商品やサービスを利用する人、あるいはそれを生み出す経済制度を批判するつもりはない。私に関心を持つのは、購入に際して末日聖徒が正しい判断力を行使することである。犠牲が永遠にわたる訓練の重要な部分を占めていることを忘れてはならない。

合衆国や他の国々において、第2次世界大戦後に生まれた多くの両親や子供たちは、繁栄の時代だけを経験してきた。欲しい物がすぐに手に入る時代である。そこには、働く能力を持つ人がすべて働ける十分な職があった。昨日はぜいたく品であった物が、今日は必需品と考えられる世の中である。

ここで代表的な若い夫婦を紹介しよう。この夫婦は、両親が長年の犠牲と苦心の末に手に入れたぜいたく品々を、結婚当初から自分たちの家庭に備えようとした。あまりにも多くの品物を早急に求めたふたりは、安易なクレジットの計画に走り、負債の中に身を沈めた。そのため、教会が勧める食糧貯蔵や他の非常時に備えるプログラムを行なう経済的な余裕がなくなってしまった。

互いのわがままと粗雑な財政管理は、結婚生活に重大な亀裂を生じる。夫婦間の問題の多くは、経済的なことから始まっているよう

である。家族を養うのに十分な収入が得られないか、あるいは収入を正しく管理していないか、そのどちらかである。

ある若い父親が財政上の助言を求めて監督のところに来た。そして、よく耳にする次のような話をした。「監督さん、私は技術者として十分な訓練を積みましたから、今では高い収入を得ています。収入を得る方法を学校の教師から学んだのです。でも、その収入を管理する方法はだれも教えてくれませんでした。」

すべての学生が消費者として必要な知識を学校で身につければ、それは望ましいことである。しかし、彼らを訓練する責任は、まず第一に両親にある。両親はこの大切な責任を学校に任せきりにしたり、転嫁したりしてはならない。

この訓練を行なう上で重要なことは、負債について説明することである。多くの場合、経済上の負債には2種類ある。すなわち、消費によって生じる負債と投資あるいは業務上の負債である。消費によって生じる負債とは、日常生活で使用または消費する品物をクレジットで購入することである。例えば、洋服や家庭用品、家具などを分割払いで買う場合がそうである。この負債は、将来の収入を担保にして借りたものである。これは非常な危険をはらんでいる。失業や思わぬ緊急事態に遭遇すれば、返済が困難になる。その上、分割払いは最も費用のかさむ購入方法である。品物の価格に加えて、高い利子と手数料を取られてしまう。

若い夫婦であれば、時にはクレジットによる購入を必要とすることもあるだろう。しかし、ここで注意しておきたいことは、実際に必要とする物以外は購入しないこと、そして負債はできるだけ早く返済することである。金銭的な余裕がない時に、利子による余計な重荷を負ってはならない。

投資負債は、家族の生活を保証できる範囲に担保を制限すべきである。投機的事業に手を出してはならない。投機には、人を酔わせ

る独特の雰囲気がある。人間の尽きることのない物欲によって、多くの財産が失われてきた。過去の人々の悲劇から学ぼうではないか。そして、ますます増え続ける商品を手に入れようと、飽くことを知らない物欲の奴隷になって、時間や労力や健康を費やすことをやめようではないか。

キンボール大管長はこの問題について示唆に富んだ勧告を与えている。

「主は私たちに過去の時代には見られない繁栄を与えて下さった。私たちは豊富な資源を支配し、この地上で生活を営んできた。しかし恐ろしいことに、多くの人々は牛や羊、土地や建物、また富に満たされすぎて、偽りの神であるそれらのものを崇拜し始め、それらのものに支配されるようになってきた。私たちの信仰はもはやこれ以上の物資に耐えきれずにいるのではないだろうか。人々は永遠の幸福を願って多くのお金、株、債券、有価証券、土地、クレジットカード、家具、自動車、その他この世の安易な生活を保証するもので身を固めるためほとんどの時間を費やしている。私たちの務めは、与えられた豊富な資源を家族や定員会で用いて神の王国を築くことであるという事実を見落としているのである。」

(『偽りの神々』「聖徒の道」1977年8月号、p. 351)

キンボール大管長の言葉に加えて、このことを証したいと思う。家族の理にかなった要望や必要以上に財産を蓄えても、心の平安や幸福感が増すわけでは決してない。

原則4. 予算を組んで、その範囲内で生活する。私の友人の娘は、ブリガム・ヤング大学の海外研修プログラムで半年間外国に行っている。彼女はいつも送金を求める手紙を家に書いてきた。友人は心配になって国際電話をかけ、送金が必要な理由を聞いた。すると彼女は電話で次のように説明した。「だってお父さん、送っていただいたお金は、全部使ってしまったんですもの。」

友人は答えて言った。「わかっていないようだね。私が尋ねているのは出費の計画、予算であって、使ってしまったお金の記録ではないんだよ。」

恐らく両親というものは、下宿中の息子から電報を受けた次の父親のようにあるべきだろう。「カネナシ、タノシミナシ。ムスコ」父親は折り返し電報を打った。「キノドクニオモウ。チチ」

長年にわたり大勢の人々と面接して感じたことは、賢明な予算を組み、それにそって自身を抑制できる人があまりにも少ないことである。多くの人々は、予算を組むと自由が奪われると考えている。反対に、成功している人々は、予算が真の経済的自由をもたらすことを知っている。

予算や財政管理をひどく複雑にしたり、そのために多くの時間を使ったりする必要はない。ある移民して来た父親の話であるが、彼は支払うべき勘定書はくつの箱に、取り立てるべき勘定書は書類差しに、そして現金はレジスターに収めていた。

ある日、息子が次のように尋ねた。「どうしてこんな方法で仕事になるんですか。利益のあったことは、一体何からわかるのですか。」

その男は答えて言った。「息子よ、私が船から降りた時、身に着けているものと言ったらズボンだけだった。今では、お前の姉は美術の教師になり、兄は医者になった。そして、おまえは会計士だ。私は車や家を手に入れ、良い仕事にも恵まれている。すべてが順調にいった。だから、ズボン以外に数え上げるものはすべて、私の利益なんだよ。」

賢明な会計カウンセラーは、適切な予算には4つの要素があると教えている。第一に食料品や衣料品など生活必需品に要する費用、第二に家庭の維持に必要な費用、第三に貯金や健康保険、生命保険など非常時の必要に備えるための費用、そして第四に将来のための賢明な投資と貯蔵プログラムに要する費用である。

この中からふたつの要素を取り上げてみよう。私たちの生活の中で、思いがけない出来事ほど避けられないものはないだろう。医療費が高騰する現在、ほとんどの家族にとって健康保険が、大きな事故や病気、あるいは出産、特に早産などの費用を賄う唯一の方法になっている。生命保険に加入すれば、一家の主人が不幸にして早死にした場合も、遺族は引き続き収入を得ることができる。すべての家族が適切な生命保険と健康保険に加入して、備えをすべきである。

以上の基本条件を満たした上で、事業投資用の資金を作るために節約して定期的に貯金するのである。これは私の意見であるが、定期的に貯金する習慣をまず身につけずに、投資で成功した人はほとんどいない。これには識別力を伴う判断力と自制心が必要である。投資には様々な方法がある。ただひとつだけ忠告すると、投資のカウンセラーを正しく選ぶことである。投資で成功することによって、あなたの信頼を受けるにふさわしい人物であることを確かめていただきたい。

原則5. 金銭上の事柄に正直になる。正直の理想的な姿は、決してその姿勢を崩さないことである。教会の指導者や会員として、私たちは正直を絵に描いたような人物になるべきである。

兄弟姉妹の皆さん、私は以上の5原則を通して、模範的な財政管理や予算がどのようなものであるかお話ししてきた。

それらの原則を適用して、私たち一人一人が善い結果を得るように願っている。以上の事柄が真実であることと、私たちの従事するみ業とこの教会が真実であることを証する。イエス・キリストのみ名によって、アーメン。

神権評議会における扶助協会の役割

評議会に関係のある扶助協会役員はあまり多くありませんが、その影響力は広く全世界に及びます



中央扶助協会会長
バーバラ・B・スミス

今 皆様がお聴きになった美しい歌は、扶助協会のドラマ「エリザベスのために」の中の『愛を込めて』という歌です。詩が生き生きとして美しいこの歌を耳にすると、私は予言者ジョセフ・スミスの次の言葉を思い出します。

「女性が人を思いやる気持ちや親切心を持つのは自然である。」「そのような感情は神が女性心に植えつけられたものであり、皆さんは今、その感情のままに行動できる立場に置かれているのである。」(*History of the Church* 「教会歴史」4：605)

扶助協会が組織されたそもそもの理由は、聖徒たちの世話をする監督の仕事に力を合わせて援助し、ひいては地上における神の王国の建設に貢献するためでした。

前回の総大会において、ベンソン会長から、神権評議会による教会管理を強化する計画について説明がありました。（「聖徒の道」1979年10月号、pp. 123—27）

この集會に臨むにあたって、私は大管長会から、神権評議会における扶助協会の役割を

説明するようにとの指示をいただきました。教会員、とりわけ扶助協会の会員の方々は、教会における扶助協会の役割の重要性を強調したこの新たな発展をよく知る必要があると思います。評議会に関係のある扶助協会役員はあまり多くありませんが、その影響力は広く全世界に及びます。

これから御一緒に評議会について考えてみましょう。

中央福祉活動委員会は、教会の基本的な方針を定める評議会のひとつです。中央扶助協会会長会は、この委員会ならびに管理役員会で働きます。

私たちは、扶助協会という組織を通してこのふたつの集會に、承認されたプログラムを発展させ、指導し、実施するための人材を提供します。そればかりでなく、世界中の扶助協会の姉妹たちと交流した経験を基に将来のあり方についての意見も述べます。福祉の問題に関して、これはとても役立っているようです。

例を挙げますと、しばらく前になりますが、監督の倉庫の運営委員会の一員を務めるあるステーキ部扶助協会会長から私共の方に、パンケーキミックスを例にとり、製品の表示の説明が十分でないために、援助を受けている人々が食物を無駄にしているという報告がありました。そこで、私たちは早速そのパンケーキミックスを取り寄せ、試食してみたのですが、表示の説明通りですと、なるほど固くてまずいのです。次に、市販されているものの説明に従って、牛乳と卵を加えてみました。今度は、ふっくらとした美味しいパンケーキが出来上がりました。

このテストの結果から、私たちは、監督の

倉庫の全生産品の表示に簡単な作り方の説明を付け加えるようにお勧めしました。新しいラベルは間もなく出来上がる予定だと聞いています。今後は、福祉の援助を受けている人にも喜んでいただけることでしょう。

中央福祉活動委員会に出席して気づいたのは、私たちは一方的に、必要とされる物の見方を示すばかりでなく、扶助協会のテキストを作成するのに参考となる見解をいただけるということです。具体的に申しますと、個人と家族の備えなどの福祉の原則を取り入れることや、福祉プログラムの大切さを姉妹たちになお一層認識させることなどです。また、福祉プログラムの目指すところが理解できることで、扶助協会の人的資源を上手に活用するよう指導することができます。

地域評議会

地域評議会は、地域における計画を立て、発展させる主体となる評議会です。この評議会は、地域の代表役員を務める教会幹部が管理し、代表役員は地区代表ならびに他の関係者の援助を受けます。

扶助協会は、次のような形でこの評議会に関係します。

1. 代表役員は、認可された扶助協会の方針、プログラム、関心事、あるいは援助手段について中央扶助協会会長と協議することができます。

2. 総大会時にソルトレーク・シティーで開かれる地域評議会の集會に、割り当てを受けた中央扶助協会管理会の一員が出席します。出席を要請された管理会員の務めは、代表役員の訓練を助けることです。

3. 代表役員から招待された場合は、ひとりのステーク部扶助協会会長が地域評議会に出席します。招待を受けたステーク部扶助協会会長は、女性の立場から福祉の本計画を検討できるように、その地域における福祉の問題や扶助協会の個々の事柄についてよく知っていなければなりません。たとえば、仮に地

元の扶助協会会長が、福祉の受給者に対してパンを家で焼くように奨励しているとしたら、その場合、必需品として記載されている小麦粉ならびにその他の材料の支給は当然、調整しなければならないことがわかります。また、家庭での省エネルギーや、健康管理、職業訓練、財政管理の訓練の実施といった計画を実際に実行に移せるかどうかともわかります。看護婦や他の保健衛生関係者についても役に立つ情報を入手することが必要です。

複合地区評議会

複合地区評議会は通常、デゼルト産業、監督の倉庫、それに末日聖徒社会福祉機関の事務所も入ると思いますが、そのような施設機関が設置されている地区に設けられます。この評議会を管理するのは代表役員で、該当地区の地区代表、その他の関係ある神権者によって構成されます。

福祉活動あるいは扶助協会の女性に影響を及ぼす問題について話し合う場合は、各地区から1名、代表役員が指名したステーク部扶助協会会長が出席します。指名を受けた扶助協会会長は、各々の地区の他のステーク部扶助協会会長と連絡を取って情報を集め、評議会の議題として取り上げられるような問題点や活動、責任などのリストを作成します。

地区評議会

地区評議会は、複数のステーク部に関係する管理運営事項を相互調整し処理します。この評議会は地区代表が管理しますが、果たす役割は地域あるいは複合地区評議会における代表役員のそれに準じます。福祉活動について話し合う場合に、地区代表より指名されたひとりのステーク部扶助協会会長が出席します。これによって、デゼルト産業の場合では家内手工芸プログラムの運営、未婚の母の世話、末日聖徒社会福祉機関を通じての里親捜し、福祉活動プログラムに女性のボランティアを備えるといった問題に対して、女性の物

の見方、考え方を反映させることができるのです。監督の倉庫運営委員会について言えば、扶助協会会長は、パターンを利用して流行を取り入れ、サイズと量を揃えるなどして縫製品の質を上げることに、特に貢献できると思っています。

地区評議会に出席を指名された扶助協会会長は、福祉活動の面で女性を訓練する計画を立てる務めがあります。そして、計画を実際に必要とされている事柄に対処できるものにするために、正確な情報を集めなければなりません。地区内のほかのステーキ部扶助協会会長と連絡を取って、議題として取り上げられそうな事柄を聞くことが、指名を受けた姉妹の責任です。

地区評議会の決議や実施事項を各ステーキの扶助協会指導者に伝えるのは、地区代表ならびにステーキ部長です。指名を受けて評議会に出席したステーキ部扶助協会会長ではありません。

すべてのステーキ部扶助協会会長は年に一度、地区評議会の集会に出席します。この集会では、福祉に関する訓練を受け、それぞれのステーキ部ならびにワード部で福祉活動がどれだけ効果的に運営されているかを評価します。

ステーキ部およびワード部評議会

4月にベンソン会長からお話がありましたように、ステーキ部とワード部の評議会ならびに福祉活動委員会については従来と変わりありません。これまで通り、扶助協会会長の3人は、福祉活動の面に関して特定の務めを果たします。扶助協会会長は、議題を準備し、ふたつの評議会の決議に扶助協会の考えが十分に反映されるようにしなければなりません。

これらの評議会を通じて、神権者と扶助協会が今後もひとつとなつて努力していくならば、ワード部ならびにステーキ部における福祉活動を運営していく上で大きな力となるで

しょう。このような例は、ユタ州オグデンで多くの家が流失したあの洪水の時に見られました。オグデンのステーキ部長はこのように報告しています。「ステーキ部扶助協会会長は、私を待っていませんでした。彼女の方から先に来て下さったのです。」

ステーキ部長の指示を受けた扶助協会会長は、早速姉妹たちを組織し、被災者と救援者のために食料を調達しました。そして、すぐ調理する場所を決め、バンやステーションワゴンの中に間に合わせに作った台所で、温かい食事を用意し、被災地まで届けました。洪水が引くと、男性も女性も協力して、泥をかぶった家の壁や床の汚れを落としにかかったということです。

ワード部やステーキ部におけるこれらの重要な評議会で割り当てを受けた姉妹たちは、早急に話し合うべき事柄や直面している様々な問題に対してよい解決策を持って臨むために、徹底した準備をすることがいかに大切であるか自覚する必要があります。すべてのワード部およびステーキ部の扶助協会会長の方が、教会の手引きや会報の指示を心にかけて、それぞれ評議会に出席して下さるようお願いしてやみません。

家族会議

ベンソン会長は、もうひとつの評議会についてもお話しになりました。それは、すべての教会員が参加できる家族会議です。この家族会議は、他のすべての評議会に先立って行なわれるべきものです。

すべての家族は、定期的に家族会議を開いて、家庭内の事柄を話し合うことが必要です。たとえば、居間のカーペットを購入するために家計をどうやりくりするかや、庭の手入れはだれの受け持ちにするか、夏休みの過ごし方はどうするかなどについて話し合うのです。家族みんなで話し合うと、よい考えが得られるものです。ある父親が特別な家族会議を開き、おばあさんの片脚を切断することについ

て話し合いました。やさしいおばあさんのことがいろいろと思い出されて、みんな涙ながらの決断だったそうです。

その家族は早速、おばあさんを家に呼んで一緒に生活することに決めました。その時、母親はこのように言いました。「おばあさんがいらしたら、我が家の女王さまになっていたかもしれません。おばあさんが不自由しないように、ベッドは居間に置きましょうね。」母親の愛と思いやりにあふれた態度は家族にも影響を及ぼし、全員が母親に倣うようになりました。その結果、おばあさんは死ぬまで幸福に過ごし、そのことはまた家族全員の生活を高めることになりました。それまでになかった一致と協力の精神が育まれたのです。

女性の影響力が最もよく表われるのは家庭においてですが、家庭の中で培ってきた感受性を他の会議にも生かし、男性と女性が協力して全人類の福利のために最大の価値ある結果を生み出せるようにすべきだと考えます。

私たち民の歴史では、「豊かさ」を悩み苦しんでいる人々のために役立てた時に素晴らしい結果を生んでいます。そして、その瞬時に、苦しみを取り除かれるうれしさというものを知るのでした。

救い主は私たちに、持てるすべてのものをみ業のために捧げるようにと願っておられます。新約聖書の中に、イエスが、さい銭を投げ入れる様子を見ておられたという記述があります。たくさんのお金を投げ入れた者もいましたが、そこにひとりの貧しいやもめが来て、大事にしていたレブタ2つを入れました。

(マルコ12:42参照)

主はこのやもめの捧げ物を受け入れ、その理由をこのように述べておられます。「よく聞きなさい。あの貧しいやもめは、さいせん箱に投げ入れている人たちの中で、だれよりもたくさん入れたのだ。」

みんなの者はありあまる中から投げ入れたが、あの婦人はその乏しい中から、あらゆる持ち物、その生活費全部を入れたからである。」

(マルコ12:43-44)

主はここで、神の息子、娘となる道を示して下さっています。信仰を持ってあらゆる財産を捧げるならば、道は開かれ、苦悩は軽くされるのです。この原則を免除される人はだれもいません。

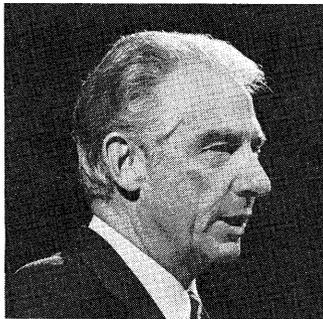
兄弟の皆様、扶助協会会長の方々は、自分が受けている祝福だけでなく全生活をも分かち合って、神権評議会の運営に協力し、この大いなる愛のみ業の発展に務めたいと念願しております。イエス・キリストのみ名によって証申し上げます。アーメン。



N・エルドン・タナー第一副管長

神権によって管理運営される福祉活動

大管長会は神権指導者に、地元の教会員の自立を促す計画を、慎重に祈りの気持ちを持って立てるようにと勧告してきた



七十人第一定員会会員
J・トーマス・ファイアンズ

二 の大いなるサマリヤ人の業を推しめるに当たって、特別な天与の感受性を具えておられる扶助協会の姉妹たちと手を取り合い、ともに働けることは素晴らしい祝福である。

ただ今、スミス姉妹は神権評議会について話された。教会の諸事を管理運営するために、神権評議会が、地域、地区、ステーク部、ワード部の各レベルで組織されている。これらの評議会が効果的に機能するためには、各レベルで教会の全プログラムの代表者が出席し、適切に相互調整を図り、実施事項を決議することが必要である。これらの評議会が適切に組織され、運営されるならば、教会の宗務と実務の一体化が図られ、個人と家族に祝福がもたらされるであろう。

承認された指針と方針に従って、地域評議会は毎年、地域の主要目標を概説した計画を検討し、承認を得るために提出する。

福祉活動における神権管理の一部としてこれらの評議会に託されている大切な役割に、特別な関心を払っていただきたい。

大管長会は神権指導者に、地元の教会員の自立を促す計画を、慎重に祈りの気持ちをもって立てるようにと勧告してきた。会員が必要としているものが変わってきたこと、教会の急速な発展、予測のつかない現代の情勢、困っている教会員に援助の手を差し伸べるようにと教会に下された主の戒め（教義と聖約52：40参照）、これらの事柄を考える時に、このことが特に重要になってくる。

本計画の立案

福祉活動の本計画は、次の段階を踏んで立てる。(1) 福祉活動に関する福音の原則と実践について教えるための計画を練る。(2) 貧しい人や悩んでいる人が何を必要としているかを見きわめる。(3) それらの必要を満たす援助手段を活用する。

この計画が完全に実施されるようになると、様々な状況の下で、貧しい人や悩んでいる人の世話をする監督を援助するために必要な、倉庫資源制度の諸要素が地域内に備わってくる。

聖典には次のように記されている。

「汝ら貧しき者、乏しき者および病める者、悩める者たちを万事に憶えて憐れむべし。これらの事を為さざる者はわが弟子にあらざればなり。」（教義と聖約52：40）

私たちは、この計画の進行状況について寄せられた報告に非常に喜んでいる。すべての地域が倉庫資源制度の全要素を備えることができるとは思わないし、同一のスケジュールで進めることができるとも期待していない。地区や地域によって、その計画に大きな影響を及ぼす地理的な条件や教会員数、そのほか優先順位などが様々に異なっている。したが

って、計画の準備に当たって、ほかと比べてもっと時間を要する評議会もあるだろう。私たちが代表役員に望むのは、実務担当者と協議し、この本計画を実施する時期や規模、質を見守ることである。それぞれの地域に実際に必要な活動を計画する時、主は靈感を与えて下さるであろう。計画は綿密に立てていただきたい。そうすれば、福祉活動を実施することにより今後大きな成果が得られることだろう。良い計画を立てれば、資金の調達も計画通り順調にできるし、また会員による奉仕の割り当ても、他のプログラムや活動との適切なバランスをとりながら進めることができる。

個人の役割

次に、会員個人に望みたい。個人と家族は物質的な福祉の面で、どのような役割を担っているだろうか。幾つかの強調すべき基本的な事柄について考えてみよう。

1. 健康を保ち、社交面と情緒面で安定した状態を保てるように具体的な計画を立てる。
2. 教育を受けて様々な才能を伸ばし、経済的に安定した職業に就けるように備える。不必要な借金をしない。
3. 食糧や衣類、さらに可能な所では燃料も、1年分貯蔵する。
4. 教会や地域社会、助けの必要な人々のために、自分の時間と才能、資産（惜しみない断食献金と什分の一）を差し出し、進んで犠牲を払う。

個人と家族が以上4つの強調分野で個人と家族の備えの原則を実施するならば、皆さんの家庭は安らかな思いで満たされるようになるであろう。

監督の援助依頼書

しかし、備えをしていたにもかかわらず、すぐには解決できない困難な問題にぶつかる人も出てくるであろう。ところが幸いなこと

に、主はそのような状況にも備えをして下さっているのである。

監督の皆さん、皆さんは貧しい人や困っている人、悩んでいる人を助けるといふ神聖な責任がある。皆さんは定員会やワード部、地域社会、および教会の援助提供者から適宜必要な援助を受けることができる。今まで、監督の倉庫のある地域では、「監督の供給指示書」によって、食料品や衣類など日用品を手に入れることができた。しかし、教会運営の倉庫資源制度の中には、同じような方法で奉仕による援助を確保するための手段がなかった。

きょう、喜ばしい発表をしたい。それは、「監督の援助依頼書」の使用が承認されたことである。これは末日聖徒雇用センター、末日聖徒社会福祉機関、ならびにデゼレト産業のある地域に適用される。この新しいフォームは、該当地域の全ステーク部に間もなく送付されるであろう。この依頼書によって、監督は、会員がこれらの機関からの援助を受けられるように必要な認可をすることになる。若干の特例を除いて、このような援助を受けようとする会員は、この「監督の援助依頼書」の発行を求めて承認を受けなければならない。

この2種類のフォーム、すなわち「監督の供給指示書」と「監督の援助依頼書」の使用によって、倉庫資源制度は、地元の監督の判断であらゆる面から会員たちの必要を満たすことができるのである。監督は、それが物資であれ、奉仕であれ、必要な手配ができるのである。奉仕による援助を求める声は日増しに高まっているが、その提供源が限られているということからも、この新しい方法は、困っている多くの人々に確実な援助を与えることになるであろう。ここで強調しておきたいことがある。これらの物資や奉仕による援助を提供する業務は、実務担当者に託されているが、皆さん方監督はこれらのフォームを用いて、それを提供する責任があるということである。

援助活動の年次評価

先般、福祉活動の様々な業務を執行する責任が、実務担当者に割り当てられた。そして、この組織上の変更によって、多くの時間を要する骨の折れる責任が、監督とステーク部長の肩から取り去られた。しかし、これらの業務があるのは、宗務の役員の判断に従って全員の必要を満たすためである。そのため、私たちは、手元にある物資や奉仕による援助の利用価値、質、あるいは需要への対応性、適応性に大きな関心を寄せている。全般的な達成度に関して、宗務の役員から実務担当者への秩序立ったフィードバックを促進するために、監督評議会議長、ステーク部長、地区代表、およびスミス姉妹の話にもあったように扶助協会の代表を招いて、年に一度、倉庫資源制度の評価を行なうのである。実際には、必要な事柄がどの程度満たされ、どのような形で援助が行なわれているかを書面で報告することになる。この正式な評価は、評議会の会合や他の接触を通じて継続的に行なわれている、必要事項や意見の交換に加えて、教会の全般的な目的を達成するのに必要な調和と一致とをもたらすであろう。神権指導者の皆さんは、地区評議会を通じてこの制度が導入されたならば、これを十分に活用していただきたい。

教会の援助手段と家族の援助手段との関係

私はここ数カ月間何度も、教会の製作による「福祉—もうひとつの観点」(Welfare—Another Perspective: 邦訳なし)と題する新しい映画を見る機会に恵まれ、感銘を受けた。この映画を見る度に、倉庫資源制度の発展をはじめ、教会の福祉制度への誇りと感謝の念がますます強くなる。しかし、兄弟姉妹の皆さん、このことは忘れないでいただきたい。この教会の福祉の本当の力は、倉庫に蓄えられた食糧の量や、福祉農場の生産力、あるいは職のない教会員に就職の世話をする雇用制度の力にあるのではない。

教会の真の力は、預金口座、菜園、収入に

につながる技能、家庭貯蔵、病気の回復力、才能、そして教会の一人一人の会員と家族が持つ証の中にこそ存在するのである。福祉制度の最大の祝福は与える人から始まること、また私たちは家族として自立し、恵まれない兄弟姉妹に助けの手を差し伸べることができるようにならなければならないということをつも心にかけておこう。これははっきりと言われていることであるが、各家族が個人と家族の備えをすることは、規模も大きい、この素晴らしい福祉制度と同様に大切なことである。教会の真の強さは、決して教会が蓄えている物資や基金の中にあるのではない。それは個々の家族の備えと力とにかかっているのである。このことを御説明したい。

少しの間、次のように考えてみたい。400万以上の教会員が、ユタ州とほぼ同面積の一地域に住んでいたとする。そして、私たちの悩みの種は、野性の猛獣が私たちの住んでいる場所に侵入してくることである。街を歩くのも危険なため、私たちは防壁を築くことに決めた。さて、もし教会の貯蔵庫に蓄えられている物資を使って、この地域を取り囲む壁を建てるとしたら、厚さ30センチ、高さ30センチ、長さは190キロのものになる。高さ30センチの壁では、多くの動物の侵入を食い止めることはできないし、身の安全も望み得ない。

さて次に、この30センチの高さの壁に、教会員の貯蔵分を積み重ねることにしよう。教会員はそれぞれ1年分の貯蔵をしているとする。そうすると、このユタ州の広さの地域に、さらに30センチ、またその上に30センチと積み重ねていって、最後には、4メートル20センチの高さになるのである。

この壁を補強する鉄柱は、会員の健康であり、社交面と情緒面の安定である。留め金と角の支柱に当たるのが、経済的に安定するように、教育と職業の面での備えをすることであり、不必要な借金をしないことである。また、接合するためのモルタルは、時間や才能、

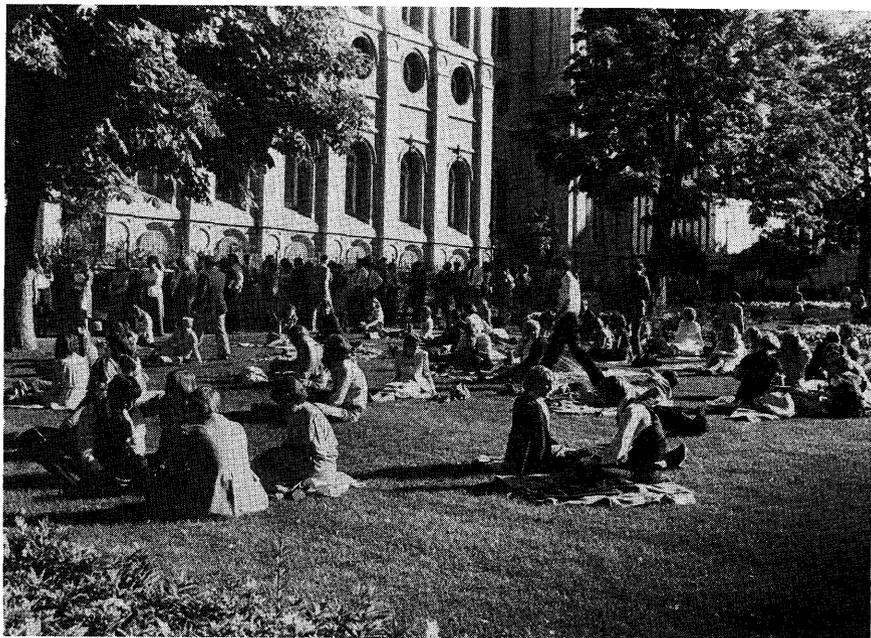
資産を神の王国の建設のために喜んで捧げることにたとえられる。

もうおわかりであろう。全体的な防御は、教会の福祉活動における生産だけでできるものではない。それは、教会の生産と、個々の家族の1年分の貯蔵とがひとつになって初めて可能になるのである。

願わくば、私たちがこの大なる業の中で個々に担っている責任を理解し、教会幹部の兄弟たちが定めた福祉に関する強調点を、積

極的かつ着実に実施に移せるように。そして、天父の子供たちを、この物質的な、否、霊的な防壁で取り囲むことができるように。ここで私が霊的な防壁と語ったのは、すべてのは霊的なものだからである（教義と聖約29：34参照）。

私はこれが神のみ業であることを証し申し上げる。イエス・キリストのみ名によって、アーメン。



大会の合間にくつろぐ聖徒たち

個人への祝福

この遠大な事業が究極的には、与える者と受ける者一人一人が祝福にあずかり、高められ、靈感されるように、個人にその焦点を当てているということをはっきりとさせること、これが私たちの最たる責任である



管理監督
ビクター・L・ブラウン

今朝の私の言葉が、耳を傾けるすべての方方の心にとどまるようにと祈るものである。私の選んだテーマは「個人への祝福」ということである。福祉活動は、本質的に、日日の生活の多くの事柄を含むものである。これは、キンボール大管長が、福祉活動を福音の実践と定義されたゆえんでもある。福音は、人がそれぞれに昇栄を得ようと努める時に、力と頼む源であり、福祉活動はそのような力の源とならなければならない。

皆さん御承知のように、管理監督会は、教会の多くの実務的な事柄を管理する責任にある。その中には、倉庫資源制度の運営を監督することもある。またそれに伴う活動や責任は実に多種多様であるが、これに関して私たちが負っている最も大切な責任は、以下のことである。私は信じている。すなわち、この遠大な事業が、究極的には、与える者と受ける者一人一人が祝福にあずかり、高められ、靈感されるように、個人にその焦点を当てているということをはっきりとさせること、これが私たちの最たる責任である。

様々な行政機関や組織の福祉面での活動を見れば見るほど、もっとも、その多くは気高い目標を持っているのではあるが、私は、助けを必要としている人々に祝福を与えて自分の必要をまかなえるように助けるという主の方法に対する畏敬の念をさらに強くする。全世界の様々な地域から集われた神権指導者や扶助協会の指導者の方々が、それぞれの場において、福祉プログラムを通して、一人一人に関心を払っていることに誇りと喜びを感じている。打ち解けた、また細やかな心遣いのもとに、福祉を受ける人と面接をする監督、失職したばかりの会員の家を訪れる定員会会長、母親が入院している家庭の小さな子供たちに食事を運ぶ訪問教師、里親制度によって別の高校に転校した最初の月に、多くの難しい問題にぶつかった立派なレーマン人の若人を励まして、里親の下にとどまるように説得する高等評議員など、教会の各地のワード部でよく目にする多くの模範が思い出される。そして、どの場合にも、教会の指導者は、少なくとも次の3点を行なうことに心を向けている。

1. 問題を理解する。
2. 自分自身で問題を解決できるように助ける。
3. 主とより密接な関係を築くように励ます。

ふたつの実話を御紹介したい。主の方法に従って与えた助けが、個人にもたらした祝福、そして教会の福祉制度を貫く愛の精神がひとりの人を向上させたという実例である。

教会に入る前、リチャードは福祉機関の援

助に頼り、フードスタンプ（合衆国政府が生活保護や失業給付を受けている人に発行する食料切手）、ソーシャルワーカーの面接、医療費の補助などを受けていた。リチャードも妻もわずかな収入で、どうやりくりをしたらよいか、なすべきを知らなかった。リチャードは奇しくも教会に改宗したが、自分には欠けているものがたくさんあると思うようになってきた。リチャードにとって、ひとつの職に落ち着くことはとても難しいことであった。そのような時、監督からデゼルト産業で働いてみる気がないか話を持ちかけられた。成年に達してから、定収を得るようになったのはこれが初めてのことであった。デゼルト産業で働くにつれて、リチャードは自尊心が養われ、人と話す時にもひげ目を感じたりすることもなくなった。そして妻や子供たちも、彼を家長として敬うようになったのである。

デゼルト産業の社会復帰担当コーディネーターが、監督と同様に、親身に世話をしてくれた。リチャードは自分の名義で当座預金口座も開き、生活費の予算を慎重に立て、家族もそれを承諾した。また、1年以上も滞っていた医師への支払いも済ませ、2カ月半の間滞納していた電力料金も、その日から送電を停止されるという日に支払った。さらに、ほかの請求書の支払いも徐々に済ませることができた。

リチャードの生活は変わりつつあった。自分は価値のある人間だという思いを抱き、進むべき道を自覚してきた。今年の6月初め、手広くクリーニング業を営んでいるある経営者がデゼルト産業を訪ねてきた。良い従業員になれる人を捜していたのである。リチャードはそのための面接を受けるチャンスを与えられた。彼はその面接のことをひどく心配したが、デゼルト産業の社会復帰担当コーディネーターと何度も面接の練習を重ね、本番の面接をパスし、雇われることになったのである。こうして彼の新しい生活が始まることになった。

リチャードがデゼルト産業を去る時、彼のために昼食会が持たれた。リチャードはその時、次のような言葉を残した。

「兄弟姉妹、良い知らせと、悪い知らせがあります。良い知らせというのは、私に仕事が見つかったことです。今までもらったこともない収入を得ることができます。私の人生では初めてのことです。天父が望んでおられる方法で、家族が必要としているものを満たしていけると思います。私は今、成長の途中であります。そして、これこそが人生というものなのです。悪い知らせ、いや、私には悲しい知らせなのですが、皆さんとお別れしなければなりません。心から皆さんを愛しています。デゼルト産業が私にしてくれたことをありがたく思っています。ここで働いて、私は幸せというのを知りましたが、皆さんの幸福も祈っています。ジム・ウイルソンと監督には大変お世話になり、感謝の言葉もありません。イエス・キリストのみ名によって、アーメン。」

リチャードは自分でも意外なほど、また新しい雇用主の期待にも十分に、いやそれ以上にこたえ、勤勉に働いた。最近では地位も昇進し、かなりの昇給をしたという。ひとりの人間とその人生に祝福が注がれた。恐らく、この監督とデゼルト産業の社会復帰担当コーディネーターの働きに付け加えるものは何もありません。

もうひとつの例であるが、（人物と場所のあるものは匿名にしてある）1978年の3月、アイダホ州に住むウイルソン家に、次のような書き出しの一通の手紙が届いた。「ウイルソン兄弟姉妹、いかがお過ごしでしょうか。私の近況をお知らせします。」

前にウイルソン家の里子であったレーマン人の娘で、しばらく音信の途絶えていたシーラ・レッドホースからの手紙であった。

里親、里子の関係の種をまいたのは、1965年、当時十二使徒定員会会員であったスペンサー・W・キンボール長老の話であった。当

時監督の職にあったウイルソン兄弟の心の中に、キンボール長老が話の中に引用した、モルモン経の一節が強く響いた。「われはその後異邦人の心を柔ぐるにより、かれらは汝らの子孫にとりて父のごとくに成るべし。」(Ⅱニーファイ10:18)集会が進むにつれ、ウイルソン監督はさらに心を動かされ、インディアン学生里親制度に、自分も力を尽くそうと決心した。1967年秋、ウイルソン家に16歳のシーラ・レッドホースが来て、学業を終えるまでの間、起居を共にすることになり、ウイルソン家に新たな素晴らしい生活が始まった。

ウイルソン兄弟はこう語る。「シーラとの生活は楽しいものでした。特別な時間を過ごしたことも幾度かあります。シーラはとても素直な良い学生でした。居留地の自分の家に戻ってからも何度か便りを交わしましたが、年とともにそれも途絶え勝ちになりました。」

シーラがいなくなっても、ウイルソン家では、何年もの間、幾人かの若いレーマン人を預ったが、どの子も、ウイルソン家の人人を愛し敬い、特別な関係を築いた。1978年、シーラの手紙を受け取ったのは、11年振りのことであった。ウイルソン家の実の子供は10人を数えるに至り、2年間は里親制度から遠ざかっていた。シーラの手紙の先を続けよう。

「私は今、秘書の仕事をしています。……給料のかなりを貯金に回しています。娘が里子に行く前に、衣類を買いそろえてやるつもりです。

お別れしてから、10年近くになると思いますが、皆様も随分お変わりのことでしょう。御子様は皆大きくなって、家を離れているのではないのでしょうか。

私にはマーガレットという娘がひとりいます。今7歳で、この秋には里子に出すつもりです。里親制度のことはすべて私から話し……7年間というもの、親元を離れたことは一度もありませんが、本人もその意向でいます。

私の弟のデビッドを覚えておいででしょう

か。伝道も終え、今はブリガム・ヤング大学で学んでいますが、この夏には帰省して、マーガレットにバプテスマを施す予定になっています。クリスマス休暇で12月に帰ってきた時、兄の娘に祝福を与えました。そしてその前に、私たちの家族の中のふたりにバプテスマを施しました。

ジョイ、カート、ロンダ、ゲーリー、それからジェニーは何歳になったのでしょうか。みんなのことを思い出します。ジョイのアレルギー、カートのアコーディオン、ロンダのバレエのレッスンのこと、よくプールで小さなかえるのようなかっこうで泳いでいたゲーリー、それにジェニーの赤毛のこともまだ覚えています。みんな10代か、それ以上でしょうね。今は何をしていますのでしょうか。」

シーラはさらに、街中と同じように居留地でも、若人の間にアルコールと麻薬が根深く浸透しているという問題について書き続け、強い力で若い人々をその仲間たちが犯している過ちから守ってくれる教会と、その教えへの深い感謝の念をつづっていた。また、教会の教えによって家族のつながりがより強くなり、確固としたものになっていることを書いていた。シーラは自分の弟や妹の多くを今年、里親制度の中の里子に出すつもりでいることに触れ、次のように尋ねてきた。

「ウイルソン家では今も里親をしていらっしやいますか。

そちらの詳しい御様子をお知らせ下さい。……

この辺でペンを置きたいと思います。お体を大切に、皆様の働きの上に主の祝福がありますように。……」

この楽しい手紙を妻と一緒に読んだウイルソン兄弟の心に、ほんやりとではあるが、12年前に聴いたキンボール長老の話の一節が思い出された。「キンボール長老は、最初の世代の時は、その成功を味わうことはないだろう。しかし、第2の世代、第3世代、第4世代に至って、真の成功を味わう時が来るであろう

と言われました。」ウイルソン兄弟の記憶が再び覚された。「この言葉が再びよみがえってきた時、シーラの娘を我が家に迎えなければならぬと思いました。これこそ、同じ里親のところにくる、同じ家族の第2の世代なのですから。」ウイルソン兄弟は、インディアン里親制度を通して、ウイルソン家にマーガレットを預ることができるかどうか問い合わせた。そして、シーラにこのことが伝えられ、承認されるに至った。「シーラはすぐに電話をくれ、涙ながらに、自分がかつて暮らしたことのあつた家庭に、マーガレットを送ることができてとても喜んでいてと言ってくれました」とウイルソン兄弟は語った。

マーガレットは1978年から翌年にかけて、ウイルソン家から学校に通い、母親がそうであつたように、ウイルソン家の人々と共に喜びを分かち合つたのである。

ウイルソン姉妹はこう言っている。「あの子は本当に欲のない子で、だれかが自分の持っている物を見て『それ、素敵ね』と言つたりすると、その子にそれをあげてしまうんです。うちでは子供たち全員に小遣いを渡すのですが、もちろんマーガレットにもそうしています。

去年のクリスマスに、私たちは、家族でどれかの助けになることをしようと話し合いました。その時、マーガレットはずっとためてきたわずかな小遣いを、その計画に使うようにと申し出たのです。

実の子のように家事を手伝ってくれます。週に一度は、8歳になるアンジェラと一緒に台所の仕事をしています。ほかに、家の中のことで責任があるんですよ。」

ウイルソン兄弟はマーガレットが初めてやって来た時のことを思い出したが、とても無口な子で、自分の思うことをはっきりと言うことがあまりない子であつた。母親のシーラから、祈りの方法と、また自分の気持ちをどう表現したらよいかをマーガレットに教えてほしいと頼まれていた。

今では「マーガレットは、食事の祝福の時もそうですが、祈らせてほしいと自分から頼んできます。そして彼女がお祈りをする時、私たちは皆、一心に耳を傾けます。あの子のお祈りには本当に心が込もっているんです。」ウイルソン兄弟はこう語る。

年度も終わりに近づいた頃、ウイルソン家では、シーラをアイダホに招く手はずを整えた。そしてシーラは再び里親のもとを訪ね、娘と一緒に素晴らしい再会のひと時を過ごしたのである。シーラはマーガレットを家に連れ帰ってから、ウイルソン家とも話し合った上で、今年を娘を実家に置いて、居留地の学校に通わせることにした。

この話は、与える人と受ける人の双方が祝福にあずかるという生きた証である。これらのことをよく表わしているのが、J・ルーベン・クラーク・ジュニア副管長の言葉である。クラーク副管長は、1936年10月2日に、ステーク部長たちと共に開いた集会で次のように語っている。

「福祉計画の真の長期目標は、与える人であれ受ける人であれ、教会員の人格の形成にある。その人々の深奥に潜む素晴らしいものを引き出し、深い眠りの中にある貴い霊を咲かせ、実りへと導くのである。そしてこの教会が存在する理由、目的、使命は、結局そこに帰るのである。」

兄弟姉妹の皆さん、一人一人が指導者として、あるいは両親として、イエス・キリストの福音の教えを通じて常に人を高め、祝福をもたらすように祈るものである。イエス・キリストのみ名によって申し上げる。アーメン。

☆

☆

教会の確立：福祉活動宣教師が果たす重要な役割

夫婦や独身の姉妹も含めて資格ある専門家や技術者、その中でも特に英語以外の言語に通じた人々が、現在必要とされている



十二使徒評議員会会員
ジェームズ・E・ファウスト

詩 篇の作者は次のように問いかけている。「われらは外国にあって、どうして主の歌をうたえようか。」(詩篇 137 : 4) 私たちの時代もそうであるが、あらゆる時代に主の使いは見知らぬ国々へ福音を携えて行った。彼らは、主がその神となるシオンの確立を求めてきた。

今日の神権時代の歴史が始まって以来、教義と聖約に収められている数多くの啓示を通して、主は主の教会の確立を求めておられることを明らかにされた。「規則に規則を加え、則に則を加え、ここにもすこしくかしこにも少しく教え、まさに来らんとすることをわれらに声明して慰めを与え希望を固くす。」(教義と聖約 128 : 21)

私たちは、今だこの行程の途上にあると確信している。そして、主が命じられ促されたように、全世界のすべての人々に手を差し伸べようとするなら、私たちは主の教会を確立するという特別なチャレンジに直面することを知っている。何十億にもものぼる天父の子供たちが、貧困や文盲、その他物心両面にわた

る数々の問題を抱えている。その多くは私たちの理解の及ばないものである。キンボール大管長はそのような人々について述べている。「これらの人々を受け入れなさい。そして、永遠のビジョンに対する彼らの眼を開き、どうしたら星に手が届くか教えるのである。」(1974年12月)

主の教会を確立する過程には、バプテスマを施す以上のことが要求される。モルモン経のアルマ書第1章には、主の教会を確立する際にたどった一連の出来事が記されている。26節から読んでみよう。

「そして祭司らが神の道を民たちに伝えるためにその仕事を……休み祭司が民たちに神の道を説き終ると、民たちはみなすぐと帰ってまたその仕事にはげんだ。……このようにして民たちはみな平等であって各々みなその力に応じて働き、各々みなその財産の多い少いに応じて、貧乏な者や病気にかかっている者や苦しんでいる者たちに施しをした。かれらは高価な衣服で身を飾らなかつたがその服装は見ても気持が良く小ざっぱりした服装であった。」(アルマ 1 : 26—27)

以上の段階を注意して追ってみよう。

第1に、教義が教えられる。(26節参照)

第2に、教会員は互いに個人として尊重される。(26節参照)

第3に、すべての人が働く。全員が働いて報酬を得る。(26節参照)

第4に、財産を困っている人々に分け与える。互いに仕え合う。(27節参照)

第5に、自己の欲望を抑えるとともに、必需品を適度に備える。(27節参照)

ここで、予言者の言葉を聞いていただきたい。

「このようにかれらは教会の万事を整えて……保つようになった。それで教会が確立したので教会員は非常に物持ちになり始め、必要な品物が豊にあって……た。」(アルマ1:28-29)

このように大きな変化が生じたのは、施しを受けたからではなく、教義を教えられて人人が自立し、困っている人に分け与えるようになったからである。主の方法に自らを委ねた時に、周囲の環境が変わり始めたのである。

教会を確立するこの過程は、いかなる場所にも適用することができる。しかし、人材や援助手段が不十分な地域では、神権指導者が技術上の手腕を駆使して教会員の自立を助けるとよい。現在この援助を多方面から与えているのが、熟練した技術者と専門家の奉仕グループで、彼らの主な使命は、キリストの精神に則した実質的な奉仕を進めることである。彼らは福祉活動宣教師と呼ばれている。現在このような宣教師が700名以上いて、全世界60カ所にも及ぶ伝道部で奉仕し、教会を確立するために働く神権指導者を助けている。

福祉活動宣教師の重要な役割は、地元の神権指導者が福祉の基本原則を教える際に援助することである。また、神権の指示の下で、生活様式を改善する方法を教会員に教えることもできる。あらゆる地域の教会が倉庫と生産事業を運営しているわけではないが、最小の支部であっても、教会員に福祉の基本原則を教え、生活に適用させるべきである。教会における福祉の核心は、福音の6原則にある。すなわち、愛、奉仕、労働、自立、管理の職、そして(犠牲を含む)奉獻である。これらの原則を支えているのが、福祉の基本となる以下の事柄である。断食の律法、定員会の奉仕と扶助協会の慈善奉仕、個人と家族の備え、そして福祉活動委員会の機能である。

基本的な福祉活動に参加すれば、教会員は福音の根本原則を生活に取り入れることができる。

たとえば、断食の律法に従うことによって

愛と無私の精神を養うことができる。担当家族のへいを修繕するホームティーチャーや、病気の会員のために食事を準備する扶助協会の姉妹は、身をもって奉仕の意味を知るのであろう。また、個人や家族としての備えを行なう会員は、自立と労働の原則を実践していることになる。地元の福祉活動委員会は、これら基本福祉の各方面において教会の果たす役割を相互調整するのである。

福祉活動宣教師は、伝道部長の指示の下に援助提供者として働き、福祉の向上に責任を持つ神権指導者を支援する。また、自らの経験や訓練を生かして、教会員に自活するよりよい方法を明らかにし、指導者や会員に対する援助提供者となる。次に指導者たちは、会員が福音を中心にした生活を営めるように助ける。

したがって、福祉活動宣教師は福祉の原則を教え実践するばかりでなく、教会確立の過程において重要な役割を果たすのである。

先月トンガから帰国したL・トム・ベリー長老は、次のような報告書を提出した。

「私はトンガで働く福祉活動宣教師からも深い印象を受けた。同封の写真は板金製のオーブンの前に立つデュアナ・C・トーン兄弟姉妹である。トーン兄弟はこのようなオーブンを500台以上も製作し、トーン姉妹はそれを使ってパンを焼く方法を姉妹たちに教えてきた。ほとんどの家庭にとって、オーブンで物を焼くのは初めての経験であった。さらにトーン兄弟は洗たく用の大きなおけを作って公衆衛生の高上に努めている。

もう一組のスベンサー夫妻は、トンガの農場で収穫改善に著しく貢献してきた。スベンサー兄弟は数種類の機械を考案して、地元の人々にその使用法を教えた。その中には、何時間にも及ぶ重労働から人々を解放したタパ布(樹皮をたたいて平らに薄くして作った布)を作る機械があった。この機械は国王の目にも止まって、彼は国王の親しい友人のひとりになった。事実、翌月に開かれた農産物共進

会にスペンサー兄弟は賓客として招かれ、国王や側近の人々と共に島中を旅行している。

この2組の夫婦は、1カ月以内に帰国する予定である。」

スペンサー兄弟は、これらの技術を継承できるように人々に教えた。あらゆる援助は、アルマの時代に見られたように、神権管理の下で主の方法に従って与えるべきである。私たちの宗教は、行動する福音に基を置く実践の宗教であり、物心両面にわたって高揚と繁栄をもたらすものである。

福祉活動宣教師の仕事は現在進行中である。そこで、幾つか重要な点を簡単に復習してみよう。

第1に、福祉活動宣教師として働く資格のある人々には、正規の宣教師に必要な条件を満たす夫婦や独身の姉妹も含まれている。

第2に、専門技能や職業技術を備え、実際の問題を処理できるようでなければならない。社会事業や農業の専門家、職業カウンセラー、熟練工、家政学者、看護婦などは、現在必要とされる福祉活動宣教師の例である。

第3に、監督またはステークス部長は、夫婦や独身女性にこの資格を与える際、正規の宣教師としての資格に加えて、学歴、職歴、趣味、才能などを考慮する。最近は英国以外の言語に通じている夫婦が必要とされていることを知っておくべきである。現段階で最も必要性が高いのは、スペイン語を話せる人々である。

第4に、福祉活動宣教師の援助を得るには、地元の援助手段では処理できない教会内の実務的な問題を神権指導者が明確にすることである。そして、福祉活動宣教師に求める具体的な援助を明示した上で、地区代表および伝道部長と相談する。この要請は教会幹部である代表役員の認可を得てから伝道管理部に送られる。それから、特殊な技術を備えた宣教師が必要な援助を与えるために派遣されるのである。

第5に、教会の福祉制度は人々の特質を伸

ばして自立を助けることを意図している。教会は、物心両面にわたって人々を築き、向上される上で必要な事柄に、絶えず気を配らなければならない。逆説的に言えば、困窮している人を援助する最も効果的な方法は、他の人々に奉仕するように仕向けることである。

このような状況をもたらす上で鍵となるのが代表役員である。代表役員は定期的に福祉活動宣教師の働きを評価するために、ステークス部長と伝道部長を代表する地区代表や、実務を担当する他の指導者を地域評議会に招集する。この評議会において、福祉活動宣教師の働きを地域の福祉計画に組み入れることができる。この計画的で統一された方法により、教会を確立する過程での秩序を保つのである。

多くの神権指導者から、この有益な援助手段に対する感謝の手紙が寄せられている。ある支部長は次のように書いている。

「やがて福祉活動宣教師の援助は必要なくなると思います。私たちは日に日に自立できるようになっているからです。私に必要なことは、主の導きを求め、主に頼ることです。

福祉の原則はすでに確立されていたことがわかりました。ただ私たちが、それらの原則を重視していなかったのです。」(アーンヘル・マージア・ルイス、ペルー・リマ北伝道部ウアチョ支部)

さらに、地元の指導者が獲得した熱意と自信は、伝道活動にもおのずと影響を与えている。基本的な福祉活動の恩恵を実生活の中で体験した教会員は、その喜びを他の人々と分かち合いたいと思うようになったのである。

最近のことであるが、タイのユーボンという小さな村に、克服できない問題を抱えて悩むタンという名の教会員の家族がいた。父親は失業中で収入はなく、子供たちは病気で栄養失調に陥っていた。その上、彼らの粗末な家は国有地に建てられていたので、強制立退きを迫られていた。しかし、行くあてはなかった。

この時、福祉活動宣教師の援助を活用して

きた有能な神権指導者が、このような悲劇的な状態を変換したのである。その指導者の指示の下に、支部の全会員が協力して、土地を手に入れ、タン家族の家を取り壊して移転し、新しい土地に再建した。タン兄弟は土地を耕して、家族を養うために農業を始めたが、現在では作物が豊かに実っている。福祉活動宣教師の助言に助けられながら、地元の指導者や会員が熱心に働いて愛と献身を示し、ひとつの家族に奇跡を起こしたのである。また、支部全体の人々が、成長の機会と偉大な教訓を得たのである。

将来この奉仕の業に従事したいと願っている夫婦や独身の姉妹に申し上げたいと思う。

専門家になるよう備えなさい。

外国語を勉強しなさい。たとえその言葉を話す地域に召されなくても、これは有益である。

仕事で重要な地位を得るように働きなさい。

次に、このような資格があって奉仕できる会員を管理している監督やステーキ部長に申し上げたい。

そのような会員の準備を促し、教会の確立に大きく貢献する福祉活動宣教師として活用できる技術や才能を挙げてもらいなさい。

主の奉仕の業に神の予言者によって召される人々を面接し、推薦するために、なお一層努力していただきたい。

次に、代表役員、ステーキ部長、伝道部長、地域の実務担当者の方々に申し上げたいと思う。

福祉活動宣教師という有益な援助者に注目していただきたい。

教会員の霊的成長を妨げている実務的な問題を明確にし、彼らがそのような障害を克服してクリスチャンとして完全な生活を送ることができるように、組織的に援助していただきたい。

主の教会を確立しようと努めている私たちにすべての会員の上に、主の祝福があるように。私たちが「外国にあって……主の歌」を歌う

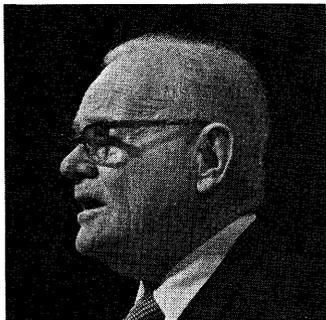
方法を学び、恵まれない人々を助けて、「永遠のビジョンに対する彼らの眼」を開くように。イエス・キリストのみ名により祈るものである。アーメン。



大会に集う聖徒たち

教会福祉プログラムにおける監督の役割

監督のすべての責任の中で最も重要なのは、貧しい人々の世話をすることである



第二副管長
マリオン・G・ロムニー

愛する兄弟姉妹の皆さん、今朝私は、教会福祉プログラムにおける監督の役割について話す責任をいただいている。

まず初めに、近代の啓示の中で告げられており、また近代の予言者たちによって語られている、貧しい人々の世話をするという一般的な責任についてお話ししたい。次いで、監督は貧しい人々をどのように助けるべきか、3番目に、教会員は貧しい人々の世話をする監督を援助するために何ができるか、また何をすべきかについてお話す。

近代の聖典の中で明らかにされている監督の役割

この神権時代が始まって間もなく、主は数多くの啓示の中で、監督の職と義務を明らかにしておられる。教義と聖約第20章に始まり、第124章に至るまで、23章にわたってこの重要な職務を取り上げておられる。当時の啓示に照らしてみると、この職に伴う責任は4つに大別できる。

第1に、監督は聖徒たちから奉献される財

物を受領し、彼らに各自のゆずりを指定する。

(教義と聖約42：31—34, 71—73；51：13；58：35；72：2—6；78；82；85：1参照)

第2に、監督は判事となり、教会における各会員の立場と、彼らの要求があれば物的な必要とを判断する。(教義と聖約42：80—82；58：17—18；72：17；107：72参照)

第3に、監督は物心両面において貧しい人々の必要を満たす救助者となる。(教義と聖約38：35；42：33—35, 39, 71；70：7—8参照)

第4に、監督は教会の代理人として、大管長会を通じて主から指定された俗事の業務を行なう。(教義と聖約51：13—14；84：112—13；107：68, 71—72参照)

教会が発展し、聖徒たちが経験を積むに従って、主は、管理監督の責任と、各地すなわちワード部の監督の責任とを区別された。今日皆さんは、神権関係の各種手引きにより、ワード部監督には4つの大きな責任が託されていることを知っている。教会の管理監督会にのみ与えられている義務、および正式な奉獻の律法の執行が中断されたのに伴い効力を有さなくなった事項を除いて、今日の監督も、教会初期に規定された同じ役割を基本的に負っているのである。さらに監督は、青少年に対する責任と、ワード部の管理大祭司としての責任も担っている。監督の責任はそれぞれいづれも重要であるが、中でも貧しい人々の世話をすることに勝るものはないのである。

共通の判事、会員の必要を見きわめる権能を持つ人、主の代理人として「弱きを^{たす}助け、垂れたる^{かいた}腕を挙げ」(教義と聖約81：5)る神権指導者を、各ワード部にただひとりいる。恐らく貧しい人々の世話をする監督の責任を

最も適格かつ明瞭にまとめたのは、J・ルーベン・クラーク・ジュニア副管長であろう。クラーク副管長は次のように語っている。

「主が教義と聖約の中で貧しい人々を世話することに関して言われたすべての権能と責任が監督に委ねられている。そのために必要な資金を監督は集めることができるし、またこの業を推し進めるために必要な賜と職務が監督に与えられている。監督以外にこの義務と責任を課せられている人はいないし、この仕事に必要な力と職務を授けられている人もいない。……

主のみ言葉により、教会の貧しい者を世話するよう委任を受け、載量を行使できるのは監督だけである。実際に背罪を犯していない限り、だれも監督の行なうことに異議を唱えることはできない。ワード部の会員に対して、教会の資金とワード部の援助をいつ、だれに、どのように、どれだけ与えるかを判断するのは、監督のみに与えられた義務である。

これは主御自身より与えられた厳粛な務めである。監督はこの務めを回避したり、なまけたり、他のだれかに委せて安穩としていることはできない。どのような援助を求めたとしても、責任は依然として監督の上にある。」(未刊行の記事より、教会歴史部、1941年7月9日)

この言葉は教義と聖約に記されている主のみ言葉に基づいたものであり、以下にあげる啓示を証するものである。

第42章：「監督(は)……持たざる者に施す……」(教義と聖約42：33)

第72章：「すでに下りたる律法に附加えて、主の^{おきて}葡萄園のこの地方の教会に按手^{つけくわ}聖任されたる監督の義務に就きて知らせたる主の言は誠にかくの如し、すなわち、

主の倉庫を守り、主の葡萄園のこの地方に於ける教会の資金を受け納め、
豫^{かね}て命ぜられし如く長老たちより報告書を受け……長老たちの不足^{なす}するところを援く……」(教義と聖約72：9—11)

第84章：「監督(は)……巡廻してすべての支部教会の中を廻り、貧しき者を探ねて富める者おごれるもの^{へうくが}の謙りによってその乏しきを賑^{なご}わしめよ。」(教義と聖約84：112)

そして最後に第107章にはこう記されている。「監督の職は、すべてこの世に属することを執り行えばなり。……真理の『みたま』によりてこの世に属ける知識^ちを有つ……」(教義と聖約107：68, 71)

ここで監督の皆さん、ならびに監督を訓練するステーク部長の皆さんにお願いしたい。どうか監督の神聖な召しに関する主のみ言葉を研究し、多くのことを知っていただきたい。

教会の福祉活動の成否は、監督が自分の役割をいかに効果的に果たすかにかかっている。貧しい人々にどのような方法で実際に援助が与えられているかが、教会福祉の成否を決めるのである。宗務と実務の指導者たちから多数の援助が与えられるが、最終的には、監督の皆さんが各々の羊の群れの世話をしなければならぬのである。キリストのような奉仕ができることは、何と素晴らしい責任であり、素晴らしい機会であることか。

監督が貧しい人々を援助する方法

心の行き届いた立派な監督は、この神聖な務めをどのように果たしているだろうか。これまでに教えられてきたことで、実際に行なわなければならない基本的な事柄が幾つかある。

第1に、すべての監督は、ワード部会員の全般的な状態を知らなければならない。監督は自らの観察により、また訪問教師やホームティーチャーの報告、個人面接、みたまのささやきにより知るのである。貧しい人々を探し求めなさいという主の勧告に従うことによって、会員について必要な知識を得ることができる。

援助を与える第2段階は、評価である。個人や家族がどのような援助を必要としているかを、適確に調査すべきである。この評価の

助けとなるフォーム “Needs and Resources Analysis” (「必要と援助手段の分析」) が、福祉事業部に用意されている。援助を必要とする人々としては、健康をそこねている人、病弱な人、失業中の人、教育を受けていない人、財政管理の不得意な人、心身に障害のある人がいる。問題の種類や規模のいかんを問わず、監督はその原因や、程度、またそれを解消するための援助者について知らなければならない。

監督はほとんどの場合、ワード部扶助協会会長にその調査の援助を要請する。扶助協会会長は報告書と推薦書を作成し、監督が正しく判断できるように助けることになっている。したがって監督は、手元にある関係資料に基づき、共通の判事として、どのような援助を提供するかを決定する。

第3に、監督は援助の必要な個人や家族をカウンセリングしなければならない。

監督は感受性を働かせ、思いやりを持って、状況の評価を行なうことが大切である。そしてその過程で、自立や家族の援助、教会の責任など、教会福祉援助の基本について教える。また、援助を受けようとする人が当人に期待されているすべての事柄を行なっているかどうか、適切な方法に従い判断しなければならない。これには、家族や親戚に援助を求めることも含まれる。

最後に、監督はみたまの導くままに、必要な援助を提供しなければならない。物的な援助を与える教会の援助手段の種類や規模を説明することも必要である。これには、断食献金基金からの援助金、監督の倉庫からの食料品や衣料品、デゼルト産業からの物資が含まれる。またある種の問題には、雇用制度や末日聖徒社会福祉機関からの援助も必要である。これらの物資や奉仕による援助を正式に提供するに当たっては、言うまでもなく、所定の依頼書の交付を要する。これらの依頼書の準備は、監督か扶助協会会長が行なうことになっている。

援助の提供を承認するに当たって、共通の判事である監督は、受給者から労働による返済を求めるか奉仕による返済を求めるかを決める責任を負っている。これは、自分自身や他の人々が利用する物資の生産に従事することにより、受給者が自尊心を持てるようにするためである。監督はよく注意を払い、受給者に自分の受けた援助に対して労働による返済を求めるようにすることが大切である。自立をもたらす主のプログラムを、決して施しのプログラムにしてはならない。「怠惰なる者は悔い改めて行いを改むるにあらざれば、教会の中にて地位を与えらるることなし。」(教義と聖約75:29) 能力に従って働くことにより本分を尽くそうとしない人に対しては、その態度が改まるまで、監督は援助の提供を中断する権利を持っている。

監督は、当面の問題を解決したならば、次にワード部福祉活動委員会と協力して、生活の支えを提供し、社会復帰計画の実施に当たる。すなわち、そのような問題を引き起こした原因に目を向け、個人あるいは家族が、再び自立し、自分の力で生計を立てられるように助けるのである。社会復帰の働きかけは短期間で、一家の扶養者のために新しい仕事を捜すことなど、きわめて具体的である。他方重大な事故や問題の場合、長期間の援助が必要になる。これらの場合は、受給者の所属する神権定員会が中心となり、社会復帰の活動を計画し実施するようにしなければならない。過去に使用された福祉関係の手引きには、次のように記されている。

物質的な援助の場合、監督は、すべての健康な貧しい人のことを単に一時的な問題として考え、その人が自立できるまで援助する。神権定員会は、物質的な必要だけでなく、霊的な必要も満たされるまで、継続的な問題として困っている会員の問題を考えなければならない。具体的な例をあげれば次のようである。監督は、職人や技術者が失業していて、職を捜している時に助けを与え、神権定員会

は、その人が仕事につくのを助け、十分自立して、神権の義務を活発に果たすようになるのを見届ける。」(「福祉計画の手引き」p. 19)

監督の皆さんは、これらの原則に正しく従ってはじめて、人々を高めることに成功するであろう。クラーク副管長が繰り返し語っているように、「これらの事柄に従事する時、監督は神権の定めに従う必要がある。すなわち、思いやりと愛、正義の定めに従うことである。」(J・ルーベン・クラーク・ジュニア、未刊行の記事より、教会歴史部、1941年7月9日)

監督が祈りの心をもって福祉の問題に取り組み、思いやりと寛大さを持ち、必要とされるものをすべて喜んで提供しようとするならば、この気持ちは援助を受ける人々にも伝わり、彼らも同じ気持ちを抱くようになると、私は確信している。そして彼らは、自分に与えられたものは、主の靈感によって提供されていることを知るであろう。主は確かに彼らの胸を打ち、彼らに援助を受けるにふさわしい者とし自分の受けるものにお返しをしたいという気持ちを奮い起こさせて下さることだろう。監督の皆さんは実際に必要とされるものをすべて、時にはそれ以上のものを、提供したいという望みを心の中に持つことができると、私は固く信じている。そしてその時、教会員は真のクリスチャン精神を抱き、監督が喜んで差し出すものをできるだけ少なく受けとろうとすることだろう。私はこのことを心から信じている。

監督の皆さんは、このような気持ちをもつ時に、頻繁に繰り返される数々の問いに対する答えをはっきりと得ることができるであろう。その問いとは、次のようなものである。

「だれを助けなければならないか。」「どの程度の援助が必要か。」「どの位の期間、何度援助が必要か。」これらの問いに対する定まった答えというものはない。したがって皆さんは共通の判事として、ふさわしい生活を送り、唯一の源である天の靈感によりそれぞれの場

合に応じた答えを得るようにしなければならない。

以上監督の責任について語ってきたが、ワード部で監督が負っていると同様に、貧しい人や困っている人を見守る責任が支部長にも与えられていることを忘れてはならない。支部長の下には完全な福祉プログラムはないが、この教会福祉プログラムが始まってこの方、貧しい人や困っている人に祝福をもたらし、彼らの必要を満たす責任は、支部長にも課せられてきたのである。

最後に、貧しい人々の世話をする監督と支部長を助ける教会員の義務について申し上げたい。バプテスマを受けた私たちは、監督が援助に要する資産や手段を提供するという誓約を主と交わしているのである。それには、断食献金(措しめなく納めることが大切である)、農場での労働力の提供、ボランティア活動、デゼルト産業への援助、福祉献金などが含まれる。指導者も一般会員も、与える者も受ける者も、福祉計画について大きなビジョンを持ち、その原則に完全に従うようにしようではないか。この福祉計画は、時満ちたるこの神権時代にシオンを築く備えをさせるものである。主は、教義と聖約第82章で、次のように述べておられる。

「シオンはその美と聖とを増し、その境域は拡がりそのステーキ部は堅うせられざるべからず、われ誠に汝らに告ぐ、シオンは起ちてその美しき衣を着けざるべからずと。

されば、わが汝らにこの誠命を与う。すなわち汝らこの誓約によりて責任あり。而して、そは主の律法に由りてなざるべきなり。

見よ、汝らのため、ここにまたわれに智恵あり。

汝らは平等たるべし。言い換うれば、汝らの管理人の職に関する事を処理せんために、正当なる必要あらばすべての者その必要に応じて財産を要求する平等なる権利あるべきなり。

こはすべて生ける神の教会のためにして、

すべての人その財産を利用増加せしめ以て財産を殖して利益を得、またこれを百倍して主の倉に納め入れ、これが全教会の共有財産とならんためなり。

すなわち、すべての人その隣人の利益を図り、誠心誠意神の栄光を顕すためにすべての事を為すなり。

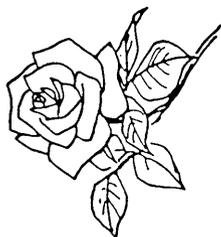
この制度は、汝ら罪を犯さずば、汝らにとりてまた汝らの子孫にとりて永遠の制度となるためにわが定めたる所なり。」(教義と聖約82：14—20)

この目的が達せられるように、イエス・キリストのみ名により謙遜に祈るものである。アーメン。



十二使徒評議員会会長エズラ・タフト・ベンソン長老ご夫妻

女性のためのファイアサイドにおける話



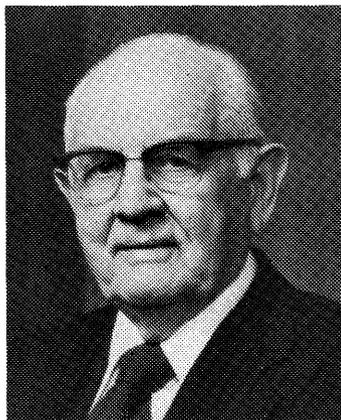
1979年9月15日、ソルトレーク・シティのタバナクルで、女性のためのファイアサイドが催された。12歳以上の末日聖徒の女性たちは、全世界の1,500カ所に集まり、スペンサー・W・キンボール大管長をはじめ、中央扶助協会会長バーバラ・B・スミス姉妹、中央若い女性会長エレイン・キャノン姉妹、中央初等協会会長ナオミ・シャムウェイ姉妹の話に耳を傾けた。なお、当日キンボール大管長は入院中であったため、夫人のカミラ・E・キンボール姉妹がキンボール大管長の話を読んでいる。

義なる女性の役割

大管長

スベンサー・W・キンボール

カミラ・キンボール姉妹代読



愛する姉妹の皆様、こうして再び末日聖徒イエス・キリスト教会の女性たちのために世界的な大会が開けることを、私は何カ月も前から楽しみにしていました。しかし、残念ながら、私はソルトレーク・シティーの病院に入院することになり、皆様と同席できません。けれども、たとえ場所は離れていても、心は皆様と共にあります。大会の様子は末日聖徒病院の一室でテレビを通して拝見させていただきます。

昨年この大会で申し上げたことは今も変わりません。私は栄えある福音の真理にしばしば思いをはせるのですが、そうする時にいつも、自分はこの栄えある真理のもつ意味を理解しているだろうかと考えてしまいます。ま

ず例を幾つか挙げてみましょう。

聖典にも記されていることですが、予言者たちも、神が正義公平さを具えた完全な御方であり、「人をかたよりみないかた」（使徒10：34）であることをはっきりと教えています。神はまた愛においても完全な御方であり、神の霊の子供たち一人一人に愛を注いで下さっています。私たちはこれが真理であることを知っているので、世において完全な愛や完全な正義公平に及ばない事柄を経験する時、この真理によって支えられます。例えばある一時期に、周囲の不完全な人々からぞんざいに扱われ、傷つけられたとします。そうすると私たちは悩みます。しかしその悩みや失望が終生つきまとうことはありません。世の方法は勝利を収めることはありませんが、神の方法は勝利をもたらします。

私たちは神の霊の子供として、まったく平等でした。また、神が一人一人に注いで下さる完全な愛を受け入れる者として、今も平等です。ジョン・A・ウィッツオー長老はかつて次のように述べています。

「この教会における女性の立場は、男性の先に来るのでもなければ後に来るのでもない。男性の傍らにあるのである。教会にあって男性と女性はまったく平等である。教会の基である福音は、主が男性のためにだけ用意されたのではない。女性のためにも用意されたのである。」（*Improvement Era* 「インプルーブ

メント・エラ」1942年5月号, p. 161)

とは言っても、役割と責任においては男性と女性の間に大きな違いがあります。それは永遠に変わることはない違いです。女性には母親として、また姉妹として大切な責任があり、男性には父親として、また神権者として重大な責任があります。ですから、主にあっては男性なしには女性はないし、女性なしには男性はないのです（I コリント11：11参照）義なる男性も義なる女性も、彼らに接するすべての人に祝福をもたらすことでしょう。

この地上に来る前のことを考えてみて下さい。忠実な男性が神権につけるある種の責任に予任されていたのと同じように、忠実な女性にも何らかの責任が課せられていました。それが何であるのか今すぐには思い出せなくても、かつて私たちが同意した栄えある事柄を変えることにはなりません。皆様には、私たちが予言者や使徒として支持している人々と同じように、前世で与えられた務めを果たす責任があるのです。

たとえ男女の永遠の役割が異なっても、1年前に申し上げたように、男性と女性ともに進歩するという点で多くの成すべきことが残されています。このことから、私は女性の方々にも聖典を熱心に学ぶことを改めて強く訴えたいと思います。私たちは皆様が年齢を問わず、また既婚、未婚、未亡人を問わず、家庭に聖典の知識を生かせる姉妹となっていたいだきたいのです。

どのような状況に置かれていようと、皆様がお一層聖典の真理に精通するなら、自分自身のごとく隣人を愛するようという第2の大切な戒めをさらに容易に守れるようになるでしょう。聖典に精通して下さい。人々を見下げるためではなく、高めるためにです。教育の機会が多い女性や母親以上に、福音の真理を「蓄える」必要のある人がいるでしょうか。「蓄え」た真理は、必要な時にすぐ活用できるのです。

義しい試みをする時に、また日々の生活に

あって、最高のものを求めるようにして下さい。

姉妹の皆様、このことを忘れないようにして下さい。末日聖徒イエス・キリスト教会の会員であることから得られる永遠の福音はほかのどこで得られる祝福よりもはるかに大きなものです。この世にあって得られる誉れは、神の娘として認められることに比べたら、ものの数ではありません。まことの姉妹、妻、母親としての務めをはじめ、生活に潤いをもたらす数々の責任を体験する神の娘となることほど素晴らしいものがほかにあり得るでしょうか。

確かに一時的な事柄や環境に違いがあることは事実です。夫に先立たれた方や離婚された方、結婚という素晴らしい特権にまだ浴していない方もいるでしょう。しかし、永遠という物指しで測れば、このような祝福にあずかれないのは「東の間」のことなのです（教義と聖約121：7参照）。

姉妹の中には、年と共に訪れる苦しみを味わっている方もいます。また、物事を永遠の見地から眺めた時に、若いということで自分の置かれている立場がおぼつかないものであると感じる人もいるでしょう。どのような立場にあれ、このようなチャレンジに直面している方は、福音の真理を深く味わい、自分に与えられた永遠の使命と個性を考えていただきたいと思います。また、天父が皆様一人一人に完全な愛を注ぎ、期待を寄せておられることを感じる必要があるでしょう。この偉大な真理をよく思い計って下さい。特に個人的に悩み苦しむような時にそうして下さい。そうでなければ、悩みは深まり、途方に暮れてしまうことでしょう。

また、私たちは家庭生活の素晴らしさと大切さを強調し、私たちすべてが天の御父の永遠の家族に属する者であると申し上げます。

主に忠実であり、自分に落ち度はないのに、第二の位にあってふさわしい男性と結び固められる特権に浴していない姉妹は、永遠にあ

ってその祝福を享受することでしょう。この地上にあって家庭生活を営むことを切に望んでいる方について、天父はその苦しみを心に留められ、いつの日か言い表わせないほどの祝福を与えて下さいます。

時として試練を受け、一時的に落胆することもあるでしょうが、義なる女性、男性は将来御父の持ちたもうすべてを受けることができるのです。このことをよく心に留めて下さい。これはただ単に持っているだけでは価値がなく、それにふさわしい生活をする時に価値のあるものとなります。

ところで、人は結婚し、母親にならなければ、イエスが律法全体と予言者とがかかっているとされた第一と第二の戒め、すなわち神と隣人とを愛するようという戒めを守れないというわけではありません（マタイ22：37-40参照）。

女性の中には、自分の力ではどうにもならない状況に置かれているがために、労働に従事しなければならない人もいます。私たちにはその方のことが理解できます。子供を育てるのと同じように、神から授かった様々な才能を、広く人々のために活用することができます。しかし、天父の霊の子供たちをもうけ、養育するという女性に託された永遠の責任をなおざりにさせるような仕事に心を引かれるという過ちは犯さないで下さい。心からの祈りをもってすべての決定を下すようお願いします。

このようなことから私たちは皆様に、この世の奉仕に役立つだけでなく、永遠に価値ある教育に力を注いでいただきたいと思えます。ホームメイキングに関する基本的でしかも欠くことのできない技術のほかに、適度に磨くことのできるその他の技術や、家庭をはじめ教会や社会でも活用できる技術があります。

賢明な選択をして下さい。私たちは末日聖徒の女性たちが才能豊かな役に立つ人になることを望んでいます。皆様が与えられている技術を高め、神から授けている才能を活用す

るなら、この世にあって、また永遠にあってさらに優れた母親となり、妻となることでしょう。

女性に与えられている約束の中で、イエスキリストの福音と教会を通して得られるものほど素晴らしく輝かしいものではありません。自分が一体何者であるのかを、ほかのどこで学ぶことができるのでしょうか。生命の本質について必要な説明と確信をほかのどこで得ることができるのでしょうか。一人一人が特別な存在と価値を持っていることを学べるところがほかにあるのでしょうか。天父の定められた栄えある幸福の計画をほかのどこで学ぶことができるのでしょうか。

福音は、何世紀にもわたって人が抱き続けてきた、生命や宇宙に関する様々な疑問に確かな答えを与えています。これらの真理のために私たちは大切な永遠の責任を背負うことになったわけですが、それでもこのような答えと確信が私たち全員に与えられていることは何と喜ばしいことでしょう。

天父が下された崇高な務めを受けている末日聖徒の女性は、何と恵まれていることでしょう。殊に、この最後の神権時代のこの時に生を受けた皆様は恵まれた方々です。一般の女性は自分の興味あるものを追求しています。しかし皆様はこの地上にあって、愛と真理と正義のために必要な力を発揮することができます。世の人は真理の価値はないもののために力を注いでいますが、神は皆様に子供や友人、隣人を教え導く重大な責任をお与えになりました。それは男性が家族のために生活の糧を得なければならないことと同じです。夫と妻の両方がいて初めて両親となるのです。

最後に、少し提案させていただきたいことがあります。これは今まで言われたことのないことですが、非常に大切なことです。この末日に当教会において驚くべき発展が見られますが、その多くは世の立派な（優れた霊性を具えている）女性たちが、大勢この教会に入ってくるおかげであると言えるでしょう。

このことは、教会の女性が義しいけじめのある生活をし、世の女性たちとは違った別の喜びを味わうようになる時に現実となって表われることでしょう。

この先教会に入って来られる、真実の意味でヒロインと言える世の女性たちの中には、自分のことはさておき、まず義を求めることに心を向ける人たちがいるでしょう。こういった女性たちは真の謙遜さを身に付けています。その謙遜さたるや、華々しいものではありませんが、実に完全の域に近いものと言えます。このことを忘れないようにして下さい。男女のいずれか一方のためにだけ物事を行なおうとすることは正しくありません。また、優れた女性、また男性というものは、権力を手にすることではなく、人々に仕えたいという望みをいつも持っているものです。

このように、教会における女性のよき模範は、末の日に教会が数の上でも霊的にも成長する上で多大な貢献をすることになるでしょう。

しかしこれを妨げようとやっきになっている敵がいて、もうその働きを開始しています。敵はいつの時代にあっても、特定な人への的をしばることなく、万人を「自分のようにみじめに」(IIニーファイ2:27)しようとしています。「あらゆる人間もまたみじめな様にしよう」と(IIニーファイ2:18)、その機会をねらっているのです。敵はこのことをひたすら願ひ、あらゆる手段をもってこれを達成しようとしています。

私たちはやがて総大会を迎えようとしています。総大会では神権部会が開かれますが、私たちは兄弟たちを特にえこひいきして特別な指導を与えるというようなことはありません。私たちは同じような助言を与えるつもりです。

姉妹の皆様を心から愛し、信頼しています。皆様の献身的な働きに感謝しています。今宵皆様がこの会に出席して下さいたことで、私たちは大きな力を感じています。また、皆様

の才能と霊的な力は、この神権時代のこの時であって、かけがえのないものです。

神の祝福が皆様の上であり、約束されている祝福すべてをこの世にあって、また来るべき世にあって享受されますように。

私は神が生きておられることを知っています。また、イエスが神の独り子であり、世の贖い主であること、この教会はイエス・キリストの教会であり、イエス・キリストが教会の頭であることを知っています。この証を私の愛と祝福を添えて皆様に申し上げます。イエス・キリストのみ名によって申し上げます。アーメン。



中央初等協会会長
ナオミ・M・シャムウエイ

将来の女性を教える

御 臨席のタナー副管長、ロムニー副管長、ベンソン会長ならびに教会幹部の皆様、こうして全世界の女性に励ましと導きの言葉を聴く機会を与えて下さったことを、私は心から感謝しています。また姉妹の皆様一人一人にも感謝申し上げます。

今晚のこの責任をいただいた時、私は何を話したらよいか何うため、熱心に主に祈りました。そして、みたまに導かれ、私の思いは子供、特に小さな女の子へと向けられていっ

たのです。

数週間前のことです。事務所で電話を受けると、すすり泣く声が聞こえてきました。「おばあちゃんですか。」私はそれが娘の声だとわかったので、うれしさのあまり、「本当に私、おばあちゃんになったの？」と思わず大声を上げてしまいました。すると、「そうよ、たった今女の子が生まれたの」との返事でした。

このような神聖な出来事に出会った時の気持ちには、言葉では言い表わせないものです。私の心は祈りに答えて下さった御父に対する感謝の気持ちで一杯でした。そして、天父のみもとからこの世に来たばかりのこの愛らしい霊のことについて娘と話しながら、私はまるで自分が救い主のみ腕に抱かれているようにさえ感じ、娘のやさしい腕に新しい霊を託して下さった天父の深い愛を知ったのです。ただ感謝の気持ちで一杯でした。お孫さんをお持ちの方は、私の気持ちがおわかりだと思います。しかし、このような喜ばしい時、とりわけかわいらしい孫をいただいた時に、謙遜になるのは容易なことではありません。

この忘れ難い経験をして以来、私は以前にも増して考えるようになったことがあります。それは、私たちの3人の孫娘をはじめ、他の多くの小さな女の子たちが将来どのような女性になるのか、また彼女たちが女性へと成長した時世の中はどのようになっているだろうか、ということです。

この答えは私たちの手、そして世の女性たちの手にかかっています。混乱と不安の渦巻く現代にあって、私たちはかわいい孫娘たちもまた厳しいチャレンジと約束と機会のあるこの時代に試しを受けることに留意しなければなりません。彼女たちを教え、養い育てることは聖なる務めであり、厳粛な責任なのです。

ルーイーザ・メイ・オルコット（アメリカの女流作家、1832—1888年）は、少女のことを「小さな女性たち」と言っています。今の小さな女の子が、将来神の王国におけるすぐれ

た指導者になるのです。私たちの家庭に生まれてきた時には無力な存在である彼女たちですが、やがて私たちと強い絆で結ばれるようになるのです。それはベビーシューズやベビ一帽のひもを結ぶことから始まります。そして数年後には、髪をおさげにしたり、エプロンをかけたりするようになります。こうしていつくしみながら歳月が流れ、彼女たちが結婚して自分の家庭を築けるよう、巣立ちをさせなければならない時を迎えるのです。そして間もなく私たちは「おばあちゃん」と呼ばれるようになり、再び絆を結ぶ経験をすることができます。このことが何代も何代も繰り返されていくのです。

子供時代の経験には共通して、基本的欲求と、それに伴う成長が見られます。この時期は一生から見たらごくわずかな部分ですが、将来を決定し、大きな影響を及ぼす最も重大な時期だと言えましょう。この時期に祈りや証、義しい生活を送る喜びを繰り返し教えることは、何と大切なことでしょうか。主が私たちに言われたことをよく思い起こしてみてください。「この故に善を為すにうむことなかれ。これ汝ら今偉大な一事業の基礎を置きつつあればなり。それ、小なる事より偉大なる事起る。」（教義と聖約64：33）

今の少女たちから偉大なことが起こるとすれば、私はそうなると信じていますが、彼女たちの将来を決定する幼い時期に、自分は生ける神の子であり、主のはしためであり、女性としての喜ばしい祝福を受け継ぐ者であることを教え込まなければなりません。

この最も美しい例は、ルカによる福音書の「マリヤの歌」として知られている部分に見られます。この時のマリヤは、み使いの訪れを受け、天父が私たちのために計画された「よき知らせ、喜びの訪れ」における彼女の特別な使命を告げ知らされたばかりでした。マリヤは私たちの救い主イエス・キリストの母として選ばれたのです。聖典には、マリヤと天のみ使いとやりとりがわずかし記されて

いませんが、彼女がいとこのエリザベツに見せた喜びようから、マリヤに救いの計画が明らかにされ、自分に与えられた使命を彼女がよく理解したことがわかります。マリヤの答えはこうでした。「わたしの魂は主をあがめ、わたしの霊は救主なる神をたたえます。」(ルカ1: 46—47)

この時マリヤは、救い主をこの世に送り出すために、自分の命を捧げる決心をしていました。私たちは末日聖徒として、救い主が私たちのためにその命を捨てられたことを知っています。私たち女性が年齢に関係なく、天父の娘としてこのことを十分に理解するなら、イエス・キリストの福音は習慣の宗教ではなく、決意の宗教となるでしょう。そしてこの決意が、社会にあって感じざるを得ない恐れや困惑、ためらいの気持ちを取り除いてくれます。こうして私たちは、決意した通りの強い者となることができるのです。

女性である私たちは子供たちを指導する立場にありますが、時として子供に教えられることがあります。これはある女の子の話です。その子は祝福師から質問された時に、誇らしげに「私はモルモンです」と答えました。祝福師からさらに「では、モルモンになることを選んでいなかったら、どのようになっていたでしょうか」と尋ねられた女の子は、はにかみながらも自信をもって答えたのです。「恥ずかしがり屋になっていたと思います」と。

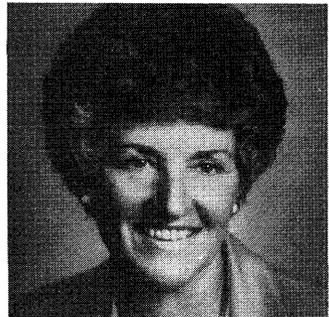
明日に目を向けましょう。最近私は、この言葉が次のような言葉と一緒に言われるのを耳にしました。「きょう、明日のことを考えなさい。明日は小さい子供の足どりのように着着と迫ってくる。明日の力強さも弱さも、子供たちの手の中にある。」少女はいつの日か女性となる者として、神が創造された唯一の存在です。

女性であることは、与えられた責任や召し、年齢、環境に関係なく、また女性に課せられた役割を軽視させようという者の働きかけがあるにしろ、実に素晴らしい祝福です。愛す

る予言者スベンサー・W・キンボール大管長は次のように述べています。

「今の世にあって、教会員であることは女性にとってこの上ない祝福である。現在、義に対抗する力がかつてなく強いが、一方、可能性を追求できる機会もかつてなく大きい。」(“Introduction” Women『序文』「女性」p. 2)

年齢や生活上の責任の違いに関係なく、女性として今日私たちに課せられている役割は、貴い「小さな女性たち」のよき模範となって彼女たちを導くことであり、以前にも増して女性としての責任を喜んで受け入れることです。私たちが神の娘として、人生における偉大な責任を達成するために進歩成長できますように、イエス・キリストのみ名によってお祈りいたします。アーメン。



中央若い女性会長
エレイン・キャンノン

私たちに与えられた大切な使命

このようにテンプル・スクウェアから、主を愛し、主について学び、女性に対する主のみこころを知ろうとお集まり下さった姉妹の皆様にお話をしながら、私は姉妹たちに対する特別な愛を感じます。また、非英語圏に住む姉妹の皆様とも、いつの日か一堂に会せることを切に望んでいます。

この機会に、皆様の心が満たされ、霊が高められ、新たな希望を見いだしていただけたら幸いです。このことが皆様の考えを明確にし、皆様を強くし、女性を別の方向へ引きずり込もうとしている今の世にあっていつも主の側に立てるようにと願っています。

最近、女性に関する激しい運動が起こっています。一部には女性のためになることも行なわれていますが、このような騒ぎの中で私は今、少女たちが本当に通りにいて安全なのか、また成人した女性が家庭にあって本当に幸福なのか、さらに私たちの中で外見は問題なさそうですが、本当に実のある奉仕をしている人が何人いるのかと考えてしまいます。このことは興味深い現象です。

これは女性のための集会ですが、私たちを導き、祝福を与えて下さり、私たちのために、また私たちと共に祈って下さる男性に、しかも私たちが耳を傾ける時に私たちを守るためしばしば語りかけて下さる男性の皆様に、心から感謝を申し上げたいと思います。

教会幹部の方々が私たち女性のために行なって下さるあらゆる事柄に、女性として参加できることは何とという喜びでしょう。末日聖徒の女性はいつも守られているだけでなく、数々の特権にも浴しています。私たちには日日の生活の中で驚くほどの特別な約束が与えられているのです。

教会幹部の皆様、ありがとうございます。私たちの愛と感謝の気持ちをお伝えいたします。私たちは幹部の皆様、また皆様の行なっておられる事柄に驚きの目を見張っています。また、私たち姉妹は皆様が持つておいでになる神の神権を尊び、神権者としての働きに心から感謝しています。

私たち女性は神権者のお手伝いをしたいと思っています。邪魔をするつもりは毛頭ありません。

姉妹の皆様、私はきょう助け手となること、しかも準備された助け手となることについてお話ししたいと思います。

パウロがテサロニケ人へ書き送っている言葉と同じ気持ちを、私は地域を問わずすべての方々にお伝えします。

「むしろ、あなたがたの間で、ちょうど母がその子供を育てるように、やさしくふるまった。

このように、あなたがたを慕^{した}わしく思っていたので、ただ神の福音ばかりではなく、自分のいのちまでもあなたがたに与えたいと願ったほどに、あなたがたを愛したのである。」
(1テサロニケ2：7-8)

私たちは今晚穏やかに申し上げていますが、心の内には激しく燃えるものがあります。この教会の女性は個人的に備えをする必要があります。まず第1に、世に充満する誤った風潮である家庭の軽視や、個人の力の妨害をとどめるために。第2に、私たちには優れた指導者がいて導いて下さいますが私たち自身、確かに価値ある決断を下すことができるよう、何が誤りで何が真理かを理解する必要があります。これはとても大切なことです。第3に、献身的な働きができるよう自らを進歩成長させることが必要です。私たちにはそれぞれ果たすべき大切な使命があります。現時点でその中に結婚や母親としての務めが含まれるにしろ含まれないにしろ、人に影響を及ぼすという使命は私たちから決して切り離せないものです。

姉妹の皆様、このことは忘れないで下さい。女性がとどまらなければならないのは、家の中ではなく、家庭です。また、人々に影響を及ぼすために家庭を出なければならないという人もいません。福音を学び、技術を伸ばし、家庭を持ち、家庭における務めを果たす時に、私たちはなお一層効果的に自分の使命を果たせるようになります。これを始めるのが早ければ早いほど、大きく成長できます。しかし成長は一步一步達成されるものです。時の経つのは早いもので、7月だと思っているとすぐにクリスマスがやってきます。小さな女の子もあつという間に女性へと成長します。「サ

ンライズ、サンセット」(「陽は昇り、また沈む」)の歌が示している通りです。今この場にいる12歳の方も、いつの間にか40歳を迎えることでしょう。個人の進歩を遅らせるのに時間はかかりませんが、人生に対する適切な備えは一朝一夕ではできません。

先頃開かれたある地域大会の折に、私はカミラ・キンボール姉妹のそばに立っていました。姉妹のとなりでは、キンボール大管長が子供たちとあいさつを交わしていました。すると母親だと思われるひとりの若い婦人が走り寄ってきて、涙を流しながらキンボール姉妹の腕にすがっていました。彼女は落ち着きを取り戻すところ言いました。「キンボール姉妹、あなたは本当に美しく穏やかな方で、御主人をよく助けていらっしゃるのですね。」再び涙が彼女のほおを伝わりました。「キンボール姉妹、うちの主人は私も姉妹のようになるようにとよく言うのです。」

この婦人がほめたたえたまさにそのような方であり、それ以上の方であるキンボール姉妹は、もの静かにこう彼女に答えました。「きっとできると思います。私たちはだれでも経験によって学ばなければなりません。」

彼女は慰めを感じてその場を離れました。始めは終わりではありません。彼女は希望に胸をふくらませ、何事でも始める時よりも終える時の方がよりよいものとなることを信じてひたすら努力するなら、だれでもそれを達成できるという確信を得たようでした。

私は努力することを軽んじてはいません。努力することはエデンの園において欠くべからざるものです。個人の進歩こそ、この人生の目的です。私たちは早速人生の計画に着手し、私たちがだれにどのように十分な関心を向け、忠誠な心で仕え、心からの決意を表わすかを決めなければなりません。

しかも私たちには指導者がいます。

私はまた、末日聖徒イエス・キリスト教会の姉妹の皆様に行ないについて申し上げたいと思います。思慮深く祈りのある備えをし、

天父が各人に望んでおられることや女性として行なうように求めておられることを行なうて下さい。主は生きておられます。私たちを愛して下さい。私たちに何が必要で、私たちが何を求めているかをよく御存じで、私たちに心を向け、助けを与えて下さいます。いつも主の近くにありたいものです。主はこの教会を設け、予言者を召して私たちを導いて下さっています。予言者の言葉に耳を傾けましょう。私たちはキンボール大管長に深い愛を感じ、大管長のために祈っています。この場におられないことをとても残念に思いますが、大管長が姉妹たちに与えて下さる特別な援助を心から感謝しています。

キンボール大管長は4月の総大会で、人々とそして人が平坦な地を歩くことについて語り、私たち一人一人が進歩成長し、障害の多い道を踏み越えて前進する必要があることを話されました。

その話をお聴きになりましたか。

教会の急激な発展に伴って、私たち個人は成長しているでしょうか。

私たちは、ノアの時代に洪水によっておぼれた人々や、アロンの民とともに金の子牛を磨いた人々と同じようなことをしてはいないでしょうか。

私たちの個人的な進歩の遅れは、救い主のみ業を妨げることになります。

私は姉妹の皆様にも、安易な生活に甘んじることなく、とにかく成長することを願っています。

兄弟の皆様と同じように、私たち一人一人にも神から大いなる使命が与えられています。そのために成長すること、備えること、また人生の教訓や指導者、主から学ぶことが必要です。

行なわなければならないことはたくさんあります。

世の中には、私たちが持っているものを持っていない人、私たちが知っているものを知らない人が大勢います。そこで私たちはまごころと細やかな愛をもって、私たちを必要と

してくれる人々に、イエス・キリストの福音だけでなく、自分自身をも分かち与えることができるのです。

これこそ、女性の貴い力を向けるに値するものです。イエス・キリストのみ名により申し上げます。アーメン。



中央扶助協会会長
バーバラ・B・スミス

末日のために とっておかれた女性たち

美しい合唱を聴くことができ、感謝しています。この合唱には、末日聖徒の女性たちが問うことのできる大切な質問が歌われています。その質問とは、「おお神よ、どなたが私に女性の心を、女性の精神を、女性の思いを与えられたのですか、あなたは私に何を希望ですか」ということです。

今宵、400名の合唱の声とともに、この質問を問うてみたいと思います。皆様、静かに祈りと嘆願の気持ちで問うてみて下さい。「あなたは私に何をさせようと思っておられるのですか」と。

聖典には、これと同じ問いに答えて行動を起こしたひとりの婦人の話が記されています。王妃エステルです。おじのモルデカイから、彼女の民を滅亡から救うために王のもとに行くようにと言われた時、エステルは、何とつ

らい思いをしたことでしょう。当時、王妃と言えども、王の召しがなければ王のもとに行くことができなかつたからです。王は絶対的な権力の持ち主でした。エステルには訴え出る権利などありません。しかし、王のもとに行って嘆願できる者は彼女しかいませんでした。おじのモルデカイは彼女にこう言いました。「あなたがこの国に迎えられたのは、このような時のためでなかつたのだれが知りましょう。」(エステル4:14)

エステルは適切な教えを受け、力を得ました。そこで彼女は国中のすべてのユダヤ人に、一緒に断食と祈りをするよう伝えました。それから、王妃の服を着て美しく身づくろいし、王のもとへ向かつたのです。

一歩踏み出すごとに、エステルの心に「王は金の笏を伸べてくれるだろうか」「王は私を殺すように命じられるだろうか」「私はすべての物を取り上げられ、追放されはしないだろうか」など、不安が次々によぎりました。王の権力の前にあっては、若さも美しさもしとやかさもまったく意味のないものとなることを知っていたからです。しかし彼女は、いつも自分が神に助けを求めて生活していました。そして今、国の中に人の道にはずれた邪悪なことが起ころうとしているのです。ですから彼女は、どのような状態にあらうと、自分を造って下さった神に責任ある行動を取らなければなりません。

今日にあっても、一人一人の女性にエステルが直面したと同じ責任が課せられています。生活環境はそれぞれ大きく異なるでしょうが、女性はだれでも、この世で価値ある生活を送り、さらに永遠に進歩する者としてふさわしくなろうとするなら、福音の原則に従うことが求められるはずで、女性はず、自分が何者であるかということ、しかも神の娘として計り知れない可能性を秘めていることを理解しなければなりません。そして目標を高く掲げるのです。聖典にはこう記されています。「それだから、あなたがたの天の父が

完全であられるように、あなたがたも完全な者となりなさい。」(マタイ5:48)申し上げておきますが、これは一瞬にして、また一日あるいは一年で達成できるものではありません。生涯絶えず努力し、聖き女性となるために学び、励み、生活することが要求されます。

1874年に、エライザ・R・スノー姉妹は次のように語りました。「使徒パウロはその昔聖き女性について語り、私たち一人一人に聖き女性となる責任があるとされました。聖き女性になるには常に高いものを目指さなければなりません。自分は大切な責任を果たすために召されていると考える必要があるでしょう。そのような責任を与えられていない人はひとりもいません。地上に神の王国を築くのには何の働きもできないほど孤立した姉妹もいません。」(Woman's Exponent「ウーマンズ・エクスポート」1873年9月15日, p. 62)

主が示された方法は、規則に規則を加え、戒めに戒めを加えて学ばせることです。現実には則した実行可能な目標を定め、自己に打ち勝つ喜びを味わって下さい。

このような喜びを味わっている友人について御紹介しましょう。彼女は12人の子供の母親で、かつては落胆の日々を送っていましたが、今では(1)早起きをして運動しています。彼女はせきたてられて運動をすることが嫌いです。(2)聖典を読んでいます。彼女は自分の定めた30分の間、手を休めて聖典に親しんでいます。(3)彼女は祈りによって天父に感謝を伝え、心を悩ましている問題を打ち明けています。このようにして、たとえ自分の計画したことが思い通りに運ばなくても、主の導きと指示を感じています。(4)彼女は明るく温かい態度で子供たちに接しています。

私はすべての姉妹の皆様、私のこの友人のような考え方で主婦としての責任に取り組んでいただきたいと思います。彼女はまだまだ家庭を完全なものに築き上げてはいませんが、彼女はたとえ子供たちが毎日ピアノの練

習をしなくても、子供たちが音楽を愛することの必要性を徐々に感じてくれたら、それによって生活に潤いもたらされると考えています。彼女はまた、夫の収入を越える支出をしてはならないことも知っていますし、夫や子供たちを愛し、ともに笑うことの大切さも知っています。彼女はC・S・ルイスが家庭管理について適確に述べた次のような言葉を理解していたのでしょうか。「家庭管理は世の中で最も重要な仕事である。船や鉄道、鉱山、車、政府などは、人々が各家庭にあって衣食足りて安全な生活が送れるようにすること以外、ほかに何のために存在するのだろうか。……私たちは平和を得るために戦争を行ない、余暇を楽しむために働き、食べるために食物を生産する。あなたの仕事は他のすべての人が存在するために行なう仕事である。」(ウォーレン・H・ルイス編, Letters of C. S. Lewis「C・S・ルイスの書簡」p. 62)

もしも私たちが友人の心からの祈りの訴えに耳を傾けるなら、たとえ家計を助けるために外に出て働かなければならない女性がいたとしても、女性の多くが皆様のようになることでしょう。働く女性は賞賛に値します。なぜなら、それは簡単な責任ではなく、きわめて重大な責任だからです。彼女たちの祈りが主のもとに届き、必要に迫られた時に限って、彼女たちが小さい子供たちのもとを離れて仕事に就くということを是認して下さるよう望んでいます。家庭を離れて仕事に就くことが正当な理由によるならば、その女性はそのことに確信を抱き、安心して働けるはずです。

女性であることは実に素晴らしいことです。皆さんは今必要なことを行なっておられます。

私は最近、戦火に見舞われているある国の姉妹たちと会う機会がありましたが、彼女たちの従順さに心を動かされました。その支部の扶助協会の会長は、このような危険な事態に毎日直面しながらも、主のみ業を行なうという姉妹たちの決意を賞賛して、こう述べて

いました。「戸外に一步足を踏み出せば、テロリストたちに攻撃されるかもしれません。それでも、訪問教師の責任を果たし、教会のすべての集会に出席して下さい。皆様は、このような時にでも主のみ業をおごそかに進める勇気ある姉妹たちなのですから。」

エステルのように、私たちも自らを強くしなければなりません。そうすることによって、苦難や孤独に襲われた時に、神に力や知恵、導きを求め、義しい原則に従って行動することができますのです。

モルデカイを悩ましたチャレンジは、今日の私たちにも及んでいます。「あなたがこの国に迎えられたのは、このような時のためでなかったとだれが知りましょう。」(エステル4

:14)

私たちは、主のみ業を推し進めるために、また子供たちを育てて主のみもとに帰らせるために、主の福音を広めるために、主の再臨を喜んで迎えらるよう人々に備えをさせるために、この王国に送られたことを感謝したいと思います。

この末の日にあつて、私たちすべてが聖き女性となるチャレンジに立ち上がり、「選ばれた種族……聖なる国民」として、「暗やみから驚くべきみ光に招き入れて下さったかたのみわざを……語り伝える」ことができますように(1ペテロ2:9)。主は生きて私たちを愛して下さいることを、イエス・キリストのみ名により証いたします。アーメン。



大会に集う子供たち

地区代表セミナー報告

副主幹

マービン・K・ガードナー

1979年10月5日金曜日、地区代表セミナーがスペンサー・W・キンボール大管長管理の下に催された。その席上、キンボール大管長は御自分の健康回復を願って大勢の人々が祈りを捧げて下さったことに心から感謝の気持ちを表わした。「主がこれらの方々の祈りを聞きとけて下さったことを深く感謝している。療養中、私に与えられた計り知れない祝福に應えて、今私は自分の本分を尽くしたいと思っている。」

大管長の話はわずか数分であったが、内容はきわめて明確であった。集まった教会幹部や地区代表、その他の指導者たちに、教会評議会と簡易化について強調し、その理由を次のように説明した。「末日聖徒が家庭生活にもっと注意を払うことができるように、また単純かつ基本的な事柄に注目し、クリスチャンとして奉仕を行ない、あらゆることをさらに効果的に進めることができるよう環境を整えたいと思う。」

さらに大管長は、ふたりの副管長を引き合いに出しながら、指導者としての特質に触れた。キンボール大管長は、N・エルドン・タナー副管長のむだな言葉を使わないところをはじめ、話し合いの際に示される鋭い洞察力、謙遜さを高く買っている。また、マリオン・G・ロムニー副管長については、問題や状況を聖典に基づいて評価し、的を射た適切な質

問をすることについて彼の右に出る者はいないと言っている。ふたりとも「思いやりの深いユーモアに富んだ方である」と言う。

「その上」と大管長は言葉を続けた。「私たちは単に大管長会の一員というだけでなく、親しい友でもある。」

次いで、N・エルドン・タナー副管長は簡易化を「私たちの根本目標や決意に対する働きかけの手抜きであると誤解しないように、簡易化によって生じた余裕は、望ましい基本的な事柄の達成を早めるために向けることが大切である」と助言した。また、教会員たちが浮いた時間を有益な事柄に充て、「むだな出費を避けて時間を賢く使うこと」を心掛けるようにと述べた。

教会の発展について語ったキンボール大管長の話に関連して、タナー副管長は新会員の歓迎と彼らへの配慮の大切さを説いた。「この教会は『聖徒たちを完全な者とするために』ある。すでに完全な者となっている人を単に登録するのではない。それであるから、準備のできたふさわしい幾万もの人々が教会の門をくぐってくる時に、人を愛し、受け入れ、訓練するという私たちの能力がそのつど試されることになる。……私たちは伝道活動を通して人々を教会に招き入れるだけでなく、こういった新しい友人を私たちの愛と友情で包んであげなければならない。また、彼らに教

会について証を述べると同時に、素早く歓迎の手を差し伸べなければならない。」

七十人第一定員会会長会のJ・トーマス・ファイアンズ長老は、神権評議会が教会員を強めるのにどのように役立つかを説明した。個人や各家族で伝道活動や系図、物質的・霊的福祉の分野ごとに、適切かつ達成可能な目標を定め、それに向かって努力することにより、個人の進歩や家族の愛と一致、自立を達成できるよう指導者が援助するのである。

ワード部がどのように家族を助けることができるかについて、ファイアンズ長老はこう述べている。「大祭司はまだ自分の持てる力を最大限に発揮していない。監督はこれらの大祭司や七十人に、不活発なメルケゼデク神権定員会会員や長老見込み会員のホームティーチングを割り当てるようにするとよい。この方針は新しいものではなく、大管長会と十二使徒定員会がしばしば強調しているものである。」

十二使徒評議員会会員のL・トム・ペリー長老は、ホームティーチングの改善について語った。ホームティーチャーはほかでもない「教師」として召されているのであり、だれが・何を・どのように教えたらよいかについてははっきりとした考えを持っていなければならないと強調した。ホームティーチャーには、こういった面での訓練を必要としている。ペリー長老はまた、こう述べた。「神権者は神権を受けた結果、生じたでき合いのホームティーチャーではない。」

また、指導者はホームティーチャーを通して会員にメッセージと指示を伝えるようにしまた家族にとって大切な責任を負っているホームティーチャーの役割を強化することが必

要であることを説いた。

ペリー長老はこのほか、1組のホームティーチャーの担当家族数を3～5軒にすること、またひとつの定員会がホームティーチングの責任をすべて負うというようなことがないよう、定員会間の責任の均等化を計ることを勧めている。「ホームティーチングの責任を効果的に果たす力も方法もないまま、長老定員会だけに、任せるのは特策と言えない。」監督は長老見込み会員と独身の姉妹たちを「十分な結果を生み出せるだけの力を持っている」メルケゼデク神権の3つの定員会のいずれかに割り当てるようにと、ペリー長老は語る。

七十人第一定員会のA・セオドア・タトル長老は、「あまり活発でない人を強める」ための段階について述べている。

- 彼らにとって最も受け入れやすい人を見つけ、まずその人に働きかけをしてもらい、次いで強いホームティーチャーを割り当てる。

- 次のような直接的なアプローチの方法を用いる。「不活発な人の中にも、直ちに悔い改め、長老になることや神殿結婚をするというチャレンジに挑戦しようとする人が1割はいるだろう。そのことをチャレンジしなければならない。」

- しばしば気軽な訪問をして個人的なつながりをつくるといった、間接的なアプローチの方法を用いる。そのようにしてよい関係を築くと、「祈り求めてきた時が必ず訪れ、霊が神のことを語るができるようになる。」

- 活発化プログラムや神殿準備セミナーを活用する。彼らのために祈る。教会での責任を与える。「人々の協力を得て」絶えずフォローする。

十二使徒評議員会のマーク・E・ピーターセン長老は、教会員に「正しい完全な自分の

一」を納めるよう教える必要があると説いた。「什分の一を納めることは、いつも信仰と証を築くのに大切な要素となっている」とピーターセン長老は語る。これはまた、神の王国の発展を財政的に支える主の方法である。また、指導者が会員に什分の一について教える方法も説明した。

ピーターセン長老は、什分の一は神の律法、すなわち「すべての人が返済しなければならない負債である」と述べている。什分の一の律法に従う時にもたらされる祝福について述べた後、長老は次のように話をまとめた。「主は皆様を守り、繁栄を与えて下さる。これ以上、私たちは何を願うことがあろうか。」

十二使徒定員会のゴードン・B・ヒンクレー長老は、1980年に催される教会設立150年祭のための計画について語った。長老はこの年を「近代イスラエルのヨベルの年」と呼び、次のように述べている。「私たちは全世界の教会員が教会の歴史と将来直面するチャレンジに心を留め、歡喜の時を味わい、自らの持てる才能と力を発揮するよう願っている。」

集会の終わりに、司会を務めていたエズラ・タフト・ベンソン会長は次のように語った。「集会のスケジュールを短縮してまとめた集会を試行してみることが承認された。……将来、この試行の結果をまとめ、入念に評価する予定である。したがって、これが完了するまでは、実施に移さないことになっている。」

ベンソン会長はまた、新たに召された次の7名の専任地区代表を発表した。この場合、夫人は宣教師に任命される。また、7人の専任地区代表は割り当てられた国に住むことになっている。()内が赴任地。

ワシントン州スポーケンのエドワード・L・

ハワード(チリ, サンチアゴ), カリフォルニア州エルカホンのジェームズ・A・ジュースパーソン(アンデス地域), カリフォルニア州クロビスのチャーリー・R・ルイス(チリ, サンチアゴ), アイダホ州ボイシのA・ジェームズ・マーティン(西ヨーロッパ地域) カリフォルニア州ラミサのユージーン・F・オルセン(アンデス地域), テキサス州ロングビューのドレル・C・ピッカーズ(西ヨーロッパ地域), ユタ州プロボのレスター・B・ウエトン(エルサルバドル)

このセミナーで紹介された新しい地区代表は、以下の17名である。グアテマラ, グアテマラ・シティーのカーロス・ハムパート・アマード; ユタ州モンチセロのラファイエット・R・アンダーソン; 西サモア, アピアのトフガ・サミュエル・アトア; ユタ州プロボのレイモンド・E・ベッカム・シニア; メキシコ, ユテペクのジュアン・カザノーバ; ユタ州ソルトトレーク・シティーのフランク・W・チェンバレン; ユタ州プロボのイーライ・K・クレイソン; アリゾナ州メサのエルドン・W・クーリー; ニュージーランド, オークランドのヒュー・A・デイシュ; メキシコ, クエルナバカのエンリーケイ・モレイノー; アリゾナ州フェニックスのルドルフ・W・モーテンセン; ユタ州ソルトトレーク・シティーのラッセル・M・ネルソン; カリフォルニア州フリモントのスターリング・ニコライセン; メキシコ, カンペストレ・デ・チュルプスコのジョン・F・オウドナル; メキシコ, アチザパンのボアナージズ・ルアルカバ; アリゾナ州サッチャーのリー・K・ユーダル; ユタ州オグデンのキース・W・ウィルコックス。

これで地区代表は194名になる。

末日聖徒イエス・キリスト教会 教会幹部

大管長会



第一副管長
N・エルドン・タナー



大管長
スペンサー・W・キンボール



第二副管長
マリオン・G・ロムニー

十二使徒評議員会



エズラ・タフト・ベンソン



マーク・E・ピーターセン



リグランド・リチャーズ



ハワード・W・ハンター



ゴードン・B・ヒンクレイ



トーマス・S・モンソン



ボイド・K・バックナー



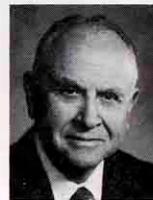
マービン・J・アッシュ



ブルース・R・マクコンキーン



L・トム・ペリー



デビッド・B・ヘイト



ジェームズ・E・ファウスト

大祝福師



エルドレッド・G・スミス

七十人第一定員会会長



フランクリン・D・リチャーズ J・トーマス・ファイナス A・セオドア・タトル ニール・A・マックスウェル マリオン・D・ハンクス ボール・H・ダン W・グラント・バンガーター

七十人第一定員会



セオドア・M・バートン バーナード・P・ブロックバシク ロバート・L・シンブソン O・レスリー・ストーン ロバート・D・ヘイルズ アドニユ・Y・小松 ジョセフ・B・ワースリン ハートマン・ジュニア ローレン・C・ダン レックス・D・ピネガー ジーン・R・クック



チャールズ・A・ティディエ ウィリアム・R・ブラッドフォード ジョージ・P・リー カーロス・E・エイシー M・ラッセル・ペラード・ジュニア ジョン・H・グローバーク ジェイコブ・ティエガー ボーン・J・フェザーストーン ティーン・L・ラーセン ロイデン・G・デリック ロバート・E・ウエルズ



G・ホーマー・ダラム ジェームズ・M・バラモア リチャード・G・スコット ヒュー・W・ビノック F・エンツィオ・アッシェ 菊地 良彦 ロナルド・E・ポルマン デリック・A・カスバート ロバート・L・バックマン レックス・C・リーフ F・バートン・ハワード

管理監督会



ティーン・E・ブルーアードン ジャック・H・コースリン・ジュニア



第一副監督 H・バーク・ピーターソン 管理監督 ビクター・L・フラウン 第二副監督 J・リチャード・クラーク

七十人第一定員会名誉会員



スターリング・W・シル ヘンリー・D・テイラー ジェームズ・A・カリモア ジョセフ・アンダーソン



ウィリアム・H・ベネット ジョン・H・バンデンバーク S・デルワース・ヤング

イエス・キリストの時代より伝道の業は、教会の方を象徴してきました。現代にあってもこの業は、この末日に回復された真の教会の会員たちに受け継がれています。

そこで今回は、キンボール大管長とマックスウェル長老のふたりのメッセンジャーから、伝道についてこの教会に主は何を期待しておられるか、またそのために私たちは何をしなければならないかを考えてみたいと思います。



「隣人を警むる責任あり」^{いまし}

大管長
スペンサー・W・キンボール

ヒーバー・J・グラント大管長はかつて次のように述べている。

「一番大切な第一の戒めは、心を尽くし、勢力を尽くし、思いを尽くし、体力を尽くして主なる私たちの神を愛することである。第二もこれと同様で、自分を愛するように自分の隣人を愛することである。そして、隣人に私たちの愛を示す最もよい方法は、出て行って主イエス・キリストの福音を宣言することである。主は、福音が神より与えられたものであるということを知識としてはっきりと私たちに告げ知らせて下さった。」(Conference Report「大会報告」、1927年4月、p.176)……

改宗者がいなければ教会は力を失い、減びてしまうだろう。しかし、教会が伝道活動を行なう最大の理由は、福音を聞き受け入れる機会を世の人々に与えることである。聖典には、福音を教えることに関した戒めと約束、要求と報いが数多く記されている。私がここでことさら戒めという言葉を使ったのは、戒めという言葉が、私たちが逃れることのできない断固とした指示であるように思えるからである。私たち主の教会の会員は皆、伝道活動を行なうだけでなく、この世に住むすべての天父の子供たちに福音を伝えなければならない。これが戒めであることは明白である。……

私たちの証は、人々の改宗に火をつける花火のようなものなのである。従って当然のことながら、私たちにはふたつの責任があることになる。私たちは自分が知っていること、感じていること、また過去に感じたこと、それらを証しなければならない。また、聖霊を伴侶として、力ある生きた言葉を求道者の心に伝えられるような生活をしなければならない。このふたつである。



伝道を基として発展する教会

七十人第一委員会会長
ニール・A・マックスウエル



初期の教会員は（人々に追い出されたこともあって）流浪の生活を送っていた。しかしあれから150年経った現在、私たちの教会はシオンの確立に向かい、もはや教会員が流浪の旅をする時代は過ぎ去った。……

当初、教会の力はごく限られた一地方にしか及んでいなかったが、合衆国西部に移ったことにより、その力は地域に広がり、そして合衆国全体に及んで、今では教会は全世界的な規模にまで発展している。1978年6月に神権に関する啓示が下されたことによって、教会は御父のふさわしい子供たち全員に、すべての祝福を授ける権能を授かったのである。

今後、教会はどのような発展を遂げるであろうか。……

教会が現在の6.4パーセントの成長率を持続したらどうなるだろうか。教会員は現在約436万人である。したがって、1990年には750万人に達するはずである。そして、紀元2030年には、会員数は9,000万人になるであろう。全教会のステーク部数は現在、1,100であるが、1990年には2,300になり、50年後の2030年には27,000のステーク部が全世界に設けられることになる。これは1978年の専任宣教師と同じ数である。

現在、伝道部数は175であるが、1990年には325となり、教会設立200年目の2030年には約4,200の伝道部が存在することになる。

専任宣教師は現在、約29,000人であるが、1990年には58,000人、2030年には700,000人の専任宣教師が伝道に従事することになる。これは、1935年の教会の会員数と同じである。……

さらに多くの教会員が会員による伝道の義務を真剣になって果たし、第一と第二の大切な戒めをこれまで以上によく守ることによって、かつてコルネリオが行なったように「親族や親しい友人たち」を自分の家に招待するようにすれば、伝道活動は必ずや大きな成功を収めることだろう。

（「チャーチ・ニューズ」1月5日付より抜粋）

エリア・ニュース

聖徒の道1月号のローカル記事でも紹介しましたが、今年の日本の教会は飛躍の年を象徴する多くのプログラムが計画されています。

地域代表役員菊地良彦長老の新年のメッセージにもありましたように、私たちは1980年をぜひとも躍進の年にしたいと願っています。

すでに各プログラムの実行委員会も組織され、活動に入っています。今回はその中から、おもに神殿実行委員会、地域大会実行委員会、地域広報委員会、日本教会歴史編纂委員会のニュースをお知らせいたします。

神殿実行委員会

神殿の定礎式 1980年10月27日(日) 1時より

神殿の献堂式 1980年10月27日(日) 3時より

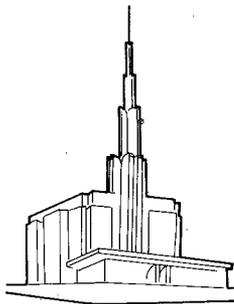
(東京神殿にて)

神殿の献堂式 1980年10月28, 29日(月, 火)

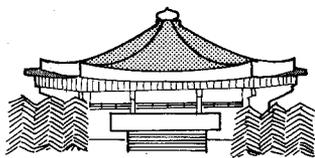
(日本東京ステークスセンターにて)

☆メッセージ

- 献堂式にはふさわしい多くの人ができるだけ参加するよう計画する。
- ワード部/支部では神殿準備セミナーやオリエンテーション集会を持つ。
- 参入希望者は神殿推せん状をすみやかに受けられるよう努める。
- 4代系図の作成にチャレンジする。



地域大会実行委員会



地域大会

(東京地区) 1980年10月30, 31日

日本武道館

(大阪地区) 1980年11月1日

松下電器枚方体育館

☆メッセージ

主の祝福を分かち合うために、できるだけ多くの人々を地域大会に招こう！
大会の内容は以下の通りです。

- 一般大会 (大管長管理)
- 母と娘の会 (すべての母親とSAP「独身成人プログラム」の年齢の姉妹たち)
- 神権大会 (すべての父親と息子)
- 文化の夕べ

地域広報委員会

地域広報委員会委員長には中村武史兄弟が召され、次のような1980年度の活動方針が出されています。

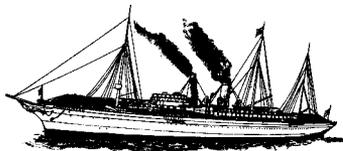
〈活動方針〉

1. 教会内広報の組織を確立する。
2. 神殿献堂の宣伝を全国的に実施する。
3. マスコミ（新聞、テレビ、ラジオ等）対策を立てる。
4. クリーン・キャンペーン（美化運動、禁煙運動）を実施する。

日本教会歴史編纂委員会

☆メッセージ

1901年9月1日、横浜において日本の地が奉獻され、伝道が開始されて来年で80年を迎えます。当時の改宗者はわずかで、彼らはかなりの高齢に達しています。中にはすでに亡くなられた方もいらっしゃいます。私たちは今、彼らの働きがあってこそ現在の教会の発



展があることを思う時、ほんとうに感謝の念でいっぱいになります。

私たちは彼ら先人の足跡をはじめ、しばらく伝道が閉鎖された時代、そして伝道再開後の時代など、今に伝えるべく貴重な歴史、記録の数々をとりまとめて日本教会歴史として編纂したいと思います。

つきましてはこの機会を通して、多くの方からの資料提供をお願いいたします。

なお、以下の要領で活動を実施します。

1. 各ステーキ部／地方部、ワード部／支部に歴史担当者を置く
 2. ワークシヨブ、歴史索引作成に着手する
 3. 個人的な記録、家族の歴史記録をまとめる
 4. 記念すべき写真や文書の収集に努める
 5. 教会の組織における歴史記録を作成する
- 今年一年はおもに資料の収集にあたりますので皆さんのご協力をぜひ、お願いいたします。

委員長
田中健治

公 告

会員その他利害関係人各位

規則第18条の定める手続を経て、下記の通り教会用地を買収しましたので宗教法人第22条の規定によって公告します。

昭和55年2月1日

宗教法人 末日聖徒イエス・キリスト教会 代表役員、菊地良彦

ワード部／支部	所在地	面積(土地)	(建物)
長野支部	長野市大字西長野字加茂裏217-1	462.95㎡	447.78㎡
豊橋支部	豊橋市東新町2-1	991.70㎡	881.94㎡
明石支部	明石市北王子町388-1	447.66㎡	1,055.13㎡
広島東支部	広島市光町1丁目25-13	330.00㎡	808.64㎡
宇治支部	京都府城陽市宇富野小字北栢内39-1	1,147.10㎡	741.13㎡
羽曳野支部	大阪府藤井寺市道明寺5丁目247-1	571.90㎡	484.62㎡
仙台南支部	仙台市長町字新田北77-2	720.61㎡	238.83㎡
福島支部	福島市北五老内町50-1	622.80㎡	793.46㎡
川越ワード部	川崎市熊野町9-3	455.00㎡	925.35㎡

詩の世界に 生きる!



わが家は、妻と5人の息子の7人家族であり、モルモン一家です。そして私たちは他人からよくこのように尋ねられます。「家庭的にも、経済的にも恵まれ、何の悩みもないはずなのにどうして教会なんかに入ったのですか」と。そんな時、私は次のように答えるようにしています。「私たち家族はおっしゃる通り恵まれていますし、幸せです。だからこそ、この幸せを与えて下さっている神様に感謝し、その愛に報いるために教会に出席し、神様の戒めを守るように努力しているのです。」

五男は、3歳の頃、小指を鉄の門にはさまれ、指先がちぎれてしまいました。その後、爪も生え、普通と変わらないほど回復しました。三男は小学2年生の時、自転車に乗っていて、車にはねられました。ところがはね飛ば

1月20日付、朝日新聞の文芸欄「語る」に金沢支部の徳沢愛子姉妹が紹介されました。

“詩集『子宝』を書いた徳沢愛子さん”と題するその記事には、詩作を通した彼女の素晴らしい生き方がつづられています。

男のお子さんばかり5人を育てるかたわら詩の世界に生きる彼女の姿には感動を覚えます。生きる喜びを素直に表わした彼女の作品はとてもわかりやすく、まさに証となっています。

彼女のご主人も詩のよき理解者で、きびしい批評家でもあるそうです。

一日の仕事を終え、書きとめておいた詩をご主人に読んでもらう時が一番楽しい時間とおっしゃる彼女。そこにはほのほのとした夫婦愛がしのばれます。

また、週二日、重度身障児施設に通って、ボランティア活動もされているとか。家庭に生きる一母親として、妻として、女性としての良き模範を見る思いがします。

以下に朝日新聞に掲載された愛子姉妹の詩の一部とご主人の書かれた家族の証を紹介いたします。

され、落ちた所が運よく水をたっぷり貯えた深い溝でした。それで水が柔らかいクッションの役割を果たしたのでしょうか、かすり傷ひとつない状態で助かりました。また四男は、小学6年生の時、野球の練習中に仲間の打球が右目に当たり、医師から視力が相当落ちるのは避けられないと宣告されました。しかし私が灌油の儀式を施してから、みるみる視力が回復、現在は通常の視力を保って元気に遊んでいます。

私も銀行の職場において、このような経験があります。お客さまの大切な手形を紛失し、皆で探しましたが、どうしても見つかりません。万策尽きて、私はひとり、ひそかに神に助けを祈り求めました。その時、啓示にも似たひらめきを与えられ、教えられた場所で発

「妹」

——六つの妹／死んだ朝は／底ぬけ青空／
地面に映えて／赤い金魚／春をつかもうと／
飛びはねた／こわれた青空／心にささり／奥
歯かみしめ／ぼくはかけた／ぼくはかけた…。

(愛子姉妹が、高校2年生の時、かわいがっ
ていた小学校1年生の妹さんが病気のため急
死し、その哀惜の思いがこの詩を作るきっか
けとなりました)



「友よ」

——友よ／今、子の骸(むくろ)を搔き寄
せ搔き寄せ／身悶え泣く友よ……／母親の私
はあなたと絡まり／ケモノになろう……／あ
なたと一緒に醜い顔のケモノになろう……

(この詩は、交通事故で愛する子供を失った
ひとりの母親に寄せたものです)

見できました。ある時は、部下のちょっとした不注意から、要注意先企業の債権保全に大きな穴があきそうになったこともあります。この時も、神に祈り、救いを求め、その善後策に日夜努力した結果、紆余曲折はありましたが、結果的には、以前以上の保全策を講ずることができました。私には、これらの事柄一つ一つが単に幸運だったから、と簡単に片付けられない気がします。讚美歌46番にある「み恵み数えあげ、主のわざ数え見よ」の歌詞が思い出され、これら一つ一つが神様の深い愛とみ恵みによってもたらされたものだと確信しております。

現在、5人の子供たちにひとりずつ預金通帳を持たせ、正月のお年玉などを貯金させておりますが、子供たちには、このお金はお

前たちが大きくなって伝道に行く時の準備として貯めているんだよ、と日頃から言い聞かせております。長男は今春、高校1年生になりますが、間もなく、祭司の職を受ける予定です。一時は娘がいなかったことを大変残念に思ったこともありました。息子たちが宣教師となる日が近づくにつれて、今は5人の子供たちが全員伝道に出て、神様に奉仕できる機会が与えられていることを深く感謝するようになりました。

今年は、この秋に完成する東京神殿に家族全員で参入して、永遠の結び固めの儀式が受けられるように備えていきたいと思っております。

これらの証をすべて御子イエス・キリストのみ名によっていたします。アーメン。

